

講義科目名称：日本国憲法

授業コード：

英文科目名称：The Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期または後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
松井志菜子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>憲法は国家の基本法であり、自由の基礎法である。憲法の基本理念や内容を理解し、憲法を基礎から学ぶ。人間の尊厳、個人の尊重とは何か。生命（いのち）の大切さ、戦争と平和、生命倫理など、自分の頭で考え、発言する。身近な社会事象や新たな課題を取り上げ、立場の違いによる多様な思考を理解する法的思考を学ぶ。生きるとは何かを深く考え、共に議論する。少子高齢化社会、環境問題、地方創生、安全保障など現代社会の課題を、学生が自分の言葉で議論できるようにする。未来を担う人材を育成する。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>はじめに 自由とは何か。憲法には何が書いてあるか。六法とは何か。法学の基礎知識を学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第2回</p> <p>国家とは何か 国家とは何か。国家とは何か。国籍とは何かを学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第3回</p> <p>法の支配、立憲主義 法の支配と法治国家。憲法と他の法との違いを学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第4回</p> <p>立憲主義の歴史的展開 中世の自然権思想、自然法の理論、啓蒙思想から現代憲法に至るまでの歴史的展開を学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第5回</p> <p>人権① 国家からの自由（自由権、人身の自由）を憲法の条文を紐解きながら習得する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第6回</p> <p>人権② 国家からの自由（精神的自由権、経済的自由権）を憲法の条文を紐解きながら習得する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第7回</p> <p>人権③ 国家への自由（参政権）、国家による自由（社会権）を憲法の条文を紐解きながら習得する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第8回</p> <p>人権④ 人権の享有主体（国民・天皇・外国人・未成年者・法人）について考察する。人権と公共の福祉について具体的な事例で理解する。関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第9回</p> <p>法の下での平等 平等とは何かを考察する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第10回</p> <p>平和主義① 平和主義を学ぶ。9条をめぐる学説、政府見解を分析する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第11回</p> <p>平和主義② 自衛隊の歴史や日米安全保障体制、集団的自衛権を理解する。判例を読み解く。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第12回</p> <p>国民主権 日本国憲法前文を読み解く。国民主権、基本的人権、平和主義を地球的視点、歴史的視点から理解する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第13回</p> <p>統治機構 国会、内閣、裁判所の役割と何を行うところか学ぶ。裁判員制度を学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第14回</p> <p>三権分立 イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、日本の三権分立の歴史と三権のバランスを知る。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第15回</p> <p>討論会 議題は学生の話し合いたい事を取りあげる。</p>		

	グループディスカッション→発表→全体討論会。 関心のある事についてレポートを提出する。 A：中 B：中 D：中 F：あり
教育目標との関連	思想・良心の自由、表現の自由などの精神的自由、人身の自由、職業選択の自由、居住移転の自由などの経済的自由などの国家からの自由、国の政治に参加する参政権、経済的、社会的弱者を国家が保障する社会権など人権とは何かを学ぶ。立憲主義の歴史を紐解く。法の支配、自然権、自然法の理論、平和主義への歩みを理解する。国家とは何か。戦争とは何か。地球全体の大きな視野に立ち、国際的な平和共存の実現に向け、次世代を担い、周囲の状況や他者の気持ちを理解し、適切な判断ができる者を育成する。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 社会への関心を持ち、書く、考える、調べることができるようになる。 2. 授業は双方向で行うため、発言力や自分の考え方の発信力、話術を鍛え、プレゼン力を培い、討議できる。 3. 他の学生の考え方を知り、価値観や考え方の多様性を実感し、異なる意見を理解することの大切さを説明できる。 4. 社会問題や政治、法律が身近なものであることを知り、論じることができる。 5. 国民が作った憲法とは何か。何が書いているのか。基本的な事柄を説明できる。
評価方法および評価基準	提出課題 50% (課題について、調査、思考、自分の考え方、客観的視点、今後の施策を呈示できているか) 受講態度 40% (積極的参加度) テスト 10%
教科書	「模範小六法」平成30年度版 三省堂 2600円
参考書	参考書は適宜紹介する。
準備学習(予習・復習等)の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	身近な問題や社会で起きている事象に関心を持つこと。疑問があれば自分で調べること。友達、学友、家族、教員など多くの人々との意見交換を行い、自分の意見や考え方をもち、発信することを心掛けること。
オフィスアワー	質問要望は講義の時間に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	言葉で自分の意思を的確に表現することは、学生としても保育者としてもあらゆる活動の基礎となる。そこで前学期では、自分の考えを適切な日本語で表現するための基本的なルールを具体的な演習課題を通して習得し、各自の日本語力の向上を図る。さらに、後学期には言語に関する児童文化財を発表することにより、保育現場において活用できる力を身につける。 他の科目との関連：保育内容（言葉）で学んだ言語表現技術の知識を、本科目では実際に子ども達の前などで実践することにより身につける。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション シラバスを用いて、本演習のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 現在の国語力や言葉への関心度・言語環境を振り返る。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約30分） 復習：テキストpp10-16を読んでおくこと。（約30分） E:あり	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	日本語の表記 正しい字形・表記で書くための留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp58-65を読んでおくこと。（約30分）	
	第3回	文章表現の基本① 言葉を選択する際の留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp66-71を読んでおくこと。（約30分）	
	第4回	文章表現の基本② 話し言葉と書き言葉の違いと文体について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp72-76を読んでおくこと。（約30分）	
	第5回	文章表現の基本③ ねじれない文章を書くための留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布プリントを読み直しておくこと。（約30分）	
	第6回	文章表現の基本④ 副詞の呼応と接続詞の使い方を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布プリントを読み直しておくこと。（約30分）	
	第7回	作文演習① 原稿用紙の正しい使い方を確認する。 文例を参考にしながら、400字の作文を書く。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp112-115を読んでおく。（約30分）	
	第8回	発声発音の基礎練習【外部講師】 外部講師を招き、発声発音の基礎練習、さらに声を出して表現する楽しさ、日本語の美しさを感じるトレーニングを行う。 復習：トレーニングをもとに、絵本の読み聞かせの練習を行う。（約1時間） A:多	
	第9回	会話表現の基本① 前回のトレーニングを振り返った上で、聞き取りやすい話し方について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp20-25を読んでおくこと。（約30分） A:中	
	第10回	会話表現の基本② 保育現場での話し方と子どもへの言葉かけの方法について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp40-45を読んでおくこと。（約30分） A:中	
	第11回	敬語の基礎① 敬語の種類について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp26-30を読んでおくこと。（約30分）	
	第12回	敬語の基礎② 誤りやすい敬語について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布プリントを読み直しておくこと。（約30分）	
	第13回	手紙の書き方① 改まった手紙を書くための留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：テキストpp93-99を読んでおくこと。（約30分）	
	第14回	手紙の書き方②	

	<p>実際に改まった手紙の下書きをした上で清書をする。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：テキストpp100-103を読んでおくこと。(約30分)</p>
第15回	<p>作文演習② 前学期を振り返り、400字の作文を書く。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：前学期の授業の内容について振り返っておくこと。(約30分)</p>
第16回	<p>言語表現を中心とした発表の企画・実践① グループに分かれて、言語表現を中心とした発表の内容についてディスカッションをし、教材研究を行う。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：それぞれのグループの発表の内容について振り返っておくこと。(約30分) AB:多</p>
第17回	<p>言語表現を中心とした発表の企画・実践② グループごとに発表のための指導案を立案し、練習を行う。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：立案した指導案を振り返っておくこと。(約30分) AB:多</p>
第18回	<p>言語表現を中心とした発表の企画・実践③ グループごとに発表を行い、相互評価を実施する。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：自分たちのグループの発表内容を振り返っておくこと。(約30分) AD:多</p>
第19回	<p>言語表現を中心とした発表の企画・実践④ グループごとに発表を行い、相互評価を実施する。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：自分たちのグループの発表内容について振り返っておくこと。(約30分) AD:多</p>
第20回	<p>敬語劇の準備・実践① グループに分かれて、敬語劇を発表するための脚本を書く。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：脚本に使われた敬語について見直しておくこと。(約30分) AB:多</p>
第21回	<p>敬語劇の準備・実践② グループごとに敬語劇の発表を行い、相互評価を実践する。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：自分たちのグループの発表内容について振り返っておくこと。(約30分) AD:多</p>
第22回	<p>敬語劇の準備・実践③ グループごとに敬語劇の発表を行い、相互評価を実践する。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：自分たちのグループの発表内容について振り返っておくこと。(約30分) AD:多</p>
第23回	<p>小論文演習① 自分の立場を明らかにして、600字の意見文を書く。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：テキストpp116-124を読んでおく。(約30分)</p>
第24回	<p>ストーリーテリングの準備・実践① ストーリーテリングの準備として、語るためのテキストを整える。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：テキストを声に出して読んでおくこと。(約30分)</p>
第25回	<p>ストーリーテリングの準備・実践② テキストを声に出して読み、推敲をする。さらに、完成したテキストを暗唱できるように練習する。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：テキストを暗唱できるように練習しておくこと。(約30分)</p>
第26回	<p>ストーリーテリングの準備・実践③ ストーリーテリングを実践し、相互評価を行う。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：自分自身のストーリーテリングについて振り返っておくこと。(約30分) D:多</p>
第27回	<p>ストーリーテリングの準備・実践④ ストーリーテリングを実践し、相互評価を行う。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：自分自身のストーリーテリングについて振り返っておくこと。(約30分) D:多</p>
第28回	<p>連絡帳の書き方① 連絡帳を書く際の基本を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：テキストpp125-132を読んでおく。(約30分)</p>
第29回	<p>連絡帳の書き方② 連絡帳を書く際の留意点について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：配布プリントを読み直しておくこと。(約30分)</p>
第30回	<p>小論文演習② 保育者としての専門性に関する600字の小論文を書く。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。(約30分) 復習：一年間の授業で学んだことを振り返っておくこと。(約30分)</p>

教育目標との関連	各自の日本語力の向上や、発表に向けてのグループ活動等により、社会的スキルを身につけ、他者との円滑なコミュニケーションができるようになる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 日本語の表記・文法などの基本的なルールを理解し、活用できる。 2. 自分の考えを作文に的確に表現できる。 3. 時・場所・相手に応じた適切な日本語で表現できる。 4. 言語表現技術を実践することができる。
評価方法および評価基準	試験 30% ・言葉に関する毎回の小テストに対する取り組みを評価します。 提出課題 30% ・授業中に行う課題に対する取り組みを評価します。 受講態度 40% ・発表等に対する取り組みや貢献度を評価します。
教科書	『保育者になるための国語表現』田上貞一郎（萌文書林、2010）
参考書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版』駒井美智子編（みらい、2018）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	入学前課題『ことば 基礎編』を解答した後、自己採点しておくこと。
履修上の注意、条件等	日常生活から自身の言葉に意識的になること。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業必修、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>社会福祉論は、児童福祉分野の専門職である保育士必須の基礎知識である。この授業では以下の1～5の順で学びを深めていく。</p> <p>1. 社会福祉の歴史と理念 社会福祉の制度化に至るまでのプロセスとして歴史や経緯を学びながら、ノーマライゼーションやインクルージョンに対する理解を深める。</p> <p>2. 社会福祉の制度と実施体制 我が国の現代における社会福祉を理解するために、制度・実施体制さらに社会福祉の専門職について学び、全体像を把握する。</p> <p>3. 社会福祉の方法 社会福祉の実践的方法として相談援助が位置付けられるが、ディスカッションなどを通して実践方法の基本を修得する。</p> <p>4. 社会福祉と人権 社会福祉の共通理念として、「人権擁護」があるが、人権とは何かディスカッションを通して学び、擁護に関する実践的態度について考察する。</p> <p>5. 社会福祉の動向と課題 社会福祉の課題を把握し、地域連携の必要性をが社会資源マップを作成しながら理解する。</p> <p>他の科目との関連：社会福祉論は、児童家庭福祉、社会的擁護、障害児保育、相談援助、社会的擁護内容を学ぶ上での基本となる科目である。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 社会福祉の理念と概念 社会福祉とは何かをテーマに先ず各自でイメージした上で、社会福祉の考え方を解説し、今後の学習の進め方について解説する。 予習：シラバスを読んで、社会福祉論の全体像を把握し社会福祉のイメージを持つておくこと。(約1時間) B少 E有 F有</p> <p>第2回 社会福祉の歴史1 社会福祉が制度化される以前(明治期)の生活から福祉の制度化の必要性について学び理解する。 予習：スモークマウンテンの事例を読み、福祉制度が未発展の国では、人々がどのように生活しているかイメージしながらワークシートを作成する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第3回 社会福祉の歴史2 日本国憲法が成立し、社会福祉の法制度が整備されていく過程について学び理解する。 予習：最低限どの生活とは何か、ワークシートを作成しながらイメージする。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第4回 社会福祉と児童家庭福祉 児童家庭福祉は社会福祉の一分野として位置付けられていることを理解した上で、何故、児童が福祉の対象であるか考え理解する。 予習：映画「火垂るの墓」の冒頭のシーンから児童が何故社会で保護されなければならないかワークシートを作成する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第5回 社会福祉の制度と法体系 社会福祉の法体系を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。 予習：ワークシート上の法律について、その目的や理念、対象を整理する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第6回 社会福祉の行財政と実施機関 社会福祉行政の体制とその財源について理解した上で、どのようなサービスがあるかを理解する。 予習：ワークシートを使って、市役所の役割、専門機関である児童相談所の役割について整理する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第7回 社会福祉施設 社会福祉サービスの利用方法と費用の負担方法などについて理解を深めながら待機児童問題についても考える。 予習：インターネットなどを活用して自分の身の回りにどのような福祉サービスがあるか整理する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第8回 社会福祉の専門職・実施者 専門職とは何かを解説して上で、社会福祉の現場における専門職の種類とその役割について理解する。さらに保育現場において、保育士と他の専門職との連携をイメージしながら、保育士の役割について再認識をする。 予習：ワークシートに示された福祉専門職について整理する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第9回 社会保障および関連制度の概要 リスク分散としての社会保険の役割や生活保護制度について正しい認識を持つ為に学習を進める。 予習：生活保護受給者の事例を読みながらワークシートを作成する。(約2時間) B少 E有 F有</p>		

	<p>第10回 相談援助の意義と原則 相談援助の基礎理論を解説しながら、専門職としての相談の前提となるものは何か学ぶ。 予習：価値の多様性を認知するためにワークシートを作成し自分自身の価値観の中心がどこにあるかを理解する。(約2時間) A多 E有 F有</p> <p>第11回 相談援助の原則と実践 相談援助の原則であるバイスティックの原則を理解して上で、簡単な事例について検討し、実践的な態度の基礎を身につける。 予習：事例シートの事例を熟読して、単なる相談と専門職の相談の違いをイメージしておくこと。(約2時間) A多 E有 F有</p> <p>第12回 相談援助の方法と技術 相談援助の方法としてケースワーク、グループワーク、コミュニティワークなどの方法があることを理解し、それぞれの実践方法の基本を演習を通して学ぶ。 予習：コミュニティワークに基本として、自分が住んでいる身の周りに活用できる資源が何があるかワークシートで整理する。(約2時間) A多 E有 F有</p> <p>第13回 社会福祉における利用者保護の仕組み 経済的な市場においては、消費者保護の仕組みはあるが、社会福祉において、どのようにして利用者を保護するのか、その意義と仕組みを理解する。 予習：食品偽装など消費者が被害を受けた事件について1つ取り上げワークシートに記入する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第14回 少子高齢社会への対応と地域福祉 少子高齢社会の課題について整理し、制度による福祉の限界を考察し地域福祉(福祉ネットワーク)の重要性とその活用法について理解を深める。 予習：少子高齢化の要因についてワークシートを作成しながら整理する。(約2時間) B少 E有 F有</p> <p>第15回 社会福祉の諸外国の動向と新しい社会福祉の視座 欧米の社会福祉のあり方から、我が国における今後の福祉に必要なものを考える。 予習：イギリス・アメリカ・スウェーデンの福祉についてワークシートを作成しながら整理する。(約2時間) A多 E有 F有</p>
教育目標との関連	<p>社会福祉論における教育目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理念を理解し、保育者に必要な専門知識と技術を修得する為の基礎力を養う。 2. 保育者として社会福祉専門職として、社会的スキルを身につけ、他者と円滑なコミュニケーションを図る為の基礎力を養う。 3. 相手の気持ちを受容する態度と周囲の状況を把握する基礎的判断力を養う。 4. 社会や福祉に関心を持ち、積極的に貢献しようとする意欲を養う。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>社会福祉論における到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理念について理解し説明できる。 2. 社会福祉の制度と実施機関について理解し説明できる。 3. 基本的人権と社会保障について理解した上で、保育者として適切な行動ができる。 4. 保育者として、基本的な福祉の視点(Well-being)を理解した上で行動できる。 5. 児童福祉の専門職として、受容的態度や共感的態度を理解した上で実践できる。
評価方法および評価基準	<p>定期試験：60% 定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 課題シート・振り返りシート：20% 授業に臨む前の予習の態度(授業参加への積極性)、授業で何が修得できたか、授業内容について深く考察できたかを評価します。 受講態度：20% 授業への集中、グループワーク等の貢献度、説明に対しての積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。</p>
教科書	基本保育シリーズ4「社会福祉」、松原康夫他編著、中央法規、2015年発行
参考書	授業中に適宜配布する
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	予習復習の詳細は上述の通りです。社会福祉に関する日々の記事については各自情報収集について努めてください。地域に何があるか、どのような活動をしているか、日頃から関心を持ってください。
履修上の注意、条件等	保育士は児童福祉分野の専門職です。専門職として福祉の理念・基本的な実践方法を理解したうえで、実習で必要となる子どもへの受容的態度を修得してください。
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：教育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期または後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
百瀬和男			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	教育の理念、思想、制度、法令について学ぶ。		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	教育の理念① 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。	
	第2回	教育の理念② 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解する。	
	第3回	教育の理念③ 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する。	
	第4回	教育の歴史① 教育の歴史に関する基本的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。	
	第5回	教育の歴史② 家族と社会による教育の歴史を理解する。	
	第6回	教育の歴史③ 近代教育制度の成立と展開を理解する。	
	第7回	教育の歴史④ 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。	
	第8回	教育の思想① 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。	
	第9回	教育の思想② 家庭や子供に関わる教育の思想を理解する。	
	第10回	教育の思想③ 学校や学習に関わる教育の思想を理解する。	
	第11回	教育の思想④ 代表的な教育家の思想を理解する。	
	第12回	教育に関する社会的・制度的・経営的事項 現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。	
	第13回	学校と地域との連携及び学校安全への対応 学校と地域との関連に関する基本を理解し、学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。	
	第14回	幼稚園教育 鶴川女子短期大学が国際こども教育学科を設置し、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、外国のアシスタント保育士の資格などを得られる教育機関であることに留意する。	
	第15回	まとめ アクティブラーニングの手法を用いて、討論・質疑・ノートの見直しを含めた講義の振り返りを行う。	
教育目標との関連	幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを知り、幼児教育に関する専門知識と技術を修得する。		
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	教育の理念・思想について説明できる。 幼稚園教育要領についての理解を深める。		
評価方法および評価基準	■提出物 50% ■平常の学習態度 50%		
教科書	『幼稚園教育要領解説』 著作権所有 文部科学省 フレーベル館 本体240円+税		
参考書	NEW TESTAMENT (贈呈)		
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	事前にテキストを熟読しておくこと。		
履修上の注意、条件等	成績評価の基準を超えること。		

オフィスアワー	月曜日の午前中以外は研究室にて質問を受けつける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>乳幼児期から青年期に至る心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につける。その上で、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導や教育、人との相互的にかかわりや体験、環境の意義など基礎的な考え方を理解する。確かな知識を身に付け、発達に応じた子どもへの働きかけや、調和のとれた子どもの育ちを支えられる保育者をめざす。</p> <p>他の科目との関連：発達心理学に関する基礎知識を身につけた上で、「子ども家庭支援の心理学」でより具体的かつ実践的に子どもの発達、家庭への支援、保育者の役割について理解を深める。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>発達を理解することの意義 人間の発達は生涯続くものであるが、どの時期も同じ重さを持つわけではない。初期の発達と後期の発達とは意味や課題が異なることを理解する。 予習：「保育の心理学」のシラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと。(約1時間) A：少 B：少 E：あり F：あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>発達と環境 人間は環境の中でさまざまなことを体験して学ぶ。環境に主体的にかかわることにより、心身の発達が促進されることを映像を視聴しながら学ぶ。 予習・復習：教科書P7-P21を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり</p>	
	第3回	<p>発達理論と子ども観・保育観 発達に関する代表的理論を踏まえ、グループワークを通して自分なりの子ども観・保育観を持つようにする。 予習・復習：教科書P25-P31を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第4回	<p>身体的機能と運動機能の発達 身体機能と運動機能の発達の過程と特徴について理解する。 予習・復習：教科書P21-P24を読んでおくこと(約2時間) B：中 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第5回	<p>認知の発達 かつて新生児は何も見えないと考えられていたが、最近になって赤ちゃんは驚くべき能力を備えて生まれてくることわかってきた。乳幼児期の認知の発達について、映像を見ながら学ぶ。 予習・復習：教科書P36-P42を読んでおくこと(約2時間) B：中 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第6回	<p>言語の発達 生まれてすぐのまだ言葉を話せない赤ちゃんも、全身を用いて豊かな能動的コミュニケーションを実現している。そうしたコミュニケーション能力を備えて誕生してくる赤ちゃんは、言葉によらないやり取りを活発にするうちに、やがて言葉を獲得していく。このプロセスを映像を見ながら理解する。 予習・復習：教科書p42-48を読んでおくこと(約2時間) B：少 E：あり F：あり</p>	
	第7回	<p>社会性の発達 社会性は社会的相互作用の中で発達していく。特に仲間関係によって身に付く力は、幼児期以降、児童期・青年期の対人関係、コミュニケーションスキルの発達につながっていくことを理解する。 予習・復習：教科書p48-p52を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第8回	<p>社会情動的発達 情動とは、極めて主観的な複雑な心の動きである。人間の基本的な情動の発達や機能、情動表出について、映画視聴を通して楽しく学ぶ。 予習・復習：教科書p31-p35を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第9回	<p>発達に課題のある子どもの支援 発達に課題のある子どもの理解とその手だてについて心理学的見地から理解する。また、保護者への配慮や連携について映像資料とグループワークを通して考える。 予習・復習：教科書p31-p35を読んでおくこと(約2時間) A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p>	
	第10回	<p>学習に関する理論 さまざまな学習の形態や概念、およびその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。 予習・復習：授業中に配布する資料を読んでおくこと(約1時間) A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第11回	<p>主体的な学習を支える指導 主体的な学習を支える動機づけや集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 予習・復習：授業中に配布する資料を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり</p>	
	第12回	<p>乳幼児の学びの過程と特性</p>	

	<p>乳幼児の学びに関わる基礎理論を理解した上で、それを支える保育について考える。 予習・復習：教科書p66-p71を読んでおくこと（約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 児童期・青年期の学びの過程と特性 児童期・青年期の学びの過程と特性 一児童期・青年期の学びに関わる基礎理論を理解した上で、それを支える教育や指導について考える。また、児童期における学校不応や不登校、いじめなどの諸問題について、および、青年期の発達課題と諸問題について自己と照らし合わせながら理解する。 予習・復習：教科書p71-p83を読んでおくこと（約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 まとめと学習到達度確認テスト これまでの授業の総まとめを行い、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。また、授業内容全般についての理解力確認テストを行う。 予習・復習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと。（約2時間） A：中 B：中 D：少 E：あり Fあり</p> <p>第15回 学習到達度確認テストのフィードバック 学習到達度確認テストの結果を基に、学修成果と課題についての自己理解を深め、保育の心理学Ⅱへとつなげる。 E：あり</p>
教育目標との関連	<p>保育者には、どんな時も愛情深く子どもの傍らに寄り添う温かさや、伸びゆく子どもの可能性を信じる強さが求められる。それを裏打ちする心理発達の道筋についての的確な理解や正しい知識を習得する。また、これらの知識の習得が学生自身の発達について改めて考える機会となり、自らの発達を自覚的に捉え直し、人生を主体的に自分らしく生きる意志の力を身に付ける。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の基礎について説明することができる。</p> <p>2. 子どもの心理を理解し、保育場面に応じた適切な判断ができる。</p> <p>3. 子どもは人との相互的なかかわりを通して発達していくことを理解し、保育者としてふさわしいかかわりについて説明できる。</p> <p>4. 心身の発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連に関心をもつ。</p> <p>5. 子どものいたずらや問題行動に対しても、その行動の背後に潜む心理を理解するように努め、常に愛情を持って接することができる。</p>
評価方法および評価基準	<p>受講態度：40% 授業内での発言・発表やグループワークでの積極性など、授業への貢献度を評価する。 確認テスト：30% 授業の内容について理解しているか確認のためのテストを実施する。 提出課題：30%</p>
教科書	『保育の心理学を学ぶ』長谷部比呂美、日比睦美、山岸道子著 ななみ書房 2011年 1,800円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	子どもの心理発達に関する社会情勢に関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
高島扶貴			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における保育・教育課程の意義や編成について学び、こどもたちの主体性を活かした保育・教育課程の在り方について考える。 保育・教育課程の編成と指導計画の作成を実際に行うことにより、具体的に理解する。</p> <p>他科目との関連：保育内容5領域において学んだねらい及び内容は、園生活の全体を通して総合的に展開されなければならない。保育・教育課程総論では、5領域を総合的に捉え、指導計画を作成していくことを学ぶ。</p>		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	オリエンテーション 保育の質の向上に向けた計画・実践・省察・評価 講義概要を理解する。 こどもたちの学びは、こども自らが環境に主体的に関わって生み出される遊びの中にある。保育の質の向上を目的とした計画・実践・省察・評価のプロセスを学ぶ。 予習：保育・教育課程総論のシラバス全体を読み、講義概要を理解する。(約1時間) B：中 F：あり	
	第2回	全体的な計画及び教育課程の意義 全体的な計画及び教育課程が持つ役割・機能・意義について理解する。 予習・復習：教科書P.5～9を読み、自分の考えをまとめ教育課程・保育課程の考え方についての理解を深める(約1時間) B：少 E：あり F：あり	
	第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に見る社会背景 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の要点から、こどもたちの育ちの変化や社会の変化を考察し、保育における今日的課題を理解する。 予習・復習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説から改訂の要点について理解する。(約1時間) B：多 E：あり F：あり	
	第4回	全体的な計画・教育課程の編成 保育所及び幼稚園における全体的な計画と教育課程の在り方を理解する。 カリキュラム評価を踏まえ、全体的な計画及び教育課程編成の仕方について学ぶ。 予習・復習：教科書p.19～37及び、授業時に配布したプリントを読み、教育課程の編成の仕方を理解する。(約1時間) B：少 E：あり F：あり	
	第5回	長期・短期指導計画の考え方 長期指導計画と短期指導計画の関係性について学ぶ。さらに長期指導計画と短期指導計画の作成にあたり、保育における評価の必要性について理解する。 予習・復習：教科書p.10～18を読み、指導計画作成の実際について理解する。(約1時間) B：少 E：あり F：あり	
	第6回	保育所における計画と評価 乳幼児の発達と生活の特徴を踏まえた計画と評価について考える。また児童一人ひとりに合わせた計画の実際について考える。 予習・復習：教科書p.38～48及び授業中に配布したプリントを読み、乳児の保育計画について理解する。(約2時間) B：少 E：あり F：あり	
	第7回	3歳児の指導計画作成1 3歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画について学ぶ。実際のエピソードに基づき、ディスカッションを通してこども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら次週のねらいと内容を考える。 予習・復習：教科書p.61～72を読み、3歳児の発達の特徴を理解する。(約2時間) A：多 B：多 E：あり F：あり	
	第8回	3歳児の指導計画作成2 グループディスカッションをし、3歳児の指導計画(週案)を作成する。作成した指導計画についてのプレゼンテーションを行う。 予習・復習：指導計画(週案)のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。(約2時間) A：多 D：中 E：あり F：あり	
	第9回	4歳児の指導計画の作成1 4歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画について学ぶ。実際のエピソードに基づき、ディスカッションを通してこども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら次週のねらいと内容を考える。 予習・復習：教科書p.73～83を読み、4歳児の発達の特徴を理解する。(約2時間) A：多 B：多 E：あり F：あり	
	第10回	4歳児の指導計画の作成2 グループディスカッションをし、4歳児の指導計画(週案)を作成する。作成した指導計画についてのプレゼンテーションを行う。 予習・復習：指導計画(週案)のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。(約2時間) A：多 D：中 E：あり F：あり	
	第11回	発達の連続性を踏まえた接続期のアプローチカリキュラム	

	<p>接続期における発達の連続性について理解する。幼保小連携の実際を踏まえ、新たな幼小連携の可能性について考える。 予習・復習：配布資料を読み、アプローチカリキュラムについての理解をし提案ができるようにする。(約2時間) A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 5歳児の指導計画の作成1 5歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画を接続期という視点から作成する。実際のエピソードに基づき、ディスカッションを通してこども理解をし、実態を捉え、アプローチカリキュラムと照らし合わせながら次週のねらいと内容を考える。 予習・復習：教科書p.84～105を読み、5歳児の発達の特徴を理解する。(約2時間) A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第13回 5歳児の指導計画の作成2 グループディスカッションをし、5歳児の指導計画(週案・部分指導案)を作成する。作成した指導計画についてのプレゼンテーションを行う。 予習・復習：指導計画(週案)のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。作成した週案に基づき、日案の作成を行う。(約6時間) A：多 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 小学校との連携・テスト こどもの育ちを小学校につなぐ資料「保育所児童保育要録」及び「幼稚園幼児指導要録」の記載の留意点について学ぶ。 予習・復習：配布資料を読み「保育所児童保育要録」及び「幼稚園幼児指導要録」の記載の仕方について理解する。 A：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 まとめ カリキュラムマネジメントの意義 授業の評価を行う。また自己研究課題を設定する。 講義内容を振り返り、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 B：少 E：あり</p>
教育目標との関連	保育・教育課程の基礎基本を理解し、将来保育者として保育・教育課程の編成を行うために必要な知識を獲得しなければならない。教育課程の編成は、こどもの発達に即したものでなければならぬため、こどもの発達の連続性を理論的に理解することが求められる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育課程の在り方と意義について説明ができる。 2. 保育の目標を達成するために必要な、保育・教育課程の編成ができる。 3. 乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができる。
評価方法および評価基準	<p>試験50%：定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価する。</p> <p>提出課題40%：8回、10回、13回の授業内と冬季課題で指導計画の提出がある。 授業で学んだことを踏まえて立案できているか評価する。</p> <p>平常点評価10%：ディスカッション、プレゼンテーションにおける発表内容及び積極性を評価する。</p>
教科書	『教育・保育課程論 書いて学べる指導計画』岩崎淳子 及川留美 粕谷亘正 萌文書林 定価1900円(税別) 2015年
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	保育者としてこどもの発達を踏まえた指導計画の作成が求められる。授業内で各年齢の週案・日案の提出がある。
オフィスアワー	研究室にて受け付ける。時間は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田泰雅			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	保育を構成する理論や歴史、環境と生活からの経験的な学び、それらを支える保育方法などについて、幼稚園教育要領や保育所保育指針をはじめとする様々な資料を基に学ぶ。		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>1. 保育の目的①授業の概略説明</p> <p>1. 科目の内容説明や授業の構成について説明する。</p> <p>2. 保育のなかの言葉について知る。</p> <p>3. 子どもと権利、養護と教育、環境と発達、特別支援教育などについて概要を説明する。</p> <p>4. 保育の社会的意義と専門性などの重要性を知る。</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説書の序章及び第1章に目を通すこと（40分程度必要）</p>	
	第2回	<p>1. 保育内容の歴史の変遷について学び、発達の科学的なとらえ方を理解する。</p> <p>1. 江戸時代の藩校教育、郷中教育、寺子屋の教育について</p> <p>2. 明治から戦前の日本の保育</p> <p>3. 平成元年と翌年の改定</p> <p>・環境による保育と5領域への歩みについて学びその意味を理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に倉橋惣三について調べる（40分程度必要）</p>	
	第3回	<p>現代保育の基本である幼稚園教育要領、保育所保育指針等について学び、課題を理解する</p> <p>1. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園保育・教育要領」に見る保育の基本について学ぶ</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説書の第1章に目を通すこと（30分程度必要）</p>	
	第4回	<p>1. 保育と環境についてその基本的な考え方を学ぶ</p> <p>1. 環境を通じて家庭、保育施設、学校の違いを知り、その役割を理解する。</p> <p>2. 保育における環境の意味と間接的に保育し、総合的に学び指導する意味について理解する。</p> <p>3. 遊びと領域について理解する。</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章を熟読すること（30分程度必要）</p>	
	第5回	<p>保育の方法①</p> <p>1. 年齢的発達① 乳児の発達について特徴を学ぶ。</p> <p>2. 年齢的発達② 幼児の発達についてその特徴を学ぶ。</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第2章を熟読すること（90分程度必要）</p>	
	第6回	<p>保育の方法②</p> <p>1. カリキュラムの基本的な考え方と保育計画や保育内容とのつながりについて学び理解する</p> <p>2. 地域子育て支援に関する保育内容について学ぶ</p> <p>3. 健康・食育の保育内容の概要を理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章3、第3章を熟読すること（30分程度必要）</p>	
	第7回	<p>対話による探求的保育と総合的に学ぶことを理解する</p> <p>1. 遊びと子どもの発達における最近接領域の関係を学び、関係論的な発達論の基本を理解する</p> <p>2. 関係論的な保育の基本である対話と子どもたちの興味や関心を探求する保育の重要性を理解する</p> <p>3. 生活から学ぶ意味を考える</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章3、第5章1を熟読すること（50分程度必要）</p>	
	第8回	<p>保育の事前、遊び、事後評価など評価の視点について学ぶ</p> <p>保育環境事前評価、事後評価、遊びにおける没頭などに対する評価など、様々な保育における評価の視点について学び、それぞれの重要性について理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章3、第5章1を熟読すること（50分程度必要）</p>	
	第9回	<p>記録のとり方と保育の評価について学ぶ</p> <p>保育における評価の意味と内容の基本について学び、記録の作成や記録を基に保育を実践につなげる意味について理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章を熟読すること（30分程度必要）</p>	
	第10回	<p>保育における行事の意味と意義について考え、課題などについて認識する</p>	

	<p>1. 様々な保育方法と保育方法を考える視点について考える。 2. 日本のあるいは地域など伝統的な行事や、四季折々の行事保育などについてその意味と意義、あるいは課題について学び理解する</p> <p>B. 多 乳幼児期の保育と育てたい姿など長期的に視野に立った保育について理解する 乳幼児期の終わりまでに育てたい姿について学び、長期的な視野を持つ重要性や保育実践との関係を理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章4を熟読すること（30分程度必要） インクルーシブ保育の概要と個別の支援計画や支援体制について理解する インクルーシブ保育の概要と個別の支援計画の作成、及び支援体制について学び、インクルーシブ保育の実践について理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に保育所保育指針解説書第1章2を熟読すること（30分程度必要） 諸外国の保育に学ぶ 多様な保育と保育者の専門性について学ぶ レゾ・エミリア、ニュージーランド、スウェーデン、韓国などの保育紹介から保育者の専門性について考え理解する</p> <p>B. 多 F. 宿題 事前に、イタリア、ニュージーランド、韓国について調べておくこと（30分程度） 保育における現代的課題について学ぶ 1. 持続可能な世界へ向けて、その理念や保育の役割について考える 2. 国際社会の動向を踏まえて、これからの日本の保育の在り方について学び考える</p> <p>B. 多 全体の振り返りと学力の確認する 保育内容総論の授業を通じて学んだことを整理し、保育者として各自の課題を把握し、到達目標へ向けて確実な学力を身につける</p> <p>B. 多 F. 宿題 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園それぞれの解説書を再度読むこと（90分程度必要）</p>
教育目標との関連	<p>複雑化した現代社会により、保育は多機能化している。それぞれに重要ではあるが、保育者にとって最も重要なことは「一人ひとりの子どもの発達に責任を持つこと」であり、それを中心としてそれぞれの機能が活かされていることを実感する必要がある。それは子どもに対して社会に順応することを求めるだけではなく、子どもが生活において創造し社会を変革しながらいきいきと生きる基礎を培うことであり、保育者も子どもと共に生活する中で、学び成長する保育の基礎を学ぶことを目指す。そのため歴史や思想、保育の方法などの知識を習得し、十分に思考し、自分の意見を持ちながら様々な意見を交換して理解し、納得しながら学ぶことを目指す。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 子ども理解と保育との関連性を理解できる。 2. 保育の歴史や思想等を通じて保育の意義や役割を理解できる。 3. 保育の内容と方法や発達の原理、および保育者の役割を理解できる。 4. 保育の現状と課題について考察できる。 5. 保育者としての態度の必要性を理解し、その基礎を理解できる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 60% 授業内容全般について理解度を評価する。 提出課題 20% 授業内で与えた課題について、自分なりの考察がなされているかを評価する。 受講態度 20% グループワーク、ディスカッションなどにおいて、各回の授業内容の理解度を深める。ここでの取り組みの積極性などを評価する。</p>
教科書	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領解説書</p>
参考書	<p>特になし。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>各時間の内容について自分なりに想像し、考えをまとめておく。毎回、少なくとも60分程度の予習復習が必要である。</p>
履修上の注意、条件等	<p>特になし。</p>
オフィスアワー	<p>研究室で受けつける。時間は研究室に掲示する。</p>
備考・メッセージ	<p>学ぶ者の姿を見て子どもたちは学びます。良く生きようとする者の姿を見て子どもたちは良く生きようとしています。保育者として、学びよく生きるとは何かについて常に問題意識を持ち、授業に臨んでほしいと思います。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>乳幼児が「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ための発育発達の基本やその援助方法を学ぶ。自らの健康管理を振り返りながら、保育者としてのあり方、子どもに対する安全の視点などを理解する。子どもの健康と安全の予想される活動と援助について、課題やレポートに取り組み知識を深める。教科書を元に、進度調整しながら、時間の余裕があれば、より具体的実践内容も含めていく予定である。</p> <p>他の科目との関連：「実習・実践・研究に関する科目」の基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>オリエンテーション 及び 保育内容（健康）の概要について 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 「子どもの健康な育ちを保障する」 幼稚園や保育園のガイドラインを理解する。 予習、復習：シラバスを読んでおき、教科書第1章を読んで関係参考書を見ておくこと。 レポート：教科書pp.57-59の「睡眠リズムの獲得作戦」を参考にして自分の睡眠について考えて実践記録を付け始めること。（約2時間） A：少 C:少</p>
第2回	<p>健康を保障する 「健康な子ども、元気な子どもの姿とは？」子どもの体の特徴と保育の視点を学ぶ。 10回目に提出する課題内容とその提出形式について説明する。 予習、復習：教科書1章と2章を復習し、3章を読んでおくこと。 宿題：教科書p.38の「やってみよう」の内容を調べてやってくること。 教科書pp.57-59の「睡眠リズムの獲得作戦」を参考にして自分の睡眠について考えて実践記録を引き続きつける。（約2時間） C:少 F:あり</p>
第3回	<p>健康課題とは 「子どもの全面発達と現代っ子の健康問題」を考え、話し合う。 提出課題の内容と方法を再度確認する。 予習・復習：教科書3章を復習し、4章を読んできておくこと。 宿題：教科書pp.50-52を読んで「やってみよう」をやってくる。 教科書pp.57-59「睡眠リズムの獲得作戦」の自分の実践記録を引き続きつけておく。（約2時間） B：中 D：少 F：あり</p>
第4回	<p>生理的発達の保障 「生活リズムの獲得」について、人の睡眠と様々な法則について理解する。 予習、復習：教科書4章を復習し、5章を読んでおくこと。 教科書pp.57-59「睡眠リズムの獲得作戦」の自分の実践記録をまとめておく。（約2時間） C:少 D:少 E:あり</p>
第5回	<p>恒温の獲得 「恒温獲得のすすめと、恒温動物について」その事例と方法を知る。 レポート提出日 予習、復習：教科書5章を復習し、6章を読んでおく。 宿題：教科書p.70をみて五感について器官と名称を覚えてくる。五感の獲得のために何ができるかを考えてくる。（約2時間） E：あり F：あり</p>
第6回	<p>五感を育む 「五感」とは？「五感を獲得するために」様々な事例と工夫を学ぶ。 五感を育む遊びを考える。 予習、復習：教科書6章を復習し、7章を読んでおく。また、10章を読んで安全について考えておく（約2時間） A：少 D:少 E:あり</p>
第7回	<p>子どもと大人 「未熟から成熟への発達の概要とその援助」について理解し、心と体の関係を話し合う。 冒険・安全について考える。 宿題：安全のためのパフォーマンスを考えておく。（教材探しについて） 予習、復習：教科書7章を復習し、8章を読んでおく。10章と11章を読んでおく。（約2時間） A:少 B:少 F:あり</p>
第8回	<p>協応動作とは 「子どもの運動発達の保障と体力」について学ぶ。（運動遊びの援助と指導） 園児への見本演技を考える。（教材について） 予習、復習：教科書8章を復習し、9章を読んでおく。10章と11章を引き続き参考にして、見本演技を準備する。（約2時間） A：中 B：少</p>
第9回	<p>概念形成とは 「脳の発達と概念の獲得」について脳が育つための条件を学び、心の体の結びつきを考える。 園児への発表会リハーサル・及びコンペ。（実践について） 予習、復習：教科書9章を復習し、10章、11章までの流れを理解して見本演技ができるようにしておく。（約2時間） A：多 E：あり</p>
第10回	<p>基本的生活習慣</p>

	<p>「基本的生活習慣の保障」と身近の自立と援助について理解する。 選抜者は園での発表（日誌について） 予習、復習：教科書10章を復習し、11章を理解する。実習日誌と指導案に関する参考文献を読んでおく。（約2時間） A：多 C：多 E：あり</p> <p>第11回 安全管理と教育 子どもの視点に立った安全生活の保障①安全教育について学ぶ。 予想される子どもの姿とは（指導案について） 課題提出日 予習、復習：教科書10～11章を復習し、12章を読んでおく。（約2時間） A：中 E：あり</p> <p>第12回 リスクとハザード 「子どもの視点に立った安全生活の保障」②リスクの見極めとハザードの除去について考える。 身近な危険探しワーク（教材研究について） 課題（観察）のフィードバック 予習・復習：安全教育と観察についてまとめておき復習とする。教科書13章を読んで行事の遊びについて考えておく。（約2時間） A：多 E：あり</p> <p>第13回 遊びのとらえ方 「子どもの育ちと遊びの保障」「食文化」「年間行事」を通して遊びについて理解する。 日本文化を考えよう（図書館検索ワーク） 予習、復習：教科書13章を復習し、14章と15章を読んで配布プリントを整理しておく。 C：中 E：あり</p> <p>第14回 保育者の眼差し 保育内容「健康」を理解するために、実践的に考えてみよう。 まとめ①1章から7章あたりまで（創意工夫とは） 予習、復習：教科書14章を復習し、8章から14章までの配布プリントを整理しておく。 D：少 E：あり</p> <p>第15回 保育者が担う物 「全面発達の保障」とは何か。全15回のもつめを行う。 まとめ②教科書15章を復習し、配布プリントを総まとめする。（重要項目の確認） 復習：配布プリントを完全に仕上げ、告知URLを見て試験対策をする。 E：あり</p>															
教育目標との関連	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に於ける、心身の健康に関する領域「健康」に示された観点から、乳幼児期の健康教育の理論と実践を理解する。「周囲の状況や他者の気持ちを理解し、適切な判断ができる」ように教職として自分の健全な心身を保つとともに、発育発達の子どもの理解から、健康指導の立案を修得する。															
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の基礎的健康に関わる領域と意義について理解できる。 2. 子どもの発育発達段階において必要な知識を修得する。 3. 子どもの「健康」増進を図るための知識と創意工夫できる。 4. 「健康」の実践に関心をもち、その問題点を考えることができる。 5. 自らの「健康」を管理して、教諭として相応しい生活習慣を身に付ける努力をする。 															
評価方法および評価基準	<table border="0"> <tr> <td>試験</td> <td>25%</td> <td>定期試験を15回の授業内で実地します。授業内容について理解度を評価します。</td> </tr> <tr> <td>提出課題</td> <td>25%</td> <td>対象を観察し調べ考察する課題です。</td> </tr> <tr> <td>授業回数</td> <td>1～2回目及び、再度10回目に提出課題の内容説明を指示をする。11回目に課題提出し、13回目までにはフィードバック予定です。安全教育課題を理解して作成された内容を評価します。（量が大事）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>25%</td> <td>授業内での個人的な積極的な参加及び発表を評価します。</td> </tr> <tr> <td>実技発表</td> <td>25%</td> <td>グループ活動やディスカッションでの発表内容を評価します。</td> </tr> </table>	試験	25%	定期試験を15回の授業内で実地します。授業内容について理解度を評価します。	提出課題	25%	対象を観察し調べ考察する課題です。	授業回数	1～2回目及び、再度10回目に提出課題の内容説明を指示をする。11回目に課題提出し、13回目までにはフィードバック予定です。安全教育課題を理解して作成された内容を評価します。（量が大事）		受講態度	25%	授業内での個人的な積極的な参加及び発表を評価します。	実技発表	25%	グループ活動やディスカッションでの発表内容を評価します。
試験	25%	定期試験を15回の授業内で実地します。授業内容について理解度を評価します。														
提出課題	25%	対象を観察し調べ考察する課題です。														
授業回数	1～2回目及び、再度10回目に提出課題の内容説明を指示をする。11回目に課題提出し、13回目までにはフィードバック予定です。安全教育課題を理解して作成された内容を評価します。（量が大事）															
受講態度	25%	授業内での個人的な積極的な参加及び発表を評価します。														
実技発表	25%	グループ活動やディスカッションでの発表内容を評価します。														
教科書	『演習 保育内容 健康 ー大人から子どもへつなぐ健康の視点』 井狩 芳子著 萌文書林 第2版第1刷発行 2018年 1800円＋税															
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 授業中に指示 https://www.youtube.com/user/nikaidolturukawa http://teachernika.blogspot.jp/															
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業終わりに通知する。授業期間は、教科書や授業プリントをよくみて、新しい健康関連の言葉・保育用語を理解しておくこと。															
履修上の注意、条件等	積極的な授業参加とレポートと課題の提出を求める。 毎回のワークシートの提出を求める。															
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。															
備考・メッセージ	掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。締め切り過ぎたら不受理とする。進度調整有。															

講義科目名称：保育内容（人間関係）

授業コード：

英文科目名称：Contents of Childcare (Human Relations)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田 泰雅 森 眞理			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。特に、領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との応答関係や集団との関係のなかで幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	授業の概略説明 環境との出会いと関わり合いを学び、人間関係の基礎を理解する	
	第2回	B:多 予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領解説書に目を通しておくこと（50分程度必要） 育ち合うとは何か 子どもと保育者の関わり合いを考え、育ち合いの構造を理解する	
	第3回	B:多 予習：テキスト第2章を熟読すること（30分程度必要） 遊びの中の人との関わり合い① 「遊びと子どもの育ち」を理解する	
	第4回	B:多 予習：テキスト第4章 §1を熟読すること（30分程度必要） 遊びの中の人との関わり合い② 「遊びの発達と人間関係」を理解する	
	第5回	B:多 予習：予習：テキスト第4章 §1, 2を熟読すること（40分程度必要） 遊びの中の人との関わり合い③ 「遊びの中の人との関わり合い」を理解する	
	第6回	B:多 予習：テキスト第4章 §3を熟読すること（30分程度必要） 遊びの中の人との関わり合い④ 「遊びの中で共有すること」を理解する	
	第7回	B:多 予習：テキスト第4章 §4を熟読すること（30分程度必要） 遊びの中の人との関わり合い⑤ 遊びをつくる」ことについて学び理解する	
	第8回	B:多 予習：テキスト第4章 §5を熟読すること（30分程度必要） 生活を通して育つ人との関わり合い 「家庭や園生活を通しての人との関わり合い」を考える	
	第9回	B:多 予習：テキスト第5章に目を通すこと（30分程度必要） 個と集団の育ち① 「一人ひとりを理解する」「個と集団の関係」の重要性を認識する	
	第10回	B:多 予習：テキスト第6章 §1, 2を熟読すること（30分程度必要） 個と集団の育ち② 「集団で活動する楽しさ」や「協同性を育む」ことを理解する	
	第11回	B:多 予習：テキスト第6章 §3, 4を熟読すること（30分程度必要） 人との関わり合いを見る視点① 「他者との信頼関係および依存と自立」を理解する	
	第12回	B:多 予習：テキスト第7章に目を通すこと（30分程度必要） 人との関わり合いを見る視点② 「自我の発達、葛藤、集団の中での役割と責任・道徳性の芽生えを理解する	
	第13回	B:多 予習：テキスト第8章を熟読すること（40分程度必要） 幼児教育の現代的課題と療育 「人間関係」幼児教育の現代的課題と療育を理解する	

	<p>B:多 予習：テキスト第8章を熟読すること（40分程度必要） 全体を振り返る 「これまでの学習によって身に付けた理解を確認する」を理解する</p> <p>E:多 全体の振り返りを通しての今後の課題の明確化 「自己の課題を明確化と自学の目標」</p> <p>E:多</p>
教育目標との関連	<p>(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解することが求められる。 (2) 幼児期の人間関係の発達について、幼児教育施設の生活における関係発達論的視点から説明できることが求められる。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的特徴とその社会的背景を理解できる。 1. 人と関わり合う力の育ちがその後続く一人ひとりの人生を支える力となることを理解できる。 2. 主体的に生きることと人間関係について理解できる。 3. 乳児期に育つ人と関わり合う力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 3. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わり合う力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 4. 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 4. 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5. 自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5. 家族や地域との関わり合いと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。</p>
評価方法および評価基準	授業への参加・態度・取り組み40% 提出課題10% 試験50%
教科書	『事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』無藤隆、岩立京子監修 2017年出版 2000円 萌文書林
参考書	資料を適宜配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	人の発達に関して人間関係は大きな要素であるため、事前学習と復習は欠かせない30分
履修上の注意、条件等	学習態度を最も重視したい。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
入江和夫・元 鍾彬・入江三津子			
授業形態：講義	担当形態：複数		

講義概要	保育者としての専門性を育むために、自らが自然体験活動や製作活動、栽培などを通して子どもの遊びや生活の具体的な活動について理解する。幼児が様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわることに共感できる力を指導案作成及び模擬授業などを通して実践的に身につける。他の科目との関連：「生活科研究」		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	幼児教育の基本と保育内容「環境」① 保育者の専門性を育むために、学生自らの自然体験や製作活動、飼育栽培及び指導案作成や模擬授業実践などを行う意義を理解する。また、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「資質・能力」の理解を深める。 予習：幼稚園教育要領の該当する箇所の内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） Eあり、Fあり	
	第2回	幼児教育の基本と保育内容「環境」② 保育者の専門性を育むために、学生自らの自然体験や製作活動、飼育栽培及び指導案作成や模擬授業実践などを行う意義を理解する。また、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「資質・能力」の理解を深める。 予習：幼稚園教育要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」の提出（1時間） A少、D少、Eあり、Fあり	
	第3回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際① キャンパス周辺を散策し、田んぼや動植物の季節特有の様子について観察するとともに領域「環境」の「ねらい」から安全に配慮した指導方法を考える。 予習：幼稚園教育要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） A少、C中、Eあり、Fあり	
	第4回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際② 花の種まきを行い、観察記録を取りながら植物を育てることを通して生き物への親しみと命の大切さを理解するとともに領域「環境のねらい」から指導方法を考え、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「資質・能力」の理解を深める。 予習：種まきの注意事項を読み、実習に役立てる。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） C多、D少、Eあり、Fあり	
	第5回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際① 授業の中で、子どもの発達から考えた「おもちゃづくり」とその遊びを行うことを通して「環境」のねらいを理解するとともに、どのような指導方法が考えられるか班で話し合い、発表する。 予習：学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間） C多、Eあり、Fあり	
	第6回	身近な素材や自然物を用いた保育の実際② 授業の中で、子どもの発達から考えた「おもちゃづくり」とその遊びを行うことを通して「環境」のねらいを理解するとともに、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「資質・能力」の理解を深める。 予習：配布された指導案を読み、特徴を把握する。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） A中、Eあり、Fあり	
	第7回	指導案作成① 実習の「主活動」の一つとして、発達年齢に沿った製作遊びを扱い、それに基づいた「導入」「展開」「まとめ」の指導案を作成する。 予習：配布された「あそびのたね」を読み、特徴を把握する。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） A中、Eあり、Fあり	
	第8回	指導案作成②（細案） 実習の「主活動」の一つとして、発達年齢に沿った製作遊びに基づいた細案の完成を目指す。 予習：配布された「子どもの年齢の特徴」を理解し、該当する幼稚園教育要領の内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） A中、Eあり、Fあり	
	第9回	指導案作成③（改善） 模擬授業を行う前に指導案細案を基に、2グループで模擬授業を見せ合い、指導案の改善をする。 予習：学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） A中、Eあり、Fあり	
	第10回	模擬保育①（1班、2班、3班） チームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、保育の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：幼稚園教育要領を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間）	

	<p>D多、Eあり、Fあり</p> <p>第11回 模擬保育②（4班、5班、6班） チームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、保育の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：幼稚園教育要領を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） D多、Eあり、Fあり</p> <p>第12回 模擬保育③（7班、8班、9班） チームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、授業の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：幼稚園教育要領を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間）D多、Eあり、Fあり</p> <p>第13回 模擬保育④（10班）と振り返り チームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、授業の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：幼稚園教育要領を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） D多、Eあり、Fあり</p> <p>第14回 テスト及び解説 いままでの授業内容についてテストするとともに内容を解説する。 予習：幼稚園教育要領を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） D多、Eあり、Fあり</p> <p>第15回 総合的な振り返り 振り返りを行い、領域「環境」のねらいなどの理解を深めるとともに、授業を行う上で工夫すべきポイントを明確にする。 予習：幼稚園指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（1時間） D多、Eあり、Fあり</p>
教育目標との関連	幼児期の日常生活や遊びを通して探究する心を援助できるような模擬体験を行う事で、豊かな感性を育み、保育者としての実践的な指導力を身につけることを目指す。
到達目標	<p>1 幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいを理解できる。</p> <p>2 学生による自然体験活動や製作活動、栽培などを通して、どのような場面で子どもは何を考え、興味関心が高まるかなどを考えることができる。</p> <p>3 1, 2から指導案を立案し、模擬保育の実践、グループ討議を通して、教師の立場、子どもの立場から、よりよい保育とは何かを考えることができる。</p>
評価方法および評価基準	試験50% 定期試験実施。授業全般についての理解度を評価する。 提出課題50% 花生観察+毎回の「授業でわかったこと、感想」の提出
教科書	とくになし
参考書	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	特になし
オフィスアワー	入江研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	言葉はコミュニケーションの手段としてだけではなく、物を認識したり思考したりする際にも欠かせないものである。しかし、人間は生まれた時から言葉を話せるわけではない。乳幼児は身近な人の関わりのなかで言葉を獲得していく。そこで本演習では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「言葉」のねらいと内容を理解するとともに、乳幼児の言葉の発達過程やその育ちを支える環境及び保育者の役割について学ぶことを目的とする。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。また、絵本や紙芝居など、豊かな言葉を育むための児童文化財への関心を高め、実際に保育において活用できる力を養う。 他の科目との関連：国語では本演習で学んだ理論を実践する場を多く設ける。また、総合的に保育内容を理解するためには、他の保育内容の科目もそれぞれに関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	<p>第1回 オリエンテーション—言葉とは何か— シラバスを用いて、本演習のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 ワークショップを踏まえて言葉とは何かを考え、さらに言葉の機能について理解する。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約30分） 復習：テキストpp17-21を読んでおくこと。（約30分） A:中 F:あり</p> <p>第2回 言葉を育む児童文化財 子どもの言葉を育むための児童文化財の種類を知る。 さらに各自が持参した絵本を発表することで、それぞれの絵本体験を振り返るとともに、読み聞かせの方法について具体的に学ぶ。 また、絵本カードの課題について説明する。 予習：図書館に行き、自分が子どもの頃に好きだった絵本を借りてくる。（約30分） 復習：テキストpp98-100を読み、読み聞かせの練習をしておくこと。また、絵本を読み、記録をとること。（約30分） D:中 F:あり</p> <p>第3回 乳幼児の言葉の発達① 学生による読み聞かせの発表を行う。 ビデオを視聴し、乳幼児の言葉の発達の全体像を把握する。 赤ちゃん絵本の具体的な作品について知る。 復習：ビデオの内容を復習しておくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第4回 乳幼児の言葉の発達② 学生による読み聞かせの発表を行う。 前回視聴したビデオの内容を踏まえて、出生後から前言語期の発達を詳しく学ぶ。 言葉の絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp35-37を読んでおくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第5回 乳幼児の言葉の発達③ 学生による読み聞かせの発表を行う。 第3回に視聴したビデオの内容を踏まえて、一語文から多語文の時期までの言葉の発達を詳しく学ぶ。 昔話絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp38-44を読んでおくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第6回 乳幼児の言葉の発達④ 学生による読み聞かせの発表を行う。 第3回に視聴したビデオの内容を踏まえて、子どもが文字に興味を持ち、書き言葉を獲得していくまでの過程を詳しく学ぶ。 復習：テキストpp69-70を読んでおくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第7回 【振り返り】乳幼児の言葉の発達の理解度についての小テストを行う。 保育教材としての児童文化財の活用① 学生による読み聞かせの発表を行う。 紙芝居の特徴とその演じ方について学ぶ。 物語絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp106-108を読んだ上で、紙芝居を実際に手にとって演じてみる。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第8回 保育教材としての児童文化財の活用② 学生による読み聞かせの発表を行う。 保育教材としての絵本・紙芝居の役割と、乳幼児の発達段階に合わせた選択方法について学ぶ。 ポストモダン絵本の具体的な作品について知る。</p>

	<p>復習：乳幼児の発達段階に即した児童文化財を探す。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少 F:あり</p> <p>第9回 領域「言葉」の指導計画① 学生による読み聞かせの発表を行う。 児童文化財を子どもの前で実演するための指導案作成の方法と留意点を学ぶ。 文字なし絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp137-146を読んでおく。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第10回 領域「言葉」の指導計画② 学生による読み聞かせの発表を行う。 各自が選択した児童文化財を子どもの前で実演するための指導案を作成する。 科学絵本の具体的な作品について知る。 復習：立案した指導案の内容を見直す。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第11回 子どもの言葉を育むための保育者の役割① 学生による読み聞かせの発表を行う。 子どもの言葉を育むための保育者による言葉がけの方法について学ぶ。 写真絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp83-91を読んでおくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第12回 子どもの言葉を育むための保育者の役割② 学生による読み聞かせの発表を行う。 子どもの言葉を育むための保育者による環境作りの方法について学ぶ。 バリアフリー絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp54-56を読んでおくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第13回 領域「言葉」のねらいと内容 学生による読み聞かせの発表を行う。 領域「言葉」のねらいと内容、さらに他領域との関係を学ぶ。（変遷を含む） しかけ絵本の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp25-32を読んでおくこと。授業で紹介した絵本のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:少</p> <p>第14回 言葉の育ちに関わる諸問題 学生による読み聞かせの発表を行う。 言葉の発達に問題のある子ども、日本語を母語としない子どもやその保護者の援助について、具体的な事例を通して学ぶ。 紙芝居の具体的な作品について知る。 復習：テキストpp71-81を読んでおくこと。授業で紹介した紙芝居のうち、興味があるものを読んでみる。また、絵本を読み、記録をとること。（約1時間） BD:中</p> <p>第15回 まとめ これまでの授業の総括と振り返りを行う。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、見直す。（約1時間） D:少</p>
教育目標との関連	乳幼児の言葉の発達やそれに対する保育者の援助を理解することで、乳幼児の育成に貢献できる。また、児童文化財を活用した保育計画を立案することにより、周囲の状況を把握し、適切な判断をすることができる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の言葉の発達を説明できる。 2. 言葉を豊かにする児童文化財を実践できる。 3. 子どもの言葉を育むための保育者の役割を理解する。 4. 領域「言葉」のねらいと内容が説明できる。 5. 児童文化財を用いた保育計画が立案できる。
評価方法および評価基準	<p>試験 60% ・小テストと定期試験において、授業の内容全般についての理解度を評価します。</p> <p>提出課題 30% ・第2回の授業で指示します。実際に絵本を読み、指定した項目がきちんと記録できているかを評価します。</p> <p>受講態度 5% ・授業内での実践や課題に対する取り組みによって評価します。</p> <p>実技発表 5% ・授業内で実施する絵本の読み聞かせを評価します。</p>
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版』駒井美智子編（みらい、2018）
参考書	<p>『幼稚園教育要領解説』</p> <p>『保育所保育指針解説』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	自分自身の幼少期の絵本体験を振り返っておくこと。また、絵本や紙芝居などの児童文化財にできるだけ多く接すること。
履修上の注意、条件等	絵本の読み聞かせの実践を履修者全員に課します。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期又は後学期	2年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
入江和夫			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	保育者として必要である子どもの生活に関する健康・安全を実習や実験などを通して理解する。具体的には園外保育、食中毒、室内空気汚染、水汚染、震災などを扱い、保育者の立場からどのように対応したらよいかについて学習する。授業内容の理解を深めるために、絵本作り、ポスター、保護者へのおたよりなどを作成し、発表する。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 1. 子どもにとっての安全・健康 科学の進歩における生活の利便性と脅威について概観し、子どもの健康・安全の観点から課題を考える。evernoteの使い方を説明する。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） Eあり、Fあり	第2回 室内環境の健康安全① 室内に発生するカビ、ダニについての健康被害とその対応について理解する。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」の提出。 Eあり、Fあり	第3回 室内環境の健康安全② VOC（揮発性有機化合物）による室内空気汚染の実験を行い、結果とその対応に関して、子どもや保護者の注意喚起を目的としたポスターづくりとその発表を行う。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） C中、Eあり、Fあり
	第4回 食中毒を防ぐ① 幼児における食中毒のダメージは大きいことから、その発生要因について理解するとともにFOOD STAMPを使い、細菌の汚染状況を実験的に確かめる。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） C中、Eあり、Fあり	第5回 食中毒を防ぐ② 保護者向けの情報提供として、食中毒を未然に防ぐための調理実習を行い、その様子をpowerpointで編集する。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） A少、D中、Eあり、Fあり	第6回 安全に配慮した園外保育① 園外保育は自然環境に触れることができ、子どもにとって大きな意味があるが、危険に遭遇する可能性もある。どのような危険があるのかを理解する。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） Eあり、Fあり
	第7回 安全に配慮した園外保育②（絵本作り） 安全に配慮した園外保育について、子どもにもその理解を促すためにさせるための絵本作りを行う。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） Eあり、Fあり	第8回 安全に配慮した園外保育③（絵本の読み聞かせ） 保育者の専門性を育むために、安全に配慮した園外保育の絵本を用いて、幼稚園児を相手にした読み聞かせを行う。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） D多、Eあり、Fあり	第9回 水道水と生活排水① 遠足などで川に出かけ、遊ぶことも考えられる。果たしてその水は安全なのかなど、水循環の視点にたった水汚染を少なくするライフスタイルを理解する。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） Eあり、Fあり細案を完成する。
	第10回 生活排水と水汚染② 下水処理場を見学し、生活排水の汚染問題、浄化方法などを理解する。また、下水処理水は再び水道水の原水となることもあり、水道水の検査項目から、汚染の原因物質が我々の身近な物質に由来していることなどを理解する。新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間） C多、Eあり、Fあり	第11回 子どもの室内事故及び交通事故① ベット・階段からの転落、誤飲など子どもの事故は発生が多い。事例をもとに対応策を考え、どのようにすれば事故を未然に防ぐことができるかを理解する。交通事故にも注目し、どのようにすれば事故を未然に防ぐことができるかを理解する。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間）	

	<p>D少、Eあり、Fあり</p> <p>第12回 子どもの室内事故及び交通事故② 子どもの視野の狭さが室内事故や交通事故の要因の一つとして、考えられている。Child Visionを作成し、装着しながら、子どもの視野を体験し、保育者として、事故を未然に防ぐ方法を理解する。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間）</p> <p>C中、Eあり、Fあり</p> <p>第13回 地震から子どもを守る 東日本大震災の様子を視聴する。「保育施設のための防災ハンドブック」「東日本大震災被災保育所の対応に学ぶ」を参考に、保育者として子どもを守る対策を理解する。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間）</p> <p>Eあり、Fあり</p> <p>第14回 テスト及び解説 今までの内容についてテストをするとともに解説する。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間）</p> <p>Eあり、Fあり</p> <p>第15回 総合的な振り返り 総合的な振り返りを行い、保育者として子どもの健康・安全に配慮した環境を整えることの重要性を理解し、発表する。 予習：新聞記事データベースで該当する箇所を検索し、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出。（2時間）</p> <p>D多、Eあり、Fあり</p>
教育目標との関連	この授業では子どもの生活環境を健康・安全の観点から考え、それらを保育の現場に取り入れていく力を養い、保育者として確かな知識と実践的な技能を身につけることができる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1 保育者として、子どもの生活から何が危険で、どのような健康被害があるのかを理解できる。 2 子どもの健康・安全を守るための具体的な対応をとることができる。 3 授業内容を具現化させた子ども向け絵本や保護者向けパンフを作成、発表を通して保育者としての専門性を自覚できる。
評価方法および評価基準	試験70% 定期試験実施。授業全般についての理解度を評価する。 提出課題30% 絵本や保護者向けパンフレットなどの提出。毎回の「授業でわかったこと、感想」の提出
教科書	授業中に適宜、資料を配布する。
参考書	幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	予習内容、授業の振り返り「わかったこと&感想」については、evernoteで提出する。
オフィスアワー	入江研究室で受け付ける。時間は研究室に経時する
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1 単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
二階堂あき子			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	幼稚園教育要領と保育者保育指針に於ける「表現」の領域について理解する。教諭として、どのように子どもの「感性」を刺激し、また、自ら「表現」できる子どもに育つように援助し、そして、子どものイメージが豊かに生活の中で発揮される仕掛けを学ぶ。より実践的になるために、実技、発表を多く行い、互いの観察と評価を体験することで、自身の保育内容（表現）とその基準を作っていく。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーションと「表現」領域について 授業概要と評価方法の説明をする。 課題説明（授業日誌）の書き方等を説明する。 「表現」の領域と幼稚園・保育園の領域概要を理解する。 ヨガ遊びワークを行う。 予習、復習：バランスボールでできる遊びを考えてくる。本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 教科書の目次を良くみておく。教科書1章pと2章p. 29まで読んでくること。（約2時間） A：中 C：少 E：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	2. 保育の基本と表現①（バランスボール） ①「人間形成」に於ける感性と表現及び、その発達過程を理解する。 バランスボールあそびを行う。（集団の遊びとコミュニティー形成） レポート課題の説明をする。 予習、復習：教科書1章と2章p. 29までを復習し、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 記念造形について案を考え、準備をする。（約2時間） A：中 D：少 E：あり	
	第3回	3. 保育の基本と表現②（記念造形） 「保育の楽しさと表現」子どもの自発に触発される楽しさを体験する。 記念造形ワーク（集団での表現とコミュニケーションワークの方法） レポート提出方法の確認 予習、復習：教科書1章と2章を良く読んで、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 布遊びについて考えてくる。（約2時間） A：中 D：少 E：あり	
	第4回	4. 保育の感性と表現①（布あそび） 領域「表現」の「ねらい」と保育内容を学ぶ。 布あそびワーク（年齢に応じた布あそびを工夫し、発表） 予習、復習：教科書1章と2章を良く読んで、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 ゴム紐あそびについて考えてくる。（約2時間） A：中 D：少 E：あり	
	第5回	5. 保育の感性と表現②（ゴム紐あそび） 他領域との関連及び、保育基本と領域「表現」を理解する。 （ゴム紐あそびと発展方法） レポート提出日 予習、復習：教科書1章と2章を良く読んで、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 2章を良く読み、p. 41の学習課題と協同あそびについて考えてくる。（約2時間） A：中 D：少 E：あり	
	第6回	6. 領域「表現」と保育者①（協同あそび①） 子どもの豊かな表現を育む環境の構成と子どもの心が開放される環境を学ぶ。 協同あそび①を行う。（模擬保育の時間構成・環境構成について） ここまでのまとめとレポートフィードバック 散策ワーク（8回目）の導入 予習、復習：教科書2章と3章を良く読む。特に教科書p. 41学習課題「3びきのこぶた」について考えてくる。 本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 コミュニケーションについて考え、教科書の関連箇所を読んでくる。（約2時間） B：中 D：少 E：あり	
	第7回	領域「表現」と保育者②（コミュニケーション） 子どもの表現を受け止める・引き出す・伸ばすことにより表現を育むあそびの援助を学ぶ。 （模擬保育の援助方法とコミュニケーションワーク②） 散策ワーク（8回目）の用意をする。保育マップについて。 予習、復習：教科書3章を読んで、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 安全と散策ワークについて考え、教科書の関連箇所を読んでくる。（約2時間） A：中 D：少 E：あり	
	第8回	8. 感性と表現①（散策ワーク） 五感を通した保育と自然や生命の不思議さを感じる保育例を学ぶ。散策ワークを行う。 （ピクニック遊びに、防災訓練を視野に入れて、気づきと表現を促す） 散策ワークの実行と発表を行う。 予習、復習：教科書3章と4章を良く読んで、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる	

	<p>る。 安全と散策ワークについて考え、教科書の関連箇所を読んでくる。(約2時間) A:中 D:少 E:あり</p> <p>第9回 9. 感性と表現②(協同あそび②) 人の温かさを感じる保育と様々な表現活動を通した保育を学ぶ。 散策ワーク発表の再考と評価を行う。 協同あそび②のまとめと、これまでの授業の振り返り。(行事のための実習日誌と日誌計画について) 課題と形式の確認①(この回の分までがレポート範囲) 予習、復習:教科書4章と5章を良く読んで、本日行った遊びなどの記録を日誌形式で書きとめる。 安全と散策ワークについて考え、安全教育についても復習しておく。(約2時間) C:少 D:少 E:あり</p> <p>第10回 10. 身体的表現①(コミュニケーション②) 身体的表現活動の目標を理解して、「ありえない物語」の身体的表現を行う。 保育マップの活かし方(教材研究①) コミュニケーションの前提と方法について。 課題と形式の確認②(日誌形式の復習) 予習、復習:教科書5章と8章を良く読んでおく。課題提出に備える。 子どもに読み聞かせできる自分の好きな物語を読んでくる。(約2時間) C:中 D:少 E:あり</p> <p>第11回 11. 身体的表現②(イメージネーション) 子どものイメージを刺激するために、身体的表現の保育者に求められる援助や指導技術を学ぶ。 「紙芝居」に備えて、「台本づくり」と指導案作成のための「準備計画」を行う。(教材研究②) 課題提出日 予習、復習:教科書5章と8章を良く読んでおく。 子どもに読み聞かせできる自分の好きな物語を読んで各グループの台本をまとめる。(約2時間) A:中 D:少 E:あり</p> <p>第12回 12. 造形的表現①(一人ひとりの表現) 造形的表現活動の目標を理解して、自由創作中の物語に「紙芝居」に相応しい「描く」「写す」「つくる」「構成」を考える。 「紙芝居」の模擬保育に合わせて、どのような環境設定や、相互に参加できる内容になるかを考える。 課題のフィードバック予定 予習、復習:教科書7章と8章を良く読んでおく。 各グループの台本をまとめ、準備に必要な物をそろえる。(約2時間) A:中 D:少 E:あり</p> <p>第13回 造形的表現②(模擬保育①と準備) 「紙芝居」の模擬保育から指導の実際に必要な内容を工夫する。 自由な発想で、参加型模擬保育が行えるように「紙芝居」の内容を吟味する。(教材研究③) 限られた時間と場所でのマネージメントを学ぶ。 予習、復習:教科書7章と8章を良く読んでおく。 「紙芝居」に必要な準備を完成し、模擬保育①に備える。(約2時間) A:中 D:少 E:あり</p> <p>第14回 言語的表現と「模擬保育②と指導案作成」 言語的表現活動の目標を学び、特に「オノマトペ」を中心に「紙芝居」の模擬保育の改良を行う。 「紙芝居」を行う際の指導や援助を念頭に、指導案作成のためにグループで話し合う。(模擬保育の方法) 予習、復習:教科書5章から8章までを良く読んでまとめておく。 「紙芝居」の模擬保育を成功させるために準備する。(約2時間) A:中 D:少 E:あり</p> <p>第15回 まとめと評価方法 「模擬保育」の発表動画を互いに評価するために、評価項目を作成する。 期末試験に向けて対策を行うことで、保育内容「表現」をまとめる。 予習、復習:次年度に向けて各自新たな課題設定を行う。 期末試験に向けて、配布プリント等をまとめる。(2時間) C:少 E:あり</p>												
教育目標との関連	<p>「社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付ける」ために、感性をどのように磨き、どのような表現活動を為しうのかを、実際に思考錯誤することで修得する。それには、自身の精神力・努力が重要である。様々な物事に好奇心を持ち関連づけていくことで、「表現」の領域を経験的に学ぶ。</p> <p>他の科目との関連:「実習・実践・研究に関する科目」の基礎知識として「保育内容(表現)」の教育内容・方法を学び、実習に備える。</p>												
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得する。 2. 身体表現、造形的表現、言語表現、音楽表現等の表現活動に必要な技術や知識を習得する。 3. 自身の表現力や感性を養い、子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上に努力できる。 4. 自身の得手不得手を自覚し、創意工夫により力量形成していくことができる。 5. 子どもが主体的に表現することの意味を理解して、その環境作りに協力できる。 												
評価方法および評価基準	<table> <tbody> <tr> <td>試験</td> <td>25%</td> <td>定期試験を実地します。授業内容について理解度を評価します。</td> </tr> <tr> <td>提出課題</td> <td>25%</td> <td>時間をかけて観察し、調べ考察するのが課題です。授業で詳しく説明するが、授業回数1～9回目までの授業記録を保育日誌形式で提出し、そこから与えられた論題を考察して提出する。11回目に提出し、13回目頃にはフィードバック予定です。課題を理解して作成された内容を評価します。</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>25%</td> <td>授業内での個人的な積極的な参加及び発表を評価します。</td> </tr> <tr> <td>実技発表</td> <td>25%</td> <td>グループ活動やディスカッションでの発表内容を評価します。</td> </tr> </tbody> </table>	試験	25%	定期試験を実地します。授業内容について理解度を評価します。	提出課題	25%	時間をかけて観察し、調べ考察するのが課題です。授業で詳しく説明するが、授業回数1～9回目までの授業記録を保育日誌形式で提出し、そこから与えられた論題を考察して提出する。11回目に提出し、13回目頃にはフィードバック予定です。課題を理解して作成された内容を評価します。	受講態度	25%	授業内での個人的な積極的な参加及び発表を評価します。	実技発表	25%	グループ活動やディスカッションでの発表内容を評価します。
試験	25%	定期試験を実地します。授業内容について理解度を評価します。											
提出課題	25%	時間をかけて観察し、調べ考察するのが課題です。授業で詳しく説明するが、授業回数1～9回目までの授業記録を保育日誌形式で提出し、そこから与えられた論題を考察して提出する。11回目に提出し、13回目頃にはフィードバック予定です。課題を理解して作成された内容を評価します。											
受講態度	25%	授業内での個人的な積極的な参加及び発表を評価します。											
実技発表	25%	グループ活動やディスカッションでの発表内容を評価します。											
教科書	『生活事例からはじめる ー保育内容ー 表現』 徳安敦・関口明子編著 青踏社												
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省												

	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 授業中に指示 https://www.youtube.com/user/nikaidolturukawa http://teachernika.blogspot.jp/
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は授業終わりに通知する。授業期間は、教科書や授業プリントを良くみて、新しい表現関連の言葉・保育用語を理解しておくこと。
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することで評価の対象となる。 配点が高いので、課題（25点）提出すること。
オフィスアワー	授業前後に教室にて受け付ける。
備考・メッセージ	掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。締め切り過ぎたら不受理とする。 進度調整有。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択
担当教員			
田中久美子、田辺重子			
授業形態：講義	担当形態：複数		

講義概要	日本の伝統文化のうち、ここでは書道・浴衣の着付け・茶道を学び和のころを理解する。 書道：日本における書道が実用性と芸術性の二面を持つ事を理解し、心惹かれる文字を習得する。 着付け：美しい着物を時代の流れ、季節のうつろい等T.P.Oを指導しながら総合的に学習する。 茶道：テーブルと椅子で日本の伝統の茶道を学習する。 書道・着付け・茶道の順序はグループによって変わる。
授業計画および学習形態	<p>第1回 書道 基礎知識 文字の歴史を知る。文房四宝、書法一般を理解し、基本点画を学ぶ。</p> <p>第2回 書道 書の基本 基本点画を復習し、永字八法を学ぶ。 Eあり</p> <p>第3回 書道 漢字書 楷書、篆書、隸書を理解し、筆法を学ぶ。手本による実践練習をする。 Eあり</p> <p>第4回 書道 漢字書 硬筆 行書、草書を理解し、筆法を学ぶ。手本による実践練習をする。 硬筆書写を通し、美しい文字の書き方を学ぶ。</p> <p>第5回 書道 かな文字 いろは歌を通し、かな文字を学ぶ。 小筆を使い、手本による実践練習をする。</p> <p>第6回 着付け 基礎知識 講義 1 家紋について 2 きものの種類 (T.P.O) に応じての装い 3 きものの名称</p> <p>第7回 着付け 浴衣の着方 実技 浴衣の着付け (自分で着る)、たたみ方 Fあり</p> <p>第8回 着付け 浴衣の着方 実技 浴衣の着付け (自分で着る、相手への着付け)、たたみ方 Fあり</p> <p>第9回 着付け 浴衣の着方 実技 浴衣の着付け (自分で着る、相手への着付け)、たたみ方 Fあり</p> <p>第10回 着付け 総合 講義 帯の種類と帯結び Eあり</p> <p>第11回 茶道 茶の湯について お茶の歴史、茶碗、茶筌、服紗の扱い方 Fあり</p> <p>第12回 茶道 季節の掛け軸について お茶を点てる お菓子と抹茶のいただき方</p> <p>第13回 茶道 茶花について お茶を点てて客をもてなす Fあり</p> <p>第14回 茶道 茶の湯体験 茶碗に茶巾、茶筌を入れ、服紗さばきをして茶杓をふき茶碗へのせる Fあり</p> <p>第15回 茶道 日本のしきたりについて 懐紙を中心に日本の文化を学ぶ。 Eあり</p>
教育目標との関連	日本の伝統的の茶道を通して美術工芸を見ることや、花を育てる楽しみ、夏は涼しく冬は暖かく人をもてなす優しい心を養う。 社会人としての教養を高め、日本文化を知識として身につけ、豊かな感性を育む。
到達目標	<p>1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲</p> <p>書道：伝える手段としての文字は形・大きさのバランス・空白を生かすことにある。実践練習を通し、自分で書く文字の大切さを知る。 着付け：浴衣の着付けが完全に出来るようになる。 茶道：日本のしきたり等も学習し身につける。</p>

5. 態度	
評価方法および評価基準	書道 30% 着付け 30% 茶道 30% 受講態度 10% (3科目の総合)
教科書	適宜プリントを配付する。
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	三種類5回ずつの履修なので、理解して次の授業に出席するように。 着付けは、浴衣、半幅帯、腰ひも3本、帯板、筆記用具を各自用意すること。
オフィスアワー	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	礼儀を重んじる科目であると理解しておく。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業選択
担当教員			
宮本真理子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>幼い頃の、歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができる。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。この授業は、音楽初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。幼い頃を思い出し、わらべうたの遊び方を調べてレパートリーを増やす楽しみもある。他の科目との関連：「幼児音楽」「音楽（器楽）」「音楽（声楽）」「音楽表現」など、音楽科目全般に関連がある。実習とも関連がある。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>音楽の基礎を学ぶ (1) 授業の進め方について 理論：譜表（五線と加線）・音部記号 読む：ピアノの中央と低い方のドレミファソ（10枚）のカードを覚える。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う：「ぶんぶんぶん」（I-P.13）、「ちょうちょう」（I-P.14）をドレミで歌う。 弾く：パーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：2音の高さの違いを聞き分ける。 プリント学習：No.1</p> <p>予習・復習 音符カード10枚を確実に覚える。 A:少 F:あり</p>	<p>第2回</p> <p>音楽の基礎を学ぶ (2) 理論：音名と変化記号 読む：10枚のカードを読み、ピアノで鳴らす。中央から下のドシラのカードを増やす。（13枚） 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う：「かっこう」（I・II-P.9）をドレミで歌う。 弾く：「ぶんぶんぶん」（I-P.13）を弾く。パーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：聴いた音をラララで歌う。 遊びを学ぶ：わらべうた「あがり目さがり目」「だるまさんにらめっこ」</p> <p>予習・復習 増えた音符カード3枚を覚える。 A:少 F:あり</p>	<p>第3回</p> <p>音楽の基礎を学ぶ (3) 理論：音符と休符①（単純音符・単純休符の長さ） 読む：13枚のカードを復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「ちょうちょう」（I-P.14）を弾く。パーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：3つの音の動きを聴き楽譜に書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「夕焼け 小焼け」「てるてる坊主」</p> <p>予習・復習 13枚のカードの音をピアノで確認する。 A:少 E:あり F:あり</p>
	<p>第4回</p> <p>音楽の基礎を学ぶ (4) 理論：音符と休符②（付点音符・付点休符の長さ） 読む：高い方のドレミファソのカードを増やす。（18枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：高い方の音域のメロディーを写す。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「かっこう」（I・II-P.9）を弾く。パーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：4つの音の動きを聴き楽譜に書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「どんどんばし」 プリント学習：No.2</p> <p>予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認する。 A:少 F:あり</p>		
	<p>第5回</p> <p>音楽の基礎を学ぶ (5) 理論：リズムと拍子（拍と拍子・拍子記号） 読む：ピアノの中央・高い方・低い方のドレミファソを復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：ピアノの中央の音域のメロディーを高い方と低い方に書きかえる。 歌う：「きらきらぼし」（I-P.48）をドレミで歌う。 弾く：バイエル44を弾き、音符の長さを確認する。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「なべなべそこぬけ」 プリント学習：No.3</p>		

第6回	<p>予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。 A:少 E:あり F:あり</p> <p>音楽の基礎を学ぶ (6)</p> <p>理論：全音と半音 読む：ピアノの中央と高い方のドレミファソの間のラシのカードを増やす。(20枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーを同じように写す。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「きらきらぼし」のメロディーを両手で弾く。連弾をして楽しむ。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「子とろ子とろ」</p> <p>予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認する。 A:少 F:あり</p>
第7回	<p>音楽の基礎を学ぶ (7)</p> <p>理論：音階(長音階・短音階) 読む：これまでのカード20枚を復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーを同じように写す。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「かごめ かごめ」 プリント学習：No.4</p> <p>予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。 A:少 E:あり F:あり</p>
第8回	<p>音楽の基礎を学ぶ (8)</p> <p>理論：調(調子記号) 読む：ヘ音記号の低いシラソのカードを増やす。(23枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーをヘ音記号に書きかえる。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「ひらいた ひらいた」</p> <p>予習・復習 23枚のカードの音をピアノで確認する。 A:少 F:あり</p>
第9回	<p>音楽の基礎を学ぶ (9)</p> <p>理論：和音 読む：これまでのカード23枚を復習する。 書く：ヘ音記号のメロディーをト音記号に書きかえる。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 遊びを学ぶ：わらべうた「あんたがたどこさ」 プリント学習：No.5</p> <p>予習・復習 23枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。 わらべうたの遊び方を調べる。① A:少 E:あり F:あり</p>
第10回	<p>音楽の基礎を学ぶ (10)</p> <p>理論：楽語、記号 他 読む：大譜表の外側の加線2本の音ドを覚える。(25枚) 知っている音域をピアノで確認する。 書く：「たなばたさま」(I-P.51)を写す。(ヘ長調) 歌う：「たなばたさま」をドレミで歌う。 プリント学習：No.6 遊びを工夫する：わらべうた研究①</p> <p>予習・復習 25枚のカードの音を、ピアノで確認する。わらべうたの遊び方を調べる。② A:少 D:少 F:あり</p>
第11回	<p>音楽の基礎を学ぶ (11)</p> <p>理論：これまでの復習をする。① 読む：大譜表の外側の加線の音を覚える。(30枚) ピアノで鳴らして確認する。 書く：「うみ」(I-P.57)を写す。(ト長調) 歌う：「うみ」をドレミで歌う。 プリント学習：No.7 遊びを工夫する：わらべうた研究②</p> <p>予習・復習 30枚のカードの音をピアノで確認する。わらべうたの遊び方を調べる。③ A:少 D:少 E:あり F:あり</p>

	<p>第12回 音楽の基礎を学ぶ (12) 理論：これまでの復習をする。② 読む：大譜表の内側の加線の音の読み方を知る。(34枚) 楽譜の音の重なり具合を確認する。 歌う・弾く：「手をたたきましょう」(II-P.61)をドレミで歌いながら弾く。 プリント学習：No.8 遊びを工夫する：わらべうた研究③</p> <p>予習・復習 34枚のカードの音をピアノで確認する。 A:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第13回 音楽の基礎を学ぶ (13) 読む：カードの復習をする。(確実にない音をさがす。) 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：和音を読んで鳴らす。 プリント学習：No.9 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。</p> <p>予習・復習 34枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。 A:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第14回 音楽の基礎を学ぶ (14) 読む：カードの復習をする。カードを見てすぐ鳴らせるようにする。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：和音の伴奏(分散含む)を弾く。 プリント学習：No.10 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。</p> <p>予習・復習 34枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。 A:少 D:少 E:あり F:あり</p> <p>第15回 音楽の基礎を学ぶ (15) まとめ 読む：カードの復習をする。かるたで確認をする。 弾く：両手で弾く。各自1曲発表する。 遊びを工夫する：トーンチャイムの遊びを発展させ、やさしいこどものうたを演奏して楽しむ。 A:多 D:少 E:あり</p>
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てるという教育目標やディプロマポリシーにつながる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 3. 4. 歌ってみよう弾いてみようとい欲的になることで、基礎的な知識と共に楽譜を読み取る力や表現する力を身につけることができる。 1. 2. 子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えられるようになる。 1. 3. わらべうたやトーンチャイムを使った遊びを子どもたちに伝えられるようになる。
評価方法および評価基準	プリント課題 50% 毎回のプリント学習(小テスト)の成果を評価する。 実技課題 20% ピアノの課題の取り組みを評価する。 平常点評価 30% 音楽の基礎力アップのための取り組みと成果を評価する。(音符カード等)
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2015 1,500円(税抜) 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2015 1,500円(税抜) その他 適宜プリントを配付する。
参考書	大学所有のものを授業時のみ貸与して使用する。 ・『バーナム ピアノ テクニック』 ・フランスのソルフェージュ教材 ・音符カード
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	小さな積み重ね(くり返し)の努力が大きな成果となり、一生役に立つものになる。「幼児音楽」で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり、弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。準備学習の音符カードとピアノの課題は必ずすること。
履修上の注意、条件等	入学時のアンケートにより読譜力アップが必要と思われる者に履修を勧める。
オフィスアワー	授業後、教室にて質問を受け付ける。研究室でも受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：徳育倫理

授業コード：

英文科目名称：Moral Education and Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択
担当教員			
百瀬和男			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	キリスト教教育の理念、思想、歴史について学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	<p>第1回 日本人と基督教 遠藤周作 (7～28ページ)</p> <p>第2回 キリスト教とは何か (30～39ページ)</p> <p>第3回 聖書 (40～57ページ)</p> <p>第4回 教会とその歴史 (58～73ページ)</p> <p>第5回 キリスト教と生活 (74～85ページ)</p> <p>第6回 キリスト教と現代 (86～102ページ)</p> <p>第7回 アーメンからウルまで (104～121ページ)</p> <p>第8回 永遠の生命から教皇まで (122～139ページ)</p> <p>第9回 キリシタンから死の解決まで (140～157ページ)</p> <p>第10回 シバの女王から聖書翻訳まで (158～175ページ)</p> <p>第11回 聖人から肉体まで (176～193ページ)</p> <p>第12回 ニケア会議から牧師まで (194～211ページ)</p> <p>第13回 ホサナから礼拝まで (212～229ページ)</p> <p>第14回 歴代志上から誘惑と試練まで (230～247ページ)</p> <p>第15回 悪に勝つ道から賛美と平安まで (248～251ページ)</p>
教育目標との関連	人格形成を徳育や倫理教育の視点から考えることが大切であることを知る。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	キリスト教教育の考え方を理解する。 聖書をとらえて現実生活を見つめる。
評価方法および評価基準	■提出課題 50% ■平常の学習態度 50%
教科書	『キリスト教ハンドブック』 佐藤陽二編 三省堂 本体1500円+税(未定)
参考書	聖書(貸出聖書があります)
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	事前に教科書を熟読しておくこと。
履修上の注意、条件等	成績評価の基準を超えること。
オフィスアワー	月曜日の午前中以外は研究室にて質問を受けつける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	2単位	卒業選択
担当教員			
柴田啓一 福地昭輝			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス		

講義概要	本授業は、ボランティア活動の意義を理解するとともに、実践を通して社会貢献の必要性を理解する。自発的な活動を実践する地域のニーズを調べ、興味・関心のある活動に実際に参加し、自身の活動のプレゼンテーションを行う。 本科目は保育や幼児教育の枠にとどまらず、地域の福祉に関心を持ち、自ら能動的に活動することが求められるものである。		
授業計画および学習形態	第1回	授業の概要について 本授業の概要について理解する。ボランティアとは何か座学で学び、自主的活動として個々の学生が自ら実践することについて理解する。 B：少 予習：自分で取り組んでみたいと思うボランティアを調べておくこと（約1時間）。	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	自らの特性を生かした活動を企画する① 本学の特徴を活かしたボランティア活動を企画する。 A：多 B：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第3回	自らの特性を生かした活動を企画する② 第2回で企画した内容についてさらに検討し、企画書を作成する。 A：多 B：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第4回	自らの特性を生かした活動を実践する 第3回で企画した案を実践する。スムーズな運営や安全性への配慮、組織の中での個々の役割を考えて行動する。 C：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第5回	ボランティア概論 ボランティア活動の歴史を振り返り、ボランティアの意義と目的を学ぶ。自分なら何ができるかの可能性を考える。 B：中 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第6回	地域のニーズを知る 特定の地域における福祉のニーズを知るすべて学ぶ。本学が位置する鶴川地区を事例に、地域の特徴を知る方法と地域のニーズに対してどのような活動がふさわしいかを考える。 B：中 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第7回	活動スキルを学ぶ① 病院（鶴川記念病院）で介護リハビリの様子を見学するとともに、介護福祉士からデイサービス利用者との接し方の留意事項などの話を伺う。ボランティアをするうえでの心理的な配慮やコミュニケーションの取り方を学ぶ。また、車いすの利用の仕方についても学ぶ。 B：少 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第8回	グループ活動① グループで活動を行うための企画を立案する。 A：多 B：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。	
	第9回	グループ活動② 実際に各グループで活動する。 C：多	
	第10回	グループ活動③ 各グループで行った活動内容を発表し、相互評価を行う。 B：中 D：中	
	第11～12回	活動スキルを学ぶ② 「デイサービス三輪ひまわり」を訪問し、利用者との交流活動を行う。 C：多	
	第13回	自主活動へむけて 自主活動のプレゼンテーションと活動の準備を行う。 B：中 D：中	
	第14回	自主活動 夏季休暇中に各々がボランティア活動を行い、自分の活動を報告できるよう報告書をまとめる。 C：多	
	第15回	まとめ 自主活動の実践報告会を行い、実践の様子や課題を明らかにすることを通して、自己評価・相互評価をおこなう。 B：中 C：中	

教育目標との関連	現代社会においては様々なモノやサービスを購入できる一方で、利潤追求を目的とせず、社会的課題の解決に貢献する活動が求められている。ボランティアの精神は「愛の教育」という建学の精神にも通じ、ボランティアに参加する側とそれを受ける側での互いの感謝の気持ちの交流が愛の精神を養うこととなる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. ボランティアとは何かを、考え方や実践事例から理解することができる。 2. 自分自身がボランティアを志す仲間と共に協力し実践することができる。 3. ボランティア活動を通して、自他の人間性を深めることができる。
評価方法および評価基準	レポート 40% ・授業内でレポートを指示します。理解度の確認を行い評価します。 提出課題 30% ・自分で調べたことや活動したことをまとめます。独自性と活動の取り組みを評価します。 受講態度 10% ・自主的に、意欲的に参加しているかどうかについて評価します。 実技発表 20% ・学んだ内容がどれだけ会得できているかを評価します。
教科書	特になし
参考書	授業時に必要に応じて指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	学外での自主的なボランティア活動に取り組むことが履修の条件となる。夏期休暇や週末など、自分で取り組める日時と内容を設定し各自で活動すること。
オフィスアワー	各担当教員の研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択
担当教員			
相澤 京子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>現代社会では様々な場面において「文化」の伝承の危機を迎えている。子どもについても例外ではなく、都市部の開発による環境の変化や少子化等により、子どもが遊ぶことが困難となり、「児童文化」が伝承しにくい状態にある。しかし、子どもたちの発達を助け、感性を豊かにするためには児童文化財は欠かせないものであることから、乳幼児にかかわる保育者を目指す者として「児童文化」の理解は必要不可欠である。そこで、本演習では、絵本・紙芝居をはじめとする様々な児童文化財を取り上げ、実践してみることににより、保育環境の中でどのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。</p> <p>他の科目との関連：保育内容（言葉）で蓄積した絵本の知識や、国語での言語表現技術の発表を発展させ、実際に子ども達の前で実践する。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション—児童文化とは何か— シラバスを用いて、本演習のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 児童文化の種類を学生自身の経験を振り返ることによってまとめる。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約30分） 復習：配布したプリントの内容を振り返っておく。（約30分） D:中</p> <p>第2回 児童文化財の制作と実演① くつしたを用いたパペットの制作を行う。 復習：作成したパペットを用いた自己紹介を考える。（約1時間） A:多</p> <p>第3回 児童文化財の制作と実演② 作成したパペットの動かし方を学び、実際に自己紹介を行う。 復習：保育の中でパペットを活用できる場面を想定し、練習すること。（約1時間） AD:多</p> <p>第4回 子どもが楽しめる企画の立案と実践① 児童文化財を活用した子どもが楽しめる企画をグループごとに立案する。 各グループの計画内容についてプレゼンテーションを行い、実施する内容を決定する。 予習：児童文化財を活用した子どもが楽しめる企画を考えておく。（約30分） 復習：企画を実施するための下準備を行う。（約30分） ABD:多</p> <p>第5回 子どもが楽しめる企画の立案と実践② 児童文化財を活用した子どもが楽しめる企画を実践するための準備・練習を行う。 復習：準備・練習で足りなかった部分を補っておく。（約1時間） AB:多</p> <p>第6回 子どもが楽しめる企画の立案と実践③ 文化祭にて、児童文化財を活用した子どもが楽しめる企画を実践する。 復習：企画の内容や進行方法について各自で振り返りをしておく。（約1時間） AC:多</p> <p>第7回 保育教材としての絵本① 子どもが楽しめる企画についての振り返りを行う。 絵本の絵の法則や子ども特有の見方について学ぶ。さらに、図書館で実際の絵本を使って絵の法則を確認する。 復習：絵本の絵の法則について、実際の絵本で確認しておく。（約1時間） A:中 E:あり</p> <p>第8回 保育教材としての絵本② 各自が持参した絵本を紹介し、保育現場での活用方法についてディスカッションを行う。 予習：保育現場で活用できる絵本を選んでおくこと。（約30分） 復習：他の学生が紹介した絵本に目を通しておくこと。（約30分） ABD:多</p> <p>第9回 日本の昔話① 昔話と伝説との違いについて知る。また、日本の昔話の代表的な作品の内容を確認するためのグループワークを行う。 復習：様々な昔話や伝説を読み比べてみる。（約1時間） AD:中</p> <p>第10回 日本の昔話② 昔話絵本の比較を行った上で、保育現場での活用方法についてグループディスカッションを行う。 復習：授業で取り上げた以外の昔話について、絵本の比較を行うこと。（約1時間） AB:多</p> <p>第11回 外国の昔話① ペロウ童話とグリム童話の概要と、そこに見られる話について整理する。また、それぞれのストーリーの違いについてまとめる。 復習：授業で紹介した作品を実際に読んでおくこと。（約1時間） AB:中</p> <p>第12回 外国の昔話② 外国の昔話とそれをもとに創作されたディズニー作品とのストーリーの違いについてまとめる。 復習：授業で取り上げた以外の外国の昔話を読んでおくこと。（約1時間） A:少</p>		

	<p>第13回 伝承遊びの実践① 伝承遊びの種類を知る。さらに、折り紙・あやとり等の伝承遊びを実践する。 復習：折り紙・あやとり以外の伝承遊びを実践すること。（約1時間） A:多</p> <p>第14回 伝承遊びの実践② お正月に関する伝承遊びを実践する。その上で、伝承遊びの魅力と子どもにとっての意義を考える。 復習：授業で取り上げなかったお正月に関する伝承遊びを実践すること。（約1時間） A:多</p> <p>第15回 総括と学習到達度の確認テスト 保育における児童文化について考えることにより、これまでの授業の総括を行う。また、学習到達度の確認テストを実施する。 予習：これまでのノート・プリント類を整理する（約1時間） B:少</p>
教育目標との関連	様々な児童文化財を知り、実践することは、子どもが生きる地域や社会に関心を持つことにつながる。さらに、多様な人々と関わるために必要な幅広い教養を身につけることにより、常に愛情をもって他者に奉仕できるようになる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童文化財の種類が説明できる。 2. 保育現場における昔話の活用方法を具体的に述べるができる。 3. 様々な伝承遊びを実践することができる。 4. 子どもが楽しめる企画を周囲と協力しながら実践することができる。
評価方法および評価基準	<p>試験 40% ・授業の内容全般についての理解度と実践力を評価します。</p> <p>提出課題 20% ・授業中に行う課題に対する取り組みを評価します。</p> <p>受講態度 40% ・子どもが楽しめる企画や伝承遊びの実践等に対する取り組みや貢献度を評価します。</p>
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	『保育における子ども文化』松本峰雄編（わかば社、2014）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	自分自身の幼少期の遊び体験を振り返っておくこと。また、児童文化財に触れる機会を意識的に増やすこと。
履修上の注意、条件等	授業中に実践する時間を設けるので、各自の意欲的な姿勢が求められる。また、文化祭への参加を予定している。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：国際理解

授業コード：

英文科目名称：英文名称は備考欄に記載

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年 専攻科	2単位	卒業選択
担当教員			
松井志菜子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	現代社会は人、モノ、サービス、資金が国境を超えダイナミックに流動している。世界は民族、人種、宗教、文化、歴史、慣習、価値観、考え方が多様である。また昨今の技術の発展は、自動走行車開発のように車の概念や産業構造を変えるだけではなく、インターネット（IoT、IoE）、ドローンやロボットは人々の生き方、働き方をも変革しつつある。法的規制や国際機関、条約の必要性にも触れる。わが国は天然資源は少ないが、効率的な資源利用や地球規模の環境汚染や自然破壊問題への貢献、技術協力や海外投資などの国際協力に積極的である。公正かつ自由な競争、法の役割や法秩序、法体制の知識を習得する。異分野、異文化、異民族の人々とのコミュニケーション力やグローバルな柔軟な視点、長期的、継続的な視野で、考察力、理解力、判断力、交渉力を持つ未来を担う人材を育成することを授業の目的とする。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	国際法。国際私法と国際公法とは何か学ぶ。 渉外的事案とは何か。領土、領海、領空に関する国際法について学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第2回	国家とは何か 国家の3要素とは何か。主権国家とは何か。未承認国家や分裂国家とは何かを学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり。	
	第3回	国民とは何か。 国民。国籍とは何か。多重国籍や無国籍とは何か。難民とは何かを学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第4回	法秩序や法体系について学ぶ。 英米法系諸国と大陸法系諸国について学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第5回	国際的な人権の歴史① 古代ギリシア、ローマ時代の統治や人の移動、土地の支配について学ぶ。中世封建時代や啓蒙思想について学ぶ。自然法や自然権思想について学ぶ。市民革命の歴史や近代国家の誕生の歴史を学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第6回	国際的な人権の歴史② 法治主義と法の支配について学ぶ。立憲主義、立憲政治について学ぶ。憲法と条約について学ぶ。各国の三権分立の歴史を学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第7回	紛争解決 国際裁判管轄権や紛争解決の際の準拠法について学ぶ。国際司法裁判所とは何かを学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。	
	第8回	国際私法の基本テーゼについて学ぶ。国際仲裁について学ぶ。 準拠法を導く国際私法の基本テーゼについて学ぶ。国際仲裁について学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第9回	国際的な平和活動。戦争と平和。 国際ボランティア活動について学ぶ。国際的医療活動（医療従事者・保健師・助産師・看護師など）について考える。ジェネリック医薬品について学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第10回	国際経済協力活動。 国際的なボランティア活動。援助と自立と自律について学ぶ。南北問題、東西問題について学ぶ。地球規模の環境問題について考える。女性や子どもの人身売買、奴隷制度について学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第11回	国際的平和活動。 平和の実現について考える。核兵器、生物兵器、通常兵器、テロについて考える。サイバー攻撃、サイバー戦争について考える。ロボット、ドローン、ICTの利活用について考える。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第12回	イスラム文化。アラビアの世界。 宗教や信仰の多様性について学ぶ。民族や人種の違いを理解する。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	
	第13回	国際機関 条約とは何かについて学ぶ。国際機関の創設と役割について学ぶ。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり	

	<p>第14回 世界の中の日本。 WWⅡ以降、平和を維持してきた日本、原爆体験国の使命、役割。世界の中の日本について考える。 関心のある事についてレポートを提出する。 B：中 F：あり</p> <p>第15回 討論会 議題は学生の話し合いたい事を取りあげる。 グループディスカッション→発表→全体討論会。 関心のある事についてレポートを提出する。 A：中 B：中 D：中 F：あり</p>
教育目標との関連	思想・良心の自由、表現の自由などの精神的自由、人身の自由、職業選択の自由、居住移転の自由などの経済的自由などの国家からの自由、国の政治に参加する参政権、経済的、社会的弱者を国家が保障する社会権など人権とは何かを学ぶ。立憲主義の歴史を紐解く。法の支配、自然権、自然法の理論、平和主義への歩みを理解する。国家とは何か。戦争とは何か。地球全体の大きな視野に立ち、国際的な平和共存の実現に向け、次世代を担い、周囲の状況や他者の気持ちを理解し、適切な判断ができる者を育成する。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会への関心を持ち、書く、考える、調べることができるようになる。 2. 授業は双方向で行うため、発言力や自分の考え方の発信力、話術を鍛え、プレゼン力を培い、討議できる。 3. 他の学生の考え方を知り、価値観や考え方の多様性を実感し、異なる意見を理解することの大切さを説明できる。 4. 社会問題や政治、法律が身近なものであることを知り、平和活動や人権保障の話題などを理解し、論じることができる。 5. 人権問題、地域紛争や民族紛争、宗教に起因する紛争、領土に関する紛争、資源エネルギーをめぐる問題、国際犯罪など現代の社会事象やその原因について関心を持ち、基本的な事柄を説明できる。
評価方法および評価基準	<p>提出課題 50% (課題について、調査、思考、自分の考え方、客観的視点、今度の施策を呈示できているか)</p> <p>受講態度 40% (積極的参加度)</p> <p>テスト 10%</p>
教科書	『判例六法(別冊付)』 有斐閣 (1年次購入済み ⇒ 平成29年度版 あるいは 平成28年度版)
参考書	参考書は適宜紹介する。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	関心のある事について毎回、レポートを提出する。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	質問要望は講義の時間に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英文科目名称: Peaceful society beyond diversity & multi-cultures

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森 眞理			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	子どもの最善の利益を保障する保育のあり方を、子どもの発達・生活の特徴を始点に、保育の歴史・理論・実践に目を向け、社会・世界の動きや現代の課題と対話し考える。授業を通して子どもと育ち合う者としての知識・スキル・姿勢を養う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	イントロダクション・「子ども」と「子供」/保育原理とは？ ・こどもとの再会からこどもについて再考する。 ・授業説明・担当教員紹介・把握 テ1章 A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり 予習：シラバスを読んでくる（1時間） 復習：個人ノート用意と作成（2時間）	
	第2回	子どもとの出会いと関わり：①子ども観の変遷 ・子ども観の変遷から子ども観と保育の関係性について学ぶ。 ・「子どもはカワイイ」からの脱構築。 テ1章 A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：教科書を読む1章 個人ノート持参（1時間） 復習：個人ノート整理（2時間）	
	第3回	子どもとの出会いと関わり：②子どもの発達と遊び ・保育における「遊び」の意義・意味について体験的学びから考える。 テ1/10章 A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：教科書を読む 1・10章 幼児期の遊び持参（2時間） 復習：個人ノート整理（2時間） ブリュージェル遊びのシート	
	第4回	子どもとの出会いと関わり：③子どもの権利 ・『子どもの権利条約』から、子どもが置かれている現状を把握し、問う姿勢をはぐくむ。 テ1章 A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり 予習：教科書を読む 1章（1時間） ★ブリュージェル遊びのシート持参 復習：UNICEF 子どもの権利条約（2時間）	
	第5回	保育の歴史から学ぶ：世界の変遷 ①始まり ・保育の歴史を学ぶことにより、過去・現在・未来の保育について理解を深め・見据える。 テ7章 A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり 予習：教科書を読んでくる 7章（1時間） 復習：個人ノート整理（1時間）	
	第6回	保育の歴史から学ぶ：世界の変遷 ②充実・発展 ・日本における保育の変遷を学び、現在との連続性・非連続性を理解し、これからの展望する。 テ7章 A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：教科書を読んでくる7章（1時間） 復習：個人ノート用意と作成（2時間）	
	第7回	保育の歴史から学ぶ：日本の変遷 ・OECDの報告から、世界的なECEC（幼児教育）の捉え方を知り、日本のこれからのを考える。 テ8章 A：少 B：中 D：少	

第8回	<p>E：あり F：あり 予習：教科書を読んでくる（1時間） 復習：ミニテスト準備（2時間） 保育実践の要を理解する：①保育と教育の本質 ・保育の基本（理念・制度・カリキュラム・実践内容の関係を学ぶ） ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「こども園教育・保育要領」についての理解を深める。 テ4/5/6章 A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり</p>
第9回	<p>予習：教科書を読む 4・5・6章（1時間） 復習：個人ノート用意と作成（2時間） ★ミニテスト予定 保育実践の要を理解する：②保育環境 ・保育環境である社会・自然・文化、及び園内環境である空間・時間・人間について学ぶ。 テ2/4/5/6章 A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>予習：教科書を読む 2/4/5/6章（2時間） 復習：個人ノート用意と作成（2時間） 保育実践の要を理解する：③保育者の役割・専門性 ・保育者の意義・役割（働き）への理解を深める。 ・保育者の教養とマナーを学ぶ。 テ3/10章 A：少 B：少 D：多 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>予習：教科書を読む 3・10章（1時間） 復習：ミニテスト準備（2時間） 諸外国の保育を知る：欧米諸国を中心に ・スウェーデン、イタリア（レージョ・エミリア）、英国・米国の実践から日本との共通・相違点の認識を深める。 テ8章 A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>予習：ミニテスト準備（1時間） 復習：個人ノート整理（2時間） ★ミニテスト予定 諸外国の保育を知る：アジア・パシフィック諸国を中心に ・ニュージーランド、中国・韓国を中心に、日本との共通・相違点の認識を深める。 テ8章 A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>予習：教科書を読む 8章（1時間） 復習：個人ノートを整理（2時間） 新聞記事を調べる 現代社会の保育課題を考える①：保育ニーズの変化 ・子ども主体が脅かされる社会における問題について問い、自らの貢献を考える：早期教育、虐待、長時間保育、ESD、災害・紛争等、課題に取り組む。 テ9章 A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第14回	<p>予習：新聞記事を持参（1時間半） 復習：個人ノート整理（2時間） ★新聞記事持参 試験と「学びのふりかえり」と今後の展望 ・今学期の学びを振りかえり（試験） ・自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする。 A：少 B：少 D：少 E：あり</p>
第15回	<p>予習：試験準備（1時間） ★個人ノート提出 現代社会の保育問題を考える②：子どもの変化 ・子どもが消費の対象、忌避される時代について学び、子ども主体の保育について考える。 ・全授業振り返り テ9章 A：多 B：中 D：中</p>

	<p>E：あり F：あり 予習：教科書を読む 9章（1時間） 復習：個人ノート整理（2時間）</p>
教育目標との関連	「子どもの権利」「子どもの最善の利益の保障」を担う専門家としての基本となる学びであることを自覚することが求められる。また、「保育」について自分の言葉で様々な分野の人に語れる表現力を身につける。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 保育の意味と意義、歴史を始め、現状の保育と課題についての知識と理解を習得すること。 2. 「なぜか」と問題意識を持ち、多角的に物事を捉え考察すること。 3. 様々な言葉で保育の原理について表現すること。 4. 子どもを知りたい、わかりたい、と探究者としての保育者のための学びであることを自覚すること。 5. 保育の専門家として歩むための学びであると当事者意識を高める。</p>
評価方法および評価基準	<p>授業態度・参加状況・期末試験を総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取組み 20% 個人ノート 30% 期末試験・ミニテスト 50% *欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる。</p>
教科書	『改訂 保育原理』小田豊・神長美津子・森眞理共編、光生館、2009年、2,300円(税別)
参考書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」他、授業にて提示・紹介します。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>毎授業テキスト該当箇所を読み、授業に臨むこと。 授業後は、振り返りを行い、不明な内容について、理解しておくよう努めること。 授業後は、振り返りを行い、不明な用語・内容について、理解しておくよう努めること。</p>
履修上の注意、条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは毎時必携です。 ・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・私語・携帯電話等の教室内における使用は不可です。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更も有ります。
オフィスアワー	研究室に表示します。
備考・メッセージ	子ども・保育について知りたい、との思いで履修しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>「保育者論」は、保育者としての意義、役割及び専門職としての資質について学ぶ。多種多様な時代を生きに抜いていく子どもたちが最初に経験する社会生活に関わる中で、保育者の重要性を考え、求められる保育者像を明確にする。保育職を目指すものとして、自己の振り返り、自身に必要な専門的な学びを深める。 他の科目との関連：「保育原理」で学ぶ保育に必要な基礎的事項や、保育全般の理念など、保育者としての角度から学ぶ。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>保育者を目指す なぜ保育者を目指したのか？自身のきっかけを明確にする事で、保育者を目指すという事への自覚を持つ。憧れを実現するために記入シートを使い自己分析をする。 予習：保育者論のシラバスをよく読むこと（1時間） E：あり</p> <p>第2回</p> <p>保育をするということ 保育現場の実際をイメージするために模擬保育室で環境設定等を見学する。保育の仕事の特徴からこどもとの関係性を学ぶ。 予習：教科書P19～32を読む C：多 E：あり</p> <p>第3回</p> <p>保育者としての資質と役割① 保育者の一日を学び、その役割を考える。 予習：教科書P49～69を読む E：あり</p> <p>第4回</p> <p>保育者としての資質と役割② 園生活の中での成長を見守るうえでの、幼児理解を教科書の事例から学ぶ。 予習：教科書P71～84を読む E：あり</p> <p>第5回</p> <p>保育者としての共同性① 保育現場での共同性について考える。特に保育者同士の共同性について、チームワークを強めるため関わり方を学ぶ。 予習：教科書P119～130を読む E：あり</p> <p>第6回</p> <p>保育者としての共同性② 家庭や保護者との共同性について、教科書の事例から学ぶ。 予習：教科書P130～144を読む A：中 E：あり</p> <p>第7回</p> <p>保育者としての成長① 保育者としての自身をささえるために自己理解をする。 予習：教科書P162～170を読む E：あり</p> <p>第8回</p> <p>保育者としての成長② 保育現場で学び続ける事の重要性を考える。成長しあえる環境作りについて学ぶ。 予習：教科書P171～185を読む A：中 E：あり</p> <p>第9回</p> <p>地域における親支援・保護者支援について 子どもを取り巻く様々な環境について学び、多様化している家庭や保護者の支援について考える。 予習：教科書P87～106を読む E：あり</p> <p>第10回</p> <p>現代社会の課題と保育者 現代の保護者の課題、社会における子供の問題や社会的課題について教科書の事例を通して学ぶ。 予習：教科書P187～205を読む E：あり</p> <p>第11回</p> <p>世界の保育について 海外における保育者の役割や保育内容について学ぶ。 予習：教科書P219～232を読む F：あり</p> <p>第12回</p> <p>保育の歴史について 保育の歴史や当時の幼児教育に携わった保育者達について学ぶ。 予習：教科書P241～255を読む E：あり</p> <p>第13回</p> <p>これからの保育について 多様化する社会に合わせた保育を実践していく上での課題について学ぶ。 予習：教科書P267～277を読む E：あり</p> <p>第14回</p> <p>これまでの振り返り</p>		

	今までの授業内容についてふり返る 第15回 まとめ 保育者として ふり返りについてまとめる
教育目標との関連	保育者を目指すことを自覚し、専門的に学ぶことは、本学の教育目標でもある知識を深めることにつながる。また、社会的に求められる保育者の姿は、質の高い学生自身の人間性や、基本的な社会性を身につけることが重要と考える。その学びにより、学生の教養も合わせて向上し、より質の高い保育者像を目標とする。本科目での学習により、保育現場での実践に結びつけ、卒業後の自身に進路を明確にする。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 保育者の職務の意義や内容について理解できるようになる。 2. 保育者の職務の意義や内容について自身が考察することができるようになる。 3. 保育現場で必要となる環境構成や、子どもの遊びを支える技術を実践できるようになる。 4. 保育に関わる視聴覚資料や参考資料により、子どもの育ちに興味関心を持ち保育者に対する意欲が高められる。 5. 保育現場で常に保育者としての責任感を持ち、行動できるように自覚が促される。
評価方法および評価基準	試験70% 期末試験にて理解度を確認します。 提出課題20% 授業内で課題提出の際の理解度や内容のまとめ方、提出期限等から評価します。 受講態度10% 15回の受講状況から、授業中の3つの約束を守れたかを評価します。
教科書	『保育・教育ネオシリーズ9 保育者論 ー共生へのまなざしー』 岸井勇雄・無藤 隆・柴崎正行 監修 同文書院
参考書	授業中に、指示する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	保育者を目指す学生としての自覚を持ち、授業に取り組むこと。
オフィスアワー	各回の授業後に教室にて質問を受ける
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
福田尚子			
授業形態：演習	担当形態：		

講義概要	この授業では前期は、社会生活を送る上で必要な情報機器の基本的な使い方や情報モラルについて、P検協会主催「パソコン検定」3級（基礎的な知識・技能を有する）教材を用い演習を中心に学んでいく。後期では、前期に得たことをベースとして、円滑に保育現場での事務処理を行ったり、子供達の興味・関心を高めたり表現力を引き出すために、情報機器を効果的に活用する方法を演習を通して学んでいく。		
授業計画および学習形態	第1回	はじめに 授業の目的、進め方、評価方法について説明する。 タイピングテストの実施。	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	Wordの基礎① パソコン検定5級の受験。Wordの基本的操作の説明。教科書を用い、文書の編集、段落罫線とページ罫線、図形の作成、ヘッダー/フッターの設定を行う。	
	第3回	Wordの基礎② 前回授業内容の定着のため、自己紹介シートを作成する。	
	第4回	Wordの基礎③ 教科書を用い、ページ設定、文書の編集、インデントの設定、表の作成を行う。	
	第5回	Wordの基礎④ 前回授業内容の定着のため、今月のカレンダーを作成する。	
	第6回	Wordの基礎⑤ ここまでの授業内容を復習するために、教科書の類題に挑戦する。	
	第7回	情報モラル① インターネットや情報機器を利用するうえでのマナーやルールについて学習する。小テストの実施。	
	第8回	Excelの基礎① 「Excelとは」の説明。の基本的操作について学習する。 教科書を用い、Sheet1の編集、ワークシートの操作、データ入力、統計表の作成を行う。	
	第9回	Excelの基礎② 1. 前回授業内容の定着のため、教科書の類題に挑戦する。 2. 教科書を用い、ワークシートの操作、作業グループの設定、表の作成、3D集計、絶対参照、グラフの作成を行う。	
	第10回	Excelの基礎③ 1. 前回授業内容の定着のため、教科書の類題に挑戦する。 2. 教科書を用い、データの並び替え、表示の設定、ページ設定、印刷の設定、改ページプレビューの設定を行う。	
	第11回	Excelの基礎④ 1. 前回授業内容の定着のため、教科書の類題に挑戦する。 2. ここまでの授業内容を復習するために、教科書の課題・類題に再挑戦する。	
	第12回	検定模試① これまでの学習の定着を確認するために、パソコン検定4級あるいは3級模擬試験を受験。（受験級は、各自の希望により決定）	
	第13回	前学期の復習① WordとExcelの総復習として、練習問題に挑戦する。	
	第14回	前学期の復習② 教科書を用い、WordとExcelの総復習を行う。	
	第15回	検定模試② 2回目のパソコン検定3級あるいは4級の模擬試験を受験する。（希望者は本検定試験を受験※有料）	
	第16回	PowerPointの基礎① 幼児に対する情報機器端末の影響をインターネットを使って調査し、PowerPointで説明資料を作成する。 A：多 B：中	
	第17回	PowerPointの基礎② 第16回授業の続きと、調査内容をクラス内に情報共有するために発表を行う。 A：中 D：多	
	第18回	描画の基礎① フリーソフト「ペイント」を使って、描画の基礎を学ぶ。 Word文書に、ペイントで描画した絵をイラストを挿入し、運動会のポスターを作成する。	
	第19回	PowerPointの基礎③ 第19回から第21回授業まで、PowerPointを使って、選択テーマ（数やあいさつなど）について幼児が楽しく理解するための教材を作成する。今回の授業ではPowerPointにおける、イラスト挿入、アニメーション設定、音声挿入など教材作成に必要な機能について演習を通して学ぶ。また、教材の内容についても検討する。	

	<p>第20回 PowerPointの基礎④ 今回は、第19回授業をもとに、教材を作成していく。</p> <p>第21回 PowerPointの基礎⑤ 第18回、第19回授業で作成してきた教材を仕上げ、発表する。 D：多</p> <p>第22回 ムービーツールの基礎① 第22回から第24回授業にかけて、Windows Live ムービーメーカーを使って、思い出ムービーを作成する。 そのための準備として、写真や動画の挿入、BGMの挿入、テキストの挿入方法など基本的なツールの使い方を演習を通して学ぶ。</p> <p>第23回 ムービーツールの基礎② Windows Live ムービーメーカーを使って、2年間の思い出ムービーを作成する。 第22回授業で学んだツールの機能を用い、各自の携帯端末から写真や動画をパソコンに取り込み、編集作業を行う。</p> <p>第24回 ムービーツールの基礎③ 第22回、第23回授業で作成してきた思い出ムービーを仕上げ、発表する。 D：多</p> <p>第25回 iPad活用① 幼児教育の場でのiPad活用について考察し、まとめる。 A：多</p> <p>第26回 iPad活用② 第25回授業でまとめた内容を、クラス内で情報共有するために発表する。 A：多</p> <p>第27回 卒業制作「オリジナル動く絵本」① これまでに学んできた技術を用いて、オリジナルの動く絵本を制作する。 D：多</p> <p>第28回 卒業制作「オリジナル動く絵本」② 第27回授業の続き作業を行う。</p> <p>第29回 卒業制作「オリジナル動く絵本」③ 第27回、第28回授業で制作してきた絵本を仕上げ、発表する。</p> <p>第30回 卒業制作「オリジナル動く絵本」④ 絵本の発表会の続きと、全体の講評を行う。</p>
教育目標との関連	本授業では、社会生活に必要な教養としての知識・技能、さらに保育現場でも役立つ実践的な知識・技能を修得する。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の現場において、情報機器の有効性について理解できる。 2. 幼児教育の現場において、情報機器を効果的に使うことができる場面を考えることができる。 3. 幼児教育の現場において、情報機器を有効に使うための技術を身につける 4. 幼児教育の現場において、情報機器を有効に使うことに関心を持ち、活用方法を意欲的に検討することができる 5. 幼児教育の現場において、常に子供の成長を第一に考え、情報機器は子供の成長を助けるためのツールだということを忘れないようにする
評価方法および評価基準	<p>提出課題 40%：各授業で作成する成果物を提出課題として評価します。</p> <p>振り返り 10%：30回の授業時間内に小テストを実施し、理解度の確認を行います。</p> <p>受講態度 50%：グループワークへの貢献度を評価します。</p> <p>個人に割り当てられた課題に対して積極的に取り組む姿勢を評価します。</p>
教科書	P検事務局『P検3級テキスト』
参考書	P検事務局『P検3級ドリル』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち、授業に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	情報機器の中でも特にコンピュータを幼児教育の中で効果的に活用していくためには、ブラインドタッチ（キーボードを見ずにタイピングをすること）の習得が大前提になると思います。各授業の最初にタイピング練習の時間を設けますが、それとは別に各自練習して早めに習得しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
小川一幸			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>現在の子どもを取り巻く社会的状況は、少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、経済的問題、女性の社会進出による保育ニーズの増大・多様化など様々な課題をもたらしている。そのような現実の中で、子ども家庭福祉は子どもを健やかに育てることをサポートする者として社会的に重要な役割を担っている。子ども家庭福祉の現状と役割（特に児童虐待）についてより理解を深める一方法としてグループディスカッション等も取り入れ学ぶ。</p> <p>他の科目との関連： 児童家庭福祉は「社会福祉」の一分野であり、社会福祉全体の中での児童家庭福祉の位置づけを意識して、また、保育士は人との関りが不可欠であり、「相談援助」においてはジェネリックな専門性を身に付けられるよう学ぶ。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	児童家庭福祉を学ぶにあたって	「児童家庭福祉」を学ぶにあたって、児童家庭福祉のとらえ方、児童と家庭の定義などの共通理解を形成する。それぞれが考えている子どもは抱えている課題は何かなどディスカッションを通じて明らかにする。 予習： テキストP2～P5 子ども家庭福祉という考え方を読んで、現在児童家庭福祉が抱えている様々な課題について考えておく。 約30分 B：少
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	子どもを取り巻く現状と背景	少子化、家庭機能の縮小が進む中で、子どもの生活・養育環境が大きく変化している。社会の変容、地域の機能の弱体化が、家庭や子どもにどのような影響を与えているのかを学ぶ。 予習： テキストP14～P16 少子社会の姿を読み、少子化の現状と、なぜ女性が子どもを生まないのか、その原因を考える。 約45分 A：少 Eあり
	第3回	児童家庭福祉の法律と制度体系	児童家庭福祉の基本法である児童福祉法をはじめとする児童家庭福祉を支えている「児童福祉六法」とそれに基づく児童福祉制度の法体系のあらまし、現状の課題などについて学ぶ。 予習： テキストP70～P77 子ども家庭福祉を支える法律、関連する法律を読んでおく。約45分 B：少 Eあり
	第4回	児童家庭福祉の法律と制度体系	児童家庭福祉施策を展開していくにはそれぞれを推進していく行政体制、行政機関について学び、相談機関、特に子どもの相談機関の中心となっている児童相談所や子ども家庭支援センターなどの具体的業務内容、役割などについて理解する。 予習： テキストP82～P83 子ども家庭福祉の行政、P90～P97 子ども家庭福祉等機関を読んでおく。約45分 B：少 Eあり
	第5回	児童家庭福祉のあゆみ(歴史)	児童福祉の歴史を学ぶことで、どの様にして今日の児童福祉制度が形成されてきたのかなどを、それぞれの時代の社会背景を踏まえてながら理解を深める。特に戦後成立した児童福祉法は社会の変化に対応しつつ60回以上の改正を重ねてきている。その改正の流れを学びながら児童家庭福祉の変遷を理解する 予習： テキストP52～P65 明治期の児童福祉を支えた民間活動～社会福祉基礎構造改革と子ども家庭福祉を読んでおく。約60分 B：少 Eあり
	第6回	児童福祉施設についてとジェノグラムの書き方	児童福祉施設の果たしている役割、種類とその概要、設置と運営、利用の現状などを学び、地域・在宅福祉と施設福祉の機能の特徴、児童福祉施設の今後の方向性などについて考察し、話し合う。 また、事例研究などでよく使用されるジェノグラムの書き方を学ぶ。 予習： 児童福祉施設にはどのようなものがあるか調べて、テキストP104～P105 児童福祉施設の体系と運営を読んでおく。約30分 A：少 B：少 Eあり
	第7回	社会的養護について	児童家庭福祉の原点といえる社会的養護とはどのようなものなのか、また、社会的養護が必要とされる児童の現状、特に平成29年度に出された「新しい社会的養護ビジョン」の中で家庭養護中心に対応するとの方針が示されたが、その中心的役割を期待されている里親制度と特別養子縁組制度についても学ぶ。 予習： 乳児院、児童養護施設とはどのような施設なのか、また、里親制度の種類についても調べておく。テキストP106～P107 社会的養護と家庭養護、P112～P115 乳児院と児童養護施設を読んでおく。約45分 A：少 Eあり
	第8回	母子保健と障害児の福祉について	母子保健法は妊娠期から幼児期における母と子の健康を支援する施策である。児童家庭福祉との関連の中で、母子保健の実施体制、サービスの概要について学ぶ。 障害児の福祉については「障害」とは何か？ディスカッションをしながら深め、障害児・者が地域で暮らせるサービスや課題、特に社会福祉の理念の中心になっているノーマライゼーションについて学ぶ。 予習： テキストP170～P171 母子保健サービス、P166～P169 障害児福祉サービスを読んでおく。約45分

	<p>第9回 B：少 Eあり ひとり親家庭について ひとり親家庭は年々増加している。ひとり親家庭の貧困率は50.8%とOECD加盟国の中でも高い数値を示している。そのような現状の中で、ひとり親家庭の生活の実態と課題を抱えているのか？また、その課題についてどのようなサービスが講じられているかを学び、さらにひとり親家庭を支えるのに必要なサービスについて考える。 予習：テキストP156～P157ひとり親家庭に対する福祉サービスを読んでおく。約30分 B：少 Eあり</p> <p>第10回 子どもの権利保障について 子どもの人権とは子どもが本来持っているものを正当に保障され、自らそれを行使する権利である。子どもの人権観を大きく変えたのは「児童の権利宣言」を出発点に「子どもの権利条約」である。子どもの権利保障に関わる歴史的取り組みの経緯、日本における子どもの権利についての現状、子どもの権利条約の中身についてなどについて学習する。 予習：テキストP38～P45子どもの権利に関わる部分を読んでおく。約45分 B：少 Eあり</p> <p>第11回 児童虐待について（原因）－1－ 児童虐待の相談件数は12万件を超え、また死亡事例の増加などにより、社会的にも大きな関心を集めている児童家庭福祉の中でも大きな課題の一つである。児童虐待についての種類や内容、児童虐待が生じる保護者の背景や現状を学び、なぜ虐待をしてしまうのか原因を話し合う。 予習：テキストP20～P21虐待を受ける子どもの増加を読んでおく。約45分 A：少 B：中 Eあり</p> <p>第12回 児童虐待について－2（対応）－ 児童虐待への対応には子育て支援を中心とした予防的なものと、虐待そのものへの対応とがある。一般的な相談で対応できるものと、児童相談所の持っている虐待にたいする法的権限を使って対応するものもある。児童虐待に具体的にどのような流れで対応するのか、また、法的権限とはどのようなものなのか、児童を実際に救出する映像を利用しながら学ぶ。 予習：テキストP158～P159子どもの虐待ケースへのサービスを読んでおく。約45分 A：中 B：中 Eあり</p> <p>第13回 保育サービスについて 保育所は児童家庭福祉の中でも人々の関心とニーズが高いサービスである。その制度の概要や歴史的役割の変化と保育所の現状の課題、特に待機児童に伴い認可外保育施設の増加の意味などについて考え、話し合う。 予習：待機児童問題について考え、テキストP108～P111保育所・認可外保育サービスを読んでおく。約60分 A：少 B：中 Eあり</p> <p>第14回 子ども子育て支援新制度について 色々論議されてきた子ども・子育て支援に関する制度改革が、平成27年度より「子ども・子育て支援新制度」として実施された。保育の総合的提供や、地域の子ども・子育て支援の充実などがうたわれているが、その制度の内容、現状の課題などについて学ぶ。 予習：テキストP68～P69子ども・子育て支援新制度を読んでおく。約60分 B：中 Eあり</p> <p>第15回 児童家庭福祉の課題と展望 児童家庭福祉は社会福祉制度の中でも大きな役割を担っており、子どもの豊かな育ちと権利擁護の実現を目的としている。児童を取り巻く社会・生活環境・家庭機能が大きく変わっている中で、これからの児童家庭福祉の役割と課題について考察し、話し合う。 A：少 E：少</p>									
教育目標との関連	保育士は2001年(平成13年)の児童福祉法改正、2003年(平成15年)の施行により法制化された国家資格である。保育士は保育所に通園している子どもの保育だけでなく、子どもを養育している家庭、地域の子育て家庭への養育支援などの役割を果たすことになっている。、保育士や幼稚園の教諭は単に技術や知識を習得するだけではなく、「福祉は人なり」といわれているように、関わった人との信頼関係を築くことが出来、生活実態や課題をしっかりと理解し、プライバシーを尊重し人権を重んじるという考え方や実践力を身につける。									
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども、家族を取り巻く社会状況を理解して、身近な生活課題としての「児童家庭福祉」を学ぶ。 2. 児童家庭福祉の歴史、法制度、実施体制などについて理解する。 3. 今日の児童家庭福祉の抱える課題について理解出来、支援・援助について考察出来るように学ぶ。 4. 子どもの権利を護る保育者として、子どもの成長発達を援助する価値観・倫理観を身につける。 									
評価方法および評価基準	<table border="0"> <tr> <td>試験</td> <td>80%</td> <td>定期試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価します。</td> </tr> <tr> <td>提出課題</td> <td>10%</td> <td>与えられた課題を講義内容との関連での理解度を評価します。</td> </tr> <tr> <td>平常点評価</td> <td>10%</td> <td>毎回の授業の中での質問への応答、授業の理解度、積極性などを評価します。</td> </tr> </table>	試験	80%	定期試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価します。	提出課題	10%	与えられた課題を講義内容との関連での理解度を評価します。	平常点評価	10%	毎回の授業の中での質問への応答、授業の理解度、積極性などを評価します。
試験	80%	定期試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価します。								
提出課題	10%	与えられた課題を講義内容との関連での理解度を評価します。								
平常点評価	10%	毎回の授業の中での質問への応答、授業の理解度、積極性などを評価します。								
教科書	「よくわかる子ども家庭福祉」 山縣文治編 ミネルヴァ書房									
参考書	授業の時に適宜紹介する。									
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習は上記のとおり。授業期間を通じて、児童家庭福祉に関連する新聞記事、ニュースなどに積極的に関心を持つ。									
履修上の注意、条件等	新聞記事などはスクラップをして授業の参考にする。									
オフィスアワー	授業終了後と授業実施日の昼休みの時間帯に教室で質問を受け付ける。									
備考・メッセージ										

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
柴田 啓一			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	本授業は、保護者支援を目的とした相談援助の考え方や、技術について学ぶ。さらに、ロールプレイや事例分析を通じて問題を抱える保護者の様々な社会的背景について理解を深める。家庭支援論、保育相談支援と共に保護者支援を学ぶ科目であるが、本科目は相談業務の基本的な考え方を学ぶものである。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	相談援助とは何か 実際に保育の現場で保護者の対応に迫られたときのために、この授業を通してどのような事を学習する必要があるのかを考える。 予習：シラバスに記載された相談援助の内容をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。(約1時間)	
	第2回	社会的排除と子どもの貧困について 映像資料を用いて最も厳しい境遇に置かれた人の生活を見ることで、日常生活を維持するために必要なことは何かを学ぶ。また、子ども期の貧困の何が問題かについて知り、支援の心構えやソーシャルワーカーの仕事について理解する。 予習：参考資料 NHK「ワーキングプア」取材班著(2010)『ワーキングプア 日本を蝕む病』、ポプラ文庫 PP.28～51	
	第3回	個人の価値観と専門職の価値観について 他者を理解するためには、自己をよく知る必要性を理解する必要がある。他者を理解できる援助者となるため、自己覚知に必要な基礎知識を理解し、自分自身の特性を知る。 復習：授業の中で用いる「自己分析シート」で自分の特性について振り返って理解を深めること。(約1時間)	
	第4回	ケースワークの原則について ケースワークの原則について、バイステティックの原則をもとに理解を深め、相談業務の際の心構えを知る。 復習：社会的養護の授業内容を復習しておくこと。(約1時間)	
	第5回	相談援助の展開過程 相談援助の基本的な展開過程を学ぶとともに、受容・共感的対応について理解を深める。 予習：「児童家庭福祉」を復習し、家庭での育児を取り巻く環境について自分なりの考えをまとめておくこと。(約1時間)	
	第6回	傾聴的技法と共感的理解 傾聴の際の具体的技法を学び、実際にロールプレイングを通して技術を身に着ける。 A：多 予習：第5回の授業を復習しておくこと。(約1時間)	
	第7回	保護者の気持ちを理解する 保護者対応の失敗事例を通してディスカッションし、子どもを養育する家庭の事情や保護者の気持ちを理解する。 A：多、B：多	
	第8回	苦情の対応について①事例検討 苦情解決のための手順や技法について事例を通して学ぶ。また、これまで習ったことの復習として小テストを行う。 復習：これまで習ったことを復習しておくこと(約2時間)	
	第9回	苦情の対応について②ロールプレイング ロールプレイングを通して苦情対応の技術を身に着ける。 A：多 予習、復習：第6回の授業を復習し、傾聴の基本的態度と技法を理解しておくこと。(約1時間)	
	第10回	育児不安の原因について 育児不安の要因について社会科学研究と生物学的研究を通して理解を深めるとともに、育児に動員できる社会的資源について学ぶ。 予習、復習：家庭支援論の授業を復習しておくこと。(約1時間)	
	第11回	援助記録のつけ方 事例をもとに相談援助における記録とその活用の意義を学ぶ。 予習、復習：前回の授業内容を復習しておくこと。(約1時間)	
	第12回	家族・親密な集団内における問題について 家族の定義・機能・機能不全を学び、親密な集団内において暴力(虐待やDV)が生じるメカニズムを理解する。B：少 予習、復習：第10回の授業内容を復習しておくこと。(約1時間)	
	第13回	まとめ① 子どもの虐待死の事例をもとに、最悪の結果を回避するためには、どのような援助が有効であったと考えられるかグループで話し合う。 A：少、B：多 予習、復習：第10回、11回の復習をしておくこと。(約1時間)	
	第14回	まとめ② これまでの授業を振り返り、相談援助者としての自覚を確認する。また、到達確認のためこれまで習ったことを範囲としてテストを行う。 予習：これまで習ったことを復習をしておくこと。(約2時間)	
	第15回	まとめ③	

	<p>テストのフィードバックを行い、相談援助者として大切なことについて自分なりに考えをまとめレポートを作成する。 復習：これまでの授業内容を復習しておくこと。（約1時間）</p>
教育目標との関連	<p>保護者の相談事例はいくつかのタイプに類型化することができるが、問題の背景や解決する方向性は個々に異なる。問題の特殊性と普遍性を見極めるには知識や技能、教養が必須となる。こうした知識、技能、教養は、相談支援者（ソーシャルワーカー）として必要のみならず、自身が家庭を築き、育児をする上でも必要な素養となる。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 相談援助の手順を理解し、来談者に応じて効果的な援助ができる。 2. 来談者のプライバシーに配慮し、傾聴することができる。 3. 個人の価値観や社会的背景の多様性を認識できる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 50% 定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。 課題提出 30% 与えられた課題の問いに対して適切な回答がなされているか、自分なりの考察ができていくかで評価します。 受講態度 20% 意欲的に取り組み、発言や発表時の態度を総合的に判断して評価します。</p>
教科書	なし
参考書	<p>厚生労働省『保育所保育指針』 NHK「ワーキングプア」取材班著（2010）『ワーキングプア 日本を蝕む病』、ポプラ文庫（1,296円） その他は授業時に指示する。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	新聞等で社会情勢を知っておくこと。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝 一浩			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>子どもが児童虐待等の理由で、家庭における養育が受けられない場合、社会が代わってその子を養育する。これが社会的養護である。この授業では、社会的養護の社会的背景・制度・施設を理解した上で、各施設で行われている子どもたちへの支援内容を学ぶ。「子どもの最善の利益」を常に考えながら社会的養護の原理を实践できる保育士の育成を目標として、全体の学びの中で、この授業を位置付けるものである。</p> <p>他の科目との関連：この科目を学ぶ前提の知識として社会福祉論・児童家庭福祉などがある。2年次の相談援助、社会的擁護内容を学ぶ上での基本となる科目であると同時に保育実習（施設）においても実習を遂行する上で基本的な知識となる。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	社会的養護の理念と概念 社会的養護とは何かをテーマに、先ず各自で親人で生活できない子どもたちの背景についてイメージした上で、今後の学習の進め方について解説する。 予習：シラバスを読んで、社会的養護の全体像を把握しこの科目のイメージを持つておくこと。 (約1時間) B少 E有 F有	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	社会養護の歴史的変遷 社会的養護について福祉が制度化される過程で、これまでどのように歩んできたか理解した上で現状を概観する基礎を学ぶ。 予習：前期の社会福祉論から社会福祉の制度化の歴史についてワークシートを作成し整理する。 (約2時間) B少 E有 F有	
	第3回	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 社会養護の問題は単なる親子関係の問題ではなく家庭や地域レベルでの支援が必要であることを学び理解する。 予習：児童虐待の事例から、その問題の根源がどこにあるかワークシートを作成しながらイメージする。(約2時間) B少 E有 F有	
	第4回	児童の権利と社会的養護 子どもの権利とはどのようなものか、その権利の保障方法について考え理解する。 予習：子どもの権利とはどのようなものか「子どもの権利ノート」からワークシートを作成し整理する。(約2時間) B少 E有 F有	
	第5回	社会的養護の制度と法体系 社会的養護の根幹にある「パレンスパトリエ」の考え方を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。 予習：未成年犯罪の事例を読み、その背景についてワークシートを作成して整理する。(約2時間) B少 E有 F有	
	第6回	社会的養護の仕組みと実施体制 社会的養護の基本的な仕組みについて理解する。 予習：東京都のホームページから社会的養護の体制を調べ、ワークシートを使って整理する。(約2時間) B少 E有 F有	
	第7回	施設養護の原理 施設養護において生活する子どもたちにとってのアイデンティティ形成と強化、親子関係を再構築する為のアタッチメント形成支援などについて理解し、子ども一人一人のライフストーリーワークの必要性について学ぶ。 予習：ライフストーリーワークを行う為に必要な資料を揃える。(約2時間) B少 E有 F有	
	第8回	施設養護の実際1（障害系施設：継続的なケアの必要性） ドキュメント動画を通して、障害系施設で生活する利用者について理解する。 障害系施設においては、児童から成人までの永続的なケアが実施されている。なぜ永続的なケアが必要なのか保育士の支店を理解する。 予習：「障害」について、各自のイメージをワークシートに記入する。 施設養護において生活する子どもたちの背景を理解し、その原理（アドミッションケアからアフターケアまで）と役割について学び、「自立支援」の考え方を理解する。 B多 E有 F有	
	第9回	施設養護の実際2（乳児院：施設養護から家庭養護へ） ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもと里親との親子関係構築について理解する。さらに保育士がどのような役割を果たしているかを考察する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。(約2時間) A多 E有 F有	
	第10回	施設養護の実際3（児童養護施設：施設養護の課題） ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもが退所・自律に向けてどのような課題があるか理解する。そのうえで保育士や施設職員がどのような自立支援をしているか、その実際を見た上で考察する。	

	<p>予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。（約2時間） A多 E有 F有</p> <p>第11回 施設養護とソーシャルワーク1（アドミッジョンケアからインケアに向けて） 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。 特にドミッジョンケアからインケアに向けて、入所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。（約2時間） A多 E有 F有</p> <p>第12回 施設養護とソーシャルワーク2（リービングケアからアフターケアに向けて） 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。 特にリービングケアからアフターケアに向けて、退所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。（約2時間） A多 E有 F有</p> <p>第13回 倫理の確立 倫理とは社会生活上の行動規範であるが、ここでは、社会的養護の専門職としての倫理について考える。 予習：教科書（P.182～）を参考にワークシートを作成する。（約2時間） B少 E有 F有</p> <p>第14回 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 被措置虐待等の虐待とは何かを理解し、虐待防止の経緯と、その発生要因と課題について理解を深める。 予習：施設内や里親等による虐待事件について調べワークシートに記入し整理する。（約2時間） B少 E有 F有</p> <p>第15回 社会的養護と地域福祉 社会的養護関係の施設が地域貢献を求められるようになった背景を学び、地域支援・地域貢献のあり方について理解を深める。 予習：地域福祉についてワークシートを作成しながら整理する。（約2時間） B少 E有 F有</p>
教育目標との関連	<p>社会的養護における教育目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いかなる環境の子供であっても、その人格を尊重し、その健やかな育ちを保障する為の基礎力を養う。 2. 個々の子どものニーズや背景を受容し、養育支援を行える基礎力を養う。 3. 子どもの気持ちに寄り添う支援、子どもたちが自立するために必要な支援を実施する為の基礎力を養う。 4. 社会的養護の実現に向けて、職場や関係機関との連携の為に必要な基本的な知識とコミュニケーション力の基礎を養う
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>社会的養護における到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の対象児童と子どもの権利擁護の目的、機能、役割について説明できる。 2. 社会的養護の制度（児童福祉法・児童虐待防止法）や実施体制（行政機関）について説明できる。 3. 施設養護の形態と、その原理について理解し、保育士として原理に基づいた判断・行動ができる。 4. 家庭養護の形態と、その原理について理解し、保育士として原理に基づいた判断・行動ができる。 5. 社会的養護の現状とその課題について把握し、説明できる。
評価方法および評価基準	<p>定期試験：60% 定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 課題シート・振り返りシート：20% 授業に臨む前の予習の態度（授業参加への積極性）、授業で何が修得できたか、授業内容について深く考察できたかを評価します。 受講態度：20% 授業への集中、グループワーク等の貢献度、説明に対しての積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。</p>
教科書	基本保育シリーズ6「社会的養護」、相沢仁他編著、中央法規、2015年発行
参考書	授業中に適宜配布する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	社会的養護は、社会福祉・児童家庭福祉をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	子どもたちとその背景にある環境を、保育の専門職として幅広い視点で考えてみてください（個人の主観的な感情ではなく）。
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝 一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>社会的養護に関する基本的な重要（必要）事項の学習とそれに関する演習課題への考察を通して、児童福祉施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるための基本的視点を学ぶと同時に、施設の保育士に求められる倫理・資質を学ぶ。</p> <p>他の科目との関連：「社会的養護」における社会的養護の制度と実施体系、施設養護の基本原則、児童の権利擁護等に関する基本的な学びを、演習課題への考察等を通してさらに深めていく。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 子どもの権利擁護 子どもの権利擁護 〈演習・課題シート1〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第2回 保育士の倫理と責務 社会的養護における保育士の倫理と責務 〈演習・事例検討〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第3回 施設養護の特性および実際1 施設養護の特性および実際1（養護系施設） 〈演習〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第4回 施設擁護の特性および実際2 施設養護の特性および実際2（障がい系施設） 〈演習〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第5回 施設養護の特性および実際3 施設養護の特性および実際3（基本的な支援方法） 〈演習・課題シート2〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第6回 個別支援計画の作成1 社会的養護におけるケアマネジメント 〈演習・事例検討〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第7回 個別支援計画の作成2 自立支援計画作成時の着眼点について 〈演習・事例検討〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第8回 日常生活支援に関する事例分析 入所から退所後に至る支援と基本的日常生活支援、自立支援 〈演習・事例検討〉 E：あり F：あり</p> <p>第9回 自立支援計画の作成 自立支援計画作成時の着眼点について 事例分析 〈演習・事例検討〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第10回 日常生活支援に関する事例分析 入所から退所後に至る支援と基本的日常生活支援、自立支援 〈演習・事例検討〉 E：あり</p> <p>第11回 治療的支援に関する事例分析 子どもと家族への心理的支援、児童相談所との連携、虐待した家族への支援 〈演習・事例検討〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第12回 記録と自己評価 子どもへの支援における記録の必要性、種類、自己評価・ケースカンファレンス 〈演習・事例検討・課題シート3〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第13回 ソーシャルワークに関する知識・技術とその応用これまでの授業についての総括 ソーシャルワークの技術の活用、保育者に求められる専門性 〈演習・課題シート4〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第14回 施設の小規模化と地域連携 施設の小規模化、地域とのかかわり、地域住民と施設 〈演習〉 B：少 E：あり F：あり</p> <p>第15回 社会的養護の課題と展望 子ども一人ひとりに応じた支援、社会的養護の将来像（今後の方向性）について 〈演習・課題シート5〉 B：少 E：あり F：あり</p>		
教育目標との関連	<p>（要保護児童とその家族への支援を行う）施設の保育士の児童ケアにおける基本姿勢やそこで求められる倫理・資質の理解は、そのまま（施設・保育所等を問わず）保育士に広く求められる倫理・資質に直結するものと考えられる。授業や演習課題に主体的に取り組むことが、保育士としての「豊かな感性と愛の心」を育てることにつながる。</p>		

到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 施設の保育士が行う職務内容の全体像を理解できるようになる（自分のなかでイメージできるようになる）。 2. 施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるための基本的視点を身につける。 3. 施設の保育士に求められる基本的な倫理・資質を理解し、自分なりに説明できる。 4. 施設保育士に必要なケースカンファレンスの基本的なスキル（協調性。合意形成の能力）を演習を通して習得する
評価方法および評価基準	課題シート 30% 合計5回の課題シートを課す。 ワークシート・振り返りシート課題 40% 指定した主要な演習課題について各自考察する。 平常点評価 30% 授業の理解度や積極性・協調性などを評価する。
教科書	基本保育シリーズ18 『社会的養護内容』 中央法規
参考書	毎回、授業の最初に、プリントを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次「社会的養護」の学習内容を復習・確認する。 ・新聞等の児童家庭問題につねに関心をもって接する。
履修上の注意、条件等	毎回の演習課題に主体的に取り組むこと
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村 麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>「保育の心理学」の内容を踏まえて、生涯発達の観点からより実践的に子どもの発達や、家庭への支援、保育者の役割についての理解を深める。学生が現場に出て実際に保育を行うにあたり、必要となるさまざまな考え方や知識（発達段階にあった保育とは何か、保育・家庭環境の育ちへの影響など）を、事例や映像教材を用いて具体的かつ実践的に学ぶ。また、保育という行為は、社会の中で大きな役割を果たす重要な営みであるという自覚を促す。</p> <p>他の科目との関連：「保育の心理学」で学んだ基礎知識を基に、より具体的かつ実践的に子どもの発達や精神保健、家庭支援、保育者の役割について理解を深める。2年次ではこれらの内容を踏まえ、「子ども理解と相談・援助」において保育者の役割についてさらに掘り下げ、「乳幼児と脳科学」において脳科学から見た乳幼児の発達について学びを深める。</p>
------	--

<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 生涯発達と初期経験の重要性 生涯発達における乳幼児期の意味を理解する。乳幼児期の経験はその後の成長・発達に大きな意味を持つことを学ぶ。 予習：「子ども家庭支援の心理学」のシラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと。(約1時間) A:少 B:中 E:あり F:あり</p> <p>第2回 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 乳幼児期から学童期前期にかけては、将来の生産的活動のために必要となる知識と技能の獲得や、集団生活の体験、仲間関係の拡大と充実などのように子どもの心身の発達にとって目覚ましい時期を迎える。この間の発達の把握と発達課題、発達援助について、事例を参考に理解する。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第3回 学童期後期から青年期にかけての発達 学童期後期から青年期にかけては、生活領域と交友関係が広まることから、心理的発達の中でも社会性の側面の発達が進む。この間の発達の把握と発達課題、発達援助について映像資料を参考に理解する。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A:中 B:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第4回 成人期・老年期における発達 成人期になると家庭、職場や地域において自分の年齢に応じた役割を果たすことが求められる。老年期には、自分の生涯を一つの全体として振り返る音で、周囲にいる人や出来事を受容し、高いレベルで自己の尊厳を自覚していく可能性があることを、映像資料を参考に理解する。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A:中 B:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第5回 家族・家庭の意義と機能 家族・家庭は社会の基礎集団で、子どもが生まれ育つ基本的な場である。憩いと安らぎの中で乳幼児期の親子の信頼関係の形成を基礎として、基本的な生活習慣や生活能力、他人に対する思いやり、善悪の判断能力などが育まれることを理解する。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A:中 E:あり F:あり</p> <p>第6回 親子関係・家族関係の理解 家族・家庭は国や社会によって多様な機能や形態があり、家族の形態や機能は社会によって変化する。現代日本における親子関係・家族関係について様々な角度から考える。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A:中 B:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第7回 子育て経験と親としての育ち 子育ては子どもを育てることであるとともに育てる側の大人たちを成長させる、人間にとって大切な営みである。現代はいつでも子どもと離れられない親が多いと言われていて。映画を教材として子育て、親としての育ちとは何かについて考える。 予習・復習：予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A:多 B:多 D:多 E:あり F:あり</p> <p>第8回 子育てを取り巻く社会的状況 都市化や少子化、情報化、高学歴化の進行、近年の社会経済的な格差の拡大などが子どもの育ちや子育てにどのような影響を及ぼしているかをグループで調べる。 予習・復習：図書館やラーニングコモンズを活用し、グループで調べたり話し合ったりする(約3時間) A:多 B:多 D:多 E:あり F:あり</p> <p>第9回 ライフコースと仕事・子育て ライフサイクルが変化し、多様な選択が可能となった今、自分がどのような人生を送りたいのかということを中心に考えることがますます重要となってきている。「仕事か子育てか」という二者択一的な選択を迫られる状況から脱却し、男女ともに仕事と子育てを両立できる社会システムが求められることを理解する。 予習・復習：ワーク・ライフ・バランスをとりながら自分のキャリアをデザインしてみる(3時間) A:中 B:中 D:中 E:あり F:あり</p> <p>第10回 多様な家庭とその理解</p>
--	--

	<p>シングルマザー、ステップファミリーなど家族形態が多様化した現代において、特殊な事情の内容、それに伴い生じる事態や家族への影響、その家族の心理の理解、事態の軽減の方法について学ぶ。</p> <p>復習：前回の復習として教科書P114-P129を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第11回 特別な配慮を要する家庭 発達援助は、地域と特色を生かし、さまざまな教育機関との連携や共同が必要不可欠である。その背景には、少子高齢化、核家族化、ひとり親家庭の増加、所得格差など子育てをめぐる不安定要素が挙げられることを理解し、これらの諸問題に向き合い、発達とともに子育て家庭を支援することも保育の課題であることを理解する。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第12回 子どもの生活・生育環境とその影響 子どもを取り囲む環境が健全であること、親の養育力、それを支える家族の協力が子どもを成長させ、向上させるために大切であることを理解する。 予習・復習：授業内で指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第13回 子どもの心の健康に関わる問題 近年の都市化、少子高齢化、情報化、国際化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康にも大きな影響を与えており、学校生活においても生活習慣の乱れ、ゲーム・ネット依存、摂食障害などの問題が顕在化している。このような状況について正しく理解し、支援について考える。 予習・復習：授業中に指示する資料を読んでおくこと(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第14回 現代社会における子どもの発達と保育の課題 保護者の心理やストレス、虐待などについて、教育臨床心理学的アプローチを学ぶ。また、保護者対応に欠かせないカウンセリングマインドについて、現場で役立てられるよう実践的に学ぶ。 予習・復習：これまでの授業全体を通して質問などを考えておくこと(約2時間) A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>第15回 授業の総まとめ シラバスに書かれている到達目標を達成できたか、各自振り返り、幼児理解へとつなげる。 E：あり</p>
教育目標との関連	人生の最初の最も大事な時期に子どもとかかわる保育者は、子どもの生涯に与える影響の大きさを自覚し、子どもを愛おしみ、理解し、保育者としての専門性に基づいた保育実践を行うことが大切である。それを裏打ちする確かな知識、愛の精神、実践的な技術を習得する。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明することができる。 家族・家庭の意義や機能を理解した上で、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を獲得することによって、家庭支援について自分なりの考えを持てる。 子育てにおいて最大の協力者である家族と信頼関係を築き、子どもの育ちを支えることができる。 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明することができる。 子どもの精神保健とその課題について理解し、説明することができる。
評価方法および評価基準	<p>受講態度：40% 授業内での発言・発表やグループワークでの積極性など、授業への貢献度を評価します。</p> <p>確認テスト：30% 授業の内容について理解しているか確認のための小テストを実施します。</p> <p>提出課題：30%</p>
教科書	授業内で資料を配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	子どもの心理発達に関する社会情勢に関心をもち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示します。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	4単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
今井孝子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>子どもの健やかな成長、発達は親のみならず保育者や社会の願いである。子どもの健康管理や基本的な生活習慣の定着は、家庭で行われてきた。しかし近年では家庭の養育機能が低下し、家庭内だけで乳幼児期の健康の見守りが困難な事態が少なくない。また、働く母親が増えており、保育士に乳幼児期の子どもの健康の見守りが期待されてきている。そうした中で「保健」という科目は病気やけがについて学ぶ、という狭い意味にとらわれるものではない。子どもや育児の環境、心身の発育発達過程、母子保健制度など、幅広く「子どもの健やかな育ち」を理解して、支援するために必要な知識を含めた科目である。人体の基本的な仕組み等、高等学校までに学習してきた内容を基礎として、乳幼児童期の健やかな育ちを、保育者とし、どのようにかかわっていくかについて広く学ぶ。子どもの成長、発育、発達を知ることは、子どもの養育に関わる専門職にとっては必須のことであり、子どもの遊びや集団生活の指導へと発展させていくための基礎である。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>子どもの保健とは？ ～全体像～ 子どもの保健という科目の内容、意義を確認する。 健康とは、子どもの健康とは、保育とは、というこの科目で学ぶ内容を理解する。 テキスト：P2～7までを精読しておくこと。3ページの真ん中にある新生児期、乳児期、幼児期の年齢を覚えておくこと。 読めない漢字は読み方を調べておくこと。子どもの保健とはどういった内容を学ぶ科目か、というイメージを持って講義に出席すること。（約2時間） A：中 E：あり（子どもの時期ごとの呼び方、新生児・乳児・幼児等を確認する）</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>子どもの健康にかかわる公的制度 保育者が知っておく必要のある母子保健制度を学ぶ。母子保健制度は子どもの健やかな発育にかかせないものである。保健の学習をするうえで必要な用語や漢字に慣れることも含めて、学んでほしい。 テキスト：P8～15を事前学習として精読のこと。漢字の読みは調べて読めるようにしておくこと。特に感染症、SIDSという言葉の意味を理解しておくこと。（約2時間） B：中 E：あり</p>	
	第3回	<p>子どもの成長と発達①発育の原則と身体発育測定 子どもの発育の原則を学ぶ。一般的な身体発育の測定方法を知る。沐浴人形使用予定。 テキスト：P16～27を事前に精読のこと。特に16ページの発育の原則、スキヤモンの器官別発育曲線の図をよく見ておくこと。（約2時間） B：中 E：あり（小テスト第2回の内容）</p>	
	第4回	<p>子どもの成長と発達②発育の阻害要因 子どもの身体発育に関わる要因を学ぶ。発育が阻害される場合に確認することを学ぶ。沐浴人形を使用予定。 テキスト P28～33を事前学習として精読のこと。（約2時間） B：中 E：あり</p>	
	第5回	<p>生理機能の発達と保健①自律神経と体温調節 子どもは身長や体重という体格だけではなく、身体の調節機能である自律神経の機能も発達していく。それが呼吸や発熱などの生理機能を調整している。健康な生理機能の発達を学ぶ。 事前学習として、P34～P43を精読のこと。P34の自律神経、P37の体温や発熱、P39の発熱について特によく読んでおくこと。また、自分の体温、脈拍を測定してこること。 F：あり 宿題：自分の体温、脈拍をそれぞれ3回測定し、ノートに書いてこること。 D：中 E：あり</p>	
	第6回	<p>生理機能の発達と保健②消化吸収と免疫 人間の生命維持に欠かせない食物の消化吸収と、免疫について学ぶ。DVD視聴予定（驚異の小宇宙 人体 3. 消化・吸収の妙～胃・腸～） 事前学習として、P44～P53を精読のこと。P45の消化器系の器官の図をよく見て、口から肛門までの消化器の主な名称を確認しておくこと。（2時間） D：中 E：あり</p>	
	第7回	<p>生命の誕生 ～受精から出産まで～ 妊娠の成立から、分娩、産褥期の母親の身体変化について学ぶ。子どもの健康は妊娠時期からの環境が影響するために、妊娠中の母親の健康や心身の変化を知ることは保育者として大切である。保護者理解につながることである。 テキストには掲載されていない項目のため、授業時に資料を配布する。DVD視聴を予定している。（驚異の小宇宙 人体 1. 生命誕生） F：あり 宿題：レポート用紙に、口から肛門までの消化器の大きな図を描き、それぞれの名称と主な役割を書いてくる。提出する。 B：中 E：あり（第6回の内容の小テスト）</p>	
	第8回	<p>生命の誕生 ～新生児～ 前回の講義の続きで、新生児期の母子の心身の変化を学ぶ。出産は母子ともに、短時間に身体に大きな変化が起こり適応できない時には将来的に健康に課題を残すことになる。 新生児期から乳児期にかけて著しく発育していく過程について学ぶ。 予習：新生児の身長、体重の平均値、新生児の特徴を復習しておく（約2時間） B：中 E：あり</p>	
	第9回	<p>子どもの運動機能の発達 新生児期から学童期までの運動機能の発達を学ぶ。原始反射、定頸、おすわり、歩行、手の運動</p>	

	<p>等、神経系と骨や筋肉の発育が合わさって様々な運動が展開されていく様子を、しっかりと覚えてほしい。健常児の発育・発達を理解し、知識として持つことで、異常の早期発見・早期対応につなげることは保育者の役割の一つである。保育の基本である「定型発達」を十分に学び身に付けてほしい。</p> <p>テキスト：P54～P61を精読する。原始反射の図と手指の発達の図をよく見ておくこと。（2時間）</p> <p>B：中 E：あり</p>
第10回	<p>精神機能の発達</p> <p>乳幼児期の言葉、社会性、情緒などの精神面の発達と、保育者としてのかかわりについて学ぶ。月齢や年齢により精神機能の発達のポイントとなる事項には一定の段階と方向性があり、保育現場で子どもを見るときに子どもの発達段階を理解することができるように十分に学んでほしい。</p> <p>テキスト：62～71を事前学習として精読のこと。自分が初めて話した言葉と歩き始めて時期について、可能であれば調べてくること。（約2時間）</p> <p>B：中 E：あり：小テスト（第9回の内容）</p>
第11回	<p>子どもの精神保健①心身相関</p> <p>子どもの心とからだは大人以上に関係が表に出やすい。不安があれば体調が崩れたり、成長が遅れるなどである。そうした心とからだの関係が分離していない子どもの心の健康を守ることは、保育者として大切なことである。子どもの性格や育児環境等、様々な要因が関係して子どもの発育を左右することを学ぶ。</p> <p>テキスト：P72～85を事前学習として精読のこと。また、自分に精神的ストレスが過剰にかかった際に体調がどうなってくるか、経験を思い出しておくこと。</p> <p>B：中 E：あり</p>
第12回	<p>子どもの精神保健②育児環境</p> <p>慢性疾患が発達途中の子どもの心身に与える影響や対応を学ぶ。また、近年課題となっている母親の育児ストレスや虐待等、育児を取り巻く社会的課題のに対して保育者の役割について学ぶ。</p> <p>テキスト：P86～97を事前学習として精読のこと。児童虐待の原因や通報について考えてくること。（約2時間）</p> <p>F：あり：レポート P80～P81の習癖、情緒、行動上の問題を400文字程度にまとめてレポート用紙に記入すること。第12回授業時に提出する。</p> <p>B：中 E：あり</p>
ari	<p>子どもの生活と健康①年齢ごとの育ち</p> <p>乳幼児の日常生活は日々発育して心身共に変化していく。従って大人とは異なる注意が必要である。乳幼児の年齢ごとの生活の注意点を学び、保育者としての対応の重点を身に付ける。</p> <p>予習：テキスト：P98～103を事前に精読しておくこと。可能であれば、P62～P67も読みなおしておくこと。（約2時間）</p> <p>B：中 E：あり</p>
第14回	<p>子どもの生活と健康②基本的生活習慣</p> <p>子どもは一人の人間として自立へ向けて日々発育していく。中でも排泄の自立は、幼児にとってきわめて重要である。また、衣服の着脱や歯磨き、手洗いなど基本的生活習慣の定着は、繰り返した家庭と保育の場（集団）で行うことで身に付いてくる。自立へと至る過程を知ること、保育者としてすべき支援を学ぶ。</p> <p>テキスト：P108～115を事前に精読のこと。家族ではなく他者に集団で保育される利点・欠点を考えてくること。（約2時間）</p> <p>F：あり 宿題：生活習慣の確立はなぜ重要なことなのかを考えてくること。基本的生活習慣の種類とその確立の持つ意義をレポート500文字程度にまとめて提出すること。</p> <p>B：中 E：あり</p>
第15回	<p>子どもの保健 前期のまとめ及び試験</p> <p>前期14回の講義で妊娠・出産を経て子どもが生まれ、子どもの発育する過程を学んだ。そこに出来た基本的な子どもの発育について、重要語句や重要な内容をまとめておくこと。（約2時間）</p> <p>E：あり：筆記試験</p>
第16回	<p>子どもの疾患と保育①先天性疾患、感染症</p> <p>子どもの先天性の疾患の原因と、子どもに多く見られる感染症を学ぶ。</p> <p>予習：テキスト：P116～119を事前学習として精読しておくこと。（2時間）</p> <p>B：中 E：あり</p>
第17回	<p>子どもの疾患と保育②感染症対策</p> <p>保育所において注意すべき乳幼児に多い感染症を学習する。保育者としてこれらの感染症の初期症状や感染経路を把握しておくことは大変重要である。子どもたちのみならず、保育者自身の健康管理のためにも、感染症の予防接種、感染経路を熟知すること。</p> <p>予習：テキスト：P120～123、P146～147を精読しておくこと。特にP147に登園、登所停止感染症一覧があるので、よく見ておくこと。（約2時間）</p>
第18回	<p>B：小 E：あり</p> <p>子どもの疾患と保育③消化器疾患と循環器疾患</p> <p>子どもに多い消化器疾患と循環器疾患について、保育者として必要な判断や対応を学ぶ。DVD視聴予定（驚異の小宇宙 人体 2. しなやかなポンプ～心臓・血管～）</p> <p>予習：テキストP124～127を精読しておくこと。</p> <p>F：あり：宿題：第17回で学んだ感染症について、テキストP120～123に掲載されている感染症のなかで、ワクチン接種が日本でできるものとできないものをそれぞれまとめる。レポート用紙に書いて第18回授業時に提出する。</p> <p>B：少 E：あり</p>
第19回	<p>子どもの疾患と保育④泌尿器と中枢神経系疾患</p> <p>子どもに多い泌尿器疾患と中枢神経系疾患の症状や対応について学ぶ。</p> <p>テキスト：P128～131を事前学習として精読しておくこと。泌尿器、中枢神経系とは何かを理解しておくこと。また、けいれんの対応について調べておくこと。（約2時間）</p> <p>F：あり：宿題：けいれんの対応についてテキストを読んでまとめておく。文字数は400文字程度。授業時に提出すること。</p> <p>B：小 E：あり：学校感染症について（第2種、第3種）</p>
第20回	<p>子どもの疾患と保育⑤代謝疾患と血液疾患</p>

	<p>子どもに多い代謝疾患と血液疾患の症状や対応について学ぶ。 テキスト：P132～135を事前学習として精読のこと。代謝とは何かを理解しておく。また、糖尿病について可能な範囲で調べてくること。（約2時間） B:中 E:あり</p> <p>子どもの疾患と保育⑥アレルギー 子どものアレルギーについて、そのメカニズムや種類について学ぶ。 保育所で具体的なアレルギー対策や緊急対応ができるようにする。 テキスト：P136～139を事前に精読しておくこと。アレルギー症状を引き起こすアレルゲン調べてくること。可能であれば、インターネットで厚生労働省の「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に掲載されている「アレルギー管理票」を見ておくこと。（約2時間） B:小 E:あり</p> <p>第22回 子どもの疾患と保育⑦けがと整形外科疾患 子どもはけがを繰り返しながら運動能力を向上させ、社会性を身に付けていく。 小さなけがから、時には受診が必要な大きなけがまで保育所で起こることがある。 けがの対応とともに、整形外科上理解しておきたい疾患について学ぶ。 テキスト：P140～145を事前学習として精読しておくこと。（約2時間） B:中 E:あり：小テスト アレルギーについて</p> <p>第23回 子どもと予防接種 現在、一番早い予防接種は生後6週後から開始される。予防接種はその種類や接種時期が度々変更となり、保護者から質問が出る項目である。保育者も予防接種の種類や時期について学ぶ必要がある。また、保育所で感染症が発生した場合に、予防接種が済んでいるかどうかの確認を要する事態もありうるため、正確な知識が必要である。 テキスト：P148～151を事前学習として精読のこと。インターネットで国立感染症研究所のポータルサイトから最新の予防接種の種類や接種推奨年齢を確認しておくこと。（約2時間） B:中 E:あり：小テストP142～P144までのその他の疾患とSIDSについて</p> <p>第24回 子どもと検診 子どもが健やか発育しているかどうかを継続的に見ていくための指標として、検診は大切である。保育所での定期健康診断、月齢身体測定のみならず、自治体で行う検診は専門家が多数かわり疾病や発達異常の早期発見、早期対応に繋がる場である。何らかの育成支援の必要な疾病や障害のある子どもへとその家族への支援制度について学ぶ。 テキスト：P152～157を事前に精読しておくこと。3歳児検診でチェックする内容をよく理解しておくこと。（約2時間） B:中 E:あり</p> <p>第25回 登園停止の感染症 学校保健安全法施行規則により、発症したら一定日数保育所に登園（登所）を停止して、感染の拡大と罹患児の療養に努めるべき疾患が規定されている。第17回の授業で学習した子どもと感染症について、厚生労働省の保育所における感染症対策ガイドラインを用いて深く学習をする。特に感染症の予防について学ぶ。 テキスト：P120～123、P146～147および、第17回のノートを精読してくること。（約2時間） F:あり：宿題：インフルエンザと通常のかぜの違いを調べてレポート用紙に400文字程度で述べよ。レポートは25回授業で提出をすること。 B:中 E:あり</p> <p>第26回 保育環境～安全管理を考える～ 子どもの事故防止や感染症対策のために、保育環境を清潔に保つことは大切である。子どもに起こりやすい事故と環境の関連を学び、安全な保育環境を提供できるようにする。 テキスト：P156～169を事前学習として精読のこと。（約2時間） D:中 E:あり</p> <p>第27回 子どもの健康観察 子どもを観察するとはどういうことなのか、保育には教育的視点と養護的な視点の両側面からの観察力が求められる。本講義では、子どもの保健という立場から主として子どもの心身（主に身体）の観察を取り上げる。保育者にとっては、毎日接している子どもの状態が通常と同様か、何か違うかということに気が付くことは、疾病や問題の早期発見に大切である。自ら不調を訴えることが難しい年齢では、なおさら観察により発見、対処する力を要求される。 予習：テキスト P180～201を事前に精読しておく。また、発熱や腹痛など保育現場で頻繁にみられる身体異常について、顔色、表情等観察ポイントを考えてくること。（約2時間） B:中 E:あり</p> <p>第28回 応急処置 保育所での基本的な応急処置について学ぶ。ケガや発熱など日常的な応急処置の方法を身につける。 予習：前回配布したプリントを精読してくる。第5回のノートを見ておく。子どもの体温や脈拍の平均値を思い出しておくこと。（約2時間） C:多 E:あり：小テスト：健康観察のポイント</p> <p>第29回 災害対策 保健計画の作成により、安全・感染症対策・衛生管理等「管理」を行うこと。また、子どもへの保健教育や安全教育、保健指導等も計画に盛り込むこと。年間を通した保健安全活動には、そうした計画性が大切である。また、計画の中には防災も入る。大震災や津波などに備えた災害対策は、子どもを預かり施設では当然必要である。大震災時の避難、保護者が迎えに来るまでの待機中の対策は、普段から訓練や準備が必要である。 保育者は子どもを保護者に引き渡すまでが、保育であることを認識して、非常事態でも安全に子どもと職員が救援を待てるような体制を整えておく。 予習：テキストP170～179を精読しておくこと。（約2時間） B:小 E:あり</p> <p>第30回 まとめと筆記試験 後期14回の学習のまとめと筆記試験をおこなう。 E:あり：筆記試験</p>
教育目標との関連	<p>子どもが心身に異常をきたすことなく健やかであることは社会全体の願いである。子どもの健康管理や健康指導は、保育者の専門性として社会からの期待が大きい。 この講義では、子どもの心身の正常な成長・発達を学習する。そのうえで成長過程で生じやすい子どもの病気</p>

	や事故、先天的な異常について学ぶ。また、保健という科目は、病気やけがの種類や状況を覚えるという医療的な側面とともに、予防・指導といった公衆衛生の意味合いを持つものである。つまり、子どもを中心として、その保護者や家庭をも含めてそれらを取り巻く環境や時代の変化をも考えながら子どもの健康増進を目指すものである。児童虐待や保護者の育児不安等、社会的な課題にも触れながらより健康な子どもの育成に向けた制度や課題も考えていく。他教科との基本ともなる子どもの成長・発達の基本をしっかりと身に付ける。特に現在はアレルギーや感染症の予防対策、先述した児童虐待や発達障害などの早期発見など、保育者に期待されることが多いので、基本知識の習得とともに、保護者や医療・福祉・行政と連携するための知識と態度を養う。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 子どもの成長、発育の一般的な過程について述べるができる。子どもに多い病気やアレルギー等健康管理面で注意を要する事柄の基本的な知識を持つ。 2. 子どもとその環境を安全に保つために必要な対処が考えられる。また、異常や問題の判断ができる。 3. 子どもとその環境を安全に保つための知識を実際に活用して、効果的な対処ができる。 4. 子どもとその環境について、保健的視点から関心を持ち、子どもの健康管理や成長促進に向けて改善点を探ることができる。 5. 子どもを保育する専門職として、自分自身の健康管理にも注意を払う。子どもの保健に関わるニュースや書籍などを意識して読み新しい情報を取り入れて学び続けることができる。
評価方法および評価基準	筆記試験評価 50% 2回(前期・後期各1回) 講義内容の理解度と知識の定着度を確認し、評価します。 提出物・小テスト 30% 6回のレポート及び6回の小テストで評価します。 日常点評価 20% 講義中の積極的な発言や挙手、学習者としての受講態度や意欲を評価します。
教科書	よくわかる子どもの保健 第3版 竹内義博・大矢紀昭 編 ミネルヴァ書房
参考書	・厚生労働省 保育所における感染症対応ガイドライン ・厚生労働省 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン ・国立感染症研究所 予防接種一覧表 以上3点はインターネットで閲覧可能である。その他の参考文献は授業中に紹介をする。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各講義前に計画書を確認して、事前学習をしておくこと。教科書を精読して、重要語句や表、図などを見ておくこと。 講義は教科書に沿って行うが、関連ニュースや新しい情報など教科書以外の内容も学習する。授業中は傾聴しノートを随時とること。復習は重要語句や教科書に線を引いた箇所などをまとめて、内容を理解し知識を定着すること。普段聞きなれない言葉や見慣れない漢字などが出てくるので、書けるようにしておく。予習・復習は当然行っているものとして、講義をおこなうので提出課題や小テストの有無にかかわらず、自分で真剣に取り組んでおくことを期待しています。 予習は2時間程度、復習はノートの重要事項の整理に30分程度でできる見込みである。
履修上の注意、条件等	テレビのニュースやインターネット記事などからも保健や乳幼児の健康について話題となることは、常に意識してしておくこと。 人間の体の作りや平均体温など、一般常識的な範囲のことは既に高等学校までに学習しているとみなして講義を行うので、不安がある場合には中学校や高校の理科や保健の教科書、参考書などを手元に用意しておくこと。予習の際にも見ておくこと。 講義内容の復習と配布資料の整理を必ず行うこと。配布資料を紛失した際には、再配布を行わないので整理、保管に注意すること。 講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用、離席、内職等、学習者として品位を欠く行動や言動については、厳格に評価を行う。
オフィスアワー	講義前に教室で質問を受け付ける。講義後は次のクラスへ移動が無い場合には質問等を受け付ける。
備考・メッセージ	初めて聞く言葉、初めてみる漢字や表現が多数出てくるかもしれませんが、しかし、子どもを安全な環境で預かり保育をする、という保育の専門家として知っておくべき基本的な事柄を講義します。特にアレルギー、感染症、事故予防、予防接種などは、系統的に学ぶ機会が少ないものですが、保育現場では子どもの命を守るために非常に大切な知識です。また、身体的な事項とともに、精神面の内容も多数含まれております。発達障害や虐待、育児ストレスなどは今日の子育て上の重要課題です。このような幅広い基礎的な知識や技術が、子どもの命と健康を守り、健やかな発育を実現する、という意識をもって講義に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
久嶋佳奈			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	人の一生において、幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。児童福祉施設で出会う乳幼児、そしてその保護者について、健康という側面から理解する。また、子どもの発達を考慮した上での子どもとの関わり、子どものヘルスプロモーションについて学び、生活の場で求められるケアやサポートのあり方、病気や緊急時の対応方法についてその理論と実際を取り上げる。		
授業計画および学習形態	第1回	第 1 回 子どもの健康と保健の意義と健康指標 子どもの健康増進を図る保健活動の意義や原理について学び、子どもの発育、発達の観察と評価から、保育における身心の健康とその特徴について理解する。 A:中 B:中 F:あり(自己学習)	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	第 2 回 保育における保健計画と保健活動 (1) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を把握したうえで、保育における養護の働きについて理解し、健康の概念・健康指標について学ぶ。演習では保健計画を作成し、教育及び保育の内容、並びに子育ての支援に関する全体的な計画に位置づくものをグループワークで作成する。課題：乳幼児のクラスから年長児クラスに応じた年間保健活動計画をグループで立案発表する。健康教育としての教材絵本「からだの絵本2～3歳児用」5冊ほど、「3～6歳児用」2冊ほど読んでそれぞれ題名をまとめておくこと。課題資料：別途配布する。 A:多 D:中 F:あり(グループ内発表)	
	第3回	第 3 回 保育における保健計画と保健活動 (2) 【活動計画発表】 子どもの身体発育、生理機能の発達を保健計画に加え、①健康状態の観察、②体調不良等の早期発見、③発育・発達の把握と健康診断、④保護者との情報共有などから、保育における保健活動の計画及び評価について理解する。事前学習：『保育所保育指針』より、保育者に求められる保健活動において3歳未満と3歳以上の園児への働きかけなど、午睡についてはどのような配慮が必要か理解する。課題：発達という側面から保育における保健活動の計画について自身の意見を50字以内でまとめる。(Key word: 身体発育、生理機能の発達、体調不良等の早期発見、健康診断、健康状態の観察、環境因子、個体因子、個別性、支援、アセスメント、) 課題資料：別途配布する。 A:多 D:中 F:あり(グループ内発表)	
	第4回	第 4 回 保育園における健康観察 【演習：身体計測(身長、体重、頭囲、胸囲)】 保育園における健康観察では、発達に伴い発症疾患も異なることから子どもの心身の状態に応じた個別指標も必要とされる。保育者として、子どもの健康状態並びに発育及び発達状態について、定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握することが求められる。事前学習：不健康な乳幼児の対応についてどのような対応が考えられるか。また、保護者からの情報とともに、登園時から保育中を通して子どもの状態を観察し、何らかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には、保護者に連絡するとともに、嘱託医と相談するなど適切な対応を図ることが求められるが、その手順についてはどのような連携が必要であるか、実習経験からその手順について自身でまとめておくこと。課題資料：別途配布する。 B:小 C:中 F:あり(自己学習)	
	第5回	第 5 回 子どもの疾病と適切な対応 (1) 【演習：バイタルサインの観察及び電法】 子どもの日常生活における保健活動として、子どもの疾病を予防・治療(応急処置)に導くことは、保育者としてどのような介入が必要なのか、子どもの病気の特徴を知り疾病のケアについて理解する。事前学習：施設内で発生した体調不良者への対応について、内科的所見からそれぞれ1事例を取り上げ、発症から保護者のお迎えもしくは引き渡しまでの対応・記録・伝達方法を一連にまとめておくこと。課題資料：別途配布する。 A:小 B:多 F:あり(自己学習)	
	第6回	第 6 回 子どもの疾病と適切な対応 (2) 【基本的な薬の与え方(原則として保育園で薬の投与はしない)】 心身に障害を持つ子供の対応について、健常者と分け隔てなく接していくためにどのような配慮が求められる必要であるか。家族や関連職種・組織間の連携についても考察する。慢性疾患、精神・身体障害児の対応について理解する。子どもの心身症の対応方法についてグループワーク後、発表する。事前学習：障害にはどのような種類が考えられるか、また、障害をもたらす原因は何かを考えてくる。(Key word: ノーマライゼーション、マズローの欲求階層説、サイズモンズ4分類、要保護児童対策地域協議会) A:多 D:中 F:あり(発表)	
	第7回	第 7 回 救急処置 (1) 【演習：応急手当】 応急手当について、火傷、腹部の強打、脱臼、骨折について処置の手技を理解する。事前学習：配布資料の応急手当の手順について『心肺蘇生・応急手当』を精読し、いかなる時も実践できるよう心がけておくこと。事前課題：外科的所見：頭部打撲、眼の打撲、捻挫、擦過傷、挫傷、歯の脱臼等、外科的所見からそれぞれ1事例を取り上げ、事故発生から保護者への連絡と引き渡しまでの対応・記録・伝達方法を一連にまとめておくこと。演習：応急手当；三角巾(伸縮性のない風呂敷・手ぬぐいを持参すること(100cm))。映像資料を閲覧しておくこと。ミニテスト：テキスト『応急手当 第8章』を実施する。提出課題：有 A:中 D:中 F:あり(発表)(提出)	
	第8回	第 8 回 救急処置 (2) 【演習：応急手当(RICE処置)・事故対応について】 保育所は、日頃から保育環境の整備を行い、子どもが安心して安全に遊べるよう常に努めなければならない。事前学習：実習施設の中で、子どもにとって危険と思われる場所や事故防止に努めていた箇所についてまとめる。演習：RICE処置と救急車要請の連絡練習を行う。事前課題：資料1、『119番通報要領』各自練習をしておく。 A:中 B:多 F:あり(自己学習)	

第9回	<p>第 9 回 子どもの感染予防と対策 (1) 【演習：手洗い】</p> <p>予防すべき感染症とその対応。保育所で問題となる主な感染症とその予防対策を理解し、保育所における衛生管理について、消毒薬の種類と使い方、また、感染症予防教育についてグループワークで話し合う。事前学習：予防接種と感染症について、子どもの病気、症状に合わせた対応についてまとめておく。 A:小 B:多 F:あり (自己学習)</p>
第10回	<p>第 10 回：子どもの感染症の予防と対策 (2) 【危険予測学習(KY T)】</p> <p>感染症が疑われる集団保育中の嘔吐物の処理、感染症の対策、感染症の集団発生予防と、感染症発生時の対応と罹患後における登園時の対応について理解する。 A:多 B:多 F:あり (自己学習)</p>
第11回	<p>第 11 回 子どもの保健と環境 (1) 【演習：玩具・部屋の消毒】</p> <p>子どもの健康と安全から、保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。子どもの保健に係る個別対応と集団全体の健康安全管理について理解し環境の安全性について、グループワークを行う。事前課題：子どもの心身は環境からどのような影響を受けるか。配布プリントを参考に生態心理学の一領域から人的環境(慣習化された規範意識)について通読しておく。 A:小 B:多 F:あり (自己学習)</p>
第12回	<p>第 12 回 こどもの保健と環境 (2) 【脱水・熱中症の対応】</p> <p>保育における保健的対応として、子どもの生活習慣と疾病予防には保護者の協力が不可欠である。特に3歳未満児への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)、障害のある子どもへの対応では保護者はもとより、他職員との連携も求められる。講義では心身の健康、発達援助と保健活動についてそれぞれの発達年齢における支援について、グループワークで話し合い発表する。 A:中 B:多 F:あり (自己学習)</p>
第13回	<p>第 13 回 事故防止における安全管理(災害への備えと危機管理)</p> <p>【子どもの目線から事故を防ぐ】 災害とは予見することが難しく、日常的に危機感を抱くことは難しい。災害に遭った場合、災害弱者に陥りやすい幼児への対応・教育は難しい。課題：実習経験と参考資料をもとに保育者としてできる事故予防の対策は何かをグループワークでまとめて発表する。また、事故発生の要因を鑑み、リスク評価が重要であることを認識するようテキストをよく理解しておくこと。提出課題：有 A:中 B:中 F:あり (提出)</p>
第14回	<p>第 14 回 母子保健対策と集団保育における健康管理</p> <p>【心の健康と身体の健康の非言語表現について】 近年の少子化、核家族化、女性の社会進出等に伴い、子どもが健やかに生まれ育つための環境づくりの推進を図ることは重要な課題である。保育園においても母子保健の主たる課題に加え、被虐待児の心のケアや発達障害に対応するため、関係機関等と連携した支援体制の構築を図ることが求められている。事前課題として、乳児から幼児を対象とした心が不健康な場合の症状についてまとめる。 A:中 B:中 F:あり (発表)</p>
第15回	<p>第 15 回 地域保健活動 関連機関との連携 【虐待の可能性がある疾患と外傷について】</p> <p>子どもの保健Ⅱを総括して、子どもを中心とした保健活動について今まで学んできたことをグループワークで振り返り、総論として質疑応答の場とする。 A:多 B:小 F:あり (提出)</p> <p>【提出課題】 医療がかかわる心身の健康におけるレジリエンスも、今後考慮されるべき重要な課題となってきた。保育の質が求められる中、発達段階に応じて心身の成長に欠かせないのが自尊心を育てる生育環境であり、乳幼児期からのアタッチメントの形成が、後の人格形成に影響を及ぼすことが知られている。最新の脳科学研究では、認知の発達や学習のための感受性が豊かな時期は、4歳以前に集中している部分が大きいとも言われ、このことから乳幼児期からの生育環境と愛情と栄養のバランスは心身を安定させ、レジリエンスを伸ばすことに繋がると考えられる。●課題1：地域社会を母体とした保育環境を考えたとき、どのような保育環境がアフォードされると園児が肯定的なレジリエンスが得られると考えますか。心身・身体的影響から考察すること。●課題2：そのための地域モデルとはどのようなものかを個人的な意見を加え、保育の質を高めるための漸進的な方法も述べること。</p>
教育目標との関連	<p>保育士資格取得のために必要な科目として、子どもの疾病や事故等の予防、適切な対応について学び、子どもの健康と安全に係る知識と保育実践を理解する。また、生命倫理に関わるテーマを切り口に生活の場で求められるケアやサポートのあり方、病気や緊急時の対応方法についてその理論と実際を取り上げる。 他の科目との関連：「保育の心理学」「子どもの食と栄養」「実習・実践に関する科目」</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について理解する 子どもの疾病とその予防および適切な対応について具体的に学ぶ 緊急時・救急時の対応や事故防止、他職員との連携・安全管理について具体的に学ぶ 子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画及び評価について学ぶ 現代社会における心の健康問題や地域保健活動などについて理解する
評価方法および評価基準	<p>グループワークへの参加・貢献度に対するの評価(50%思考力・発信力・協調性・態度) 課題レポート30%、提出課題20%。初回の授業には必ず出席すること。開講時期が2年次前期であるため、さらに広く深く高度な内容となる。成績評価もかなり厳しく行うので、「乳児保育」、「子どもの食と健康」、「保育内容(健康)」の学習内容を再確認して授業に臨むこと。</p>
教科書	<p>・榊原洋一／監修 小林美由紀／執筆『これならわかる！子どもの保健演習ノート』 子育てパートナーが知っておきたいこと 出版社名 診断と治療社 (2016/12) ISBN 978-4-7878-2289-5定価2000円 (2017/05)</p>
参考書	<p>・厚生労働省 『保育所保育指針』フレーベル館 平成30年3月 フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』平成30年3月 フレーベル館 ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説』平成30年3月 フレーベル館 ・佐々木 正人 『アフォードダンス入門』——知性はどこに生まれるか 講談社 (2008/3/10). ISBN-10: 4061598635 ISBN-13: 978-4061598638 定価880円上記に加え、参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。紹介された本はなるべく一度は図書館等で目を通すことが望ましい。</p>

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>【受講開始前】1年次の卒業必修科目「こどもの保健Ⅰ」、の講義内容をベースにし、復習しておくこと。講義開始前に、ノート・教科書・プリント等を復習し、疑問点がある場合は質問の用意をしておきましょう。</p> <p>【受講開始後】毎回の講義ごとに、A4 または A5 一枚程度の内容要約を行って記録しましょう。次回の予習指示にしたがって、学習を進めておきましょう。</p>
履修上の注意、条件等	<p>グループワークを実施します。個々の意見を踏襲しつつ、子どもの健康について考えを広めていく授業の展開と、関連テーマのフィールド調査を含むレポート作成を行います。社会問題に関心を持ち、自発性と創造性を発揮し、意欲的な参加を望みます。授業への参加、レポート締め切りは時間や期日を守りましょう。第1回目と最終回に習熟度に関するアンケート（セルフスティーム・永続感、ストレス対処能力を測定）を行います。</p>
オフィスアワー	<p>授業前後に教室で質問を受けます。</p>
備考・メッセージ	<p>こども保健講義では、子どもの心身の健康の実態や疾病構造の変遷に伴い保育士は専門的知識をもって、また、教育的知識をもって子どもに向き合い保護者へ適切な助言を行えるような指導が求められております。講義では、幼保一体化への移行にも活かせる学生参加対話型教育や、フィールドワークも参考にしたプロジェクト型教育に加え、問題を発見し、解決策を提案し実現する能力を涵養したいと考えています。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期または後学期	2年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
田中 芳子			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>人は適切な食事により、健全な生活を営むことが出来る。小児期は、発育・発達という特性も加わるので、栄養摂取は特に重要である。更に小児期は食生活の基礎が作られる時期でもあり、この時期の食環境がその後の生涯の健康を大きく左右する。以上を理解し、子どもの成長に即して実践してゆく力を養う。</p> <p>他の科目との関連：「子どもの保健で学ぶ、乳汁栄養、離乳、幼児期の栄養をより実践的に学び、体験する。」</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>子どもの健康と食生活の意義 食と栄養を学ぶ上で、『子ども』とはどのような存在か理解し、何を学ぶべきか確認する。 子どもの身体発育と栄養状態の把握を学ぶ。 復習：教科書P1～P25を読んでおくこと。 C:少</p> <p>第2回</p> <p>食に関する器官の発育と発達 食に関する体の構造、消化・吸収のしくみを確認したうえで、子どもの食べる機能と消化吸収機能の発育・発達を理解する。 復習：教科書P26～P34を読んでおくこと。 E:あり F:あり</p> <p>第3回</p> <p>栄養に関する基礎知識① 種類と働き 栄養素の種類と働きを理解する。(五大栄養・炭水化物・脂質) E:あり</p> <p>第4回</p> <p>栄養に関する基礎知識② 五大栄養素 栄養素の種類と働きを理解する。(たんぱく質・ビタミン・無機質) 復習：教科書P35～P49を読んでおくこと。 A:小 F:あり</p> <p>第5回</p> <p>栄養に関する基礎知識③ 食事摂取基準 日本人の食事摂取基準から必要な食事量を学ぶ。 B:少 E:あり</p> <p>第6回</p> <p>栄養に関する基礎知識④ 食事構成 食事構成に関する基礎知識を知り、運用できるようになる。 食事バランスガイド 復習：教科書のP50～P64を読んでおくこと。 E:あり F:あり</p> <p>第7回</p> <p>乳児期の食生活① 母乳栄養 乳汁栄養(母乳栄養)について理解する。 予習：自身の乳汁栄養状況を聞き取り、利点、問題点を想像してみる。 復習：教科書P65～P74を読んでおくこと。 F:あり</p> <p>第8回</p> <p>乳児期の食生活② 実習① 調理実習室整備を通して、環境の整え方を体験する。 A:多</p> <p>第9回</p> <p>乳児期の食生活③ 人工栄養 乳汁栄養(人工栄養)について理解する。 復習：教科書P74～P79を読んでおくこと。 B:少</p> <p>第10回</p> <p>乳児期の食生活④ 実習② 調乳実習 正しく調乳出来るようになる。色々な殺菌法を学ぶ。 A:多 E:あり</p> <p>第11回</p> <p>乳児期の食生活⑤ 離乳とは 離乳の意義とその必要性を理解する。 E:あり F:あり</p> <p>第12回</p> <p>乳児期の食生活⑥ 離乳の実際 離乳の進め方、調理の特徴等を理解する。ベビーフードの試食を行う。 復習：教科書P80～P94を読んでおくこと。 A:中 E:あり</p> <p>第13回</p> <p>乳児期の食生活⑦ 実習③ 離乳食1 5～6か月・7～8か月の離乳食を作り、試食する。調理の基礎を学ぶ。食材の加熱による変化を体験する。 A:多 E:あり</p> <p>第14回</p> <p>乳児期の食生活⑧ 実習③ 離乳食1 同上</p> <p>第15回</p> <p>乳児期の食生活⑨ 実習④ 離乳食2 9～10か月・11～12か月の離乳食を作り、試食する。乳児に適した塩分濃度を体験する。大人の料理からのとり分けを考える。 A:多 E:あり</p> <p>第16回</p> <p>乳児期の食生活⑩ 実習④</p>		

	<p>離乳食2 同上</p> <p>第17回 幼児期の食生活① 幼児期の栄養の特徴を理解し、食事の留意点を考察する。 日本食への理解を深める。 復習：教科書P95～P108を読んでおくこと。 D：少</p> <p>第18回 生涯発達と食生活 生涯を通して健康に生活するために必要なことを考える。 母体と胎児の関係を知る。 復習：教科書P121～P129を読んでおくこと。</p> <p>第19回 幼児期の食生活② 実習⑤ 幼児食1 和食を取り入れた幼児食を作り、試食する。様々な食材に触れる。 A：多 E：あり</p> <p>第20回 幼児期の食生活③ 実習⑤ 幼児食1 同上</p> <p>第21回 幼児期の食生活④ 実習⑥ 間食 調理、試食を通して、間食の意義と内容を考える。 A：多 E：あり</p> <p>第22回 幼児期の食生活⑤ 実習⑥ 間食 同上</p> <p>第23回 食生活の現状と課題 現代の日本人が抱える食の問題を知り、なぜ、今、食育が必要とされているか理解する。 復習：教科書P109～P120を読んでおくこと。 F：あり</p> <p>第24回 食育① 食育の必要性 家庭や児童福祉施設における食生活を理解し、育てたい「食べる力」を考える。 復習：教科書P155～P161を読んでおくこと。</p> <p>第25回 食育② 保育所での食育 保育所、幼稚園等での食育の実践の仕方を学ぶ。 復習：教科書のP169～P192を読んでおくこと。 A：多</p> <p>第26回 食育③ 実習⑦ 幼児食2 子どもの参加を想定した料理を体験し、調理保育の運営、配慮について考察する。 A：多 E：あり</p> <p>第27回 食育④ 実習⑦ 幼児食2 同上</p> <p>第28回 配慮の必要な子どもの食生活① 食物アレルギー（アレルギーガイドライン）を理解し、その対応を学ぶ。 B：少</p> <p>第29回 配慮の必要な子どもの食生活② 疾病及び体調不良の子どもへの対応を理解する。障がいを持つ子どもの食生活を理解する。 復習：教科書P131～P154を読んでおくこと</p> <p>第30回 学習到達度の確認・解説 学習到達度の確認テストを実施する。その後設問について解説を行う。</p>
教育目標との関連	子どもの食生活は大人の作り出す食環境の影響を強く受ける。子どもにとって望ましい食環境・食生活とはどのようなものか常に考え、実践・提供できる力を身につける。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活の基となる食に関する基礎的知識を理解している。 ・子どもの発育・発達と栄養の関連について理解している。 ・子どもを取り巻く食の現状から、食育の必要性を理解し、実践することができる。 ・特別な配慮の必要な子どもの食に関わる対処法を確認し、実践できる。 ・自身の食生活を振り返り、バランスの良い食事を選択することができる。
評価方法および評価基準	<p>試験 50%・第30回目の授業時間内に試験を実施し、理解度の確認を行う。（試験の解説も同時間内に行う。）</p> <p>平常点評価 50%・随時、授業理解を補う作業課題を提出してもらい、参加姿勢を評価する。 ・調理実習時、服装（エプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き）を評価の対象とする。 実習中の態度、協力度を評価する。 実習の内容のまとめ、感想等提出してもらい、参加姿勢を評価する。</p>
教科書	『新版 子どもの食生活』 上田玲子 編著 ななみ書房
参考書	授業中に、適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	平日頃、新聞やニュース等の食に関する記事に関心を持って、生活すること。
履修上の注意、条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもと食」に関して、学びたいという気持ち、態度があること。 ・調理実習時には、エプロン・三角巾・ハンドタオル・上履きが必要。
オフィスアワー	質問は授業前後に教室で受ける。
備考・メッセージ	調理実習の都合により、授業の順番が変わることがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期または後学期	2年	2単位	卒業選択 保育士必修
担当教員			
中山真貴子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>少子高齢化や就労女性の増加など社会変動は、家庭生活にも大きな変化をもたらした。従来の家族のあり方や養育システムが機能しづらくなり、多様化した家族生活にひずみを生じさせている。現代の社会に求められている「家庭支援」がどのようなものであるのか、その中で保育士はどのような支援を提供していくことができるのかを探るために、家族関係や養育システムの歴史的変遷と現状を把握し、養育環境の中に生じる問題点を考える。</p> <p>他の科目との関連：「相談援助」「保育相談支援」で学ぶ保育における相談支援の意義と原則を踏まえつつ、保育士が多様化する社会の中で担うことのできる家庭支援の役割について学びます。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>子育てと家族①：子どもの育ちと子どもが育つ場としての「家族」</p> <p>子どもの育ちとはいったいどのように実現されていくのか、そして、家族はその子どもの育ちの実現においてどのような機能を果たしているのかについて学ぶ。</p> <p>予習：シラバス全体を読み、教科書の目次に目を通し、授業の流れを把握しておくこと（約1時間）</p> <p>B：少</p>	
	第2回	<p>子育てと家族②：家族の動向と現状</p> <p>家族は子育てにおいて重要な役割を担っているが、その役割が十分に果たせない現実がある。そのような家庭の養育機能の低下の背景にある家族の動向について学ぶ。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P7～P10、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>B：少 E：あり F：あり</p>	
	第3回	<p>子育ての問題とその背景①：家族を取り巻く社会環境の変化</p> <p>子育て家庭をとりまく社会環境はどのように変化しているのか学ぶとともに、その変化が子育てにどのような影響を及ぼしているのか考える。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P11～P17、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>B：少 E：あり</p>	
	第4回	<p>子育ての問題とその背景②：子育て意識の変化</p> <p>社会環境の変化は子育ての環境に影響を及ぼしているだけではなく、子育て意識にも影響を与えている。子育てへの意識がどのように変化し、その意識が社会にどのように反映されているのか考察する。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P26～P34、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>E：あり F：あり</p>	
	第5回	<p>子育ての問題とその背景③：さまざまな子育て「困難」</p> <p>賃金の伸び悩み、就労女性の増加などの社会的変化がある一方で、性別役割分業などの従来のジェンダー意識が強固にあり続けている。社会変化と子育て意識の間の歪みから生じているさまざまな子育てにおける困難について考察する。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P34～P37、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>E：あり F：あり</p>	
	第6回	<p>家庭支援の政策と制度①：子育て支援する具体的な制度</p> <p>子育てには経済的な負担、時間や労力がかかる。子育て家庭が責任を果たせるようにするためには社会的な支援が必要となる。子育て家庭に対して、そのような経済的援助やケアやサービスなどが用意されているのかについて学ぶ。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P38～P49、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>B：少 E：あり</p>	
	第7回	<p>家庭支援の政策と制度②：子育て家庭支援の政策動向</p> <p>国には子育てを支援する責任があり、その責任を果たすため国がどのような社会的制度や仕組みを政策として展開してきたのか学ぶ。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P51～P64、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>B：少 E：あり</p>	
	第8回	<p>家庭支援のあり方①：子育て家庭支援の役割と基本的態度</p> <p>子育て家庭支援において、相談・援助者は子育て家庭に対してどのような役割が求められているのか考える。また、その役割を果たすためには、どのような姿勢で相談者と向き合う必要があるのかについても知る。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P65～P74、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>E：あり</p>	
	第9回	<p>家庭支援のあり方②：子育て家庭支援の実際</p> <p>子育てに関わる様々な現場での子育て支援の方法について学ぶ。この回では、子育てひろばと保育園での家庭支援、また、父親への支援について取り上げ考察する。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P75～P92、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>E：あり</p>	
	第10回	<p>特別なニーズを持つ家庭①：特別なニーズへの対応の考え方</p> <p>周囲の理解が得にくい特殊な状況を抱えた家庭への対応の仕方について考える。特に、状況の把握、情報提供、他機関との連携の仕方について学ぶ。</p> <p>予習、復習：前回の復習として教科書P92～P104、配布資料を読んでおくこと。（約2時間）</p> <p>E：あり</p>	
	第11回	<p>特別なニーズを持つ家庭②：育てにくさや障害のある子ども、ドメスティック・バイオレンスへの対応</p> <p>第10回で学んだ対応の仕方の実際について学ぶ。ここでは、育てにくさや障害のある子どもを育</p>	

	<p>てる家庭とドメスティック・バイオレンスの問題を抱えた家庭に焦点を当て考察する。 予習、復習：前回の復習として教科書P105～P106、配布資料を読んでおくこと。（約2時間） E：あり</p> <p>第12回 特別なニーズを持つ家庭③：ひとり親家庭、ステップファミリーへの対応 第10回で学んだ対応の仕方の実際について学ぶ。ここでは、ひとり親家庭とステップファミリーに焦点を当て考察する。 予習、復習：前回の復習として教科書P107～P112、配布資料を読んでおくこと。（約2時間） B：少 E：あり</p> <p>第13回 世界の子育て①：養育システムの国際比較 日本の子育てにおける状況を客観的にとらえるために、世界の子育てについて学ぶ。女性の働き方、子育てに関する意識、子育て支援関連制度や施策について国際比較を行う。 予習、復習：前回の復習として教科書P122～P126、配布資料を読んでおくこと。（約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり</p> <p>第14回 世界の子育て②：スウェーデン・カナダ・オーストラリアの家庭支援 諸外国の子育て支援の状況について学び、子育て支援の方法について多様な観点から考察する。 予習、復習：前回の復習として教科書P131～P144、配布資料を読んでおくこと。（約2時間） A：多 D：多 E：あり</p> <p>第15回 授業のまとめ 授業の内容を振り返り、それを踏まえ、自分が保育士としてどのような支援ができるか考える。同時に、自らも子育て家庭を取り巻く社会の一員として子育て支援に対しどのような役割を果たすことができるかについても考察する。 予習、復習：前回の復習として教科書P145～P160、配布資料を読んでおくこと。（約2時間） E：あり</p>
教育目標との関連	社会変動が家族関係や養育システムに影響を及ぼし、個々の家庭生活の質を大きく変化させていることを認識することで、決められた一通りの支援を行う保育士ではなく、目の前の家族にニーズに合わせた支援を行える保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、働き方や育児の仕方について考えることができるようにする。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 社会の変化後ともに家族のあり方は変化していくことを認識し、家族関係や子育てについて学び続けられる。</p> <p>2. 保育士が各家庭のニーズに合わせて家族や地域と連携し、子育てネットワークの相談窓口となる重要な役割を担っていることを説明できる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験：50% 定期試験を実施します。授業の内容全般について理解し、それに基づいて支援者として果たすべき役割を適切に考えることができるかという観点から評価します。</p> <p>提出課題：30% 課題の提出を指示します。与えられた課題に対して問題意識をもち積極的に取り組んでいるかという観点から評価します。</p> <p>平常点評価：20% 授業で行ったディスカッションに対してリアクションペーパーの提出をしてもらいます。授業内容に基づき意見を述べているかという観点から評価します。</p>
教科書	『実践 家庭支援論 改訂版』 松本 園子、永田 陽子、福川 須美、堀口 美智子 ななみ書房 ¥2,268
参考書	授業中に、適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	プリント資料を配布するが、それだけでは講義内容を十分に把握できない。必ず、ノートやルーズリーフなどを用意し、講義中の内容を聞き取り、ノートにまとめることが必須である。
オフィスアワー	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
松本佳子			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>乳児の育ちは直接世話をする者のみならず、それを取り巻く生態学的な環境が大きな影響を及ぼしている。過去から積み上げられてきた育児・保育文化、そしてこれから創り上げようとする保育文化を視野に入れ、乳児の健やかな育ちを支え、保育士としてふさわしい資質、能力を身に付けていくことを目指す。</p> <p>他の科目との関連：「保育に関連した生理的特性や病気・看護についての理解(保育看護)を、子どもの保健でさらに掘り下げて学ぶ。また、子どもの食と栄養では『調乳』、『離乳食』について実習し、現場で対応できるようにする。」</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 乳児保育とは何か 乳児保育の歴史をたどり、乳児保育に対する意識変遷について考察する。また保育所保育指針第1章に示された『保育所における保育の内容に関する事項及びこれに関連する運営に関する事項』について確認する。 予習：保育所保育指針第2章の、教育の5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)及び基本的生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・着脱衣)とは何か、確認をしておく。(約1時間) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第2回 育児不安の背景と子育てに関する今日的課題 核家族化が進み子育ても夫婦のみで行っている場合が少なくない。共働き家庭に焦点を当て『育児不安の背景』『父親、母親のあり方』『父親、母親としての成長』について考察する。 予習：子育てに関するニュースに関心を持ち、専門職として考察する。(約2時間) A:多 E:あり F:あり</p> <p>第3回 0歳児の発達と保育 保育所保育指針第2章の乳児保育に関わるねらい及び内容について押さえる。①母体内から外界への環境変化に適応すべく、著しい発達が見られる0歳児の発達について学ぶ。 予習：教科書第10章及び保育所保育指針第2章-1を読んでおくこと。(約1時間30分) B:少 E:あり</p> <p>第4回 1歳児の発達と保育 保育所保育指針第2章の乳児保育に関わるねらい及び内容について押さえる。②運動機能の発達、探索活動の活発化、情緒的絆の深まりなど、1歳児ならではの特性について押さえていく。このころは、自発的な働きかけが多くなり、玩具などを実物に見立てる象徴機能が発達し、人との関わりがより強まる時期である。 予習：教科書第11章及び保育所保育指針第2章-1を読んでおくこと。(約1時間30分) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第5回 2歳児の発達と保育 保育所保育指針第2章の乳児保育に関わるねらい及び内容について押さえる。③基本的運動機能や指先が発達する。行動範囲が広まり、自我の育ちの表れとしての自己主張が強くなる時期である。 予習：教科書第12章及び保育所保育指針第2章-1を読んでおくこと。(約1時間30分) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第6回 第3～5回のまとめ及び3歳以上児の発達と保育 保育所保育指針第2章の乳児保育に関わるねらい及び内容についてまとめる。さらに乳児からのつながりの重要性について、3歳以上児の保育に関するねらい及び内容について学ぶ。 予習：教科書第10～12章及び保育所保育指針第2章-2を読んでおくこと。(約1時間30分) B:少 E:あり F:あり</p> <p>第7回 愛着の重要性 出生時からおおむね2歳児までの発達過程について考察する。 ボウルビイ(Bowlby, John 1907～1990)の『母子関係』『愛着』『母性的養育の喪失』及びエインズワース(Ainsworth, Mary D. S. 1913～1999)の『ストレンジシチュエーション法』その他を教材に、乳児期の愛着の重要性について考察する。 予習：教科書第2章および第2回～6回の資料を読んでおくこと。(約2時間) A:少 E:あり F:あり</p> <p>第8回 保育所における保育 保育所の1日について、朝の視診、受け入れから降園までの流れ、保育内容及び保護者への対応について学ぶ。基本的生活習慣を身に付けるための働きかけについて考察する。 予習：教科書第5章及び保育所保育指針第1章を読んでおくこと。(約1時間30分) E:あり F:あり</p> <p>第9回 乳児院の1日・乳児院の役割と機能 乳児院の1日(24時間)について、その流れ及び保育看護について学ぶ。 乳児院の役割と機能、乳児院での養育の基本についての考察をする。 予習：教科書第5章を読んでおくこと。(約1時間30分) B:少 E:あり</p> <p>第10回 基本的生活習慣① 調乳の実際・冷凍母乳の扱い方・授乳方法 基本的生活習慣のひとつ、乳児にとっての『食事』である調製粉乳の調乳の仕方について学ぶ。また近年希望者が増えている『冷凍母乳』の受け入れ及び取り扱いの実際について学ぶ。 予習：教科書第8章及び保育所保育指針第3章-2(食育)について読んでおくこと。(約1時間30分) A:少 E:あり F:あり</p> <p>第11回 基本的生活習慣② 排泄・睡眠・清潔・着脱衣 『排泄』の一連の流れの獲得と保育について学ぶ。排泄の生理機能の発達、排泄の世話と自立に向けた援助及びトイレトレーニングについて常に子どもの心身の健康状態を把握し、環境</p>

第12回	<p>に留意する関わり方を考察する。 予習:教科書第8章を読んでおくこと。(約2時間) A:中 E:あり F:あり 地域の子育て支援 保育所保育指針第4章に謳われているように、保育所における保護者支援は、『入所している子どもの保護者支援』だけでなく『地域における子育て支援』も含んでいる。保護者支援は保育士等の重要な業務である。その専門性を生かした関わり方を考察する。 予習:保育所保育指針第4章を全て読むこと。また『子どもの虐待』のニュースについては、常にに関心をもって見るようにすること。(約2時間) A:少 E:あり F:あり</p>
第13回	<p>乳児期の安全管理・事故への対処法 月齢、年齢によって発生しやすい事故は異なる。子どもの発達段階を踏まえたうえで、事故発生のメカニズムについて考察する。また保育室内に危険な箇所がないか、危険であればどのように改善すればよいか考察する。 予習:教科書第15章を読んでくること。 乳幼児の事故例を一つ取り上げ、防止策について考察する。(約2時間) B:少 E:あり F:あり</p>
第14回	<p>家庭における乳児の保育 家庭における0歳児、1歳児、2歳児の日常について学びながら、家庭と保育所の2つの文化を行き来する子どもに焦点をあて、その連続性を考察する。また事例を通して子ども同士の衝突に対する保育士の関わり的重要性について学ぶ。 予習:保育所保育指針4章を再読しておく。(約2時間) B:少 E:あり F:あり</p>
第15回	<p>前期のまとめ まとめ(1) 前期の授業を振り返り、①子どもの発達段階、②保育所・乳児院・家庭での子ども、③専門職としての保護者、地域支援、④基本的な生活習慣の獲得の重要性について再確認する。また自己研鑽課題を設定する。 予習:第1回～14回の資料を再読し、乳児保育の課題について考察してくる。(約2時間) B:少 E:あり</p>
第16回	<p>保育所保育指針の理解 保育課程、指導計画を作成するにあたり『保育所保育指針』の改定の背景及び方向性について確認する。 保育士等による質の高い養護と教育が求められる中、保育所の役割や機能を再確認し、保育内容の充実や改善点について考察する。 予習:保育所保育指針1～5章を再読し、全ての子どもの最善の利益とは何か考察してくる。(約2時間) B:少 E:あり F:あり</p>
第17～19回	<p>保育課程・指導計画の実際 17・18・19回の3回で、『保育課程』『長期、短期指導計画』『デイリープログラム』『入園前面談』『連絡帳』『避難訓練計画・食育計画など』『保育日誌』『保育所児童保育要録』について学び、その作成をする。 予習:教科書第9章、保育所保育指針第5章(職員の資質向上)を読んでくる。(毎回各2時間) A:中 E:あり F:あり</p>
第20回	<p>地域型保育事業の諸形態 核家族や共働き家庭の増加と、子育て支援の考え方の変遷(1990年代～)について確認する。また子育て支援の取り組みの実際や、保育所における乳児保育・産休明け保育の在り方はどのように変わってきたかを考察する。 予習:教科書第2章を読んでくる。(約1時間) E:あり F:あり</p>
第21・22回	<p>乳児の遊びと環境・絵本の読み聞かせ・造形表現 ①遊びは子どもが自発的に取り組むものであり、発達に不可欠なものである。子どもの発達にあった遊びについて学び、物的・人的環境の整え方について考察する。また発達を促す環境及び安全への配慮事項について意見交換をする。 ②乳児期から絵本を保育の中に位置づかせるよう、また絵本が好きになるよう、保育環境について考察する。 予習:教科書第6章を読む。造形表現をする(授業中に課題を指定する)。(約5時間) D:多 E:あり F:あり</p>
第23回	<p>保護者会・懇談会・保護者とのコミュニケーションづくり 育児不安や悩みを抱えて子育てをしている保護者が、苦悩の末に大きな喜びを発見した事例を検討する。そして懇談会で保育者がファシリテーターの役割をしながら、保護者の育児力を高めるためにはどうしたらいいか、意見交換をする。 予習:教科書第14章を読む。自分が居住する地域の様々な『子育て支援』について調べてくる。(約5時間) B:多 E:あり F:あり</p>
第24回	<p>基本的な生活習慣③ 離乳食・幼児食・アレルギー食 5～6か月頃に開始し、1歳6か月頃までに完了する離乳食の流れについて学ぶ。調理形態、使用材料、分量などについて、咀嚼機能の発達と照らし合わせて考察する。また食物アレルギー児への対応について、事例を通して学ぶ。 予習:教科書第8章を読み、月齢、年齢による食事と保育者の援助について考察する。(約2時間) E:あり F:あり</p>
第25回	<p>保育者の資質向上と職員間の連携 『全国保育士会倫理綱領』を確認し、保育士として大切にしたいものについて考察する。また専門機関の役割と連携、家庭との連携について学ぶ。 予習:教科書第14章を読んでくる。(約1時間30分) B:少 E:あり F:あり</p>
第26回	<p>乳児保育の課題 乳児の育ちを「時間、空間」でとらえる。 子どもを取り巻く生態学的な環境について考察する。保育所の子どもを中心に、文化、思想、人間関係の重なりについて学び、直接つながる保護者や保育者だけでなく、その外側につながる人間関係の網の目の中で子どもたちは生きていることに気づく。</p>

	<p>予習:教科書第4章及び14章を読んでくる。(約1時間30分) E:あり F:あり</p> <p>第27回 乳児保育の課題 事例を通して、乳児保育の現状について討議する。 乳児に対する保育実施上の配慮事項、個別的な保育記録の作成、連絡帳を通しての保護者との連携について再確認する。また多様な保護者と多様な保育ニーズについての学びを振り返り、乳児保育の果たす役割についてまとめていく。 予習:事例の資料を読んでくる。(約3時間) B:中 E:あり F:あり</p> <p>第28～30回 前期、後期総まとめ 1年間の授業評価を行い、今後の課題を考察する。 ①乳児保育の役割について、②乳児保育の現状とその課題について、③出生～おおむね2歳児の発達と保育内容について、④乳児の指導計画及び実際並びに評価について、⑤保育者間、地域社会、専門機関との連携について、教科書第1章～15章を振り返る。 予習:保育所保育指針第1章～第7章及び教科書第1章～第15章を再読する。配付資料を確認する。(各約2時間) E:あり F:あり</p>
教育目標との関連	<p>乳児保育の歴史はまだ浅く、保育現場で試行錯誤しながら創り上げていかなければならない部分も少なくない。家庭と保育所、二つの文化の中で生きる乳児にとって、保育者は昼間の保護者である。保育者として、乳児の心身発達の理解はもとより、実践に必要な知識・技術を身につけなくてはならない。 主体的に行動し、職種間の連携を大切に、保護者からの信頼を獲得できるよう、常に自己研鑽を怠らず、課題を探究し続けることが大切である。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 乳児保育担当者としての社会的役割と責務について自覚する。乳児への対応だけでなく、保護者側に立ち、共に子育てをするという信頼関係を築くこと。 2. 現時点の乳児の姿だけでなく、将来の望ましい姿を思い描き、建学の精神である『愛の教育』を基に、養護と教育が一体となった保育ができること。 3. 自己研鑽を怠らず、乳児・保護者から信頼される人間性・社会性を身につけること。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 50% 前期1回、後期1回、定期試験を実施する。授業全般についての総合的な理解を確認する。 提出課題 20% その都度授業で指示を出す。授業内容を踏まえて、自分なりの考えを述べてほしい。 平常点評価 30% 毎回授業内容の振り返りをする。各自の意見や感想を積極的に述べてほしい。</p>
教科書	コンパクト版・保育者養成シリーズ『乳児保育』 林邦雄・谷田貝公昭監修 松本佳子共著 一藝社
参考書	保育所保育指針 『乳児保育』 咲間まり子編著 松本佳子共著 大学図書出版
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。第21・22回の『絵本について』、第23回の『地域の子育て支援調査』については授業中に指示をする。
履修上の注意、条件等	『指導計画』『連絡帳』『入園前面談表』の作成及び提出をする。DVDやビデオ視聴時には、その記録をもとにレポート課題の提出を求める場合がある。 毎回必ず、『教科書』『保育所保育指針』を持参すること。
オフィスアワー	質問は授業前後に教室で受ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。2020東京オリンピックに向けて、簡単な日常英会話を身につけましょう。中学校の英文法を身に付ければ、日常英会話の9割ができます。この授業では、基本の英文法を復習しながら、英会話を練習します。毎週テーマ別に、保育園の生活に関連する場面も勉強します。各授業の最後に児童たちに教える英語（ゲーム、絵本、歌）を紹介します。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	自己紹介・現在形 現在形のBe動詞を復習しながら、自己紹介を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；保育園の英語活動について（テーマ・年間計画・授業体制）
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	A:中 E:あり F:あり 日常生活・現在形 一般動詞の現在形を復習しながら、日常生活の表現を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；自己紹介 Hello! My name is Mary. Nice to meet you.
	第3回	A:中 E:あり F:あり 日常生活・副詞 日常生活の表現を使って、程度を表す副詞を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；気持ち・感情 How are you? I am happy.
	第4回	A:中 E:あり F:あり スポーツ/言語・助動詞のCan 助動詞のCanを勉強して、できることを発表します。	保育園の英語遊びのテーマ；色 What color do you like? I like green.
	第5回	A:中 E:あり F:あり 今・現在進行形 今していることを聞く・話す時に使う表現を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；フルーツ I like pineapples.
	第6回	A:中 E:あり F:あり 昨日・過去形 昨日のことを話す時に使う表現を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；野菜 I don't like tomatoes.
	第7回	A:中 E:あり F:あり 去年・過去形 過去のことを話す時に使う表現を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；ペットと農場の動物 Pig says oink oink.
	第8回	A:中 E:あり F:あり 趣味・助動詞 自分の趣味を話す時に使う表現を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；動物園の動物
	第9回	A:中 E:あり F:あり 買い物・比較級 買い物の表現を勉強しながら、比較級を学びます。	保育園の英語遊びのテーマ；海の動物
	第10回	A:中 E:あり F:あり 有名な場所・最上級 国や観光地を使って、最上級を勉強します。	保育園の英語遊びのテーマ；数字
	第11回	A:中 E:あり F:あり 今夜・未来形（現在進行形・Be going to）	

	<p>今夜や明日の予定を話す時に使う表現を勉強します。</p> <p>保育園の英語遊びのテーマ：形</p> <p>A:中 E: あり F:あり 来年・未来形 (will) 来年や自分の将来を話す時に使う表現を勉強します。</p> <p>保育園の英語遊びのテーマ；体の部分</p> <p>A:中 E: あり F:あり 経験・現在完了形 自分の経験を話す時に使う表現を勉強します。</p> <p>保育園の英語遊びのテーマ：海外のイベント・Halloween</p> <p>A:中 E: あり F:あり 質問・疑問文 今まで勉強した文法を復習しながら、疑問文の作り方を身につけます。</p> <p>保育園の英語遊びのテーマ；海外のイベント・Christmas</p> <p>A:中 E:あり F:あり 復習 期末試験に向けて復習します。</p> <p>A:中 E:あり</p>
教育目標との関連	早期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、保育園で使えるゲーム、歌と絵本も学びます。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 英語の基本の文法を理解できるようになる。</p> <p>3. 簡単な日常英会話ができる。</p> <p>4. 英語の必要さに気づく。</p> <p>4. 異文化に関心が高まる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 40% 定期試験を実施します。授業の内容全般について理解度を評価します。</p> <p>平常点評価 20% グループワークの貢献度・参加度を評価します。</p> <p>課題提出 20% 短いライティングの課題があります。</p> <p>単語テスト 20% 毎週、単語テストがあります。</p>
教科書	「保育英語検定4級テキスト」 保育英語検定協会 著 本の泉社 出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎週、前週の授業に出た英単語テストがあります。
履修上の注意、条件等	この授業ではプリントが多く配布されますので、ファイルを用意してください。
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
今井孝子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>障害児保育の理念と意義について学ぶ。保育現場での障害児保育の形態と、特別支援教育について学ぶ。各種障害の原因、特徴、対応について学び、障害のある幼児への理解を深める。また、障害のある幼児を取り巻く専門職や機関の役割や連携の方法を学び、障害児保育の実践力を養う。</p> <p>他の科目との関連：「子どもの保健Ⅰ」の精神保健、発達、母子保健制度の内容を深める。また、病弱や内臓疾患による身体障害児の理解は、「子どもの保健Ⅰ」の糖尿病、喘息、がん等長期療養の必要な慢性疾患の知識が基礎となっている。障害児保育ではそうした基礎知識をもとに保育方法を学ぶ。「子どもの保健Ⅱの障害のある子どもへの対応」を深める。更に「社会福祉」で学ぶ保育現場の課題や、「児童家庭福祉」で学ぶ障害のある児童への対応と合わせて、関係機関の種類や役割と連携の方法等について、事例を用いて学び、地域での組織的取り組みの重要性を学ぶ。「相談支援」で学ぶ相談活動や支援方法の基礎となる知識を学ぶ。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 障害児保育とは ～障害児のイメージ～ 障害児について、自分の持つイメージを確認する。障害児保育を学ぶための動機付けとする。各自の障害児・者についてのイメージ（予習）を1分程度で発表する。 予習：テキストP18～20を読む。身近にある障害者用の施設や工夫（点字ブロック、音声信号等）も思い出しておくこと。 F:あり：宿題：障害児・者についての思い出や経験をレポート用紙に書いてくること。文字数は自由。授業時に発表と提出をする。 B:多</p> <p>第2回 障害児保育の理念と制度の歴史と変遷 明治期から現代までの障害児保育の理念と制度の歴史を学ぶ。また、現在の障害児保育の制度を学ぶ。 予習：テキストP20～31を精読しておくこと。特にICIDHとICF、について図を見て理解しておくこと。(約1時間) B:中 E:あり</p> <p>第3回 障害児保育の現状 インテグレーションとインクルーシブ保育の違い、障害児の受け入れ インテグレーションとインクルーシブ（インクルージョン）保育の理念の相違を知り、現在の障害児保育の形態を知る。また、今後目指していくインクルーシブ保育の形態を知る。 また、障害児の受け入れのための環境調整について学ぶ。 予習：テキストP36～44、P124～128を精読しておくこと。(約1時間) A:中 E:あり</p> <p>第4回 障害児の理解①肢体不自由 肢体不自由児について学び、肢体不自由児の特性を理解する。 予習：テキストP46～55を精読しておくこと。(約1時間) 宿題：インクルーシブ保育とは何か、をまとめ、同時にあなたの考えも書くこと。レポート用紙に500文字～800文字程度。第4回授業で提出する。 B:中 E:あり</p> <p>第5回 障害児の理解②視覚障害 聴覚障害 視覚障害、聴覚障害について学び、視覚障害児、聴覚障害児の特性を理解する。 予習：テキストP55～68を精読しておくこと。(約1時間) B:中 E:あり</p> <p>第6回 障害児の理解③知的障害 知的障害について学び、特性を正しく理解すること。 予習：テキスト69～77を精読しておくこと。特にP75～77を丁寧に読んで、知的障害の特徴を理解しておくこと。 F:あり：宿題：ダウン症候群について、インターネットなどで調べてレポート用紙にまとめておく。授業時にレポートを提出すること。 B:中</p> <p>第7回 障害児の理解④発達障害（自閉症圏） 発達障害について学び、特に自閉症圏の特性を正しく理解すること。ASD（自閉症スペクトラム）、アスペルガー障害、高機能自閉症等様々な用語があるので用語をしっかりと学習し、特徴を学ぶ。事例には自閉症圏の幼児の特徴が表れているので、よく読んでイメージを持つておくこと。 予習：テキストP86～92を読む。P144～148の事例と解説を読む。(約1時間) 復習：子供の保健ⅠのテキストP82～85を読む。 B:中 E:あり</p> <p>第8回 障害児の理解⑤発達障害（ADHD） 発達障害の中で、ADHDの特性を正しく理解すること。自閉症圏の学習同様に初めて聞く用語等があると思う。ADHDも大きく3種類に分かれるため、それぞれの特徴と名称が分かるように学習を進める。インターネットで動画を見る予定。 予習：テキストP98～102を精読しておくこと。また、P106の事例を読んでおくこと。重要な用語を書き出しておくこと。(約1時間)</p>

	<p>復習：子どもの保健ⅠのテキストP82～85を読む B:少 E:あり</p> <p>第9回で学習するプリントを配布する。プリント：育児・保育現場での発達とその支援 ミネルヴァ書房 P257～265 外国籍の幼児・貧困家庭の幼児の理解</p> <p>テキストには掲載されていない項目であるため、第8回に配布したプリントをもとに学習する。障害児とは異なるが、外国語使用の子どもや貧困家庭の子どもへは特別な支援が必要である。 予習：第8回で配布したプリントを精読しておくこと。身近に外国語を母語とする子どもがいるかどうか、考えてくること。(約1時間)</p>
第10回	<p>F:あり:宿題:第7回、第8回で学習した発達障害(自閉症圏、ADHD)の特徴をそれぞれ400文字程度にまとめてレポート用紙に書き、提出すること。 B:中 E:あり</p> <p>障害児の保護者への支援について</p> <p>障害児保育においては子どもへの直接的支援と同時に、保護者への支援は欠かすことができない。保護者が自分の子どもの障害を受け入れるためには大きな悩みと苦しみが伴う。障害があることを知った時期や障害の内容にもよるが、何らかの苦しみを感じるのであろうことは予想できることである。保育者は身近な相談者として、保護者の苦しみに寄り添い、子どもへの適切な支援を行うことで保護者が障害のあるわが子を受け入れていく過程に寄与する。保護者の障害受容の過程の基本的な知識を学ぶ。 予習:テキストP168～172を精読しておく。また、自分の子どもに障害があるといわれたら、自分ではどのように感じるか、想像をしておくこと。(約1時間) B:中 E:あり</p>
第11回	<p>地域の障害児支援機関と、ネットワークを知る</p> <p>障害児への対応には地域の医療、福祉、行政、教育機関との連携が必要である。子どもの成長や状態の変化によって必要な関係機関が変わっていく。地域にはどのような機関があり、どのような役割を果たしているのかを知っておく。また、機関との連携にあたって、どのような資格や役職の人がいるのかも知っておく。 予習:テキストP180～182を精読しておくこと。図11-1と11-2をよく見ておくこと。 Fあり:宿題:民生委員児童委員、主任児童委員について調べてレポート用紙に書いてくること。当日提出する。(文字数に制限はない) B:中</p>
第12回	<p>第12回で使用するプリントを配布する。プリント:発達障害とその周辺の問題 中山書店 P274～275、P278～279</p> <p>特別支援教育の体制 特別支援教育コーディネーター、通級、自立活動など</p> <p>「特別支援教育」は幼稚園・小・中・高・専門学校・大学など、学校が子どもが必要とする支援を提供していくための体制である。小学校への就学は、保護者と学校関係者、教育委員会と十分に話し合い考えていく。保育者が、学校の支援体制の窓口や特別支援教育の体制を知っておくことは、は就学支援で重要なことである。</p> <p>予習:第11回に配布した「特別支援教育」についてのプリントを精読しておくこと。特別支援教育コーディネーター、通級、PDCAサイクルについてノート書いておくこと。 B:中 E:あり</p>
第13回	<p>個別の指導計画① 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは何か</p> <p>特別支援教育では「個別の指導計画」を担当、保護者、子ども本人の希望などを取り入れて立てていく。計画には長期計画と短期計画があり、それぞれ計画作成と実行、見直しのサイクルで行っていく。また、学校だけではなく医療、福祉、行政、就労と子どものライフステージが変化しても、それまでの経過が分かるように「個別の教育支援計画」も必要である。幼稚園・保育園で障害児保育にあたる際に計画的・組織的な対応ができるよう、計画の目的や内容を知っておく。グループを決める。 予習:テキストP115～121を精読しておく。個別の教育支援計画と、個別の指導計画の違いをよく理解しておくこと。 B:中 E:あり</p>
第14回	<p>個別の指導計画② 個別の指導計画を作成する</p> <p>前回学習した個別の指導計画を、事例をもとに作成してみる。 予習、宿題:p121の演習問題をやっておくこと。ノートに演習問題の回答を書いておくこと。(1時間) A:多 各自の作成した個別の指導計画をグループ内で読み合わせて、グループで一つ作成して提出する。</p>
第15回	<p>前期15回のまとめと筆記試験</p> <p>14回までの学習と演習のまとめと筆記試験をおこなう。 予習:ノートをまとめて重要語句や重要項目を自分でわかるようにしておくこと。 E:あり</p>
第16回	<p>筆記試験解説と視覚障害児の支援・点字・ガイドウォークの基本</p> <p>前回実施した1回～15回までのまとめの定期試験解説。 また、視覚障害児への支援として、点字の基本的つくりや点字ブロック、介助歩行(ガイドウォーク)の基本を体験する。 予習:テキストP57～59を精読しておくこと。駅で点字ブロックや点字の料金表などをみておくこと。 C:中 E:あり</p>
第17回	<p>聴覚障害児の支援 手話・指文字の基本、言語障害児の理解と支援</p> <p>聴覚障害と言語障害は「発語の障害」という共通点はあるが、その成り立ちが異なる。前学期で学習した聴覚障害の復習と手話・指文字の基本を動画視聴で学ぶ。また、言語障害児の理解について学ぶ。 予習:テキストP61～63を精読してくる。 C:中 E:あり</p>
第18回	<p>第18回で使用するプリントを配布する。プリント:病児と障害児の保育 文化書房博文社 P52～P75</p> <p>病弱・内部障害のある幼児の理解と支援</p>

	<p>身体障害の中でも心臓・小腸・肺等、内部臓器に障害のある幼児の理解をする。また、喘息、糖尿病、肥満など病弱児を理解する。 小児科病棟には慢性疾患や内部障害のために長期入院をしている幼児がいる。そのような小児科病棟には保育士が配置されている。そうした幼児の心身の理解は病棟保育士に必要なことである。また、医療面を担当する看護師とことなり、保育士は生活面や遊びを担当する。 予習：第17回に配布した病棟保育士のプリントを読んでくる。 A：少 E：あり</p>
第19回	<p>第19回用プリント配布。プリント 発達障害とその周辺の問題 中山書店 P179～186 知能検査・発達検査の種類と活用 知能検査発達検査は知的障害や発達障害を理解するうえで大切な指標となる。保育者は保護者等から寄せられたこれらの検査結果が何を調べたものか、またその結果をどのように保育に生かしていくかを考えていく。まずは有名な知能検査や発達検査の名前と測定できる内容等を学ぶ。同時に保育現場で使用できる簡易型の検査を紹介する。 予習：テキストP70～74を読む。前回配布した知能検査のプリントを読んでくる。 F：あり 宿題：第18回で学習した病棟保育士の仕事について、感想をレポート用紙にまとめて提出すること。800文字～1000文字程度。 C：中 遠城寺式発達検査に記入をしてみる E：あり</p>
第20回	<p>知的障害児への支援 知的障害児への保育現場での基本的な支援方法を学ぶ。前回配布した遠城寺式分析的発達検査用紙を持参のこと。 予習：第6回のノートをよく読んでくること。テキストP81～84を精読してくる。(1時間) C：多 P84のFくんの事例を検討する。遠城寺式発達検査に照らし合わせてみる。F君への支援方法を書き出し、提出する。 E：あり</p>
第21回	<p>発達障害児への支援①自閉症圏の子どもへの対応 自閉症圏の幼児への支援の基本を学ぶ。 予習：第7回のノートをよく見ておくこと。また、テキストP93～97を精読しておく(約1時間) C：多 模擬保育室にて：当日配布するプリントを見て、子ども役と保育者役を決めて声掛けをグループでおこなう。 E：あり</p>
第22回	<p>発達障害児への支援② 注意欠陥多動性障害児への対応 注意欠陥多動性障害の子どもへの支援の基本を学ぶ。 予習：第8回のノートを読み直しておくこと。テキストP98～108を精読しておくこと。(約1時間) C：多 ADHDの子どもへの支援を当日配布するプリントを見てやってみる。次回のロールプレイの準備をする。 E：あり</p>
第23回	<p>発達障害児への支援③自閉症圏、ADHDの子どもへの対応の実践 自閉症圏、ADHDの子どもへの基本的な支援方法を実際に体験する。 予習：グループで自閉症圏、ADHDの子どもへの声掛けの場面設定をしておく。レポート用紙にグループでの計画を書いておく。(約1時間) C：多 模擬保育室でロールプレイ発表の後、グループの計画の用紙に反省と感想をまとめて提出する。 E：あり</p>
第24回	<p>障害児の家庭支援 保護者支援の実際 障害児の保護者支援について実践できるようにする。 予習：第10回のノートを読み直す。テキストP171～179を精読する。P179の演習問題を考えてくる。(約1時間) F：あり 宿題テキストP179の演習問題その2の回答をレポート用紙にまとめて次週の授業で提出すること。 B：中 Eあり</p>
第25回	<p>関係機関・施設との連携と組織活動の実際 障害児の養育のためには保育所・幼稚園のみならず関係機関の連携が必要である。連携機関の種類や役割は既に学習をおこなった。今回は実際に連携するため、その一つの方法として個別の教育支援計画がある。 予習：テキストP184～191を精読しておく。(約1時間) C：中 E：あり</p>
第26回	<p>障害のある幼児の就学支援と特別支援教育 就学は子どもにも保護者にも大きなライフイベントである。障害児の就学には、様々な配慮が必要となる。義務教育の開始にあたって、子どもにとって最善の就学先や形態を選択する。保育者はそのための協力者となる。就学の流れと保育者の役割を学ぶ。 予習：第12回のノートを読み直しておく。P192～200を精読しておくこと。(約1時間) B：小 E：あり</p>
第27回	<p>第27回用のプリントを配布する。軽度発達障害の教育P48～51、P70～73 個別の指導計画①事例をもとにアセスメントをおこなう 個別の指導計画を作成することは、子どもへのかかわり方に道筋をたてるものである。個別の指導計画作成には子どもの状態のアセスメントが必要である。どのような子どもなのか、何が得意で何が苦手かを明らかにする。そのうえで、子どもの生活や保育面で苦戦している部分への対応を考える。様々な角度から子どもを見て、短期・長期の指導計画を立てる。授業では短期の指導計画の作成にむけたアセスメントをおこなう。 予習：第26回で配布したプリントをよく読んでおくこと。テキスト(約1時間) C：多 事例をもとにアセスメントをおこなう。事例は当日紹介する。 E：あり</p>
第28回	<p>個別の指導計画②短期・長期の個別の指導計画を作成する 前回アセスメントを実施した事例について、短期の個別の指導計画を作成する。 短期の個別の指導計画は「より具体的」に目標を決める。「朝、おはよう」と先生に挨拶ができる、など場面を限って具体的な項目をあげる。更にそれができるようにするための具体的な取り組み方法も考えておく。そのような小さな具体的目標の達成や失敗から、徐々に子どもや保護者、保育者が変わっていくことが多い。特別支援教育では「できることからやってみる」「とりあえずやってみる」そしてPDCAサイクルで見直しと改善を続けていく、という視点が大切であ</p>

	<p>る。 予習：前回アセスメントをおこなった事例について、個別の指導計画を記入できるところを書いてくる。（約1時間） C:多 個別の指導計画を各個人で完成させる。翌週発表する内容を簡単に記入する。 E:あり 個別の指導計画③個別の指導計画の発表 個別の指導計画を作成したのちに実施し、その方法の適否を常に振り返る。個人でそしてより良い方法を見つけて、残していくことが大切である。この学習では前回各個人が作成した個別の指導計画の中から、短期の取り組みにを発表する。2名一組となり、それぞれの短期の指導計画の実践場面をロールプレイで発表する。保育演習室でロールプレイ形式で発表をする。 予習：2名一組で、ロールプレイの相談をしておくこと。（約1時間） C:多 模擬保育室で個別の指導計画（短期）の指導方法を一つ発表する。ロールプレイを行う。個別の指導計画を提出する。 E:あり 第30回 後期 まとめと筆記試験 後期14回の学習のまとめをおこなう。重要語句や実践方法のポイントなどを振りかえる。筆記試験を行う。 E:あり</p>
教育目標との関連	<p>保育者として障害児についての正しい理解と、障害児保育の実践は、専門的知識の習得とともに保育現場での適切な対応力が強く求められている。障害の早期発見・早期対応により、予後が大きく異なる可能性を持つためである。保育者の倫理である、子どもへの最善の利益を保障することは障害の有無にかかわらず順守すべき事項である。 障害のある子どもも健常な子どもも、安心・安全に園生活を過ごせるような環境調整と保育者の知識の向上は近喫の課題である。 障害児保育については、健常児の発育・発達を熟知した上で理解していく内容である。従って健常児の理解と合わせて障害児保育を学ぶために、子どもの発達全般をしっかりと学ぶことが前提となる。基本的な知識を身に付けて、更に障害児に出会ったときに学習を続けていくことができるように、基礎を身に付けることは大切である。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 障害理解への正しい考え方を身に付ける。 2. 障害児への個別支援の実践に向け、適切な方法や時期を判断ができる。 3. 個々の障害に合わせた支援計画作成、実践できる。 4. 障害や障害児に関わる法律、医学情報は日々変化している。情報を自ら取得する意欲と方法を身に付ける。 5. 子どもの最善の利益と苦しんでいる保護者への思いを常に抱き、保育者という専門職の倫理に沿って学習内容を実践する態度。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 50% 前期・後期2度の筆記試験を実施する。授業内容全般についての理解・知識の定着を評価する。 提出課題・発表 30% レポート提出（個人レポート9回、グループレポート2回）及びロールプレイ発表4回の評価 平常点評価 20% 授業理解、意欲、授業中の規約厳守について授業態度を評価する。私語や居眠り、ノートを取らないなどは厳格に評価をつける。</p>
教科書	<p>障害児保育 萌文書院 最新刊（2018年4月発行） 監修 藤永 保</p>
参考書	<p>授業内で紹介</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>各回の予習は標記の通りである。障害児保育の学習は次々と新しく耳慣れない言葉が出てくるため、予習と復習は必ず行こと。授業はシラバスに沿っておこなう。時にシラバスに掲載されていない内容を取り扱う場合もありうるので、真剣に取り組み聞き漏らさないようにすること。授業ノートやメモは必ず取る。復習は新しい用語や重要語句の整理を中心に行う。授業を真剣に聞き、ノートや記録があれば30分ほどできると思われる。</p>
履修上の注意、条件等	<p>障害は他人事ではなく、誰にでもおこりうることである。障害児の問題を自分自身の問題でもあると捉え、真剣に学んでほしい。障害児・者のみならず身近にいる高齢者や病気のある人なども含めて、ともに暮らす社会の一員と考えられるようになってほしい。そうした公平な見方、助け合う気持ちを持ち、更に保育の専門家としての知識や技術を身に付けるための基礎科目であると理解して学習をしてほしい。授業中の私語・居眠り・携帯電話・内職・離席、その他のビジネスマナー違反（派手な化粧や保育に適さない服装、爪等）は、保育の専門家としての品格を貶める。特にロールプレイの時は服装や化粧などが保育者としてふさわしいものであることを要求する。これらの行為については厳重に注意をし、厳格に評価をする。</p>
オフィスアワー	<p>授業前に質問や相談を受け付けます。次の授業への移動がない場合は授業後の質問は可能です。</p>
備考・メッセージ	<p>社会全体がノーマライゼーションの実現に向けて動いています。とはいえ、様々な意見や考え方があるのは事実です。授業においては、差別的な発言を除き、自由な意見交換や疑問をだしていただきます。特に発達障害は外見からはわかりにくく、障害による困難さも理解されにくいものです。幼児の中に、生活や保育の上での困難さを自分で言えない発達障害のある幼児も多数いると思われれます。そうした「自分では言えない」子どもたちの困難さを理解し、その保護者に寄り添うのは身近にいる保育者です。あなたの一言で気持ちが軽くなり、希望をもって育児に励むことのできる保護者もいると思います。障害児保育とはそうした「困難さ」を持つ親子に対する支援であり、子どもに最善の環境を提供するための科目です。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
久嶋佳奈			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	家庭での保育を支援するための理論と技術を学びます。保護者支援に関わる包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術の基礎を基に、具体的な保育相談事例を通して、保護者支援が必要とされる背景と現状に焦点をあてて講義します。			
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	第 1 回 保育相談支援の意義と基本的視点 保育相談支援の意義と基本的視点について、保育相談支援とはどのような性質を示すものかを理解する。児童福祉法第 18 条の 4 の規定を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、保育士は倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、その職責を遂行するための向上に絶えず努めなければならない。本講義では、保育相談支援の意義と基本的視点を中心に保育専門職の立場として、寄り添える支援について学びます。事前学習：保育相談支援に必要なとされるニーズは何かを考える。 A：中 D：少 F：あり（自己学習）		
	第2回	第 2 回 保育所等の特性を生かした支援の原理 保護者支援の原理・原則について学ぶ。ソーシャルワークを活用した望ましい支援について、そして保育所の社会的責任について理解する。事前学習：保育者の専門性を活かした保護者支援についての特徴と、求められる専門性についてまとめておく。 B：中 E：少 F：あり（自己学習）		
	第3回	第 3 回 保育の専門性と保護者の養育力向上に資する支援 保育相談支援の演習として事例検討を行い、行動・発想の変容について学ぶ。事前学習：家庭の教育力向上のための具体的方策にはどのような支援があるかを列挙し、保育所の特性を活かした子育て支援についてまとめておくこと。 A：中 B：少 F：あり（自己学習）		
	第4回	第 4 回 保育相談支援の倫理とリスクマネジメント 保育所あるいは施設における保育者は、その役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもの保育、保護者の相談支援に当たらなければならない。事前学習：専門職が遵守すべき行動規範や義務、望ましい態度について、保育者が倫理的ジレンマに陥らないために何を学び解釈するべきかをまとめておく。 A：中 D：少 F：あり（自己学習） 発表		
	第5回	第 5 回 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力 子どもや家庭をめぐる問題は複雑・多様化しており、問題が深刻化する前に保育者は早期発見、早期対応をし、関係機関等との連携・協力をもって子どもや家庭に対する細かな支援が求められる。児童福祉施設の一つでもある保育所においてもそれぞれの分野の機関と連携を図り、各機関とネットワークを構築して、その活用を図ることが必要とされている。事前学習：保育所が行う地域子育て支援の機能について、自身の実習経験を振り返り、『公的な社会資源』と、『非公的な社会資源』について、代表的な資源をそれぞれ5つ以上あげてくる。 B：中 F：あり（提出）		
	第6回	第 6 回 子どもの最善の利益と福祉の重視 児童福祉法（第三十六条～四十四条）に定めのある児童福祉施設に勤める保育者及び職員は、その専門性から養護・保護する子どもの福祉を重視し、「子どもの最善の利益」を考慮することが求められる。保育所職員に求められる人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の倫理観、人間性並びに保育所職員としての職務、及び責任の理解と自覚が基盤となる。事前学習：「子どもの権利条約」（ユニセフ）には4つの柱、1)生きる権利、2)守られる権利、3)育つ権利、4)参加する権利、と呼ばれる権利がある。どのような権利であるかを一読しておくこと。資料：虐待に至る恐れのある要因、虐待のリスクとして留意すべき点 については危機管理の一環として精読しておく。演習：事前課題『子どもの権利と人権』について配布プリントを基にグループワークでまとめ発表する。 A：中 D：少 F：あり（発表）		
	第7回	第 7 回 保護者との信頼関係の構築 保育相談支援における保育者と保護者の関係性は、多様化する家庭の在り方に応じて、それぞれの家庭環境に配慮しながら、必要に応じた支援をしていくことが保育者には求められている。事前学習：先に学習した第2回 保育相談支援の基本想定される保護者支援の展開において、ラポールを形成することに必要な技術・対応をまとめておく。ソーシャルワークを活用したバイステック（Biestek, F. P）による望ましい援助について、そして保育所の社会的責任についても理解しておくこと。演習：グループワークを行う。 A：多		
	第8回	第 8 回 保護者支援 乳幼児期の子どもは成長著しく、それに伴い子どもから発信する欲求・要求が時には保護者が想定する水準以上に重く親へ向けられる場合がある。保育者は観察眼をもって保護者を支援するにあたり、日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るようその機会を個別に知る必要がある。事前学習：保育の活動に対する保護者の積極的な参加は、保護者の子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促すこととして何が考えられるか（保護者の生活形態が異なることを踏まえ、全ての保護者の相互理解が深まるように配慮すること）。その際、保護者同士が子育てに対する新たな考えに出会い、気付き合えるよう工夫するにはどのような技術・方法が考えられるか。提出課題として30字程度でまとめる。 A：多 B：小 F：あり（提出）		
	第9回	第 9 回 保護者支援の方法と技術 保護者支援を行うにあたり、支援となる課題の「主体」を問い直し、構造的にとらえることが課		

	<p>題解決の手助けとなる。事前課題：保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、保護者の自己決定を尊重し、保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めるには、どのような方法と技術が考えられるか。自分なりの方法を100字以内でまとめ、グループワーク後発表とする。 A:多 B:小 F:あり(発表)</p> <p>第10回 第10回 保育所における保育相談支援(指導)の実際 保育相談支援の展開プロセスを理解し、省察的实践という立場から専門職としての支援について理解しておく。乳児から就学前の幼児の保護・養護の専門家として6年間子どもを保育する、あるいは一時支援活動を行うなどの専門性から保護者支援を行う観点は様々である。事前学習：保育所における保育相談支援の実際について保護者から受ける相談で最も頻繁に受ける内容を年齢別に1つ以上を挙げ、グループワーク発表する。 A:多 B:小 F:あり(提出)</p> <p>第11回 第11回 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス 保護者支援の計画とは、保護者や子どもが抱える生活上の困難や問題に対して支援の目標を定め明確化し、その達成のために保育者や関係者が関わる指標が得られるものでなくてはならない。保育の現場では、社会的評価・自己評価など、様々な計画、記録、評価、カンファレンスは常に行われている。事前学習：支援の評価において、結果を検証する方法として何が指標となるか、検証するためにはどのようなことが必要か 50字以内でまとめる。 B:中 F:あり(自己学習)</p> <p>第12回 第12回 保育所における特別な対応を要する家庭への支援 保育所が担う社会的役割は多岐にわたり、保育士はそれらのニーズに対応する保育技術だけでなく、家庭の状況に応じた支援が行えるよう幅広い見識を培っておかなければならない。保育所・施設などは、保護者の状況に配慮するとともに、園児の福祉が尊重されるよう努め、園児の生活の連続性を考慮する必要がある。この講義では、特別な対応を要する家庭への支援を理解する。事前学習：保育所における特別な対応を要する家庭へのリテラシーを通してできる支援についてまとめる。 演習：保育所における特別な対応を要する家庭への支援方法を発表。 A:中 D:小 F:あり(発表)</p> <p>第13回 第13回 児童福祉施設における保育相談支援 社会的養護・保護にある子どもたちの心身の状況と対応について理解したうえで、保護者相談支援の特色についてその理論と実際を取り上げる。事前学習：児童福祉施設における保育相談支援と、地域活動における保護者対象の保育相談支援の違いは何か。また、児童福祉施設に配置される職員との連携と役割についてまとめること。 D:中 F:あり(提出)</p> <p>第14回 第14回 児童福祉施設における保育相談支援の実践内容 保育者は児童福祉施設や保護者の特性を十分に考慮し、配慮したうえで専門的立場から子どもや保護者に接することが求められる。また、地域の要保護児童への対応などは、関係機関等と連携し、協力に基づいた支援を行うことから、さまざまな課題を抱える支援の実践について理解する。事前学習：児童福祉法による施設についての目的と、施設種別に見る保護者の特性から、前回の課題を含め配慮すべきことをまとめ、グループワーク後に発表とする。 A:中 D:小 F:あり(発表)</p> <p>第15回 第15回 総論・試験 保育者に必要な資質として、専門家としての確かな力量と、「総合的な人間力」があげられる。また、保育者には、不断に最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくことが重要であり、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められている。子どもを中心とした専門職の立場から、保育相談支援を総括して、今まで学んできたことをグループワークで振り返り、総論として質疑応答の場とする。事前学習：今までのグループワークを通して学んだことや、興味関心を寄せた項目についてまとめておくこと。保護者支援を通して行われる幼児からのキャリア教育について考えをまとめること。 A:多 B:小 F:あり(自己学習)</p>
教育目標との関連	家庭での保育を支援するための理論と技術を学びます。子どもの発達を考慮した上での子どもの関わり、子どものヘルスプロモーションについて学び、保育所等の環境特性や、保育の専門的技術を用いて行う保護者支援の内容について学びます。具体的な保育相談事例を通して、相談支援の実践力を身につけるとともに、必要な態度を育むことを期待しています。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育者支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。
評価方法および評価基準	出席状況 15% リアクションペーパー 15% 学期末試験 70%
教科書	柏女 霊峰、橋本 真紀 『保育相談支援保育相談支援』ミネルヴァ書房 (2016) 定価2000円
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育所保育指針』厚生労働省 フレーベル館 (2017/05) ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 (2017/05) ・ドナルド・A. ショーン(柳沢昌一・三輪建二 訳)『省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房(2007) ISBN-10: 4902455110 <p>上記に加え、参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。紹介された本はなるべく一度は図書館などで目を通すことが望ましい。</p>
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	<p>【受講開始前】『児童家庭福祉』、『社会的養護内容』の講義内容をベースにし、支援実践できるための教科目間の関連性や連続性などを復習しておくこと。授業ノート、配布資料、参考文献等を読み直して、保育相談支援とは何かを自分で考える。また、関心を持った事は自ら文献を調べ、思考を深めてそれをノートに書き留めておく。</p> <p>【受講開始直後】事前学習のミニテスト実施。次回の予習指示にしたがって、学習を進めておくこと。</p>
履修上の注意、条件等	グループワークを実施します。個々の意見を踏襲しつつ、子どもの支援について考えを広めていく授業の展開と、関連テーマのフィールド調査を含むレポート作成を行います。社会問題に関心を持ち、自発性と創造性を発揮し、意欲的な参加を望みます。授業への参加、レポート締め切りは時間や期日を守りましょう。第1回目と最終回に習熟度に関するアンケート(セルフスティーム・永続感、ストレス対処能力を測定)を行います。

オフィスアワー	授業前後に教室で質問を受けます。
備考・メッセージ	保育者としての心の豊かさが保護者と寄り添える支援に繋がります。子ども達の心の声に耳を傾け、子どもたち一人ひとりに寄り添った保育実践が行えるよう、保育に関わる様々な問題や課題、動向を国内外の文献・研究資料から把握するとともに、現代的保育課題について、具体的な事実をもとに批判的に議論していきましょう。

講義科目名称：教育職の研究

授業コード：

英文科目名称：Approach to Teacher's Competency in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業選択、幼免必修
担当教員			
森下 匡子、福地 昭輝			
授業形態：講義	担当形態：複数 オムニバス		

講義概要	<p>「教育職の研究」は、教職の意義、教員の役割及び教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）について学ぶ。保育に携わる者として社会が求める教職のありかたについては、各時代の教育法規に規定され、教育制度や教育目標達成に向けて専門職としての保育者の専門性、カリキュラム全体を通して履修科目の振り返りを行い、保育者としてあるべき姿について考えを深める。幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力の向上をめざす。</p> <p>他の科目との関連：「教育原理で学ぶ教職の意義、教職の歴史、教員養成の変遷などの項目をさらに掘り下げて学び、幼児教育者としての資質、求められる役割について習得する。」また、教育実践能力に関しては実習関連科目に深くかかわる。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>教職とは何か</p> <p>教員の職務の意義や特質について学び、理解を深める。さらに自分自身がなぜ教職を目指したのか、その動機について振り返る。</p> <p>予習：教育職の研究のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間）</p> <p>A：中 E：あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク</p> <p>B：ディスカッション</p> <p>C：フィールドワーク</p> <p>D：プレゼンテーション</p> <p>E：振り返り</p> <p>F：宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上</p> <p>中：15分～44分</p> <p>少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>幼稚園教諭の1日の仕事</p> <p>視聴覚教材の視聴を通して幼稚園における職務内容について学び理解を深める。</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間）</p> <p>B：中 E：あり</p>	
	第3回	<p>保育者に求められる資質とは</p> <p>保育者に求められる資質について整理し、学生生活をいかに過ごし学ぶべきことは何かについて考える。</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。</p> <p>保育者論で考えた保育者に求められる資質と能力について資料を読み直し思い出しておく。（約2時間）</p> <p>A：多 E：あり</p> <p>【振り返り①】第1回～第3回の授業の振り返り小テスト(例:キーワードによる説明文)にて行う。</p>	
	第4回	<p>保育者の資質と求められる役割①</p> <p>保育現場の様子を記録した視聴覚教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児）</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。</p> <p>3歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約2時間）</p> <p>A：中 E：あり</p>	
	第5回	<p>保育者の資質と求められる役割②</p> <p>保育現場の様子を記録した視聴覚教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（4歳児）</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。</p> <p>4歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約2時間）</p> <p>A：中 E：あり</p>	
	第6回	<p>保育者の資質と求められる役割③</p> <p>保育現場の様子を記録した視聴覚教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（5歳児）</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。</p> <p>5歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約2時間）</p> <p>A：中 E：あり</p> <p>【振り返り②】第4回～第6回の振り返り小テスト。幼児の発達理解と保育者のかかわり方からの二つの視点から気づきと関心度や課題を持って、さらに深めたいこと、ループリックを設定し、自己評価をする。</p>	
	第7回	<p>保育環境の構成①</p> <p>幼児にとって園の室内や園庭の固定遊具やあそびの遊具・道具などの使用は、心身の発達を促す大切な環境である。遊具・活動・発達の関連と安全性を結びつけてとらえておくことを学ぶ。園の活動がわかるドキュメンタリーを視聴をしてグループで話し合い学びを深める。</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間）</p> <p>A：多 E：あり</p>	
	第8回	<p>保育環境の構成②</p> <p>日常の保育中の事故に着目して、どのような事故が実際に報告されているのか、事故を防ぐために、保育者としてどのような配慮が求められるのかについて学ぶ。</p> <p>予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。</p> <p>新聞等のニュースで保育事故を扱った記事があったら集めておくこと。（約2時間）</p>	
	第9回	<p>幼稚園・保育所と地域社会</p> <p>幼児の通園地域は、家族と共に過ごす機会が多く、地域から様々な学びがあふれている。行事等のかかわりを考察し、地域社会とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。</p>	

	<p>予習・復習：前回の復習として教科書P〇〇～P〇〇、資料〇〇を読んでおくこと。 観点として、保育者として専門的な能力から設定された実践能力目標到達度をチェックし、半年後に行う初めての実習の場で、取り組む課題を明らかにすること。 課題：休日や冬期休暇を利用して、自宅周辺、実習園付近地域を町のつくりや伝統行事および園外保育の場としてのフィールド調査を行う。（約2時間） A：多 E：あり</p> <p>【振り返り③】第7回～第9回の振り返りを小テスト(キーワードによる説明文+目標到達度)を行う。</p> <p>第10回 現代日本の教育課題と職務内容 ・教育におけるジェンダー、子どもの人権等の教育課題について学ぶ。 ・子育て支援のありかたを教師側から考察する。 保育の最新情報1. 幼稚園教育要領および保育所保育指針の改訂のポイント等について学ぶ。幼保連携からの一体化の流れにおいて子育て三法の教育政策と子育て支援拠点としてのありかたを学ぶ。 保育の最新情報2. 小1プロブレム、異学年異校種交流などを話題とした幼稚園・保育所と小学校との接続と望ましい連携について考察する。（約1時間） E：あり F：あり</p> <p>第11回 世界の保育実践から 世界のすぐれた保育実践から保育者としてのあるべき姿を学び、自分の理想の保育者像を描く際の一助とする。 予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。 前回配布プリントをあらかじめ読んでおくこと。（約2時間） F：あり</p> <p>第12回 日本の保育実践から 日本のすぐれた保育実践から保育者としてのあるべき姿を学び、自分の理想の保育者像を描く際の一助とする。 予習、復習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。 前回配布プリントをあらかじめ読んでおくこと。（約2時間） F：あり</p> <p>第13回 私の理想の保育者像① 自分自身が考える理想の保育者像について研究し、自分なりに考えをまとめて発表する。 予習、復習：理想の保育者像について発表できるように準備をしておくこと。（約2時間） D：多 E：あり</p> <p>第14回 私の理想の保育者像② 自分自身が考える理想の保育者像について研究し、自分なりに考えをまとめて発表する。 予習、復習：理想の保育者像について発表できるように準備をしておくこと。（約2時間） D：多 E：あり</p> <p>第15回 まとめ 教育者として 理想の保育者に近づくために、具体的にどのような自己課題を設定したらよいか自分なりに考えレポートを作成する。 実践力確認シートに記入をする。授業の評価を行う。 A：中 E：あり</p>
教育目標との関連	<p>幼児にとり、初めての集団生活の場となる幼稚園は、友だちや保育者と一緒に楽しく伸びやかに園生活を送れるように環境を整え、教育的愛情を持ち心をこめて関わるのが求められる。子どもの個性を見つめながら、その発達を細やかに支援することができるようになるために、学生は本学の教育目標でもある、知識と教養、豊かな感性を身につけ、さらに保育者としての実践的な技能を習得しなければならない。何よりも教員として幼児の成長を支えていくために、健全な心と体に支えられた強い意志の力が必要なのである。このように、本学の教育目標の達成と本科目により示される教員の資質及び能力は密接に関わっているのである。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 教員の職務の意義や内容について理解できるようになる。 2. 教員の職務の意義や内容について自分なりに考察することができるようになる。 4. 保育現場で働いた経験のある講師により提供される話題を通して教育に対してより身近な関心を持つようになり、教職に対する意欲が高められる。 5. 保育現場で教員として常に責任感を持ち行動できるよう自覚が促される。</p>
評価方法および評価基準	<p>振り返り①②③を合わせた評価 各20% 提出課題 30% 課題第〇回の授業で指示します。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。 振り返り 10% 毎回の授業の中で授業の振り返りを実施します。授業の理解度や授業の感想などを入力しますが、そこでの積極性などを評価します。</p>
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』
参考書	秋田喜代美『今に生きる保育者論』第3版、みらい、2016 他
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。
オフィスアワー	研究室・講師室にて受け付ける。時間及び場所は教務掲示板または研究室で確認すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
富金原光秀			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>現代の幼児教育に必要な保育・教育方法並びに技術の習得が喫緊の課題となる。本授業では、まず西洋と日本における教育方法の歴史の変遷について理解し、教育方法の歴史的意義や基礎的知識を習得する。次に、基本となる学習指導理論と基礎的技術を踏まえつつ、教育目標、内容、評価との関連性について理解を深める。続いて保育・教育現場における授業設計の方法と情報機器及び教材や教具の効果的な活用方法についてアクティブラーニング方式の授業を展開し、実際に指導計画を立案・発表する。後半では、子どもの発達過程に基づいた幼児理解と指導や援助のあり方について見識を深めながら、世界の幼児教育の現代的潮流、幼児教育と小学校以降の教育連携について考察し、今後の教育方法の課題と展望について検討する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>「西洋と日本における教育理論及び教育方法の歴史的展開」 現代の幼児教育に必要な保育・教育方法並びに技術の習得が教職において喫緊の課題となる。初回の授業では、まず西洋・日本における教育方法の歴史の変遷について理解し、ヘルバルト・デューイ・スキナー・ブルナーらによる系統的学習、問題解決的学習、発見的学習の指導形態と過程を理解する。また、フレーベル・モンテッソーリ・ボルノー・倉橋惣三など近代における幼児教育発展の歴史、保育・教育方法や技術についての学習指導理論や基礎的知識を習得する。 予習：教科書第1章を読んで、重要な事項について要点をまとめる。(約2時間) B：少</p>	
	第2回	<p>「授業・保育を構成する単元設定、使用教材、授業(活動)の組み立て方」 授業を計画する際に、なにを、どのように、どのような手順で構成するのか、教育目標の設定から単元についての授業設計と、使用教材や教具、指導形態や指導過程にいたる学習指導について、授業を構成する要素や方法について理解する。 予習、復習：前回学んだ学習指導理論について要点をまとめる。授業計画の手順について教科書・資料を確認しておく。(約2時間) B：少</p>	
	第3回	<p>「学習指導・生徒(幼児)指導における基礎的技術と授業設計(話法・板書等)」 教職の資質と能力にかかわる授業の基礎的技術について、発問や指示の仕方、話法や板書を含む授業展開や指導方法の確認と、幼少期の活動内容や授業を適切に設計する方法について理解する。 予習、復習：一斉・グループ・個別指導の利点と問題点について教科書・資料等を確認し、重要な事項について要点をまとめる。改訂幼稚園教育要領の総則を読んでおく。(約2時間) B：少 E：あり</p>	
	第4回	<p>【振り返り①】第1回～第3回までの授業の振り返り、小テストを実施(重要な語句の説明、記述式問題等) 「改訂幼稚園教育要領、学習指導要領における基本方針及び保育・教育方法」 改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、学習指導要領から、保育・教育の基本事項及び改訂のポイントについて理解する。また、「生きる力」「主体的・対話的で深い学び」等、保・幼・小に共通する教育理念の確認、幼児の生活や遊びを通しての指導方法、環境を通して行う教育方法について理解を深める。 予習、復習：改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針の主な変更点について要点をまとめる。(約1時間) B：中</p>	
	第5回	<p>「幼少期の学習指導の形態と保育・教育方法(主体的・対話的な学習について)」 幼少期のさまざまな保育・教育形態の特徴を理解し、目的や状況に応じた保育形態の選択や、子どもたちの興味、関心、意欲を引き出すための保育・教育の方法・教材づくりについてグループワーク及びディスカッションを行う。また情報機器を効果的に活用した主体的・対話的な授業デザインの保育方法について、一例を示しながら理解を深める。 予習、復習：保育形態や方法の種類及びそれらの利点と問題点について要点をまとめる。(約1時間) A：中 B：少</p>	
	第6回	<p>「授業・保育評価の目的・役割・対象・方法(客観的基準・個別評価軸・評価の収集)」 授業・保育活動の何を、どう評価するのかについて、学習目標に応じた評価方法の種類と選択、評価・振り返りの際の記録の重要性や保存方法について理解を深める。また、指導過程の成果や授業設計についての省察・改善に向けた自己評価の目的・役割についてディスカッションを行い、保育の質の向上について考察する。 予習、復習：幼児教育の適切な評価のあり方について検討し、その理由を含めてまとめる。(約1時間) B：中 E：あり</p>	
	第7回	<p>【振り返り②】第4回～第6回までの授業の振り返り、小テストを実施(重要な語句の説明、記述式問題等) 「保育指導計画立案の指導目標及び作成手順(PDCA・PDSサイクルの実施)」 改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、長期・短期指導計画及び指導案と作成上の基本事項、留意事項を確認し、園児の理解にそった計画的な評価のあり方について理解する。また、PDCA・PDSの一連のサイクルについて言及し、保育目標、内容、評価との関連、指導と評価の一体化の重要性を理解する。</p>	

	<p>予習、復習：改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育指導計画の基本事項を読んでおく。保育目標、内容、評価との関連について要点をまとめる。(約2時間) B：少</p> <p>第8回 「情報メディア・情報機器を効果的に活用した学習方法」 教育メディアの発達と技術の革新、情報メディアや情報機器の効果的活用について理解を深める。ICTを活用した情報機器の教材など、具体例を示しながら、情報メディアの選択や効果的な教材の活用についてグループワーク、ディスカッションを交え考察・検討する。 予習、復習：グループディスカッションで検討した事項の要点について各自まとめる。情報社会の問題点について考察する。(約1時間) A：中 B：少</p> <p>第9回 「情報メディアの活用とメディアリテラシー（情報モラル教育・セキュリティ対策）」 情報社会における光と影、情報社会におけるリテラシー向上の視点、情報セキュリティ対策、ネット上のトラブル対策やいじめ対応を含む情報モラル教育について、昨今の社会的な事件や事例を踏まえながら、今後の情報教育の目標とメディアリテラシー教育の必要性について考察する。 予習、復習：ネットや新聞記事から、情報モラルに関する記事を探し、保存・保管しておく。(約1時間) A：中 B：少 E：あり</p> <p>【振り返り③】第7回～第9回までの授業の振り返り小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>第10回 「情報機器を効果的に活用した保育方法の考察と学習教材の作成」 ICT利用の方法と関連教材について概観し、情報機器を効果的に活用した保育方法を考案する。保育の部分活動を想定しながら、計画（Plan）・実施（Do）・評価（See）各3段階サイクルのICTの活用場面について、それぞれグループごとにディスカッションを行い、Web等からヒントを得ながら学習教材を作成する。 予習、復習：グループごとに考案した学習教材の保育活動を構想し、要点をまとめ提出する。(約1時間) A：中 B：少 D：中</p> <p>第11回 「情報機器を効果的に活用した模擬授業の実施と保育指導案の作成」 前回の授業に引き続き、情報機器を効果的に活用した保育活動を想定し、グループごとに作成した学習教材を用いて模擬授業を実施。その後、振り返りを行い、ルーブリックを設定したパフォーマンス評価を行い、保育指導案を作成する。 提出課題：グループごとに考案した学習教材を用いた部分実習指導案を配布資料をもとに作成する。 予習、復習：グループごとに考案した学習教材を用いた部分実習指導案を指定した用紙に各自作成する。第14回目の授業時迄に提出する。(約2時間)</p> <p>第12回 「世界の保育方法とその潮流（インストラクショナルデザイン等による授業設計）」 テフアリキ、レッジョエミリア、モンテッソーリ等世界の保育方法の特徴について概観する。また、行動主義や認知主義をはじめ、ヴィゴツキーの社会構成主義をICT教育に活用したCSCW、エンゲストロームの活動理論等、世界の潮流となる学習理論や手法を概観するとともに、システム工学の手法を取り入れたインストラクショナルデザインに基づく魅力ある授業設計や教材研究について、ガニエの9教授事象を交えながら分析する。 予習、復習：興味を示した世界の保育方法を1つ取り上げ、ネットや資料等の情報を収集し、要点をまとめる。(約2時間) B：少 E：あり</p> <p>【振り返り④】第10回～第12回までの授業の振り返り小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>第13回 「子どもの発達過程から見る幼児教育の指導・援助方法（子ども理解・特別支援）」 子どもの発達過程を踏まえ、特別な配慮を必要とする園児への支援・援助方法、個別の教育及び保育支援計画の作成、保護者支援や保護者との連携など、子ども理解を深めるための保育者の基本姿勢を確認する。また、子どもをよりよく理解するためのインクルーシブ保育の意義や特別支援教育に関する支援の方法について理解を深める。 予習、復習：特別な配慮を必要とする園児への支援・援助方法について教科書・資料を読み直し要点をまとめる。(約1時間)</p> <p>第14回 「幼児教育の現代的課題と小学校（就学後）教育の連携について」 子どもの健康及び安全対策、災害等危機管理対応策、子育て支援をはじめ多様な保育サービスやニーズの現状とその対応方法、特別支援教育や保・幼・小の連携、情報化や社会の国際化等々、今後、保育者が求められる資質や専門性について、グループワークやディスカッションを交えながら理解を深める。 予習、復習：幼児教育の現代的問題から一つ取り上げ、ネットや新聞記事を調査し、問題点や改善点についてまとめる。(約1時間) A：中 B：少 E：あり</p> <p>【振り返り⑤】第13回、第14回の授業の振り返り小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>第15回 「授業総括と学習到達度の確認テスト・各単元の解説」 授業総括となる学習到達度の確認テストを実施、また各単元の振り返りと解説、各自の到達度のチェックを行う。 実践力確認シートに記入する。授業の評価を行う。 B：少 E：あり</p>
教育目標との関連	<p>「保育・教育方法技術論」は保育活動における基礎的な学習理論、及び具体的な保育方法や技術についての内容とその教材研究や指導計画を学習する教科である。本科目を通じて、幼児期の発達段階を踏まえた保育の方法と技術、指導・援助の方法について探求する手がかりにしてほしい。保育者として自信をもって子どもとかわり、ともに成長していくことができるように、学生は本学の教育目標である幼児教育に関する専門的知識と技術を習得し、日本や世界の子どもたちの教育活動に広く関心・意欲をもって人間形成に貢献できる人格を備えることが求められる。</p> <p>保育・教育の方法及び技術で示される教育目標は今後社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育てると同時に、人間性豊かで知性、感性、意志を備えた魅力ある保育者の資質と能力に関わる。</p>

到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 西洋と日本における保育・教育方法の歴史的展開について理解する。 2. 基礎的な学習指導理論及び技術、学習形態や指導・援助方法について説明できる。 3. 情報機器及び教材・教具を効果的に活用した保育指導案を作成し模擬授業を展開できる。 4. インストラクショナルデザインに基づく魅力的な授業設計を意欲をもって提案できる。 5. 幼児期の発達過程に応じた保育方法を理解し教職者として自覚ある態度を養う。
評価方法および評価基準	定期試験 (40%) 15回目の授業時に、教科書・資料等を参考にして回答する理解度確認の試験 (重要な語句の説明、記述式問題等) 振り返り (30%) ①②③④⑤小テストを合わせた評価 毎回の授業の中で振り返りを行う。 提出課題 (30%) グループワーク(AL)の際に要点をまとめたレポート課題の提出 情報機器及び保育教材・教具を効果的に活用した保育指導案の提出
教科書	『新しい保育・幼児教育方法』 第4刷 広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2013
参考書	『幼稚園教育要領』 文部科学省 『保育所保育指針』 厚生労働省 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』 内閣府 フレーベル館 2017 『授業設計マニュアルVer2～教師のためのインストラクショナルデザイン～』 稲垣忠・鈴木克明 北大路書房 2015 「必要に応じて資料・プリントを配布する」
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教職者をめざす学生として、自覚、自律のある態度をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	研究室で質問・相談を受け付ける。時間及び場所は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	英文科目名称 : Child care and education process engineering theory

講義科目名称： 幼児理解

授業コード：

英文科目名称： Ways of Understanding Young Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士選択必修
担当教員			
森 眞理、福田 泰雅			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス		

講義概要	幼児教育の礎となる幼児理解について、子どもの発達、遊びと生活の意味と意義を理論と実践から学び、実践者としての基礎力を養う。また、園生活で生じる子どもの葛藤やつまずきについて理解し、関わりのあり方について考える。さらに、幼児理解に欠かせない保護者との連携や子育て支援の意義と方法について学ぶ。		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>イントロダクション 幼児理解の意味と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児理解の意義・実践・評価の関係を学ぶ ・ 授業説明・担当教員紹介 <p>A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p> <p>予習：シラバスを読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間）</p>	
	第2回	<p>幼児の発達理解：発達観と幼児理解の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども館・発達観と幼児理解の関係性、研究や統計の読み方と幼児理解の関係性について学ぶ <p>A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p> <p>予習：配布資料を読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（2時間）</p>	
	第3回	<p>幼児理解と人間関係：幼児間、保護者、保育者との関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを取り巻く人間関係とそのあり方が及ぼす幼児の自己理解と他者理解について考える <p>A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>予習：幼児期の遊びを持参（2時間） 復習：学びの振り返り（1時間）</p>	
	第4回	<p>子どもの発達と遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育における「遊び」の意義・意味と発達との関係性について体験的学びから考える <p>A：多 B：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>予習：幼児期の遊びを持参（2時間） 復習：学びの振り返り（2時間）</p>	
	第5回	<p>子どもの葛藤・つまずきと幼児理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものつまずきを子どもの気質と周りの人間関係から学び考える <p>A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>予習：事例研究に取り組む（1時間） 復習：ミニテストに備える（2時間）</p>	
	第6回	<p>特別なニーズ（権利）を有する子どもの理解と保育者 *ミニテスト予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの特質について理解を深め、関わる保育者の知識・姿勢・スキルを学ぶ。 <p>A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p> <p>予習：ミニテストに備える（2時間） 復習：テストの振り返り（1時間）</p>	
	第7回	<p>観察・記録・評価・考察①：観察・記録の意味と手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の姿の観察と記録の意味とその手法について実践的に学ぶ <p>A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p> <p>予習：文献を読む（1時間） 復習：ワークシートに取り組む（2時間）</p>	

	<p>第8回 観察・記録・評価・考察②：プロセスの学びと分かち合い ・幼児理解のプロセスについてグループ協議等から実践的に学び、表す力を養う A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり 予習：文献を読む（1時間） 復習：ワークシートに取り組む（2時間）</p> <p>第9回 観察・記録・評価・考察③：評価の意味と手法 ・評価のあり方と意味について学び、幼児理解の意義と保育との関係性について考える A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：文献を読む（1時間） 復習：ワークシートに取り組む（2時間）</p> <p>第10回 観察・記録・評価・考察④：グループ協議と幼児理解再考察 ・保育者の意義・役割（働き）への理解を深める ・発表と話し合いを通して、幼児理解の多様性と可能性について意識を高め、考える。 A：少 B：少 D：多 E：あり F：あり 予習：ワークシートを持参（1時間） 復習：学びの振り返り（2時間）</p> <p>第11回 子育てに関する現代の課題 ・虐待、孤立（無縁社会）、家庭等幼児理解をめぐる現代社会の課題について学び、保育者としての当事者意識を高める A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：ミニテスト準備（1時間） 復習：個人ノート整理（2時間） ★ミニテスト予定</p> <p>第12回 子育て支援と幼児理解：カウンセリングマインド ・幼児理解と子育て支援とに欠かせないカウンセリングマインドの意味と意義の理解と実践的について学ぶ A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり 予習：指定文献を読む（1時間） 復習：学びの振り返り（2時間）</p> <p>第13回 幼児理解と支援体制 ・幼児の幸せと権利の保障のための支援体制について園内、関係専門機関との連携について学ぶ A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：配布資料を読む（1時間半） 復習：授業振り返りと試験準備（2時間）</p> <p>第14回 授業の振り返りと試験 ・今学期の学びを総括し、学びの振り返りとしての試験に臨む A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：すべての授業を振り返る（1時間） 復習：試験を振り返る（2時間）</p> <p>第15回 「学びのふりかえり」と今後の展望 ・今学期の学びを振り返りかえり（試験） ・自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：自分の課題を考える（1時間）</p>
教育目標との関連	幼児理解について知識を理解し、子どもの、同僚、及び保護者と関わる姿勢、スキルを身につける。特に、記録等子ども理解を可視化することを身につける。

到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 子ども理解の意味と意義、発達を理解し、現状の保育の課題との関係性を考察する力を習得すること 2. 子どもの背景である家庭、地域を始めとする関係性に捉え、多角的に物事を捉え考察すること 3. 様々な言葉・方法で幼児理解のあり方について表現すること。 4. 子どもと共に生きる探究者としての保育者のための学びであることを自覚すること 5. 保育の専門家として歩むための学びであると当事者意識を高めること
評価方法および評価基準	授業態度・参加状況・期末試験を総合的に評価。 授業態度・参加への取組み 30% 課題提出・ミニテスト 20% 期末試験 50% *欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる。
教科書	改訂版 保育園における「子どもの育ちと学びの分かち合い」への招き 全国私立保育園連盟
参考書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」他、授業にて提示・紹介します。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎授業テキスト該当箇所を読み、授業に臨むこと。 授業後は、振り返りを行い、不明な用語・内容について、理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・私語・携帯電話等の教室内における使用は不可です。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更もあります。
オフィスアワー	研究室に表示します。
備考・メッセージ	子ども・保育について理解を深めたい！との思いで履修しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
横溝一浩、高島扶貴、森眞理、大見由香、中村麻衣子、福田泰雅、柴田啓一、相澤京子、宮有佳里、近澤友理			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス		

講義概要	<p>実習を含めた、これまでのすべての学修の成果について、保育専門職の視点で振り返りを行い、保育者に求められる資質について理解する。具体的には、履修カルテを用いて客観的に自己フィードバックを行い、これまでの学びを振り返りながら、グループ活動や現場の保育者の講話や指導を通して、保育者として必要な知識や技能を修得し実践力を高めていく。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>保育・教職実践演習のねらい（担当：横溝一浩・高島扶貴） 演習の概要及びねらいについて理解する。 履修カルテの記入・分析を通して、自己課題を明らかにし、不足している知識・技能を補完していくために必要な学習に自ら取り組めるようにする。 予習・復習：シラバスを読み、概要を理解する。 B：中</p> <p>第2回</p> <p>心理学から見た幼児理解（担当：中村麻衣子） 乳幼児発達の道筋を振り返りながら、「こんな時どうすれば良い？」ケースについて考える。例えば、東日本大震災後、津波にあった子どもたちは津波の恐ろしい絵を描いたり、津波ごっこをして人が流されていく遊びを繰り返して行っていた。こんな時、保育者は止めた方が良いの？最新の教育臨床心理学の知見を踏まえ、自分なりの考えを持ち、現場で役立つ引き出しを増やしていく。 予習：これまでの授業や実習の中で、「こんな時どうしたら良いの？」と思ったケースを考えておく。 A：中 B：中 D：少</p> <p>第3回</p> <p>保育の指導力を高める(1)～保育教材としての絵本研究～（担当：相澤京子） 乳幼児発達の道筋を振り返りながら、「こんな時どうすれば良い？」ケースについて考える。例えば、東日本大震災後、津波にあった子どもたちは津波の恐ろしい絵を描いたり、津波ごっこをして人が流されていく遊びを繰り返して行っていた。こんな時、保育者は止めた方が良いの？最新の教育臨床心理学の知見を踏まえ、自分なりの考えを持ち、現場で役立つ引き出しを増やしていく。 予習：これまでの授業や実習の中で、「こんな時どうしたら良いの？」と思ったケースを考えておく。 A：中 B：中 D：少 保育所実習や教育実習での絵本体験を振り返りつつ、子どもの年齢や保育者のねらいに合った絵本の選択方法について、グループディスカッションを通して学ぶ。 保育実習1と教育実習の日記を持参のこと。 予習：実習日記を振り返り、自身や保育者が読み聞かせをした絵本をまとめておくこと。（1時間） 復習：授業で取り上げられた絵本を読んでみる。（1時間） B：多 E：あり</p> <p>第4回</p> <p>保育の指導力を高める(2)～幼児の音楽活動、律動と表現活動～（担当：大見由香） 保育現場における「音」に関する事例を学び、実習で実際に経験した子どもの発達、配慮点や関わり方と照らし合わせてグループディスカッションを行い、発表する。 保育実習1と教育実習の日記を持参のこと。 予習：実習日記を読み返し、音に関する活動や子どもの表現について振り返っておくこと。 A：中 B：中 D：中 E：あり</p> <p>第5回</p> <p>プロジェクト・アプローチとクラス運営（担当：福田泰雅） 幼児教育は、保育者が子どもの発達過程を考慮し、計画を作成し実践することが主流となっている。一方でヴィゴツキーは、発達の最近接領域の概念により、子どもが自ら学べそうだと感じたところで発達が起こるとする。子どもの主体的な学びが叫ばれる中、子どもが学ぼうとするところに沿って保育をデザインし実践するプロジェクト・アプローチによる保育は、子どもの腹の底からの納得による学びとして有効であると考えられる。しかしその実践については、一般的に常に放任であるなど誤解も多く、また保育者主導となっても気付きにくいなど、未だ理論的に明確となっていないのが現状である。しかし、今後ますます生活の中で出会う、不思議さ、驚きに対して問い続け、思考すること、想像し創造することなどおもしろいと思う学びの構えの育成が重要となる。それらに対してプロジェクト・アプローチによる保育は有効であると確信している。この時間ではそれらの概要を解説する。</p> <p>第6回</p> <p>第6回：家庭支援の視点と地域との連携事例（担当：横溝一浩） 保育所における園庭開放や子育てサロン、幼稚園におけるプレ教室など、保育者が地域社会に向けて行う家庭支援の事例から、その役割と機能を理解する。また、地域に向けた家庭支援についての実施案を作成しグループ討議を行う。 予習：現在の居住地の子育て支援の情報（1子育てサロンや園庭開放など）を収集しておくこと。 A：中 B：中 D：中 E：あり</p> <p>第7回</p> <p>保育現場における現代的課題の検討（担当：柴田啓一・横溝一浩） 多角的な観点から、保育現場の課題についての検討を行う。ミクロの観点では、子ども・保護者・家族の課題、メゾの観点では保育所などの社会資源や地域社会などの課題が考えられる。これらの課題についてグループで検討を行い、改善策などのプレゼンテーションを行う。 予習：現在の居住地の子育てに関する相談窓口を全て調べておくこと。 A：中 B：中 D：中 E：あり</p> <p>第8回</p> <p>「遊び」を中心とした指導案の立案（担当：高島扶貴・柴田啓一） 幼児教育の活動の基本である「遊び」の本質について探求し、グループディスカッションを行ったうえで「遊ぶ」に関する指導計画を立案しグループで発表する。 予習・復習：これまでの実習で、子どもがどのような遊びをしていたかシートにまとめる（約2時</p>		

	<p>間) A：中 B：中 D：中 E：あり</p> <p>第9回 保育者実務の実践的検討～海外の保育者の働きと対話から～（担当：森真理） 海外の保育と保育者の働きを概観することから、日本の地域・社会において子どもの最善の利益の保障を目指す保育者の在り方、職務について学び、当事者意識を高める。</p> <p>第10回 保育現場から学ぶ～幼稚園現場指導者による実践的講義・指導助言(1)（担当：外部講師、コーディネーター：高島扶貴・宮由佳里） 保育所の乳児（0・1・2歳児）を対象にした指導計画をグループで作成する。 指導計画に基づき模擬保育を行う。全体で振り返りを行い、計画と保育を評価する。 評価には、教材研究を十分に行っているか、こどもの発達を踏まえているか、幼児理解に基づいた適切な環境構成と援助が行えているなど多角的な観点が求められる。 予習・復習：指導案の作成、評価を踏まえた修正を行う。（約2時間） A：多 B：多</p> <p>第11回 保育現場から学ぶ～幼稚園現場指導者による実践的講義・指導助言(2)（担当：外部講師、コーディネーター：高島扶貴・宮由佳里） 保育現場における今日的課題（保育課程の課題・保育者としての服務に関する課題、幼児理解に関する課題、家庭・地域に関する課題など）を取り上げグループ討議を行い、現場経験の豊富な保育者が指導助言を行う。 授業内に、課題レポートを作成する。 予習・復習：保育現場における課題について予め関連ニュースなどに関心を持ち、自分の考えをまとめておく。（約2時間） B：多</p> <p>第12回 保育現場から学ぶ～保育所現場指導者による実践的講義・指導助言(1)（担当：外部講師、コーディネーター：福田泰雅・近澤友理） 保育現場における今日的課題（保育課程の課題・保育者としての服務に関する課題、幼児理解に関する課題、家庭・地域に関する課題など）を取り上げグループ討議を行い、現場経験の豊富な保育者が指導助言を行う。 授業内に、課題レポートを作成する。 予習・復習：保育現場における課題について予め関連ニュースなどに関心を持ち、自分の考えをまとめておく。（約2時間） B：多</p> <p>第13回 保育現場から学ぶ～保育所現場指導者による実践的講義・指導助言(2)（担当：外部講師、コーディネーター：福田泰雅・近澤友理） 保育現場における今日的課題（保育課程の課題・保育者としての服務に関する課題、幼児理解に関する課題、家庭・地域に関する課題など）を取り上げグループ討議を行い、現場経験の豊富な保育者が指導助言を行う。 授業内に、課題レポートを作成する。 予習・復習：保育現場における課題について予め関連ニュースなどに関心を持ち、自分の考えをまとめておく。（約2時間） B：多</p> <p>第14回 理想の保育者像（使命感・責任感・教育的愛情）についての討論（担当：柴田啓一・宮由佳里） これまでの、授業を振り返り、理想の保育者像、理想の保育環境について各自でまとめ、グループで討議を行いレポートを作成する。 A：中 B：中 D：中 E：あり</p> <p>第15回 総括、これまでの全体の振り返り、履修カルテの記入（担当：横溝一浩・柴田啓一・近澤友理） 初回に立てた自己課題と、実際に行った学習方法についての振り返りを行う。さらに、履修カルテの見直しも行ったうえで、保育の専門職としての自己課題を再設定する。 D：多</p>
教育目標との関連	実習をはじめとするこれまでの学びを振り返り、保育者の求められる資質能力について理解し、自己課題を設定する。 またグループ討議、グループワーク、模擬保育など現場を意識した学びを通し、保育者としての自覚と実践的な指導力を身につける。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 自らのこれまでの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得した上で、自己課題を明確にすることができる。 2. 保育現場における様々な今日的課題への対応について経験豊富な保育者からの助言を得ながら理解し、応用できる。 3. 指導案の作成及、模擬保育、評価を行うことによって保育者として必要な資質能力を確実に身につける。
評価方法および評価基準	課題提出（50％）授業に臨む事前学習の状況・各回の授業で何を学びと与えられたテーマに対する考察、履修カルテなどを踏まえて総合的に評価する 発表（20％）保育者としてのプレゼンテーション能力（組み立て（論理性）、伝達力（ノンバーバルも含めて）など） 受講態度（30％）授業に対する積極性（積極的な傾聴態度も含む）、グループワークなどに対する貢献度（積極的な関わり）、保育者としての自己ならびに他者の評価能力など
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	研究室及び実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
富金原光秀			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>子どもの造形表現の発達には心身をはじめとする認知機能、手の動きによる運動機能、感情表現と深いかわりをもつ。本授業では、領域「表現」のねらいと内容に基づき、心で感じたことや想ったことを形や色や材料を用いて身体的に表現するとともに、学習者自身の造形的思考力や表現力の資質伸張を図り、感性を養う。また、幼児の発達段階を理解しながら材料・用具の機能や取扱いの指導方法を学ぶとともに、情報機器の活用により幼児の主体的・対話的で深みのある造形活動を構想する指導・援助方法を身につける。具体的に「絵に表す」では、写生から観察力を養い、平面構成における描写力や手法を身につける。「立体に表す」では、日用品や廃材等の素材の質感に着目しながら立体物や玩具の制作を行う。「造形あそび」では、あそびのもつ教育性について考察しながら、自然の素材等からイメージを膨らませて表現活動に活かす。後半では、題材（平面・立体）にそって教材研究を行い、幼児の魅力ある造形活動を構想する力を養うとともに環境構成、評価の考え方、指導・援助方法を踏まえ、保育指導案を作成する。</p>
授業計画および学習形態	<p>第1回 「保育内容「表現」及び幼児造形における指導・援助、環境づくり」 子どもの心身の発達と人間形成の基礎を養う幼児期の「表現」領域、造形活動の意義について理解する。また、幼児が表現活動に興味・関心をもって取り組むことができるよう保育者の指導・援助・環境づくりについて事例を示しながら考察する。 予習：教科書第1章、幼稚園教育要領、保育所保育指針「表現」項目を読んでおく。（約2時間） B：少</p> <p>第2回 「幼児期の絵の発達と道筋について」 子どもの絵の表現の発達は、心身の発達と深い関係を持ち、認知機能、運動機能や手指の巧緻性、感情や感性の発達に大きく影響する。造形表現における発達の基本的な道筋について、順序だてて理解するとともに、造形活動の支援・援助方法について理解を深める。 予習、復習：教科書p 67～p 75を読んで、要点をまとめる。（約2時間） B：少</p> <p>第3回 「オートマティック技法による絵画表現（デカルコマニー他各種技法）」 表現活動の原点となる「写す」をキーワードとして、オートマティック各種技法について習得する。フィンガーペインティング、デカルコマニー、スパッタリング、スタンピング、フロッタージュなどの技法を組み合わせ、カラージュ作品を制作する。 予習、復習：オートマティック各種技法の特徴についてまとめる。（約1時間） B：少</p> <p>第4回 「平面・立体構成の造形要素及び用具の基本的な取扱いと指導上の留意事項」 形、色、材料とその材質感など造形物を生み出す基となる造形要素について、点・線・面それぞれの知覚的な感覚の特性や構成・構図について理解を深める。また、幼児造形の活動に必要なハサミ等危険の伴う用具の取り扱い、さまざまな種類の接着材料の取り扱い等、指導上の留意事項について理解する。 予習、復習：配布資料を読んで、重要な事項にラインを引き、要点をまとめる。（約2時間） B：少</p> <p>第5回 「紙による立体造形の制作（折る・切る・貼る・組む）」 紙からいろいろな形を立体化する加工方法、折る、切る、貼る、とじる、丸める、曲げる、組む、開くなどの方法により制作を行う。直線的・曲線的な加工方法また、これらの技法を組み合わせ、作品を制作する。 予習、復習：配布資料を読んで、重要な事項にラインを引き、要点をまとめる。（約2時間） B：少 E：あり</p> <p>第6回 【振り返り①】第1回～第5回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等） 「絵画の基礎Ⅰ（静物画の写生）」 立方体や卵など基本的な物の形をどのように捉えてかき表せばよいのかについて写生の理解と「観察」の重要性を理解する。静物画の写生においては、実物を目前にしてかく作業となるので、周到に観察が要求される。描こうとする対象をよく見て描き、描きながらモノを見るという思考過程の繰り返しにより、描く対象を深く理解する。 予習、復習：配布資料を読んで、重要な事項にラインを引き、要点をまとめる。（約2時間） B：少</p> <p>第7回 「色彩の基礎理論と心理的作用」 色彩の認知は、乳幼児期において視覚の発達や形成にかかわるとともに、視覚を通じた生活に拡がりを与える。色の基本原理・三属性・三原色をはじめ、子どもの発達段階にしたがって、徐々に色を使って表現する過程、色の感情的作用によって人の心理に与える影響、保育環境への色彩の活用について理解を深める。 予習、復習：教科書p 155～p 172を読み、重要な事項、要点をまとめる。（約2時間） B：少</p> <p>第8回 「季節・行事にかかわる共同制作と壁面装飾・展示Ⅰ」 季節（行事）の代表的な展示例を挙げ、描いたり、つくったものを展示することによって、飾るよこびを共感する。また、展示物の造形的な美や、造形心理に注意や配慮をしたり、展示することで「どう見えるか?」「どう感じられるか?」を考慮し、結果的に「どのような教育的効果があるのか?」までを踏まえて装飾や展示を理解する。 予習、復習：共同制作で仕上げた作品の自己評価を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間） A：多 B：中 E：あり</p> <p>第9回 「素材・生活廃材を活用した立体造形の制作及び指導・援助及び留意点」</p>

	<p>日常生活で不要となった「廃材」や「廃品」を造形教育に取り入れ、その材料の質感等について工夫をしながら表現へと結びつけていく制作活動を行い、創造性、充実感、達成感を味わう。また、幼児の主体的な活動が広がる環境を準備したり、素材に興味や関心をもって取り組む指導法の考察、各素材に適した道具・用具の使用方法について習得する。</p> <p>予習、復習：制作課題に対する教育的な考察と検証を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間）</p> <p>B：少 D：中 E：あり</p>
第10回	<p>「造形あそびの実際及び指導・援助の留意点」</p> <p>造形あそびにみられる行為「見る」、「感じる」、「表わす」をテーマに、さまざまなモノに触れ、五感を通じて何かを発見したり、自ら意欲をもって題材を見つけ、「遊び」それ自体を生みだしていく探索活動を行う。感覚（感触）を楽しむ感覚遊び、環境に働きかける空間遊び、構成を楽しむ構成遊び、ごっこ遊びを代表する見ため遊びを体験する。また、造形あそびを行う上での指導・援助、留意事項について確認する。</p> <p>予習、復習：造形あそびの意義について、教科書・配布資料を基にまとめる。（約1時間）</p> <p>B：少 E：あり</p>
第11回	<p>【振り返り②】第6回～第10回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>「自然環境、近隣の環境から収集した素材を用いた制作（伝承あそび等）」</p> <p>『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』では、「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」と記載される。さまざまな素材と出会うための環境構成や、発達過程にどのようなあそびが有効となるか考察し、造形あそびの内容を工夫する。また、自然物と触れ合い遊ぶことで思いを全身に表し、心身の発達や感性が育つことのプロセスについて理解を深める。</p> <p>予習、復習：日本の伝統・文化的な遊びの種類についてネット、資料などを検索して、まとめる。（約1時間）</p> <p>B：少 C：中</p>
第12回	<p>「情報機器を効果的に活用した造形活動の実際Ⅰ」</p> <p>幼児造形にICT教育を取りこんだ活動が求められる。情報機器を効果的に活用した造形活動の具体例を示すとともにグループによる共同制作を行う。絵本や物語の題材を選択し、描いたり、つくりあげた制作物をタブレットを利用し、協力して撮影を行う。映像を通じて動きまわる動画作品に好きな音楽や言葉を取り込み、完成した動画を発表する。</p> <p>予習、復習：情報機器を効果的に活用した造形教材について検討・考案し、配布シートにまとめる。（約1時間）</p> <p>A：中 B：少 D：中</p>
第13回	<p>「情報機器を活用した造形教材の提示・模擬授業の展開」</p> <p>情報機器を効果的に活用した造形教材について、具体例を示しながらグループワーク、ディスカッションを行い、教材を考案する。映像や画像のコンテンツを利用した教材、工作ソフト教材、ゲームやクイズ形式の造形教材等について各自アイデアを提案し、制作した教材をグループごとに発表する。</p> <p>予習、復習：情報機器を活用した造形教材の模擬授業について省察・改善を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間）</p> <p>A：中 B：中 D：中</p>
第14回	<p>「ポートフォリオ（制作物）による自己評価・省察・改善点の提示とまとめ」</p> <p>各個人が14回の授業で制作した作品や資料をポートフォリオファイルに保管し、その省察や改善を含めた自己評価を行う。造形活動における制作物や活動の記録・保存は、幼児理解を深めていく重要な手がかりとなる。学生自身が造形表現の授業時に制作物を記録・保管し、省察を行い、あらたな自己課題や目標設定に気づきをあたえるポートフォリオ評価の意義について理解する。</p> <p>予習、復習：幼児造形教育においてポートフォリオ評価を活用する意義についてまとめる。（約1時間）</p> <p>B：少 E：あり</p>
第15回	<p>【振り返り③】第11回～第14回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>「授業総括と学習到達度の確認テスト・各単元の解説」</p> <p>15回の授業総括として学習到達度の確認テストを実施、また各単元の振り返りと解説、各自の到達度のチェックを行う。</p> <p>B：少 E：あり</p>
第16回	<p>「発達段階における造形表現の特徴及び指導・援助・留意点」</p> <p>子どもの絵の表現と心身の発達について、認知機能、運動機能や手指の巧緻性、感情や感性との関連から考察する。また、発達の過程を固定的、断定的に捉えず、一人ひとりの子どもの発達状況や個々の子どもの状況を十分理解し、指導・援助することの重要性について確認する。</p> <p>予習、復習：教科書p92～p106、p120～p124を読み、造形表現の指導・援助のあり方について要点をまとめる。（約2時間）</p> <p>B：少</p>
第17回	<p>「絵画の基礎Ⅱ（人物と風景描写）」</p> <p>絵画の基礎について学習する2回目。保育者として必須となる子どもや人物の描写とその背景（保育室・園庭）の描き方の基礎について写生の理解と「観察」の重要性を理解する。描こうとする対象をよく見て描く過程、遠近法やグラデーションによる立体的に描く絵画技法を習得する。</p> <p>予習、復習：デッサン、スケッチ、クロッキーそれぞれの特徴についてまとめる。（約1時間）</p> <p>B：少</p>
第18回	<p>「西欧・日本美術史の変遷及び情報機器を活用した制作」</p> <p>世界の美術史の概要を学習し、文化的教養を深め、豊かな人間性を養う。旧石器時代の洞窟絵画をはじめ、初期キリスト教美術、ビザンチン美術、モザイク画、ゴシック様式の教会美術、ルネサンス美術、バロック美術とロココ美術、新古典・ロマン・写実主義の美術様式、19世紀の印象派、20世紀以降の西欧美術文化について知識を深める。また、室町文化を始め19世紀浮世絵に代表するジャポニスムに至る日本美術の歴史の変遷について学習、その後、情報機器を活用したグループ制作を行う。</p> <p>予習、復習：授業の中で興味を示した人物や作品について時代背景とともにまとめる。（約2時間）</p> <p>A：中 B：少 D：中</p>

第19回	<p>「美術館・文化施設の鑑賞（常設展や企画展の美術鑑賞）」</p> <p>前回の授業で学習した美術作品の知見をもって美術館や文化施設を訪れ実際に作品を鑑賞する。学校の近隣にもさまざまな美術館や博物館、企業、個人の美術館や文化施設がある。本物の美術作品や文化施設や資料に直接出会い、五感をつかって豊かな感覚や感性を養う。</p> <p>予習、復習：美術作品、文化財を鑑賞して感じたこと、考えたことをレポートにまとめる。（約2時間）</p> <p>C：多</p>
第20回	<p>「部分実習指導案の構成と造形活動の評価方法（ポートフォリオ評価について）」</p> <p>造形表現の部分実習指導案の構成と評価方法について事例をもとに学習する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」に加え、園の方針や月や週の指導計画と照らし合わせながら指導案の構成を確認する。また、幼児期は年齢ごとに発達の個人差がおおきい時期となる為、造形活動におけるポートフォリオ評価の活用とその意義について理解する。</p> <p>予習、復習：教科書p 83～p 106を読み、造形表現の指導計画のポイントについて要点をまとめる。（約2時間）</p> <p>B：少</p>
第21回	<p>【振り返り④】第16回～第20回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>「教材研究Ⅰ（描画技法による教材研究・指導案の作成）」</p> <p>これまで学んできた描画の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い制作する。また、実際に保育活動に組み込むことを想定して部分実習指導案を作成する。</p> <p>予習、復習：教材研究で制作した造形教材を使って配布資料をもとに部分実習指導案を作成する。（約2時間）</p> <p>A：中 B：少</p>
第22回	<p>「教材研究Ⅰ（描画技法による研究課題の提示・発表）」</p> <p>これまで学んできた描画の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い、制作した造形教材の発表を行う。発表後には省察・改善点について自己評価を行う。</p> <p>予習、復習：教科書p 180～p 183を読み、ごっこ・見立て遊びの構想についてまとめる。（約1時間）</p> <p>A：中 B：少</p>
第23回	<p>「劇遊びの衣装・楽器制作（イメージと模倣遊び）」</p> <p>幼児のごっこ遊びの題材となる劇遊びの衣装や楽器をグループごとに役割を分担して制作を行なう。これまで学習した材料や用具などの知識や技術を総合的に活用して制作する。共同制作によって、クラス仲間と協力したり、意見を交換したり、制作し合うコミュニケーション力を養う。また、さまざまな素材や材料、用具を使ってつくりあげることの充実感や達成感を味わう。</p> <p>予習、復習：劇遊びの教育的意義について教科書・資料を用いてまとめる。（約1時間）</p> <p>B：少</p>
第24回	<p>「劇遊びの衣装・楽器制作の発表と省察（ドキュメンテーション）」</p> <p>お面などのかぶりものや装飾品を身につけながら物語の世界に入り、役になりきることで、満足感を味わったり、クラス仲間との関係を深めていく場を共有する。学生自身が表現者となり、お面を身につけ、役を演じながらごっこ遊びの世界をグループごとに発表する。また、お面をとり替え、異なる役を経験する。これらのごっこ遊びが、生活発表会やお遊戯会等に発展することを理解する。</p> <p>予習、復習：発表を行い、感じたこと、考えたことをまとめる。（1時間）</p> <p>D：多 E：あり</p>
第25回	<p>【振り返り⑤】第21回～第24回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）</p> <p>「情報機器を効果的に活用した造形活動の実際Ⅱ」</p> <p>情報機器を効果的に活用した造形活動の2回目。グループによる共同制作を行う。アイデアを出し合って情報機器を使った題材を選択し、描いたり、つくりあげた制作物を用いて幼児が主体的・対話的に造形活動にかかわることのできる造形教材を提案・提示する。</p> <p>予習、復習：情報機器を効果的に活用した造形教材について検討・考案し、配布シートにまとめる。（約1時間）</p> <p>A：中 B：中</p>
第26回	<p>「季節・行事にかかわる共同制作と壁面装飾・展示Ⅱ」</p> <p>季節・行事にかかわる共同制作と壁面装飾・展示の2回目。グループワークにより季節（行事）の代表的な制作と展示を行い、飾るよろこびを共感する。また、展示物の造形的な美や、造形心理に注意や配慮をしたり、展示することで「どう見えるか?」「どう感じられるか?」を考慮し、結果的に「どのような教育的効果があるのか?」までを踏まえて装飾や展示を理解する。</p> <p>予習、復習：共同制作で仕上げた作品の自己評価を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間）</p> <p>A：多 B：中</p>
第27回	<p>「教材研究Ⅱ（立体造形による制作研究・指導案の作成）」</p> <p>これまで学んできた立体造形の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い制作する。また、実際に保育活動に組み込むことを想定して部分実習指導案を作成する。</p> <p>予習、復習：教材研究で制作した造形教材を使って配布資料をもとに部分実習指導案を作成する。（約2時間）</p> <p>A：中 B：少</p>
第28回	<p>「教材研究Ⅱ（立体造形による研究課題の提示・発表）」</p> <p>これまで学んできた立体造形の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い、制作した造形教材の発表を行う。発表後には省察・改善点について自己評価を行う。</p> <p>予習、復習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の表現領域について比較し、共通点、相違点についてまとめる。（約1時間）</p> <p>B：少 D：多</p>
第29回	<p>「改訂幼稚園教育要領「表現」領域と小学校図工科「表現」「鑑賞」との関連について」</p> <p>保幼小連携教育として、幼児「表現」領域から小学校の図画工作「表現」「鑑賞」の連続的な学びが求められる。就学前教育では「遊び」を中心とした表現活動に対して小学校の授業では自覚的</p>

	<p>学びの要素を踏まえた教科指導の学習環境となる。「小1プロブレム」問題など発達の側面に目を向けながら連続的な学習のあり方についてディスカッションを交えて考察する。 予習、復習：配布資料を読み、表現領域と図画工作の接続について考察し、要点をまとめる。 (約1時間) A：中 B：中 E：あり</p> <p>【振り返り⑥】第25回～第29回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等） 第30回 「授業総括と学習到達度の確認テスト・各単元の解説」 全30回の授業総括として学習到達度の確認テストを実施、また各単元の振り返りと解説、各自の到達度のチェックを行う。 B：少 E：あり</p>
教育目標との関連	<p>領域「表現」のねらいでは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と記される。幼児が絵をかいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾る活動を通して人や物と出会いを深めながら、直接的なかかわりを通した主体的な活動が展開できるよう、保育者は子どもの発達に応じた指導・援助方法に加え、表現技術や技能を身につけていく必要がある。</p> <p>「幼児造形Ⅰ・Ⅱ」の科目を通じて学習する表現上の技術指導や援助は、保育現場での「表現」における重要な役割を担う。学生は本学の教育目標である幼児教育に関する専門的知識と技術を習得し、子どもの豊かな「感性」を引き出す教育活動に広く関心と意欲をもって取り組み、幼児の情緒の安定を図るとともに「生きる力」の基礎を培う人間形成に貢献できる人格を備えてほしい。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」領域について理解し、幼児期の発達段階における造形表現の特徴について説明できる。 2. 幼児の主体的・対話的な造形活動を構想できる。 3. 保育者として造形教育の基礎的知識・技能及び「感性」「表現力」「創造力」を養う。 3. 幼児の発達段階を踏まえ、用具・材料の特性を効果的に活用した指導案を作成できる。 3. 情報機器を効果的に活用した造形教材及び、ポートフォリオを作成できる。 4. 造形教材の研究に意欲を持って取り組み、幼児の感性及び表現を育てる表現活動を提案できる。 5. 美術館や文化施設（地域フィールド）の作品鑑賞を基に教材研究（教材化）を図る。 5. 幼児の造形活動における保育者の役割と、その資質伸張を図る。
評価方法および評価基準	<p>定期試験（30%）15回目・30回目で行なう教科書、資料等を参考にして回答する理解度確認の試験（重要な語句の説明、記述式問題等） 振り返り（20%）小テスト①②③・④⑤⑥を合わせた評価 提出課題（50%）制作物やグループ学習内容をまとめたポートフォリオの提出及び制作課題に対する教育的な考察と検証</p>
教科書	『保育をひらく造形表現』槇英子 萌文書林 2011
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 プレーベル館 2017 『事例で学ぶ保育内容領域「表現」』無藤隆 浜口順子他 萌文書林 2012 「必要に応じて資料・プリントを配布する」
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教職者をめざす学生として、自覚、自律ある態度をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	研究室で質問・相談を受け付ける。時間及び場所は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	卒業選択、幼児必修、保育士必修
担当教員			
大見由香 ※個人レッスン教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>1クラスが2グループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業（声楽と理論）を45分ずつ受講する。ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回基礎の力をつける楽曲とレベルにあった伴奏形の子どものうたに取り組み、レパートリーを増やす。個人票にて進捗を確認し、課題を見出す。</p> <p>グループ授業：声楽の演奏技術や音楽の理論を学び、子どものうたを多く歌えるようにする。また、幼児の発達、遊びに視点をあて、子どもにとって「音」「音楽」とは何かを実践を通して学ぶ。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習、終了時に振り返りを行う。</p> <p>他の科目との関連：本科目の理論は「音楽の基礎」と内容が重複する部分もあるが、本科目の方がはやく進む。また、実技は2年次に開講される「音楽表現」・「音楽（器楽）」・「音楽（声楽）」の基礎となる。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>ガイダンスとピアノの進捗の確認</p> <p>事前に提示された課題曲を一人ずつ演奏し、個々の進捗を確認する。</p> <p>授業の受け方の説明をうける。</p> <p>保育現場でどのようにピアノを弾くのか、イメージをつかみ、今後の到達目標を知る。</p> <p>予習・復習：ピアノ 演奏した曲の復習と 『基礎から学べる ピアノ 1, 2, 3』 などの曲練習する。</p> <p>グループ 『弾き歌い伴奏集』 第1巻もしくは第2巻から曲を選び、歌う練習をする。(2時間)</p> <p>D 少 F あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク</p> <p>B:ディスカッション</p> <p>C:フィールドワーク</p> <p>D:プレゼンテーション</p> <p>E:振り返り</p> <p>F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上</p> <p>中：15分～44分</p> <p>少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>音の高さ・春のうた</p> <p>ピアノ：個人レッスン レベルにより課題曲が指定される。</p> <p>グループ：よく通る響く声で歌うための基礎について理解する。</p> <p>ウォームアップ、呼吸、発声練習、チューリップ、ちょうちょう、自由曲独唱：各自で選らんど子どもの歌を独唱し、音域、声質などを知る。音の高さについて学ぶ。</p> <p>予習：グループ 事前に 『弾き歌い伴奏集』 第1巻もしくは第2巻から曲を選び、歌う練習をしておく。</p> <p>予習・復習：ピアノ ピアノの課題を練習する。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第3回	<p>音の長さリズム・春のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける</p> <p>グループ：かえるのがっしょう、メリーさんのひつじ、こいのぼり。ひきつづき自由曲独唱。音の長さについて学ぶ。</p> <p>予習・復習：ピアノの課題と「テクニックの練習1」を練習する。様々な音符の書き方を復習する。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第4回	<p>付点のリズム・生活のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける</p> <p>グループ：せんせいとおともだち、おつかいありさん、おはよう</p> <p>予習・復習：ピアノの課題を練習する。「テクニックの練習」を付点で練習する。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第5回	<p>全音と半音・変化記号・春のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける</p> <p>グループ：おはながわらった・ハッピーバースデー。変化記号の意味と書き方を学ぶ。</p> <p>予習・復習：ピアノの課題を練習する。変化記号の意味、使い方、書き方を復習する。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第6回	<p>へ長調の音階と調号・生活のうた・子どものうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。</p> <p>グループ：おかたづけ・ぞうさん・やぎさんゆうびん。へ長調の調号、音階について学ぶ。</p> <p>予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「へ長調の練習」を練習する。へ長調の曲を右手で弾く。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第7回	<p>ト長調の音階と調号・子どものうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。</p> <p>グループ：ふしぎなポケット・おおきな古時計。ト長調の調号、音階について学ぶ。</p> <p>予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ト長調の練習」を練習する。ト長調の曲を右手で弾く。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第8回	<p>ニ長調の音階と調号・うたの表現方法</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。</p> <p>グループ：おはようのうた・あめふりくまのこ。ニ長調の調号、音階について学ぶ。</p> <p>予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ニ長調の練習」を練習する。ニ長調の曲を右手で弾く。(2時間)</p> <p>A 少 D 少 F あり</p>	
	第9回	<p>強弱記号・打楽器で表現する</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。</p> <p>グループ：おおきなたいこ。強弱記号について学ぶ。打楽器を用いて歌の表現を広げる。</p>	

第10回	<p>予習・復習：ピアノの課題を練習する。 強弱記号の名称と意味を覚える。(2時間) A 少 D 少 F あり</p> <p>強弱記号の振り返り・夏のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける、テストの課題曲を決定する。 グループ：かたつむり、たなばたさま、うみ。 強弱記号の振り返り小テスト。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。うたのテスト曲を練習する。うたのテスト曲を練習する。(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第11回	<p>くり返し記号・夏のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：おぼけなんてないさ、おもちゃのチャチャチャ。くり返し記号について学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。うたのテスト曲を練習する。(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第12回	<p>研究発表曲の練習</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：くり返し記号の振り返り、研究発表の曲を練習する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。うたのテスト曲を練習する。(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第13回	<p>実技発表テスト(うた)</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：課題曲を1人ずつ歌い、課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表の曲を練習する。(2時間) D 中 F あり</p>
第14回	<p>実技発表テスト(ピアノ)</p> <p>ピアノ：楽曲とこどもの歌をひとりずつ演奏する。 グループ：なし 予習・復習：ピアノテスト曲の復習をする。研究発表の曲を練習する。(2時間) D 中 F あり</p>
第15回	<p>前学期の振り返り</p> <p>ピアノ：テスト曲の振り返りをする。夏季休暇中の課題曲を決定する。 グループ：前学期の理論の内容を振り返る。研究発表の曲を練習する。</p>
第16回	<p>前学期の復習・秋のうた・夏季休暇中の課題曲の発表</p> <p>ピアノ：夏季休暇中の課題曲のレッスンを受ける。 グループ：どんぐりころころ・研究発表のうた。前学期の復習(リズム、くり返し記号)。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第17回	<p>臨時記号のルール・こどのうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：もりのくまさん、研究発表の曲。臨時記号のルールを学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第18回	<p>変化記号の使い方・秋のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける グループ：まつぼっくり、山の音楽家、研究発表の曲。変化記号の使い方を学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第19回	<p>変化記号の使い方-キーボード学習</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：キーボード教室にて変化記号の演奏の仕方を確認する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。(2時間) C 多 F あり</p>
第20回	<p>身近な物の音</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：キャンパス内のいろいろな音に耳を澄ませ、感じたことを表現する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。(2時間) C 多 F あり</p>
第21回	<p>コードネーム・秋のうた</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：はたけのポルカ、研究発表の曲。コードネームについて学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) A 少 D 少 F あり</p>
第22回	<p>コードと転回形の練習</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：キーボード教室にてコードネームと転回形を弾く。コードネームをもとに伴奏をつける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) C:多 少 F あり</p>
第23回	<p>研究発表曲の練習(並び)</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：並びを確認し、研究発表の曲を練習する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) A 多 F あり</p>
第24回	<p>研究発表曲の練習</p> <p>ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：研究発表の曲を練習する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) A 多 F あり</p>
第25回	<p>音楽研究発表と音楽鑑賞</p>

	<p>合唱曲を発表し、器楽曲を演奏する。演奏を聴く。 予習：研究発表の曲を練習をする。 課題：感想文を書く。</p> <p>第26回 アーティキュレーション・秋のうた ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：やさいもグーチャーパー、きのこ。アーティキュレーションについて学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。(2時間) C 多 少 F あり</p> <p>第27回 速度記号・生活のうた ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：さようならのうた。テストの課題曲を練習する。 予習・復習：課題を練習する。(2時間) C 多 少 F あり</p> <p>第28回 復習プリント・こどものうた ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：さようならのうた。前学期、後学期の復習プリントで振り返る。 予習・復習：課題を練習する。(2時間) C 多 少 F あり</p> <p>第29回 復習プリントの振り返り・冬のうた ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：ゆき、あわてんぼうのサンタクロース、ジングルベル。復習プリントのふりかえり。 予習・復習：課題を練習する。(2時間) C 多 少 F あり</p> <p>第30回 まとめと復習 ピアノ：テスト 課題曲を演奏する。 グループ：テスト 課題曲を暗譜で独唱する。 予習・復習：課題を練習する。(2時間) C 多 少 F あり</p>
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。また周囲の音に耳を澄ませ、季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 園生活のなかで子どものうたがどのように歌われているか理解している。 グループ授業の合唱を通して、周囲の状況を把握し、協調し合う事を自覚できる。 初心者のはうたとピアノの演奏の基礎技術と読譜力を習得し、経験者はさらに技能と表現力を向上させる。子どもの歌の伴奏のレパートリーを増やし、保育現場で弾けるようになる。また、正しい音程で、子どもに伝わるように歌える。 保育現場で積極的に子どもが楽しく歌えるように演奏できる。
評価方法および評価基準	<p>実技試験 25% (ピアノ：童謡と自由曲 声楽：課題曲) 提出課題 15% (理論：プリント学習、振り返り小テスト) 授業態度 60% (ピアノ・声楽：事前の練習などの取り組みを含む)</p>
教科書	<p>『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研プラス 2016年 1,500円(税抜) 『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研プラス 2015年 1,500円(税抜) 『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる ピアノ1, 2, 3』 本廣明美 他 ドレミ楽譜出版 2015年 1,300円(税抜)</p>
参考書	『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2011年 2,100円(税抜)
準備学習(予習・復習等)の具体的内容および必要な時間	ピアノは練習(予習と復習)をしてレッスンに臨むこと。毎日30分、試験前は45分は練習すること。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。
オフィスアワー	大見：大見研究室。時間は研究室に掲示する。 ピアノ担当教員：授業の前後にピアノ室、または講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※内丸ちづ子、大平美樹、栗村葉子、小椋由理、高野雅子、戸梶江吏子、平井敬子、藤澤桐子、三船香、諸田明子、矢浪桂子

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：宮本真理子 ※個人レッスン教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループ学習(45分)で、『こどものうた』の譜読みに取り組み、ピアノのレッスン(45分)で完成させる。グループ学習のピアノの連弾では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。ピアノのレッスンでは、レベルに応じた課題が与えられアドバイスが受けられる。1年次の「幼児音楽」の内容を引き続いて学ぶ。 他の科目との関連：「音楽(声楽)」「音楽表現」とも関連がある。実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	春季課題発表とオリエンテーション グループ：なし ピアノ：ピアノ担当教員の前で、春季休業中の課題から1曲演奏する。 授業の内容と進め方について説明を受ける。 予習・復習 春季課題全部を練習する。(毎日30分) F:あり	
	第2回	グループ学習と各担当教員によるピアノレッスン開始 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「おかえりのうた」 付点のリズムの違いを学ぶ。 ピアノ：レッスン担当教員の前で春季課題全部を弾き、進度を確認し、アドバイスを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり	
	第3回	生活のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「おべんとう」 リズム練習をする。 ピアノ：「おかえりのうた」のレッスンを受ける。 その他の課題についてもアドバイスを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり	
	第4回	生活のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「おはようのうた」 二長調の曲に慣れる。 ピアノ：「おべんとう」のレッスンを受ける。 その他の課題についてもアドバイスを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり	
	第5回	生活のうたと春のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「おかたづけ」「せんせいとおともだち」 ピアノ：「おはようのうた」のレッスンを受ける。 その他の課題についてもアドバイスを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり	
	第6回	生活のうたと春のうた 他 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「すてきなパパ」 ピアノ：「せんせいとおともだち」のレッスンを受ける。 「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり	
	第7回	生活のうたと夏のうた ・ 課題の復習 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「はをみがきましょう」 これまでの『こどものうた』の課題を復習する。 ピアノ：「すてきなパパ」のレッスンを受ける。 「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分)	

	A:多 E:あり F:あり
第8回	<p>小テスト ・ 生活のうたと夏のうた グループ:小テストを行う。「おはようのうた」 『こどものうた』の譜読みをする。「かたつむり」コードネームを学ぶ。 ピアノ:実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 「はをみがきましょう」のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり</p>
第9回	<p>実習課題(こどもたちの前で弾くには…) ・ 実技発表の課題の選曲 ・ 「きらきら星」 グループ:こどもたちの前にいると想定して弾く練習をする。互いに批評し合うことで学ぶ。 ピアノ:実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 「きらきら星」のレッスンを受ける。 実技発表の『こどものうた』1曲を決め、アドバイスを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日1時間) A:多 B:多 F:あり</p>
第10回	<p>夏のうた ・ 実技発表の課題 グループ:『こどものうた』の譜読みをする。 「たなばたさま」コードネームを学ぶ。 ピアノ:実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 「きらきら星」を含む実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日1時間) A:多 F:あり</p>
第11回	<p>教育実習の振り返り ・ 夏のうた ・ 実技発表の課題 グループ:教育実習におけるピアノの取り組みについて振り返りをする。 『こどものうた』の譜読みをする。 「うみ」コードネームを学ぶ。 ピアノ:実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日45分) A:多 E:あり F:あり</p>
第12回	<p>生活のうた ・ 実技発表の課題 グループ:『こどものうた』の譜読みをする。「さようならのうた」 ピアノ:実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日45分) A:多 F:あり</p>
第13回	<p>生活のうた ・ 課題の復習 ・ 実技発表の課題の仕上げ グループ:『こどものうた』の譜読みをする。「さようならのうた」 これまでの『こどものうた』の課題を復習する。 ピアノ:実技発表の課題を仕上げる。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題を練習する。(毎日1時間) A:多 E:あり F:あり</p>
第14回	<p>試験(実技発表) グループ:なし ピアノ:実技発表をする。 ・「きらきら星」 ・任意の『こどものうた』1曲 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。</p> <p>予習・復習 これまでの課題などを練習する。(毎日30分) E:あり F:あり</p>
第15回	<p>ピアノの連弾 ・ 夏季課題の選曲と練習方法 グループ:やさしいピアノの連弾に取り組む。「かっこう」 ピアノ:担当教員と各自のレベルに合った夏季課題を決め、練習方法についてアドバイスを受ける。 これまでの課題を復習し、完成度のアップに取り組んでも良い。</p> <p>予習・復習 夏季課題の練習をする。これまでの『こどものうた』の課題を忘れないように弾く。(毎日30分) A:多 F:あり</p>
第16回	<p>秋のうた ・ 初見練習 グループ:『こどものうた』の譜読みをする。「おおきなくりの木の下で」 ピアノ:初見曲の取り組み方と練習方法について学ぶ。 夏季休業中の課題から1曲を弾き、レッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり</p>
第17回	秋のうた ・ 夏季課題

	<p>グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「おおきなくりの木のしたで」「山の音楽家」 ピアノ：夏季課題全部を弾き、レッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第18回	<p>秋のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「山の音楽家」「どんぐりころころ」 ピアノ：「おおきなくりの木のしたで」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第19回	<p>秋のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「どんぐりころころ」「まつぼっくり」 ピアノ：「山の音楽家」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第20回	<p>秋のうた ・ 課題の復習 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「まつぼっくり」「やきいもグーチーパー」 ピアノ：これまでの『こどものうた』の課題を復習し、弾けることを確認する。 「どんぐりころころ」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 E：あり F：あり</p>
第21回	<p>秋のうたと冬のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「やきいもグーチーパー」「ゆき」 ピアノ：「まつぼっくり」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第22回	<p>秋のうたと冬のうた グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「ゆき」「あわてんぼうのサンタクロース」 ピアノ：「やきいもグーチーパー」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第23回	<p>文化祭 音楽研究発表 ピアノ独奏、ピアノ連弾、トーンチャイムなどの演奏を聴き、感想をまとめる。</p>
第24回	<p>冬のうたと子どものうた ・ 実技発表の課題の選曲 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「あわてんぼうのサンタクロース」「手をたたきましょう」 ピアノ：実技発表の『こどものうた』2曲を決めアドバイスを受ける。 「ゆき」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第25回	<p>冬のうたと子どものうた ・ 実技発表の課題 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「手をたたきましょう」「ちいさな世界」 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。 「あわてんぼうのサンタクロース」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A：多 F：あり</p>
第26回	<p>子どものうた ・ 実技発表の課題 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「ちいさな世界」「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。 「手をたたきましょう」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A：多 F：あり</p>
第27回	<p>子どものうた ・ 実技発表の課題 グループ：「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」を仕上げる。 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。 「ちいさな世界」を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A：多 F：あり</p>
第28回	<p>ピアノ連弾 ・ 実技発表の課題の仕上げ グループ：ピアノの連弾曲を練習する。「チャップスティック」</p>

	<p>ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題とピアノ連弾の「チャップスティック」を練習する。（毎日1時間） A：多 F：あり</p> <p>第29回 ピアノ連弾 ・ 実技発表の課題の仕上げ グループ：ピアノの連弾をして互いに楽しむ。 「チャップスティック」 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題を練習する。（毎日1時間） A：多 F：あり</p> <p>第30回 試験（実技発表） グループ：なし ピアノ：実技発表をする。 ・任意の『こどものうた』2曲 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。</p> <p>予習・復習 なし E：あり F：なし</p>
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習においては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として体験し実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。この点で教育目標とディプロマポリシーにつながりがある。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>3. 保育者としての音楽的センスを磨き、音楽の基礎技能と現場で役に立つ音楽指導力を身につけることができる。</p> <p>1. 3. 5. 子どもたちのために『こどものうた』を演奏できるようになる。子どもたちの前で歌えるようになる。</p> <p>3. 5. 心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験（ピアノ） 30% 小テストと前学期・後学期の実技発表の演奏を通して評価する。</p> <p>練習課題（ピアノ） 50% 課題に対する取り組みと進捗を評価する。</p> <p>平常点評価 20% グループ学習での取り組み（こどものうた レパートリー表等）を評価する。</p>
教科書	<p>『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べるピアノ1,2,3』 本廣明美 他 ドレミ楽譜出版社 2015 1,300円（税抜）</p> <p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2015 1,500円（税抜）</p> <p>『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2015 1,500円（税抜）</p>
参考書	<p>『幼児のための音楽教育』 神原雅之 他 教育芸術社 2010 2,000円（税抜）</p> <p>『こどものうた140選』 和田葉子 他 ドレミ楽譜出版社 1992 1,800円（税抜）</p> <p>その他 適宜プリントを配付する。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分～45分、試験前は1時間）練習すること。レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	1年次に「幼児音楽」の単位を取得できなかった者が履修する。
オフィスアワー	火曜日に研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン内で質問すること。
備考・メッセージ	※ピアノ：大見由香、大平美樹、小椋由理、戸梶江吏子、平井敬子、藤澤桐子、諸田明子、矢浪桂子

講義科目名称：音楽（器楽）

授業コード：

英文科目名称：Music (Instrumental Music)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2単位	卒業選択、保育士選択必修
担当教員			
グループ学習：宮本真理子 ※個人レッスン教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループ学習（45分）で、『こどものうた』の譜読みに取り組み、ピアノのレッスン（45分）で完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏やピアノの連弾では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。</p> <p>ピアノのレッスンでは、レベルに応じた課題とアドバイスが与えられる。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽」に続く科目である。「音楽（声楽）」「音楽表現」、実習とも関連がある。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>春季課題発表とオリエンテーション</p> <p>グループ：なし</p> <p>ピアノ：ピアノ担当教員の前で、春季休業中の課題から1曲演奏する。授業の内容と進め方について説明を受ける。</p> <p>予習・復習 春季課題全部を練習する。（毎日30分） F：あり</p>	
	第2回	<p>グループ学習と各担当教員によるピアノレッスン開始</p> <p>グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「おかたづけ」「せんせいとおともだち」</p> <p>ピアノ：レッスン担当教員の前で春季課題全部を弾き、進度を確認し、アドバイスを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>	
	第3回	<p>生活のうた</p> <p>グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「おはよう」「さようならのうた」</p> <p>ピアノ：『おはようのうた』『おべんとう』『おかえりのうた』を中心にレッスンを受ける。その他の課題についてもアドバイスを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>	
	第4回	<p>生活のうた 他</p> <p>グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「すてきなパパ」「はみがきましよう」</p> <p>ピアノ：『おはようのうた』『おべんとう』『おかえりのうた』を中心にレッスンを受け、仕上げる。その他の課題についてもアドバイスを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>	
	第5回	<p>小テスト・生活のうた 他</p> <p>グループ：小テストを行う。「おはようのうた』『こどものうた』の譜読みをする。「かたつむり」コードネームを学ぶ。</p> <p>ピアノ：『おべんとう』『おかえりのうた』を中心にレッスンを受け、仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>	
	第6回	<p>小テスト・生活のうたと春のうた</p> <p>グループ：小テストを行う。「おべんとう」「おかえりのうた」</p> <p>ピアノ：『せんせいとおともだち』『おはよう』を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>	
	第7回	<p>生活のうたと夏のうた</p> <p>グループ：『こどものうた』の譜読みをする。「たなばたさま」コードネームを学ぶ。</p> <p>ピアノ：『さようならのうた』『すてきなパパ』を仕上げる。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>	
	第8回	<p>生活のうたと夏のうた</p>	

	<p>グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「とけいのうた」 ピアノ：「はをみがきましょう」を仕上げる。 実習園からの課題がある場合には、その課題を優先してレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A：多 F：あり</p>
第9回	<p>実習課題（こどもたちの前で弾くには・・・）・夏のうた ・ 課題の復習 グループ：こどもたちの前にいると想定して弾く練習をする。互いに批評し合うことで学ぶ。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 「とけいのうた」を仕上げる。 これまでの『こどものうた』の課題を復習し、弾けることを確認する。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A：多 B：多 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>秋のうた ・ 実技発表の行進曲の選曲 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「おおきなくりの木の下で」 「山の音楽家」 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 各自のレベルに合った行進曲を担当教員と相談して決め、レッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A：多 F：あり</p>
第11回	<p>教育実習の振り返り ・ 秋のうた ・ 実技発表の課題の選曲 グループ：教育実習におけるピアノの取り組みについて振り返りをする。 『こどものうた』の譜読みをする。 「どんぐりころころ」 「まつぼっくり」 ピアノ：行進曲のレッスンを受ける。 実技発表の『こどものうた』 2曲を決め、アドバイスを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A：多 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>秋のうたと冬のうた ・ 実技発表の課題 グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「やきいもグーチーパー」 「ゆき」 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題を練習する。（毎日45分） A：多 F：あり</p>
第13回	<p>冬のうた ・ 課題の復習 ・ 実技発表の課題の仕上げ グループ：『こどものうた』の譜読みをする。 「あわてんぼうのサンタクロース」 これまでの『こどものうた』の課題を復習する。① ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題を練習する。（毎日1時間） A：多 E：あり F：あり</p>
第14回	<p>試験（実技発表） グループ：なし ピアノ：実技発表をする。 ・行進曲（課題の中から1曲選択） ・任意の『こどものうた』2曲（当日1曲指定） 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。</p> <p>予習・復習 これまでの課題などを練習する。（毎日30分） E：あり F：あり</p>
第15回	<p>ピアノ連弾 ・ 課題の復習 ・ 夏季課題の選曲と練習方法 グループ：やさしいピアノの連弾に取り組む。 「かっこう」 これまでの『こどものうた』の課題を復習する。② ピアノ：担当教員と各自のレベルに合った夏季課題を決め、練習方法についてアドバイスを受ける。 これまでの課題を復習し、完成度のアップに取り組んでも良い。</p> <p>予習・復習 夏季課題の練習をする。これまでの『こどものうた』の課題を弾く。（毎日30分） A：多 E：あり F：あり</p>
第16回	<p>トーンチャイム ・ 初見練習 グループ：トーンチャイム 楽器について、演奏方法について学ぶ。 ピアノ：初見曲の取り組み方と練習方法について学ぶ。 夏季休業中の課題から1曲を弾き、レッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分）</p>

	A : 多 F : あり
第17回	トーンチャイム ・ 秋のうた グループ：トーンチャイム 文化祭音楽研究発表の曲に取り組む。正確な譜読みを心がける。 ピアノ：夏季課題全部を弾き、レッスンを受ける。 「おおきなくりの木のしたで」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 F : あり
第18回	トーンチャイム ・ 秋のうた グループ：トーンチャイム 部分練習を重ね、曲が出来上がる喜びを知る。 ピアノ：「山の音楽家」「どんぐりころころ」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 F : あり
第19回	トーンチャイム ・ 秋のうた グループ：トーンチャイム 部分練習・通し練習を重ね、曲全体の流れを知る。 ピアノ：「まつぼっくり」「やきいもグーチーパー」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 F : あり
第20回	トーンチャイム ・ 冬のうた ・ 課題の復習 グループ：トーンチャイム 美しい音を響かせるための奏法を学ぶ。 ピアノ：「ゆき」「あわてんぼうのサンタクロース」を仕上げる。 これまでの『こどものうた』の課題を復習し、弾けることを確認する。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 E : あり F : あり
第21回	トーンチャイム ・ 子どものうた グループ：トーンチャイム チャイムの動きも意識して美しい音楽を奏でる。通し練習をたくさんしてミスのない演奏を心がける。 ピアノ：「手をたたきましょう」「ちいさな世界」のレッスンを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 F : あり
第22回	トーンチャイム ・ 子どものうた グループ：トーンチャイム 音楽研究発表のために、気持ちを一つにして最終練習に取り組む。 ピアノ：「手をたたきましょう」「ちいさな世界」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 F : あり
第23回	文化祭 音楽研究発表 ピアノ独奏、ピアノ連弾、トーンチャイムなどの練習の成果を発表し、互いに聴き合う。 A : 多
第24回	トーンチャイム ・ 子どものうた ・ 実技発表の『こどものうた』の選曲 グループ：トーンチャイム クリスマスソングに取り組む。正確な譜読みを心がける。 ピアノ：実技発表の『こどものうた』5曲を決め、アドバイスを受ける。 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」のレッスンを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A : 多 F : あり
第25回	トーンチャイム ・ 子どものうた ・ 実技発表の課題 グループ：トーンチャイム クリスマスソング 部分練習を重ね、曲ができて上がる喜びを知る。 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」を仕上げる。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日45分) A : 多 F : あり
第26回	トーンチャイム ・ 実技発表の課題 グループ：トーンチャイム クリスマス ミニコンサートのために、気持ちを一つにして最終練習に取り組む。 ピアノ：実技発表の課題のレッスンを受ける。

	<p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日45分) A:多 F:あり</p> <p>第27回 トーンチャイム ・ 実技発表の課題 グループ: トーンチャイム クリスマス ミニコンサート チャイムの動きも意識して美しい音楽を奏でる。 ピアノ: 実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日45分) A:多 F:あり</p> <p>第28回 ピアノ連弾 ・ 実技発表の課題の仕上げ グループ: ピアノの連弾曲を練習する。 「チャップスティック」 ピアノ: 実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題とピアノ連弾の「チャップスティック」を練習する。(毎日1時間) A:多 F:あり</p> <p>第29回 ピアノ連弾 ・ 実技発表の課題の仕上げ グループ: ピアノの連弾をして互いに楽しむ。 「チャップスティック」 ピアノ: 実技発表の課題のレッスンを受ける。</p> <p>予習・復習 実技発表の課題を練習する。(毎日1時間) A:多 F:あり</p> <p>第30回 試験(実技発表) グループ: なし ピアノ: 実技発表をする。 ・任意の『こどものうた』5曲(各自1曲選択、残り4曲より当日1曲指定) 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。</p> <p>E:あり F:なし</p>
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習においては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として体験し実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。この点で教育目標とディプロマポリシーにつながりがある。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	3. 保育者としての音楽的センスを磨き、音楽の基礎技能と現場で役に立つ音楽指導力を身につけることができる。 1. 3. 5. 子どもたちのために『こどものうた』を演奏できるようになる。子どもたちの前で歌えるようになる。 3. 5. 心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。
評価方法および評価基準	試験(ピアノ) 30% 小テストと前学期・後学期の実技発表の演奏を通して評価する。 練習課題(ピアノ) 50% 課題に対する取り組みと進捗を評価する。 平常点評価 20% グループ学習での取り組み(こどものうた レパートリー表等)を評価する。文化祭の音楽研究発表やクリスマス ミニコンサートへの取り組みも含む。
教科書	『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べるピアノ1,2,3』 本廣明美 他 ドレミ楽譜出版社 2015 1,300円(税抜) 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2015 1,500円(税抜) 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2015 1,500円(税抜)
参考書	『幼児のための音楽教育』 神原雅之 他 教育芸術社 2010 2,000円(税抜) 『こどものうた140選』 和田葉子 他 ドレミ楽譜出版社 1992 1,800円(税抜) 『ブルグミュラー25の練習曲』 全音楽譜出版社 700円 『ソナチネアルバム』 全音楽譜出版社 1,100円(税抜) その他適宜プリントを配付する。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日(30分~45分、試験前は1時間)練習すること。レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	「幼児音楽」の単位を取得した者が履修できる。
オフィスアワー	火曜日に研究室で受け付ける。時間は研修室に掲示する。
備考・メッセージ	※ピアノ: 大見由香、内丸ちづ子、大平美樹、栗村葉子、小椋由理、高野雅子、戸梶江吏子、平井敬子、三船 香、諸田明子、矢浪桂子

講義科目名称：音楽（声楽）

授業コード：

英文科目名称：Music (Vocal Study)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2単位	卒業選択 保育士選択必修
担当教員			
大見 由香			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>子どものうたや合唱曲に取り組む。授業では毎回ウォームアップ体操、呼吸、発声、音程などの基礎練習を行う。フレージング、歌詞の意味、曲の構成などを理解し、表現豊かな演奏を目指す。合唱ではお互いのバランスや調和をとる事を学ぶ。学修の成果は子どもの歌を用いたグループ発表、お誕生会での出し物、文化祭音楽研究発表会、クリスマスコンサートにて発表し、学びを深める。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽」で習得した声楽の技能、表現力をさらに高める。本授業で修得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「音楽表現」「音楽（器楽）」において、伴奏法、楽器演奏、身体表現、指導案作成の学習に関連する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>授業の概要 呼吸と発声について 授業概要・呼吸と発声について説明を受け、実際に行う。 「春が来た」を独唱し、各自の声質と声域を確認する。 復習：授業で行った呼吸と発声の練習（45分） D：中 F：あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>「春がきた」2部合唱・春のうた 「春が来た」を2部で歌う。歌詞の意味とフレーズを理解して表現する。 音程（重唱）の練習。春のうたをうたう。 予習・復習：春のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。（45分） A：中 D：中 F：あり</p>	
	第3回	<p>3部合唱の練習 春の歌 カデンツを歌い3部で歌う事を経験する。春のうたを歌う。 予習・復習 春のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。（45分） A：中 D：中 F：あり</p>	
	第4回	<p>保育現場における歌唱活動（1） こどもの歌唱活動について学ぶ。 保育現場における歌唱活動について：弾き歌い、手遊び、わらべうた 予習・復習：『幼児のための音楽教育』のわらべうたをうたい遊び方を覚える。（60分） D：中 F：あり</p>	
	第5回	<p>保育現場における歌唱活動（2） 保育現場における歌唱活動について：パネルシアター、音楽劇 プレゼンテーションについての説明：グループを作り発表するうたの選曲、準備、発表方法についてディスカッションする。 予習・復習：第4回、第5回で提示された活動についてインターネットやYouTubeで調べ、鑑賞する。（60分） A：中 D：中 F：あり</p>	
	第6回	<p>お誕生会について（1） 附属幼稚園にて発表するお誕生会の概要について説明を受け、お誕生会のうち、10分間で演じるものについて考える。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。（45分） A：中 D：中 F：あり</p>	
	第7回	<p>お誕生会について（2） お誕生会で演じるものを決定し、役割分担、準備計画を立てる。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。（45分） A：多 D：中 F：あり</p>	
	第8回	<p>お誕生会の準備（1） お誕生会で演じるものの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（45分） A：多 F：あり</p>	
	第9回	<p>お誕生会の準備（2） 実習中に体験したお誕生会について 実習中に体験したお誕生会についてディスカッションする。 お誕生会で演じるものの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（45分） A：多 D：中 E：あり F：あり</p>	
	第10回	<p>お誕生会の準備（3） お誕生会で演じるものの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。 予習・復習：授業で決まった役割を暗譜で演じられるように練習し、準備をする。（45分） A：多 F：あり</p>	
	第11回	<p>お誕生会のリハーサル（1） お誕生会で演じるものの通し稽古をし、改善点を見出す。 A：多 F：あり</p>	
	第12回	<p>お誕生会のリハーサル（2） お誕生会で演じるものの通し稽古と最終確認をする。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（45分） A：多 F：あり</p>	
	第13回	<p>お誕生会 附属幼稚園に集合し、お誕生会のうち10分間準備したものを演じる。</p>	

	予習・復習：個々の役割の練習と準備を行い、全体の流れを確認する。(45分) A：中 C：多 D：中
第14回	お誕生会のふりかえり 音楽研究発表の曲 夏のうた お誕生会について準備、本番、子どもの様子などをふりかえる。 音楽研究発表の曲と夏のうたを歌う。 予習・復習：夏のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。(45分) A：中 E：あり
第15回	音楽研究発表の曲 夏のうた 音楽研究発表の曲と夏のうたを歌う。 予習・復習：夏季休暇中の課題とテスト曲を練習する。(2時間) A：中 F：あり
第16回	音楽研究発表の曲(パート練習)・秋のうた・グループプレゼンテーション 音楽研究発表の曲の各パートのメロディを確認する。 秋のうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第17回	音楽研究発表の曲(歌詞について)・秋のうた・グループプレゼンテーション 音楽研究発表の曲の歌詞の意味を確認する。 秋のうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第18回	音楽研究発表の曲のテスト・秋のうた 音楽研究発表の曲のテスト(各自のパートを独唱する)。 秋のうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第19回	音楽研究発表の曲(ハーモニー)・秋のうた・グループプレゼンテーション 音楽研究発表の曲のハーモニーを聞く練習する。 秋のうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第20回	音楽研究発表の曲(表現をつける)・秋のうた・グループプレゼンテーション 音楽研究発表の曲のハーモニーを聞く練習する。 秋のうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第21回	音楽研究発表の曲(並び)・秋のうた・グループプレゼンテーション 音楽研究発表の曲の並びを確認し、練習する。 秋のうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第22回	音楽研究発表のうた(伴奏合わせ) 音楽研究発表の曲を伴奏合わせをする。 予習・復習：音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第23回	音楽研究発表の曲・クリスマスうた・グループプレゼンテーション 音楽研究発表の曲とクリスマスうたを歌う。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第24回	音楽研究発表のうた(伴奏合わせ) 音楽研究発表の曲を伴奏合わせをし、最終確認を行う。 予習・復習：音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第25回	音楽研究発表 音楽研究発表にて歌う。 予習・復習：音楽研究発表で歌う曲を練習する。(45分) A：中 D：中
第26回	冬のうた・クリスマスうた・グループプレゼンテーション 冬のうたとクリスマスコンサートのうたを練習する。 グループプレゼンテーションを行う。 予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。クリスマスコンサートの曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり
第27回	クリスマスうた(テスト) クリスマスコンサートのうたのテスト(アンサンブル)

	<p>予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。クリスマスコンサートの曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり</p> <p>第28回 冬のうた・クリスマスのうた・グループプレゼンテーション 冬のうたとクリスマスコンサートのうたを練習する。並びを確認する。 グループプレゼンテーションを行う。</p> <p>予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。クリスマスコンサートの曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり</p> <p>第29回 クリスマスコンサート クリスマスコンサートにて歌う。 予習・復習：クリスマスコンサートの曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中</p> <p>第30回 冬のうた・卒業式のうた・まとめ 冬のうたと卒業式の歌を練習する。 予習・復習：冬のうたを練習する。(45分) A：中 D：中 E：あり</p>
教育目標との関連	保育者として必要な音楽の技術と知識を身につける。 子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歌に込められたメッセージを理解し、他者に伝わる表現力を身に付ける。 2. 童謡のレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示できるようになる。 3. 子どもの歌の各音域で通る声で歌えるようになる。 4. うたの楽しみを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 5. 合唱を通してお互いに聴き合う感覚を磨き、協調性を身に付ける。
評価方法および評価基準	<p>受講態度 50% 課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。</p> <p>実技発表 30% グループ発表、お誕生日会、音楽研究発表、クリスマスコンサートでの演奏。</p> <p>実技試験 20% 独唱（前学期）、アンサンブル形式（後学期）のテスト。</p>
教科書	『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2011年 2,100円（税抜）
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	復習：授業で取り組んだこどもの歌は、暗譜でいつでも歌えるようにしておく。
履修上の注意、条件等	うたを学びたいという気持ちのある者、協力し合おうとする者が望ましい。ファイルを準備し、授業で配布するプリントを保管すること。
オフィスアワー	大見研究室で受け付ける。時間は、研究室に掲示する。
備考・メッセージ	練習用音源を活用して、日々の練習を行う事。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士選択必修
担当教員			
大見由香 高島扶貴 栗村葉子 高野雅子 平井敬子 藤澤桐子			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>保育者は、子どもから自発的に出てくる音楽表現を大切にしなければならない。子どもの成長の過程において、子どもの表現を受け止める・引き出す・伸ばすという大切な役割を保育者は担っている。この授業では、「表現」領域における音楽的表現について、幼児教育に必要な音楽的知識と指導法を中心に学ぶ。実技発表は模擬保育室にて保育現場の流れの一部を実践する。1クラスを3グループに分けて演習を行う。授業内容の順序はグループにより異なる。</p> <p>他の科目との関連：「幼児音楽」で身に付けた演奏の基礎技術を、さらに保育現場での実践に向けた内容に発展させ、習得する。</p>
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
第1回	<p>歌う① 音楽的表現活動の目的と内容</p> <p>概要 授業の進め方について説明を受ける。音楽的表現活動の目的と内容について学ぶ。子どもの声域と歌唱教材について学ぶ。歌唱の指導の留意点を学ぶ。春休み課題の童謡を弾く。</p> <p>予習 「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」を練習する</p> <p>復習 「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」のうちいずれかの弾き歌い。(1日20分、1週間で2時間)</p> <p>アクティブラーニング A:少 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>
第2回	<p>歌う② 歌唱の指導法</p> <p>概要 歌唱の指導法について学ぶ。範唱と模唱を体験する。弾き歌いの課題曲を弾く。</p> <p>予習・復習 弾き歌いの課題曲を練習する。(1日20分、1週間で2時間)</p> <p>アクティブラーニング A:少 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>
第3回	<p>伴奏を弾く① 歌唱の伴奏</p> <p>概要 歌唱の伴奏について学ぶ。歌いながらピアノを弾くことになれる。「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」</p> <p>予習・復習 弾き歌いの課題曲を練習する。(1日20分、1週間で2時間)</p> <p>アクティブラーニング A:少 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>
第4回	<p>伴奏を弾く② コードネームによる伴奏：簡易伴奏</p> <p>概要 根音や和音を使った簡易伴奏法を学ぶ。「おべんとう」「きらきら星」「かたつむり」他</p> <p>予習 弾き歌いの課題曲を練習する。</p> <p>復習 コードネームとカデンツを覚え、練習する。簡略伴奏のプリントを見て課題曲を弾く練習をする。(1日20分、1週間で2時間)</p> <p>アクティブラーニング A:少 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>
第5回	<p>伴奏を弾く③ コードネームによる伴奏：いろいろな伴奏形</p> <p>概要 いろいろな伴奏形を学ぶ。伴奏パターンのプリントを参考にきらきら星を弾く。コードネームから色々な伴奏を自分で作れる事を体験する。</p> <p>最終回に行われるテストの説明をうける。</p> <p>・弾き歌い、おじぎ、自由曲。</p> <p>予習・復習 テストの準備、弾き歌いなどを練習する。(1日20分、1週間で2時間)</p> <p>アクティブラーニング A:少 B:少 D:少 E:あり F:あり</p>
第6回	<p>伴奏を弾く④ 保育現場における伴奏</p> <p>概要 模擬保育室にて、声掛けなどを含めた保育現場での流れを体験する。</p> <p>予習・復習 テストの準備、弾き歌いなどを練習する。(1日20分、1週間で2時間)</p> <p>アクティブラーニング A:中 B:中 C:多 D:多 E:あり F:あり</p>
第7回	<p>身体表現① 日本におけるリトミック教育について学ぶ。</p> <p>空間で基礎リズムを動く。音楽のなかのビート・呼吸を感じる。空間・時間・エネルギーの関係を体験し、手遊び歌で活用する。基礎リズムのステップ・クラブを通して、空間の中での身体の使い方を知る。</p> <p>アクティブラーニング A:中 E:あり</p>
第8回	<p>身体表現② いろいろな拍子とリズムパターン</p> <p>概要 いろいろな拍子を体験し、子どもの歌で拍子を感じる。リズムパターンを活用した子どもの指導における発展を学ぶ。基礎リズムでピアノを弾く。各拍子を感じる。子どもの指導の発展では積極的に動くことをまなぶ。</p> <p>アクティブラーニング A:少 C:中 E:あり</p>
第9回	<p>身体表現③ 音楽のフレーズ</p> <p>概要 空間で音楽のフレーズを感じ、子どもの歌で更に体験する。動きながらソルフェージュを体験する。言葉のリズムを活用した動きを創作し発表する。</p> <p>アクティブラーニング A:少 B:少 D:少 E:あり</p>
第10回	<p>演奏する① 教育打楽器の基礎知識と合奏</p> <p>概要 保育現場における教育楽器の活用例と、楽器の基礎知識や取扱いについて学ぶ。合奏を体験することによって、楽器を使った音楽遊びと合奏の指導法の基礎について学ぶ。</p> <p>アクティブラーニング A:多 D:少 F:あり</p>
第11回	<p>演奏する② 合奏の指導法</p> <p>概要 合奏を体験することによって、合奏の指導法及び編曲方法の基礎について学ぶ。</p> <p>予習 譜読みをしておくこと。(約1時間)</p> <p>アクティブラーニング A:多 D:少 F:あり</p>
第12回	<p>音楽表現と指導案① 教材研究</p> <p>概要 リズム遊び、楽器を使った音楽遊び、歌唱などの教材研究する。教材研究に基づき、グループで指導案を作成する。</p>

	<p>予習・復習：指導案の作成と模擬保育の準備（約2時間） アクティブラーニング A：多 D：中 Fあり</p> <p>第13回 音楽表現と指導案② 模擬保育 概要 グループで立案した指導案に基づき模擬保育を行う。また振り返りでは、自らの計画と保育について評価を行う。</p> <p>予習・復習：作成した指導案の修正と模擬保育の準備（約1時間） アクティブラーニング A：多 D：多 Fあり</p> <p>第14回 音楽表現と指導案③ 模擬保育と評価 概要 グループで立案した指導案に基づき模擬保育を行う。また振り返りでは自らの計画と保育についての評価を行う。</p> <p>予習・復習：作成した指導案の修正（約1時間） アクティブラーニング A：多 D：多</p> <p>第15回 実技発表 まとめ 概要 テスト：おじぎの和音と童謡課題曲の弾き歌いをする。子ども達の創造性を豊かにするための保育者の関わりについて考える。</p> <p>予習 テストの課題曲を練習する。（1日20分、1週間で2時間） アクティブラーニング A：少 D：中 E：あり</p>
教育目標との関連	幼児期の音楽環境はとても大切だと言われている。カリキュラム・ポリシーにあるように保育者として確かな知識と実践的な技能を身につける必要がある。豊かな感性と愛の心で、常に「子どもたちのために」ということを考え、学ぶ過程で丁寧な取り組みをする。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の音楽的発達や保育現場での音楽活動を理解し、適切な選曲ができるようになる。 2. 子どもの気持ちを理解し、クラスの状況を把握しながら指導する大切さを知る。 3. 弾き歌いや伴奏法を学び、保育現場で実践できる力を身に付ける。 4. 音楽の楽しさを理解し、子どもに伝える大切さを知る。
評価方法および評価基準	<p>試験 30% おじぎの和音と弾き歌い。声掛けや子どもの様子を見ながら行うかを判断する。</p> <p>提出課題 20% プリント、指導案</p> <p>授業態度 30% 受講のための準備学習の状況や、グループワークの貢献度、授業の振り返りや感想の内容を評価する。</p> <p>実技発表 20% 弾き歌い</p>
教科書	『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2011年 2,100円（税抜） 授業中に適宜、楽譜・資料を配布する。
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領解説
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	童謡の課題については、子ども達の前で弾く事を考え、毎日の練習を欠かさない事。目安として最低1日20分、週2時間の準備学習を要する。
履修上の注意、条件等	リトミックの授業は動きやすい服装で受講すること。 ピアノの授業ではプリントを整理するファイル（A4サイズ）を準備し、整理しておくこと。
オフィスアワー	大見（全体に関する質問）：大見研究室で受け付ける。時間は研究室前に掲示する。 高島：高島研究室で受け付ける。時間は研究室前に掲示する。 藤澤・高野・平井：授業前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択必修、幼免必修、保育士資格選択必修
担当教員			
荒木みどり			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>幼児の造形活動は、ものに出会い、ふれあい、感じて、行動するという人間としての根源的な営みが含まれている。また、他人との関わりを形成するための重要な場でもあり、このような活動を数多く体験することが学びに繋がり生きる力になる。授業の実践を通して、情動的コミュニケーションを体験し、子どもの世界を理解し、感性を育むということを考えていく。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション 幼稚園や保育園の様々な行事での造形活動の実例をプロジェクターで鑑賞しながら、この科目の一連の授業の流れと造形コミュニケーションについての概念を説明する。今後の活動において、グループ分けをした班ごとで簡単な造形活動をしなが、グループ内のコミュニケーションを図る。 A:中 B:中 D:中	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	身近な素材で遊ぶ① 造形・グループ活動 (素材/紙コップ・洗濯バサミ等) 積み上げる、重ねる、並べる、引っ付ける、など、素材と触れ合いながら、遊びを創作しながら活動する。その後、活動の振り返りをする事で、こども理解を深める。 A:多 B:多 E:中	
	第3回	身近な素材で遊ぶ② 描画 (素材/割り箸・タンポ筆) 身近な素材を道具にするために自分たちで道具作りをし、それを使った描画の創作を行う。その後、活動の振り返りをする事で、こども理解を深める。 A:中 B:中 E:中	
	第4回	季節の造形① ハロウィン ハロウィンの行事を楽しむために、変装グッズを作る。素材は、紙袋を使用。その後、作品鑑賞をしながら、次に続く遊び及び表現活動を話し合う。A:中 B:中 D:中 E:少	
	第5回	五感で表現する造形 音、匂い、感触などを感じて、直感で描画を描く。「感じて、動く」を体感する。体験後、どのように感じたか感想を話し合いながら、振り返る。B:多 D:中 E:中	
	第6回	季節の造形② 紅葉・グループ活動 フィールドワークに繋がる活動で秋の紅葉を鑑賞しながら、植物を収集する。持ち帰った植物の素材で絵の具を使って、平面構成の作品を作る。 A:多 B:多 C:中 D:少 E:少	
	第7回	紙版画① テーマ探しと版制作 幼児にもできる範囲の紙版画の制作をする。テーマを個々に設定し、紙で版作りをする。 A:少 B:多	
	第8回	紙版画② 版画と鑑賞 前回に制作した版を基に、刷り作業を行う。刷りを工夫することで、版画が変化することを経験し、技術を習得することの面白さを知る。 A:多 B:多 D:少	
	第9回	粘土で遊ぶ・グループ活動 水粘土の成り立ちと準備と保管の仕方の説明後、テーマを決めてグループで作品制作する。その後、鑑賞をし粘土の利用価値を話し合う。 A:多 B:多	
	第10回	中間的な振り返りとテキスト作り 第2回～9回までの制作した作品や活動の写真を準備して、スケッチブック（1年次から使用している）にテキストとしてまとめる。 教科書を読みながら、子どもの表現活動についての知識を習得する。 E:多 F:中	
	第11回	季節の造形③ クリスマス クリスマスの行事に合わせて、こどもにも作れそうな簡単な作りの飾りを創作する。完成できた時の子どもがの満足感をイメージできるように工夫を入れた（素材選び・作りやすさなど）制作をする。 B:多 D:中	
	第12回	手作りおもちゃ・教材作り① アイデア・コンセプト 各自が、本やインターネットの情報を参考に、子どもと遊びのための手作りおもちゃ、または教材を制作する。保育現場で子どもと向き合っ、一緒に遊ぶイメージを持って、自分らしいアイデアとコンセプトを加えた、提案する。 A:中 B:中 D:中	
	第13回	手作りおもちゃ・教材作り② 制作 前回の提案したおもちゃ・教材の制作に取り掛かる。素材を自由に選び、工夫をしながら丁寧に制作する。 A:中 B:中 F:中	
	第14回	手作りおもちゃ・教材作り③ プレゼンテーションと鑑賞 前回からの制作の仕上げに取り掛かる。制作後、作品鑑賞と講評を行う。他人からの意見や感想をフィードバックし、子どもとおもちゃ・教材のあり方を考える。 B:多 D:中 E:中	

	<p>第15回 まとめ・レポート</p> <p>今までの活動をプロジェクターで再確認しながら、造形とこどものあり方を話し合う。用意された幾つかの設問に答えながら、レポートを書く。</p> <p>A:中 B:中 E:多</p>
教育目標との関連	<p>本科目を通じて、保育者としての造形的技術と幼児の造形活動を補助するための知識を習得する。自ら積極的に実践活動に参加することで、「触れて、感じて、考える」子どもの育ちを理解する。グループで制作活動することで、コミュニケーションの大切さと共感する楽しさを認知する。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1、造形活動に関する様々な知識を深め、幼児の造形表現におけるコミュニケーションの重要性を知る。</p> <p>2、基本の造形遊びから発展させたアイデア（活動）を生み出すための思考と判断力を養う。</p> <p>3、幼児の造形活動をサポートする上で必要な技術とコミュニケーションを通じた表現で手助けできる力を養う。</p> <p>4、こどもの作りたい気持ちに関心を持つために、自らも意欲的に活動を行い、グループでの意見交換を盛んにする。</p> <p>5、積極的な実践活動への参加をすることで、造形への関心を深める。</p>
評価方法および評価基準	<p>授業態度 50パーセント</p> <p>制作作品 25パーセント</p> <p>レポート 25パーセント</p>
教科書	<p>「すべての感覚を駆使してわかる 乳幼児の造形表現」編著 平田智久・小野 和 保育出版</p>
参考書	<p>適宜に指示する。</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>教科書の全体的な内容を把握し、幼児造形の基本的な意義を理解しておく。</p>
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	<p>授業の前後にて、教室で対応する。</p>
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択、保育士選択必修
担当教員			
入江三津子・入江和夫			
授業形態：講義	担当形態：複数		

講義概要	小1プロブレムなど、学校生活への適応を図ることが難しい児童の実態がある。生活科新設の趣旨の中には、幼児教育との連携が重要な要素として位置付けられており、これら課題を解決するために生活科が果たすべき役割は大きい。本授業では小学校への円滑な接続はどうすればよいかを明らかにする。他教科との関連は保育内容「環境」など		
授業計画および学習形態	第1回	<p>「生活科研究」を学ぶ意義</p> <p>授業全体のオリエンテーションによって、「生活科研究」を学ぶ意義について、理解する。</p> <p>予習：シラバスを読み、今後の流れを把握する。（2時間）</p> <p>Eあり、Fあり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク</p> <p>B:ディスカッション</p> <p>C:フィールドワーク</p> <p>D:プレゼンテーション</p> <p>E:振り返り</p> <p>F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上</p> <p>中：15分～44分</p> <p>少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>幼少接続について</p> <p>小学校学習指導要領「生活」を資料として、小1プロブレム解決のために生活科が果たすべき役割を理解する。「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」について理解する。</p> <p>予習：幼稚園教育要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>Eあり、Fあり</p>	
	第3回	<p>自然体験①</p> <p>幼稚園教育要領の内容「身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。」を体験的に理解する。構内のバッタやダンゴムシなどを捕獲し、観察する。</p> <p>予習：幼稚園教育要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」の提出（1時間）</p> <p>Eあり、Fあり</p>	
	第4回	<p>自然体験②</p> <p>構内のバッタやダンゴムシなどの飼育・観察から、その活動を幼児の姿からスケッチする。</p> <p>予習：幼稚園教育要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>Eあり、Fあり</p>	
	第5回	<p>自然体験③</p> <p>身近な自然にある竹を生かした箸づくりを行う。</p> <p>予習：幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>A少、B少、C多、D少、Eあり、Fあり</p>	
	第6回	<p>自然体験④</p> <p>身近な自然にある竹を生かした花器づくりを行う。幼稚園教育との共通点、相違点を明らかにするとともに円滑な接続の工夫を発表する。</p> <p>予習：幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>A少、C多、D少、Eあり、Fあり</p>	
	第7回	<p>自然体験⑤</p> <p>構内を散策して草花を探し、竹の花器に生ける。</p> <p>予習：幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>C多、Eあり、Fあり</p>	
	第8回	<p>「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」①</p> <p>第3回、4回の活動を「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」から理解する。</p> <p>予習：小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>A少、Eあり、Fあり</p>	
	第9回	<p>「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」②</p> <p>第5～7回の活動を「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」から理解する。</p> <p>予習：小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>A少、Eあり、Fあり</p>	
	第10回	<p>幼保の具体的活動のエピソード記録の分析①</p> <p>活動のエピソード記録を基に「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」から関連づけを行い、理解する。</p> <p>予習：小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p> <p>A少、Eあり、Fあり</p>	
	第11回	<p>幼保の具体的活動のエピソード記録の分析②</p> <p>活動のエピソード記録を基に「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」から関連づけを行い、理解する。</p> <p>予習：小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。</p> <p>復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）</p>	

	<p>第12回 B少、D多、Eあり、Fあり 秋の自然物を生かした遊具づくり① どんぐりや松ぼっくりを使った遊具製作の活動を行い、エピソード記録を作成する。 予習：小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間）B少、D多、Eあり、Fあり</p> <p>第13回 秋の自然物を生かした遊具づくり② 第12回のエピソード記録を「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」及び「幼児教育において育成すべき資質・能力」から関連づけを行い、理解する。 予習：小学校学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間） B少、D多、Eあり、Fあり</p> <p>第14回 テスト及び解説 今までの授業内容をテストし、解説する。 予習：今までの授業内容の整理。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間） B少、D多、Eあり、Fあり</p> <p>第15回 総合的な振り返り いままでの授業を総合的に振り返り、円滑な幼少接続の観点をまとめる。 予習：「生活科研究」で配布したプリントの内容を把握すること。 復習：「本日の授業でわかったこと及び感想」を提出（2時間） A少、B少、D多、Eあり、Fあり</p>
教育目標との関連	幼稚園実習の振り返り及び小学校授業「生活科」の模擬授業実践を通して、円滑に接続できるような幼稚園教育の在り方を保育者として理解し、実践できる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1 幼稚園教育要領や小学校学習指導要領「生活」の比較を通して、「生活科研究」の意義を理解できる。</p> <p>2 小学校「生活科」の示範授業により、「教材（教材研究）」「授業構成：導入・展開・まとめ」「授業技術：その他諸々」について、幼稚園教育などとの共通点、相違点などを理解できる。</p> <p>3 幼児教育と小学校の円滑な接続とはどうあるべきかについて、述べることができる。</p>
評価方法および評価基準	試験 70% 定期試験を実施する。 提出課題 15% 実技発表 15%
教科書	使用しない
参考書	幼稚園教育要領解説 小学校学習指導要領解説「生活編」
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	予習内容、授業の振り返り「わかったこと&感想」については、メールで提出する。
オフィスアワー	入江研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2単位	卒業選択 保育士選択必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>幼児体育は、体育実技・理論の基礎知識を元に、1年次に必修で行った5領域で理解した子どもへの専門知識を実践的に身につけるための演習授業となっている。また、幼児体育は、身体活動を通じた教育であり、集団保育の役割も担っている。</p> <p>そのため、本演習では、からだをつかった遊びやゲームから即興的な応用方法を学び、子どもとともに遊びを編み出すことを学ぶ。</p> <p>さらに、運動遊びの観察で得られた情報をもとに、乳幼児期に身に付けたい基本運動と応用方法を学び、子どもの健康・体力づくり、安全を支えるスキルを総合的に学ぶ。また、保育園や幼稚園等での経験が小学校生活へ自然と移行していけるような「接続期」としての重要な役割を担うことも鑑み、「創造的」な遊びを通じて、子どもたちの「関心・意欲・態度」を育てる役割が、保育者にあることを理解して、指導案等の立案ができることを目標とする。</p> <p>他科目との関連：必須科目の5領域で学んだ内容を基礎にして、幼児体育の実践的な援助・指導方法により保育者としての必要なあり方を修得する。</p>
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション、及び「幼児体育」について 講義概要と演習方法の説明とを行う。 基本ステップ進捗表とレポートの説明を行う。 幼児体育のねらいを理解する。幼児体育とは① 即興表現の測定テスト（個人）を行う。 予習、復習：事前学習を参照。 C：あり F：あり</p> <p>第2回 体ほぐし①（子どもの体の異変と対策） 体ほぐしの体操を行う。 近年の子どものからだの異変とその対策 動画による測定結果の振り返りを行う。 課題曲：3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 E：あり F：あり</p> <p>第3回 体ほぐし②（子どもの生活と運動） ストレッチ解説① 宿題の答え合わせ：子どもの生活と運動 場の設定と指導法（集団と個別）を体験する。 課題曲：3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 E：あり F：あり</p> <p>第4回 動きの種類 動きの種類を知る。 安全と注意のための子どもの体をつかったゲーム①を行う。 宿題の解説：子どもの発達と運動 課題曲：3匹のこぶた、鳴子の体操 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり</p> <p>第5回 導入方法 子どもの体をつかったゲーム②を行う。（指導と導入方法の演習） 宿題の解説：幼児体育とは② 課題曲：鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり</p> <p>第6回 子どものからだ ストレッチ解説② なぜ運動が必要か？子どものからだを知る①。 宿題の解説：運動発現のメカニズム 課題曲：鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり</p> <p>第7回 表現指導法 個と群の違いを知り、障害児の指導法を体験する。子どものからだを知る②。 宿題の解説：幼児体育指導上の留意事項 課題曲：鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり</p> <p>第8回 表現あそび①（表現運動と観察） 子どもの感情表現と動きのバリエーションを行う。 宿題の解説：障がい児の体育指導① 課題曲：鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり</p> <p>第9回 園での演習（身体表現の上演） 園での上演実習を行い、部分実習の準備とする。</p>

第10回	<p>園のお誕生会を見学して、保育観察を行う。 宿題の解説：障がい児の体育指導② 課題曲：鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり おとなのからだ おとなのからだを知る。おとなとこどもの動きの発展方法を行う。 園での実習の振り返りを行う。 宿題の解説：体格、体力、運動能力の測定・評価① 課題曲：アンパンマン体操 予習、復習：事前学習を参照。 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>表現あそび②（表現運動から動きのシークエンス） おとなの感情表現と動きのバリエーションを行い、子どもとの違いを確認する。 宿題の解説：体格、体力、運動能力の測定・評価② 課題曲：アンパンマン体操 予習、復習：事前学習を参照。 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>有機的指導法①（集団の動かし方） 隊形と動線（集団の指導方法）の演習を課題で行う。運動と安全管理を学ぶ。 宿題の解説：運動と安全管理① 課題曲：アンパンマン体操 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>中間発表①（群の演技とは） 1回目即興創作の実技発表（グループ）をする。 宿題の解説：運動と安全管理② 課題曲：アンパンマン体操 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（アンパンマン体操の音楽分析）</p>
第14回	<p>省察①（群演技） 動画による振り返りを行う。グループと個人の課題を考える。 課題曲の分析方法を学ぶ。（アンパンマン体操の音楽分析の答え合わせ） 課題曲：アンパンマン体操 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（童謡の音楽分析）</p>
第15回	<p>有機的指導法②（構成を考える） 時間の構成方法（はじめ・中・おわり）の演習を行う。 宿題の解説：童謡の音楽分析 参考書の理論を元に即興的实践を学ぶ。 課題曲：アンパンマン体操 鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり（夏休みの実技宿題）</p>
第16回	<p>前期まとめとテスト 前期の幼児体育の理論についてまとめテストを行う。 前半35分テスト対策 後半50分期末テストを行う。</p>
第17回	<p>コーディネーション、及び後期の授業方法について ストレッチ解説③ゴールデンエイジと誘導方法を理解する。水遊びの導入模擬を行う。 後期の授業方法について（9つの課題設定） 準備運動とその応用① 夏休みのレポート提出日 課題曲の復習：アンパンマン体操 鳴子の体操 3匹のこぶた 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（インストラクション方法を練習）</p>
第18回	<p>ペアワーク①（違いを活かす） 大人と子どもの体操・ダンス①（ファミリー）の演習を行う。 夏休みの実技宿題チェック 準備運動とその応用② 課題曲：3匹のこぶたの別バージョン（ファミリー）と指導方法① 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（インストラクション方法の実技宿題と、仲間づくりあそびの理論）</p>
第19回	<p>ペアワーク②（接続期に向けて） 大人と子どもの体操・ダンス②（ペアリングなど）の演習を行う。 キッズヨガのポーズを習得する。 宿題の解説：仲間づくりあそび 課題曲：3匹のこぶたの別バージョン（ファミリー）と指導方法② 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（インストラクションの実技宿題と、キッズヨガの理論）</p>
第20回	<p>運動遊び①（マットあそび） ストレッチ解説④ マットあそびを行う。 宿題の答え合わせ：キッズヨガ 参考書『幼児体育』p.102-105 課題曲：3匹のこぶたの別バージョン（ファミリー）と指導方法テスト 課題曲：鳴子の体操の指導方法① 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（インストラクションの実技宿題と、マットあそび理論）</p>
第21回	<p>運動遊び②（縄あそび） コンビネーション方法① 縄あそびを行う。 宿題の解説：マットあそび 課題曲：鳴子の体操の指導方法② 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり（インストラクションの実技宿題と、縄あそび理論）</p>

	<p>第22回 運動遊び③ (ボールあそび) コンビネーション方法② ボールあそびを行う。 宿題の解説：縄あそび 課題曲：鳴子の体操のインストラクションテスト 課題曲：アンパンマン体操の指導方法① 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり (インストラクションの実技宿題と、ボールあそび理論)</p> <p>第23回 運動遊び④ (平均台等) コンビネーション方法③ 平均台、フラフープ、鉄棒、その他のあそびを行う。 宿題の解説：ボールあそび 課題曲：アンパンマン体操の指導方法② 予習、復習：事前学習を参照。 A：少 E：あり F：あり (インストラクションの実技宿題と、平均台、フラフープ、鉄棒の理論)</p> <p>第24回 運動会 幼稚園運動会の動画を観る。障害物で遊ぼう① 競争と協力を考える。(グループ活動) 宿題の解説：平均台、フラフープ、鉄棒 課題曲：アンパンマン体操の指導方法③ 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり (インストラクションの実技宿題)</p> <p>第25回 中間発表② (個の動きと援助) 障害物で遊ぼう② 2回目実技発表 (グループ) 障害物のサーキットもしくは、リレーを作成して、グループ発表する。 課題曲：アンパンマン体操のインストラクションテスト① 予習、復習：事前学習を参照。 A：多 E：あり F：あり (インストラクションの実技宿題)</p> <p>第26回 基本運動① (体育あそび) 小学校に繋がる指導について学ぶ①。 「接続期」を考え、体育あそびを行う。 ルールについて考える。(鬼遊び等) 課題曲：アンパンマン体操のインストラクションテスト② 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり (「接続期」遊びの指導案作成)</p> <p>第27回 基本運動② (基本運動と鬼あそび等) 小学校に繋がる指導について学ぶ②。 宿題の指導案発表①し、提出する。 基本運動を入れたあそびを作る。(鬼遊び等) 発達段階に応じた望ましい運動に対する言葉がけを考える。 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり (「接続期」遊びの指導案の直し、及び伝統あそびを考えてくる)</p> <p>第28回 有機的指導法② (伝承あそび) 伝承あそびを行う。即興から発展する表現あそびと運動あそびを行う。 宿題の指導案発表②し、再提出。 好きな伝統あそびをインストラクションする。 発達段階に応じた望ましい運動に対する言葉がけを考える。 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり (これまでのまとめとして、伝統あそび等のインストラクションを考えてくる)</p> <p>第29回 誘導方法 伝承あそび、表現遊び、運動遊び、体育遊びのまとめをする。 これまでの見本演技と誘導テクニックのまとめをする。 各自が考えてきた遊びを創造的にインストラクションする。 予習、復習：事前学習を参照。 A：中 E：あり F：あり (これまでのまとめとして、即興創作をまとめてくる)</p> <p>第30回 成果測定とまとめ 初回に行った即興テストを再び行う。即興表現の判定テスト (個人) 判定テストの動画を見て振り返り、評価方法を学ぶ。 評価項目の作成により、各自の得意・不得意分野を考える。 予習、復習：事前学習を参照。 A：多 E：あり F：あり (これまでの配布資料を1冊のファイルにまとめてくる)</p>															
教育目標との関連	保育知識を活用しながら、幼児のさまざまな身体表現である非言語コミュニケーションを学ぶことにより、教職者として「社会的スキルを身に付け、他者と円滑なコミュニケーションができる」ことを目標に修得する。															
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの身体特性を踏まえて、発育発達に応じた遊びを修得する。 2. 子どもの活動的な遊びに必要な条件と安全を理解して保育することを学ぶ。 3. 幼児期の個別と集団活動を理解して、社会への一步となる「接続期」の遊びを修得する。 4. 子どもの「創造的で活動的なあそび」の段階的援助や指導の理論を理解する。 5. 自らも幼児体育に必要な技量を積極的に修得する。 															
評価方法および評価基準	<table border="0"> <tr> <td>試験</td> <td>20%</td> <td>前学期筆記試験を実地します。後期には行いません。幼児体育理論について理解度を評価する。</td> </tr> <tr> <td>提出課題</td> <td>20%</td> <td>後学期に、提示された中から9つの課題を各自が設定し、それをどれだけクリアできるかを評価とする。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> <td>前学期に、授業内で指定したの内容をレポート提出し、レポート課題をどれだけ理解して作成したかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>20%</td> <td>授業内での個人的な実技小テストの結果や、積極的な参加及び発表を評価する。</td> </tr> <tr> <td>実技発表</td> <td>20%</td> <td>グループ活動での発表内容から個人が学んだ事を評価する。</td> </tr> </table>	試験	20%	前学期筆記試験を実地します。後期には行いません。幼児体育理論について理解度を評価する。	提出課題	20%	後学期に、提示された中から9つの課題を各自が設定し、それをどれだけクリアできるかを評価とする。	レポート	20%	前学期に、授業内で指定したの内容をレポート提出し、レポート課題をどれだけ理解して作成したかを評価する。	受講態度	20%	授業内での個人的な実技小テストの結果や、積極的な参加及び発表を評価する。	実技発表	20%	グループ活動での発表内容から個人が学んだ事を評価する。
試験	20%	前学期筆記試験を実地します。後期には行いません。幼児体育理論について理解度を評価する。														
提出課題	20%	後学期に、提示された中から9つの課題を各自が設定し、それをどれだけクリアできるかを評価とする。														
レポート	20%	前学期に、授業内で指定したの内容をレポート提出し、レポート課題をどれだけ理解して作成したかを評価する。														
受講態度	20%	授業内での個人的な実技小テストの結果や、積極的な参加及び発表を評価する。														
実技発表	20%	グループ活動での発表内容から個人が学んだ事を評価する。														

教科書	必要に応じて資料を配布する
参考書	『幼児体育－理論と実践－』第5版 日本幼児体育学会編 大学教育出版社 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 授業中に指示 https://www.youtube.com/user/nikaidolturukawa http://teachernika.blogspot.jp/
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	楽しく授業に参加できるように体調を整え、授業前に軽く各自ストレッチをしておく。（10分程度） 授業の該当する配布プリント等を読み込んでおく。（35分程度） 授業後は、授業中にメモした内容や返却されるワークシートを整理して発表やレポートに備える。（30分程度） また、授業に必要な物事を事前に連絡するので、それらを準備して授業に臨むこと。（15分程度） その他、授業の最後に次回の内容と、宿題プリントを配布するので次回に提出する用意をする。（1時間）
履修上の注意、条件等	実習と同じように、動きやすい服装、素足または底の浅い上履きで参加すること。（幼児体育検定に準ずる服装） 学習者の状況により進度調整あり。 前学期に理論中心に学習し、後学期にはその理論を元に実技中心に応用を学ぶので、そのための宿題がある。 教科書の負担を減らした分、スライド等の学習を含めた予習、復習及び、授業のワークシートはまとめてファイルしておくこと。 毎回アクティブラーニングを交えた個人指導もあるので、履修者は25～30名程度とする。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。
備考・メッセージ	掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。締め切り過ぎたら不受理とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	幼免必修
担当教員			
高島扶貴 富金原光秀 柴田啓一 宮有佳里			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>教育実習に向け、幼稚園教諭に求められている知識や姿勢を身につけていくために、自己課題を設定する。これまで学んできた理論や技術を教育実習でどのように活かしていくか具体的に考える。また教育実践力を身につけるために、指導案を作成し模擬保育を行う。指導案作成にあたっては教材研究の時間を十分にとり、その重要性について学ぶ。</p> <p>他科目との関連：「保育実習指導Ⅰ（保）で、保育実習に向けた事前事後指導において学んだ心構えや、実践的な保育技能の修得の上に、さらに幼稚園教諭として望ましい教師像を形成できるようにする。」</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション 幼稚園教諭の仕事 教育実習の概要と、学内で定めた実習の履修基準について理解する。 幼稚園教諭の多様な役割について理解する。 課題：保育者に求められる資質についてレポート作成 予習：シラバスの全体をよく読み、教育実習指導の概要を理解する。（約1時間） B：少 F：あり</p> <p>第2回</p> <p>実習生としての心構え・実習生に求められるもの 教育実習の効果を高めるために、教育実習の内容を理解し、実習に向けての目的意識をもつ。また実習生としての責任と役割を自覚する。 課題：実習生としての心構えについてレポート作成 予習・復習：守秘義務について理解をし、自らの個人情報も管理する。 実習生としての役割と責任について理解を深める。（約1時間） B：少 F：あり</p> <p>第3回</p> <p>幼児理解と記録 視聴覚教材を通し、幼児理解に視点を置き記録をとる方法を学ぶ。 課題：日誌 予習・復習：事前研修・保育実習Ⅰの実習日誌を読む。（幼児理解を中心として）（約2時間） B：少 F：あり</p> <p>第4回</p> <p>幼児理解と考察 視聴覚教材を通し、幼児理解に視点を置き記録をとる方法を学ぶ。 幼児理解に基づいた考察の書き方について理解する。 課題：日誌 予習・復習：事前研修・保育実習Ⅰの実習日誌を読む。（幼児理解を中心として）（約2時間） B：少 F：あり</p> <p>第5回</p> <p>遊びを通しての総合的な指導 既成の玩具では味わえない、幼児が考え気付き、探究心を沸かせる遊びについて考察し、教材研究の重要性について気付く。 遊びを通しての総合的な指導法について考える。 課題：遊びの提案（プレゼンテーション） 予習・復習：遊びの素材を研究し、幼児の興味関心に即した遊びを考える。（約2時間） D：多 F：あり</p> <p>第6回</p> <p>遊びを通しての総合的な指導・教育実習前の自己課題の設定 既成の玩具では味わえない、幼児が考え気付き、探究心を沸かせる遊びについて考察し、教材研究の重要性について気付く。 幼稚園教諭に求められる知識と態度について考え、現在の自分と比較することによって教育実習前の自己課題を明確化する。 課題：遊びの提案（プレゼンテーション） 「実習の課題」を作成する。 予習・復習：教育実習前の自己課題について考える。（約2時間） D：多 F：あり</p> <p>第7回</p> <p>学内オリエンテーション 実習園のオリエンテーションについて 実習日誌について 実習に関する事務手続き 予習・復習：配布プリントを読み準備する。（約1時間） B：少</p> <p>第8回</p> <p>全日指導案の作成 幼稚園の一日の流れを想定し、責任実習に向けて全日指導案を作成する。 これまで学んだ理論と技術をどのように教育実習で活かせるか具体的に考える。 課題：全日指導案の作成 予習・復習：全日指導案の作成（4時間） B：少 F：あり</p> <p>第9回</p> <p>模擬保育に向けた指導計画の作成 教育実践力を身につけるために、教材研究後指導計画を作成する。 作成した指導計画に基づき、次回以降の授業で模擬保育を実施する。 予習・復習：指導案の作成（約2時間） A：多 F：あり</p> <p>第10回</p> <p>模擬保育1と振り返り グループごとに教育実習をイメージした模擬保育を行う。</p>		

	<p>またふりかえりでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：活動案の提出 予習・復習：作成した指導案の修正と模擬保育の準備（約2時間） A：多 模擬保育2と振り返り 模擬保育1での反省点を活かし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：活動案の提出 予習・復習：指導案の修正と模擬保育の準備。（約2時間） A：多 模擬保育3と振り返り 模擬保育1及び2での反省を活かし、幼児理解に基づき適切な援助および環境構成を目的とした模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：活動案の提出 予習・復習：指導案の修正と模擬保育の準備。（約2時間） A：多 第13回 実習の振り返り（幼稚園実習における学びについてのディスカッション） 幼稚園実習における学びについて以下の観点からディスカッションをする。 ・園の特色・保育者の姿勢や助言から学んだこと・自分の保育観 予習・復習：実習日誌を読み実習の課題について考える。 B：多 第14回 実習の振り返り（学生によるプレゼンテーション） 実習を通じた気付きや学びについてのプレゼンテーションを行う。 予習・復習：プレゼンテーションの準備と振り返り（約2時間） D：多 第15回 まとめ（自己評価と課題設定） 幼稚園教諭として必要な知識と態度を身につけるために、教育実習の自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 B：少</p>
教育目標との関連	<p>保育者として、理論に基づいた確かな知識を身につける。実技指導は、授業内で学んだものを模擬保育などの実践を通して保育技術修得を目指す。 また実習生としての立場を理解し謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な教養を身に付ける。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 実習の目的・意義を理解し、実習課題を立て実習への目的意識をもつ。 2. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容を具体的に理解する。 3. 保育に必要な理論及び技術を修得する。 4. 振り返りや、評価票面接を通して今後の課題自ら設定することができる。</p>
評価方法および評価基準	<p>提出課題60% 指導案や授業内における課題の理解度で評価する。 受講態度40% 実習に必要な手続きが期限内に提出しているか評価する。</p>
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円（税別）
参考書	『幼稚園教育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回、予習復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	教育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称：教育実習

授業コード：

英文科目名称：Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	4単位	幼免必修
担当教員			
高島扶貴、柴田啓一、富金原光秀、宮有佳里			
授業形態：実習	担当形態：複数		

講義概要	各幼稚園での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。幼稚園では子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	<p>幼稚園の機能と役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習園の概要を知る 2. 幼稚園の1日の流れを把握する 3. 保育室の環境整備について知り、実践する 4. 園と家庭・地域・小学校との連携の意義と方法を知る <p>幼児理解と援助方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の遊びの状況を理解し参加する 2. 年齢段階による遊び・生活・課題への取り組みの違いを知る 3. 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る 4. 保育者の中の指導と援助の在り方を探る 5. 特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方を知る <p>保育計画の作成・実践・記録・評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ 2. 年間・月間指導計画の中での現在の保育を理解する 3. 保育計画を立案、実践し、評価を受け、カリキュラムマネジメントについて理解する。 <p>幼稚園教諭の役割と職業倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教諭の職務内容を理解する 2. 教員間の役割分担や連携を知る 3. 幼稚園教諭の職業倫理を学ぶ <p>※以上の内容について、3週間の実習を行う。教員が巡回指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p>
教育目標との関連	幼稚園での実習を通して、幼児と愛情を持って接するなかで、幼児の心身の発達についての具体的な知識と確かな保育技術を修得する。また、保育現場に自ら身を置くことにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験は、保育者としての使命感や倫理観を養うとともに、保育者への適性を見直すこととなり、自己理解を深めることに繋がる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。 2. 幼稚園教諭の職務や専門性について具体的に学ぶ。 3. 実際の関わりを通して幼児を理解し、その実態を把握する。 4. 保育の具体的な記録を学び、指導計画の立案・実践・評価を行い、カリキュラムマネジメントについて理解する。 5. 大学で学んだ理論が実践の場でどのように具体化されているのかを知る。 6. 実習全体を通して、専門職としての自覚と態度を育成する。
評価方法および評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習園が与えた評価 40% 実習日誌など 60% ※委細については、保育・教職の手引きを参照すること。
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	教育実習指導の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。
履修上の注意、条件等	本実習科目を履修するにあたっては、合わせて教育実習指導を履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、教育実習指導も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	保育士必修
担当教員			
福田泰雅、柴田啓一、近澤友理、高島扶貴、横溝一浩、森眞理、相澤京子			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>本科目を通して学生は、保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの課題明確にする。また、実習に際しての留意事項（実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務）について理解し、実習生としての心構えを養う。さらに、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容などを理解した上で、具体的な準備を進めてゆく。実習終了後には、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p> <p>他の科目との関連：本科目を通して、学生は保育実習 I（保育所）の事前準備や事後の振り返りをする。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>保育実習指導 I（保）の概要について 保育実習指導 I（保）の授業の概要について理解する。特に、事前、事後指導の全体計画について理解し、見通しを持って学習・準備ができるようになる。</p> <p>事前準備説明（事前準備プリント・手続きカード・身上書）</p> <p>予習：保育実習指導 I（保）のシラバスをよく読んでおき、科目の全体像を把握しておくこと。（約1時間）</p> <p>D：中 F：あり</p> <p>第2回</p> <p>保育実習とは何か 保育現場で実習することの意義・目的及び心構えについて学ぶ。</p> <p>B：中 E：あり F：あり</p> <p>第3回</p> <p>保育現場におけるマナーについて 実習生としてふさわしい言葉遣いやマナー（身だしなみ・態度）について理解する。</p> <p>B：少</p> <p>第4回</p> <p>保育体験授業①事前オリエンテーション 子ども達への声掛けの仕方やコミュニケーションの取り方について学ぶ。</p> <p>A：少、B：少、F：あり</p> <p>第5回</p> <p>保育体験授業① 3グループに分かれ、付属幼稚園において朝の自由遊びを体験する。</p> <p>予習：保育を志した理由について、自分自身の歩みを振り返っておくこと。</p> <p>C：多 E：あり</p> <p>第6回</p> <p>保育所における一日 標準的な保育園における乳幼児の一日の流れについて理解する。</p> <p>B：少</p> <p>第7回</p> <p>川崎市保育体験オリエンテーション 保育体験での学びのねらいを理解する。</p> <p>A：少、B：少</p> <p>第8、9回</p> <p>川崎市保育体験授業 川崎市内保育施設での保育所保育指針に合わせた保育内容の実習体験</p> <p>C：多 E：あり 体験した内容を思い出して記録しておく</p> <p>第10回</p> <p>保育所実習における観察の方法及び記録について学ぶ DVD等により、メモを取りながら子ども集団での遊びの姿を観察し、要点を記入する。またグループ内での対話を通じて子どもの姿を語り合う。</p> <p>予習、復習：前回の復習として、『実習の手引き』の「保育所・幼稚園実習の心得」を読み直しておくこと。</p> <p>D：中 E：あり</p> <p>第11回</p> <p>観察記録に基づき保育のねらいと内容を考える 前回グループで語り合った内容から次回の保育のねらいと保育内容を考える。</p> <p>B：多 E：あり</p> <p>第12回</p> <p>事例検討；様々な子どもの葛藤場面を知る 子どもどうしのトラブル、切り替えができないなど様々な葛藤場面について、その意味を理解し、対応について学ぶ。</p> <p>第13回</p> <p>お話しについて お話の多様性を理解し、話りの基本を学ぶ。</p>		

第14回	<p>A:少 保育体験授業②オリエンテーションと幼稚園実習体験報告 保育体験授業②の学びのねらいを理解する。 2年生から幼稚園実習の体験談を聞き、実習に対する理解を深める。</p> <p>予習・復習；先輩の体験談の感想をレポートにまとめる。</p>
第15回	<p>夏季における保育を体験する 夏季休業中に鶴川幼稚園で子どもたちとの水遊びを体験する</p>
第16回	<p>C:多 施設実習体験発表 2年生から施設実習体験の話しを聞き、実習に対する理解を深める。</p>
第17回	<p>予習・復習：あらかじめ施設実習に質問したいことを考えたうえで参加すること。（約1時間） 学内オリエンテーション① 保育実習Ⅰ（保）の概要と、学内で定められた履修基準について理解する。 保育実習Ⅰ（保）に臨むにあたっての心構えについて理解を深める。 B：中</p>
第18回	<p>予習・復習：「保育・教職の手引き」を読んでおくこと。（約1時間） 実習日誌の記録方法① 観察記録の書き方について、メモの取り方やメモのまとめ方等具体的に学び、理解する。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D：中</p>
第19回	<p>予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（約1時間） 実習日誌の記録方法② 環境構成について学び、園の概況や園内環境を記録の仕方について具体的に学ぶ。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D：中</p>
第20回	<p>予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（約1時間） 事前研修オリエンテーション 観察中のマナーや言葉遣いについて具体的に学ぶ。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D多</p>
第21回	<p>予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（約1時間） 事前研修① 附属幼稚園に事前研修に行き、朝の自由遊び、主活動、昼食の様子、昼食後の保育の様子について観察する。</p>
第22回	<p>予習・復習：園の方針、概況、日課等あらかじめ調べたことについて復習をしておく。（約1時間） C：多 F：あり 事前研修② 事前研修の振り返りを行い、保育所実習に向けた課題を明確にする。</p>
第23回	<p>予習・復習：園の方針、概況、日課等あらかじめ調べたことについて復習をしておく。（約1時間） C：多 F：あり 自己課題の設定① 実習の課題の立て方について学ぶ。 夏期課題（エプロンシアターもしくは手袋シアター）を演じる際の指導案を作成する。</p>
第24回	<p>予習・復習：事前研修の日誌を読んで、実習に臨むにあたっての自己課題を考えておくこと。 B：少 学内オリエンテーション② 実習園でのオリエンテーションの受け方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる）</p>
第25回	<p>予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり 実習日誌の記録方法③ 事前研修の日誌をもとに、日々の日誌の書き方について復習する。さらに、考察の書き方について理解を深める。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる）</p>
第26回	<p>予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり 実習日誌の記録方法④ 映像資料や日誌の例などを用いて、日々の日誌の書き方について復習する。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる）</p>
第27回	<p>予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり 自己課題の設定②</p>

	<p>実習のねらいと実習レポートの書き方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる）</p> <p>予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり 実習直前準備 実習日誌の事前記入欄について教員の指導を受ける。</p> <p>予習・復習：各自で実習日誌の記入欄を完成させておく。（約3時間） 学内オリエンテーション③ 実習前の心構えと諸注意事項について理解する。</p> <p>予習・復習：実習日誌、実習の手引き、実習園の資料を読み直しておく。（約1時間） 実習の振り返りと自己評価 実習を振り返り、これからの実習の自己課題を明確にする。</p> <p>予習・復習：実習日誌、実習園の資料を読み直しておく。（約1時間） B：多</p>
教育目標との関連	保育実習 I（保育所）に向けて行われる準備や振り返りを通して、学生は、社会生活に必要な教養や保育者としての確かな知識および実践的技能を身につけてゆく。豊かな感性と愛の心を持った保育者を目指して学生は、実習に向けての努力を日々重ねていくことが求められる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 保育実習の意義・目的を理解する。 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。</p> <p>3. 実習に必要な保育技能を習得する。</p> <p>4. 実習を振り返り今後の課題や学習目標を明確にする。</p>
評価方法および評価基準	提出課題 60% 受講態度 40%
教科書	小櫃智子他『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	特になし
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	保育士必修
担当教員			
柴田 啓一 横溝 一浩 近澤 友理			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>本科目は保育実習 I（施設）に向けた事前・事後指導である。事前指導では、施設の実習の意義・目的・内容を理解したうえで自らの課題を明確にする。さらに、実習施設の種別ごとに施設の養護内容に関する基礎理解と実習の計画・観察・記録の方法について学ぶ。事後指導においては、自らの実習を振り返り今後の課題と反省点を明らかにする。</p> <p>他の科目との関連：保育実習 I（施）の事前準備や事後の振り返りをする。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>施設実習の意義と目的 保育士養成課程における施設実習の意義とその目的を理解する。施設や利用者に対する正しい理解と知識を養うために、どのような学びが必要になるのかディスカッションを通して問題意識を共有する。 予習：シラバスを読み、科目の全体像を把握しておくこと。また、「社会的養護」の復習をしておくこと。（約1時間） A：多 B：多</p> <p>第2回</p> <p>施設の機能と特徴 保育士は福祉の専門職であり、保育所を含めた福祉施設で働くための資格である。本学での保育実習 I（施設）の対象となる福祉施設の特徴とそれぞれの施設の機能について学ぶ。 予習：保育実習 I（施）春期課題（約1時間） B：少 E：あり</p> <p>第3回</p> <p>施設での実習内容 保育実習 I（施設）における実習の課題と観察するべきポイント、実習生に求められる心構え等を映像資料等を用いて理解する。 B：中</p> <p>第4回</p> <p>児童養護施設の日常 映像資料を用いて児童養護施設における児童の生活と職員との関係について理解する。 B：少</p> <p>第5回</p> <p>知的障害児施設の日常 映像資料を用いて知的障害児施設における利用児の生活と職員との関係について理解する。 B：中</p> <p>第6回</p> <p>配属施設について理解を深める 配属された施設の概要と実習内容について、過去の実習生の記録や様々な資料、webで公開されている情報などを参考に把握し話し合う。 B：中</p> <p>第7回</p> <p>講演① 障害者福祉施設で働く職員の講演を聞き、支援の心構えや施設職員の仕事の内容について深く理解する。 B：少 F：あり</p> <p>第8回</p> <p>施設実習における日誌の書き方について 施設実習における観察記録の書き方について例を用いて具体的に学ぶ。 B：中</p> <p>第9回</p> <p>講演② 実習施設の種別ごとに施設保育士の講演を聞き、施設保育士の仕事内容の理解を深める。 F：あり</p> <p>第10回</p> <p>講演の振り返り 講演②での講師の話をつまえて、この実習を通しての学習の実習の課題を立てる。 A：少、B：少</p> <p>第11回</p> <p>実習日誌の準備 実習前に書くべき項目について書きあげる。 F：あり 予習：事前に実習日誌の書くべき項目について仕上げて置くこと。（約1時間）</p> <p>第12回</p> <p>実習日誌の準備 実習前に書くべき項目について書きあげる。 F：あり 予習：事前に実習日誌の書くべき項目について仕上げて置くこと。（約1時間）</p> <p>第13回</p> <p>直前ガイダンス 『実習の手引き』の「施設実習の心得」を中心に、実習中の心得や実習生としての態度を理解する。また、実習中の事務連絡の方法等も確認する。 B：少 予習：『実習の手引き』をよく読んでおくこと。（約1時間）</p> <p>第14回</p> <p>反省会① 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで各々の経験の理解を深める。 B：多</p> <p>第15回</p> <p>反省会② 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで各々の経験の理解を深める。さらに、「振り返りシート」を用いて各々が実習の自己評価を記録する。 B：多</p>		

教育目標との関連	保育所以外での福祉施設における実習への準備を通して、社会福祉の専門職としての知識や倫理を修得する。また、福祉施設で求められる生活支援の技術を学ぶことで保育士としての能力を向上させ、社会において活躍する可能性を広げることができる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 施設実習の意義・目的を理解できるようになる。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題が明確になる。 3. 実習の計画、実践、観察、記録の方法や内容について具体的に理解し、記述できる。 4. 事後指導を通して実習を振り返り、今後の課題が明確になる。 5. 施設保育士の倫理について理解することができる。
評価方法および評価基準	課題提出 65% 与えられた課題の問いに対して適切な回答がなされているか、自分なりの考察ができてい るか で評価します。 受講態度 35% 意欲的に取り組み、発言や発表時の態度を総合的に判断して評価します。
教科書	特になし
参考書	『保育所保育指針』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	予習および復習のための参考図書、課題などは必要に応じて授業時に指示する。
履修上の注意、条件等	保育実習指導Ⅰ（保）をあわせて履修しなくてはならない。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板を参照のこと。
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育実習 I（保育所）

授業コード：

英文科目名称：Practical Training 1 (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	保育士必修
担当教員			
福田泰雅、柴田啓一、宮有佳里、近澤友理、高島英貴、横溝一浩			
授業形態：実習	担当形態：複数		

講義概要	<p>本科目は保育所における実習である。実習を通して以下の5つの到達目標を達成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p>
教育目標との関連	<p>保育所での実習を通して、本学の目標である。幼児の心身の発達についての広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験を経て、保育者への適性を見直すことにより、自己理解を深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。
評価方法および評価基準	<p>原則として以下の基準に従う。</p> <p>実習園が与えた評価 40%</p> <p>実習日誌などの評価 60%</p> <p>※ 委細については、保育・教職実習の手引きを参照すること</p>
教科書	なし
参考書	『保育所保育指針解説書』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>保育実習指導 I（保）の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。</p>
履修上の注意、条件等	<p>本科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導 I（保）を履修しなければならない。本科目を習得できない場合は、保育実習指導 I も習得できない。</p>
オフィスアワー	時間及び場所は、教室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	2単位	保育士必修
担当教員			
柴田 啓一 横溝 一浩 近澤 友理			
授業形態：実習	担当形態：複数		

講義概要	厚生労働省「指定保育士養成施設の指定基準について」で定められた保育所以外の福祉施設における実習を通して、福祉施設の役割や機能を理解するとともに、利用児・者の理解を深める。また、施設保育士の業務内容や職業倫理、他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。
授業計画および学習形態	<p>以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 施設の生活と一日の流れ 施設の機能と役割 利用児・者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 利用児・者の観察とその記録 個々の状態に応じた支援や関わり 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> 計画に基づく活動や支援 利用児・者の心身状態に応じた対応 利用児・者の活動と生活環境 健康管理、安全対策の理解 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> 支援計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 保育士の業務 職員間の役割分担や連携 保育士の役割と職業倫理 <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>
教育目標との関連	保育士資格は保育所を含めた社会福祉施設で働くための資格である。保育所以外の福祉施設での実習を通して保育者としての実践的な技能や倫理を身に着けることができる。また、施設の利用児・者の生活支援を通して豊かな感性と規則正しい生活習慣を身に着けることができる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 施設保育士の役割と福祉施設の社会的役割について理解することができる。 施設保育士の職業倫理について理解することができる。 利用児・者の心身の状況に応じた支援を行うことができる。 施設で働く他の専門職との連携のあり方について理解することができる。
評価方法および評価基準	<p>原則として以下の基準で評価を行う。</p> <p>実習先が与えた評価 40%</p> <p>実習日誌などの評価 60%</p> <p>※委細については、保育・教職の手引きを参照すること。</p>
教科書	なし
参考書	授業時に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	「保育実習指導 I（施）」の授業および「社会的養護」・「障害児保育」の授業を復習しておくこと。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、保育実習指導 I（施）をあわせて履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、保育実習指導 I（施）も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。2020オリンピックに向けて、簡単な日常英会話を身につけましょう。</p> <p>この授業では英語コミュニケーションIで勉強した文法の基本にして、保育園で使える英語を勉強します。毎週、テーマ別に表現と語彙を勉強して、練習します。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	保育園で働く人たち・保育所の場所 保育園にいる人たちと場所に関連する英語表現を勉強します。場所を説明する前置詞も勉強します。	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	A:中 E:あり F:あり 挨拶と基本調査・保育室の中 初めて会う人に使う表現を勉強します。簡単な質問しかたも勉強します。	
	第3回	A:中 E:あり F:あり 時間と数字・園児の持ち物 時間と数字に関する表現を勉強します。児童に持ち物に対する指導で使う文法も勉強します。	
	第4回	A:中 E:あり F:あり 保育所の周辺・道順 道案内に対する表現を勉強します。There is/ There areの文法も勉強します。	
	第5回	A:中 E:あり F:あり 園児の遊び・園庭の遊具 子供たちの遊びに対する表現を勉強します。「したい・することがすき」の文法も勉強します。	
	第6回	A:中 E:あり F:あり 天気・感情と体調 感情と体調に関連する表現を勉強します。天気でよく出てくる「It is・It is going to」の文法を勉強します。	
	第7回	A:中 E:あり F:あり 日課：5歳児クラス・乳幼児クラス 保育園の日常生活によく出てくる表現を勉強します。時間に関連する前置詞を勉強します。	
	第8回	A:中 E:あり F:あり ランチタイム・ランチメニュー 食べ物と食事に関連する表現を勉強します。「～そう・looks・sounds」の文法を勉強します。	
	第9回	A:中 E:あり F:あり トイレトレーニング・連絡帳 トイレに関連する表現を勉強します。連絡帳を書くときに使う文法も勉強します。	
	第10回	A:中 E:あり F:あり けんか・身体の部位 体とけんかに関連する表現を勉強します。けんかの指導でよく出てくる「するな!しないで!」の文法も勉強します。	
	第11回	A:中 E:あり F:あり けがと病気・救急処置 けがや病気に関連する表現を勉強します。未来形(will)も勉強します。	
	第12回	A:中 E:あり F:あり 電話の対応・留守番電話 電話に関連する表現を勉強します。CanとCouldの文法を勉強します。	
	第13回	A:中 E:あり F:あり 遠足・年間行事予定 保育園のイベントに関連する表現を勉強します。未来形 (be going to)を勉強します。	
	第14回	A:中 E:あり F:あり 育児用品・赤ちゃんの成長 赤ちゃんに関連する表現を勉強します。過去形も復習します。	
			A:中 E:あり F:あり

	<p>第15回 卒園・祝日と記念日・復習</p> <p>日本の祝日に関連する表現を勉強します。期末試験に向けて復習します。</p> <p>A:中 E: あり</p>
教育目標との関連	<p>初期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、保育園で使える表現と語彙を勉強します。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 英語の基本の文法を理解できるようになる。</p> <p>3. 簡単な日常英会話できる。</p> <p>4. 英語の必要さに気づく。</p> <p>4. 異文化に関心がふえる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 40% 定期試験を実施します。授業の内容全般について理解度を評価します。</p> <p>平常点評価 20% グループワークの貢献度・参加度を評価します。</p> <p>課題提出 20% 短いライティングの課題があります。</p> <p>単語テスト 20% 毎週、単語テストがあります。</p>
教科書	<p>「保育英語の練習帳 単語とフレーズを覚えよう」 高田 学 編 萌文書林</p>
参考書	<p>「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版</p>
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>毎週は先週の授業に出た英単語テストがあります。</p>
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	<p>授業前後に教室で受け付ける。</p>
備考・メッセージ	<p>英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	卒業必修
担当教員			
百瀬志麻 森真理 入江和夫 相澤京子 一年生担任			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス		

講義概要	この科目は、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけである。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どんなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインの役割となる。授業「キャリアデザイン I・II」は、短大生活スタートアップ、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の4つのシリーズで編成されており、1年生対象のIでは初年次教育として短大生活へのスムーズな移行を促し、どのようなキャリアを描くのか、卒業生の講演なども取り入れながら、キャリアイメージを膨らませていく。そして、この授業で学んだことは、ポートフォリオとして各自の学修成果としてまとめ、オリジナルの1冊を作り上げる。		
授業計画および学習形態	第1回	建学の精神に学ぶ① キリスト教の精神と「愛の教育」 国際こども教育の学びへの誘い	●概要… ・愛の根源：生命の尊重・尊厳 ・自己理解と他者理解 ・短期大学で学ぶ意味と意義 ・大学生として学ぶマナー（構内・車内マナー・姿勢・声・言葉遣い・スマホ） ・国際こども教育の学びへの誘い ●予習…入学前課題で購入している「新・保育者の常識」を読む（約30分） ●アクティブラーニング…B 少
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	建学の精神に学ぶ② 聖書贈呈式と福音コンサート	●概要…本学の建学の精神はキリスト教に基づく「愛の教育」である。五感を使って、愛について感じ、考える授業となる。 ●予習…森祐理さんについて図書館やインターネット等で調べ、どのような人物か知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少
	第3回	自己探求と実力アップ研修	●概要…この授業は、相模湖セミナーハウスにおける研修として1泊2日でおこなう。自分は何をしたいのか、この学校で2年間何を学ぶのか、目的意識を明確化させる。また、チームビルディングにより、学生生活を支えあう仲間との信頼関係、アクティブラーニングの姿勢をつくる。 ●予習…別時間で開催する相模湖研修オリエンテーションの資料に目を通しておく。（約30分） ●アクティブラーニング…A 多 / D 多 E あり
	第4回	短期大学で学ぶ意味① 文章で表すこと（レポートの書き方）	●概要…文章で表すこと（美しく書く、本を読む、文献を調べる） 次回以降の書評レポートの課題のために、レポートの書き方について説明をおこなう。 ●予習…一般的なレポートの書き方について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E あり / F あり
	第5回	短期大学で学ぶ意味② キャンパスとの出会いと味わい～自然遊びと生活環境保全 第1回～	●概要…本学の教育の特長である自然豊かな環境を自然遊びを通して体感する。 ※書評提出 ●予習…なし ●アクティブラーニング…C 多
	第6回	短期大学で学ぶ意味③ キャンパスとの出会いと味わい～ 図書館・学生支援室・実習センターの活用～	●概要…前回の授業に引き続き、この回では主に内部の施設をどのように活用できるか紹介する。 ●予習…図書館や実習センター・学生支援室を訪れ、どのような活用ができそうか調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…C 多
	第7回	キャリア・プランニング 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～	●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話をお聞き、対話する。1・2年生合同。 ●予習…なし ●アクティブラーニング…B 少
	第8回	短期大学で学ぶ意味④ キャンパスとの出会いと味わい～自然遊びと生活環境保全 第2回～	●概要…本学の教育の特長である自然豊かな環境を自然遊びを通して体感する。 ※書評提出 ●予習…なし ●アクティブラーニング…C 多
	第9回	保育者としての教養① 救命救急講習	●概要…約4時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、3日間に分かれて実施する。 ●復習…身近な施設のどこにAEDが設置されているのか調べておくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…A 多
	第10回	保育者としての教養② セルフマネジメント	●概要…社会人として保育者として、経済について最低限必要な知識として衣食住に必要なお金、税や雇用について学ぶ。

	<ul style="list-style-type: none"> ●復習…自分の理想とする生活の実現性について調べておくこと。(約1時間) ●アクティブラーニング…B 少 <p>第11回 短期大学で学ぶ意味④ プレゼンテーションとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…プレゼンテーションとは、人前で自分を表現することである。プレゼンテーションに必要な要素について学び、各自がプレゼンテーションできるように準備していく。(構成・姿勢・時間・パワーポイント等) ●予習…プレゼンテーションについての一般的な本を図書館で探し読んでおく。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少 <p>第12回 社会・世界への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…ひとりの市民として、保育者として、社会・世界にどのような貢献ができるのか、考えるきっかけとして、外部講師を招いた講演の機会を設ける。 ●予習…外部講師について事前に知らせるため、インターネット等で調べておく。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少 <p>第13回 保育者としての資質 附属幼稚園園長先生による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…保育者としての資質を考えるうえで、附属鶴川幼稚園の教員を講師として招いた講演の機会を設ける。 ●予習…鶴川幼稚園についてインターネット等で調べておく。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少 <p>第14回 社会人基礎力の確認テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…専門知識を身につけるだけでなく、本学での学びにおいて到達目標に掲げている総合的な力が育まれているか、コミュニケーション能力という視点の外部テストで確認をおこなう。読解力、判断力、傾聴力など基本的なコミュニケーション能力をみる。 ●復習…これまでの提出課題で返却されたものの復習をする。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少 <p>第15回 まとめ 保育者としての学びの課題と展望 各クラスで個人プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要…1年生最後のキャリアデザインⅠの授業として、保育者としての学びの課題と展望について、各自がクラス別にプレゼンテーションをおこなう。 ●予習…プレゼンテーションの作成。(約120分) ●アクティブラーニング…A 少
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹を成すのは、「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性の育成」とある。幸せに生きることが出来るためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことなのか深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかの的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら自ら努力することが必要となる。授業内では、卒業生をはじめ、愛情をもって子どもに関わる多様なゲストを迎え、幅広い観点から、子どもと関わる生き方について考える機会をもつことになる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解…国内外での専門職としての保育者としての生き方や自ら子育てに関わることにについて実感をもって理解する。 2. 思考・判断…社会の変化や求められている役割について考え、自らの生き方を思考する。 3. 技能・表現…他者に傾聴し、自らの意志(特にキャリアについて)を表現する。 4. 関心・意欲…子どもを取り巻く広い世界に関心を持ち、自ら積極的に関わろうという意欲をもつ。 5. 態度…自分が受けた愛情の深さを振り返り、愛情をもって他者に奉仕できるようになる。
評価方法および評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ■提出課題(書評) 40% ■提出課題(出席票) 30% ※毎回、出席票の中に課題を提示し、講義内容を理解しながら自分が何を感じたか、考えたか、という点を真剣に考え、まとめられているか15回分の課題を評価します。 ■プレゼンテーション 30%
教科書	特になし
参考書	授業中、適宜、資料およびプリントを配布するので、必ずファイルに入れ保存していくこと。
準備学習(予習・復習等)の具体的内容および必要な時間	各回の授業テーマにあわせて、外部講師の講演前には、講師について図書館などで調べたり、予習をおこなう。復習は、配布された資料およびプリントの復習、返却された課題の修正、など、毎授業後約30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	外部講師の講演の授業回は、スーツを着用して参加すること。
オフィスアワー	研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り受け付ける。
備考・メッセージ	自らのキャリアは自分しか主体的に考える存在はいない。自分に向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることで周囲との関係性の中でヒントが得られ、前向きに自分自身について考えるきっかけを、授業として多く提供していきたいと考えている。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	保育士必修
担当教員			
高島扶貴、富金原光秀、宮有佳里			
授業形態：演習	担当形態：複数		

講義概要	<p>これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。 こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。 また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 オリエンテーション 保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。 視聴覚教材『保育士・幼稚園教諭になるために 第2巻 保育士の仕事と役割』を見て、保育者に求められる資質について考える。 課題：保育所の機能を踏まえ、保育者に求められる資質についてレポートを作成 E：有 F：有</p> <p>第2回 こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(乳児のエピソード記録) 視聴覚教材『乳幼児を理解するための保育の観察と記録』 - 0歳：すきなあそび 1歳：外あそび - を見て、エピソード記録にまとめる。 課題：日誌(エピソード記録) B：多 F：有</p> <p>第3回 乳児の指導計画 0・1・2歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 視聴覚教材で2歳児の発達についての理解を深める。 課題：乳児の指導案の作成 H：有 F：有</p> <p>第4回 こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(幼児のエピソード記録) 視聴覚教材『主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチ 第4巻』 - 5歳児編 後編 けんかと仲直り - 課題：日誌(エピソード記録) B：多 F：有</p> <p>第5回 乳幼児の活動提案 0・1・2・3・4・5歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたち自らが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。 課題：活動の提案(プレゼンテーション) D：多 F：有</p> <p>第6回 乳幼児の活動提案② 実習の課題 0・1・2・3・4・5歳児の活動提案続き これまでの実習及び、学びを振り返り、実習の課題について考え、目的意識をもって実習に参加できるように課題を設定する。 B：多 F：有 課題：「実習の課題」</p> <p>第7回 学内オリエンテーション 学内オリエンテーション② 実習前の心構えと諸注意について</p> <p>第8回 全日指導案の作成 第5・6回でプレゼンした遊びを主活動とした活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A：多 F：有</p> <p>第9回 模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A：多 F：有</p> <p>第10回 模擬保育と振り返り1 グループごとに、保育実習Ⅱをイメージした模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：部分指導案の提出 A：多</p>		

	<p>第11回 F：有 模擬保育と振り返り1 日誌点検 グループごとに、保育実習Ⅱをイメージした模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 実習に向け、日誌の点検を行う。 課題：部分指導案の提出 A：多 F：有</p> <p>第12回 模擬保育と振り返り2 模擬保育1での反省を活かし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：部分指導案の提出 A：多 F：有</p> <p>第13回 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッション 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッションを以下の観点で行う。 ・園の特徴 ・保育者の姿勢や助言から学んだこと ・困ったことへの対応 ・これまでの実習と比較して成長したところ ・自分の保育観 B：多</p> <p>第14回 実習の振り返り（学生によるプレゼンテーション） 保育実習Ⅱにおける学びや自身への気づきについてプレゼンテーションを行う D：多</p> <p>第15回 まとめ（自己評価と課題設定） 保育士として必要な知識と態度を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 B：少 E：有</p>
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 養護としての子どもの興味・関心の読み取りと記録、活動への展開を理解する。 4. 活動への展開と表現の関連性について事例を基に学ぶ。 5. 保育士の職業倫理について理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
評価方法および評価基準	提出課題60% 指導案や授業内における課題の理解度で評価する。 受講態度40% 実習に必要な手続きが期限内に提出しているか評価する。
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円（税別）
参考書	『保育所保育指針』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回、予習復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	学ぶ者の姿を見て子どもたちは学びます。良く生きようとする者の姿を見て子どもたちは良く生きようとしません。保育者として、学びよく生きるとは何かについて常に問題意識を持ち、授業に臨んでほしいと思います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	保育士選択必修
担当教員			
横溝一浩、近澤友理			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	保育実習Ⅰ（保育所実習・施設実習）を履修した後、さらに専門的に施設の利用児・者を理解し、施設保育士の職務内容や役割、各施設における生活と養護機能について学ぶことを目的とする。事前学習においては、関係図書などを自発的に調べ、各自の実習の課題・目標などを明確に持つ。事後学習では、実習内容を振り返り、施設保育士の専門性について理解を深める。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	オリエンテーション 保育実習Ⅲの全体像を掴み、その意義と目的を理解する。 予習：シラバスを読んで、の全体像を把握し施設実習のイメージを持つておくこと。（約1時間） B中	
	第2回	実習施設の研究① 過去の実習生が作成した実習施設ファイルを用いて各自の実習施設について理解し、まとめる。 予習：養護施設や障害児・者施設についてワークシートを用いて事前学習する。（約1時間） B少 C中 E有 F有	
	第3回	実習施設の研究② 前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習：各自の実習施設の概要や特徴についてまとめる。（約2時間） B少 D多 E有 F有	
	第4回	講演 施設職員から現場の話を伺う。 予習：前回の授業で作成した各自の資料を再読する。（約1時間） B少 E有	
	第5回	施設職員の役割① 施設において利用児・者を支援する専門職の職種と役割について調査し、レポートにまとめる。 予習：児童福祉の分野の専門職についてワークシートを作成して整理する。（約1時間） B少 C多 F有	
	第6回	施設職員の役割② 前回の授業でまとめた施設の専門職について発表し情報を共有する。 予習：各自で専門職についてまとめる。（約1時間） B少 D多	
	第7回	利用児・者の権利 利用児・者を対象とした権利の説明シートを作成する過程を通して「子どもの最善の利益」について学ぶ。 予習：ワークシートを使い子どもの権利条約について簡潔に整理する。（約1時間） B少 D多 E有 F有	
	第8回	利用児・者の理解 愛着障害や発達障害など利用児・者の課題についてディスカッションを通して理解する。 予習：アタッチメントについてワークシートを利用しながら整理する。（約1時間） B多 F有	
	第9回	利用児・者の自立支援 利用児・者の自立支援とは何か事例を通して理解する。 予習：ディスカッションに必要な事例検討シートを熟読する。（約1時間） B多 E有 F有	
	第10回	施設実習における観察と記録 施設における観察の視点と記録方法について動画を通して理解する。 予習：実習日誌の内容を確認しておく。（約1時間） B中 E有	
	第11回	自己課題の探求 これまでの事前学習を通して自己の課題を明確にし、実習の課題としてまとめた上で発表する。 予習：ワークシートを用いて、自己課題を整理し実習課題を設定する。（約1時間） B中 D中 E有	
	第12回	実習直前ガイダンス 施設実習における心得や態度、また実習中の事務連絡等の方法なども理解する。 予習：本学の「施設実習の心得」を再読しポイントを整理しておく。（約1時間） B少 E有	
	第13回	実習の事後報告・反省会の準備 実習を振り返り、報告・反省会に向けての準備を行う。 予習：実習記録などを再読し、ポイントをまとめておく。（約1時間） C中 E有 F有	
	第14回	実習の事後報告・反省会 種別ごとに実習内容・感想・反省課題などを各自が発表する。 予習：授業前に評価表面接を実施、自己の課題について明確にする。（約1時間） B中 D多 E有 F有	
	第15回	実習総括 これまでの実習を振り返り、各自が保育士としての課題を明確し、発表する。	

	予習：授業前に評価面接を実施、自己の課題について明確にする。（約1時間） B中 D多 E有 F有
教育目標との関連	施設実習に向けての準備を通して、施設保育士としての確かな知識を修得する。施設実習に必要な生活支援技術を学ぶことにより、自己覚知（自己を知り）し、多様な価値観を受容し、保育者としての実践的な技能を身につけることになる。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	施設実習Ⅲにおける到達目標は以下の通りである。 1. 施設実習における意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における利用児・者の人権と、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、行動できる。 4. 実習に計画、観察、記録の内容や方法について具体的な理解した上で行動できる。 5. 実習に必要な生活支援技術を修得する。 6. 事後指導を通して、実習を振り返り、自己評価することにより、保育者として今後の課題を明確にする。
評価方法および評価基準	提出課題（所定の手続きを含む）：60% 受講態度：40% 積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	『10改訂・ポケット版 子どもの権利ノート— 国連の第1回・第2回・第3回「勧告」掲載 —』、子どもの権利・教育・文化 全国センター
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（施設）と保育実習Ⅰ（施設）の内容を振り返っておくこと。また、前提となる知識として社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、相談援助、社会的養護内容、障害児保育をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所・施設）を修了していること。
オフィスアワー	時間及び、場所は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	保育士選択必修
担当教員			
高島扶貴、富金原光秀、宮有佳里			
授業形態：実習	担当形態：複数		

講義概要	本科目は保育所における実習である。実習を通して以下の6つの到達目標をたっせいすることを目指す。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行いスーパービジョンを実施する。 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と保育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確化
教育目標との関連	保育実習を通して、学生は本学の目標である、幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身に付けることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 保育所の役割や機能を具体的な実践を通して理解を深めることができる。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深めることができる。 3. 子どもの保育及び保護者への支援について理解を深めることができる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深めることができる。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができるようになる。 6. 保育士としての自己の課題が明確になる。
評価方法および評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習先が与えた評価 40% 実習日誌などの評価 60% ※委細について保育・教職の手引きを参照すること。
教科書	なし
参考書	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅱも修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	保育士選択必修
担当教員			
横溝一浩 近澤友理			
授業形態：実習	担当形態：複数		

講義概要	「保育実習I（施設）」を踏まえ、施設における家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、福祉施設の役割や機能について実践を通して様々な支援、すなわち個別支援計画の作成と実践、子どもの家族への支援と対応等を実践と結びつけて習得する。さらに、専門職としての施設保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする。
授業計画および学習形態	<p>以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。</p> <p>1. 児童福祉施設等（保育所以外）の養護全般に参加し、養護技術を習得する。 (1) 施設の養護活動に参加し養護技術を習得する。 (2) 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を習得。</p> <p>2. 施設における支援の実際 (1) 子ども（利用者）に共感し、受容する態度を身につける。 (2) 子ども（利用者）の個人差に応じた対応方法を身につける。 (3) 子ども（利用者）の発達の違いに応じた養護の方法を学ぶ。 (4) 生活環境にともなう、子ども（利用者）のニーズを理解する。 (5) 自立支援計画を立案し、指導担当職員のもとで実践する。 (6) 家族とのコミュニケーションの方法を具体的な事例を通して学ぶ。 (7) 多様な専門職との連携の仕方や地域社会との連携について、支援と対応を具体的に学ぶ。</p> <p>3. 保育士の多様な業務と職業倫理について学ぶ。</p> <p>5. 自己の課題を明確化する。 (1) 施設保育士に必要な資質や養護技術について理解する。 (2) 施設実習を総括し、実習を通して得た問題や課題を確認する。 (3) 必要な今後の課題を確認する。 (4) 課題を実現させていく具体的な方法を考える。</p>
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	施設における実習を通して、そこで生活する児童・利用者を受容し、共感する態度を養う。個人差や生活環境に伴う子どもや利用者のニーズを把握し、理解を深め、子どもや利用者、また家族への支援と対応を学ぶ。さらに社会的スキルを身につけ、他の専門職と円滑なコミュニケーションができる基礎的な力を養う。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 施設における保育に参加し、知識と技術を習得する。 2. 子どもの個人差、特に発達の遅れや様々な生活環境にある子どもの個別ニーズを理解し、対応を学ぶ。 3. 一日の指導計画を立案し、実践する。 4. 施設職員間の専門職としての役割分担とチームワークについて理解させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、施設と地域との連携の仕方について学ぶ。 6. 子どもの最善の利益への配慮とは何かを具体的に学ぶ。 7. 保育士としての職業倫理を理解する。 8. 施設の保育士に求められる資質・能力・技術に照らして、自己の課題を明確化する</p>
評価方法および評価基準	<p>原則として以下の基準で評価を行う。 実習先が与えた評価 40% 実習日誌などの評価：60% ※なお、評価の委細については「実習の手引き」を参照すること。</p>
教科書	適宜プリントを配布する
参考書	『10改訂・ポケット版 子どもの権利ノート— 国連の第1回・第2回・第3回「勧告」掲載 —』、子どもの権利・教育・文化 全国センター
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習指導I（施設）と保育実習I（施設）の内容を振り返っておくこと。また、前提となる知識として社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、相談援助、社会的養護内容、障害児保育をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	保育実習I（保育所・施設）を修了していること。
オフィスアワー	実習中の質問等は、実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarden as an assistant.</p> <p>In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day.</p>		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	Children's Garden In this class, we will study English used to introduce yourself and give basic information. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第2回	Study/Homework time: Approximately 2 hours. The First Day of the Internship In this class, we will study places in the school and things that are used in a nursery school. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第3回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Out We Go! In this class, we will study the English used when taking the students for a walk and talking about places around the nursery school. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第4回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Splish, Splash In this class, we will learn the English used when children are playing in the pool, including common pool play things. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第5回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Pancake Day In this class, we will learn the English used when cooking with children and talking about food. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第6回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Read Me, Tell Me Stories In this class, we will learn the English used during story time with a focus on talking about stories after listening to them. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第7回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Activities with Watermelons In the class, we will learn the English used when doing arts and crafts with children. We will also study the English used when talking about Japanese holidays and events. A:中 B:少 E:あり F:あり	
	第8回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Happy Birthday! In this class, we will learn the English used during birthday parties and other celebrations. A:中 B:少 E:あり F:あり	

	<p>第9回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Children at Play In this class, we will learn the English used when playing with children, including common games and toys. A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>第10回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Baby News In the class, we will learn the English used when taking of infants including talking about their delevelopment. A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>第11回 Study/Homework time: Approximately 2 hours The Tooth Fairy In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including dental care. A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>第12回 Study/Homework time: Approximately 2 hours The Green-Eyed Witch In this class, we will learn the English needed to talk about plays and other presentations children give. We will also discuss common plays and themes used in these presentation. A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>第13回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Review We will prepare for review for the final exam. We will also decide pairs and themes for the final presentations. A多 B:少 E: あり F:あり</p> <p>第14回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Final Exam Students will take a final exam covering this course. There also will be time for practice and preparation for the final presentations. B:少 E: あり F:あり</p> <p>第15回 Study/Homework time: Approximately 1 hour Presentations Final exams will be returned and discussed. Each group will also give their presentation. F:あり</p>
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	3. Students will acquire the basic English needed to be an assistant teacher at a nursery school or kindergarden. 4. Students will realize the importance of English in the modern Japanese society. 5. Students will have a greater appreciation for other cultures.
評価方法および評価基準	Final Exam 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
教科書	「Children's Garden」 赤松 直子著 成美堂 出版 2018年
参考書	None.
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary. Homework will be assigned from the Hoikueigokentei book.
履修上の注意、条件等	

オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1 単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	<p>In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as a teacher.</p> <p>In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English.</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第1回	<p>Going to School - Transportation Taking the school bus</p> <p>In this class, we will learn the English needed to talk about the school bus and also take children on the bus. We will learn how to write traffic notices and sign-up sheets for parents.</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p>	
	第2回	<p>Going to School - Weather A snowy day</p> <p>In this class, we will learn the English needed during snowy days and also advanced vocabulary about the weather.</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p>	
	第3回	<p>Fun School Events - Summer Tanabata Festival</p> <p>In this class, we will learn how to explain about Tanabata in English and the English needed for crafts for Tanabata.</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p>	
	第4回	<p>Fun School Events - The Pool A Day in the Pool</p> <p>In this class, we will learn the English needed when children are playin in the pool. We will also learn how to write a notice about pool days to parents.</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p>	
	第5回	<p>Fun School Events - Sports Day Getting Ready for Sports Day</p> <p>In this class, we will learn the English needed while preparing for sports day, including practicing and talking to parents about it. We will also learn how to write an announcement about the day.</p> <p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours</p>	
	第6回	<p>Fun School Events - Sports Day Sports Day</p> <p>In this class, we will learn how to talk about exerice in English and also how to write a program for sports day.</p>	

	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Fall Preparing for Performance Day</p> <p>In this class, we will learn the English needed when preparing for performance day, including asking for parents help and choosing characters. We will also learn how to write a letter informing parents about the performance.</p>
第7回	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Fall Performance Day</p> <p>In this class, we will learn the English needed during performance day. We will also learn about classic children's stories and how to write a script in English.</p>
第8回	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Winter Omochitsuki</p> <p>In this class, we will learn the English needed to explain about omochi and omochitsuki. We will also learn how to write a letter asking for volunteers.</p>
第9回	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Winter Setsubun</p> <p>In this class, we will learn the English needed to talk about setsubun and mamemaki.</p>
第10回	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Spring Hinamatsuri</p> <p>In this class, we will learn how to talk about hinamatsuri in English.</p>
第11回	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours The Developmental Stages of an Infant 2 month old infant</p> <p>In this class, we will learn the English needed to talk about infants under the age of two months. We will also learn vocabulary needed when caring for infants.</p>
第12回	<p>A;中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours The Developmental Stages of an Infant 4 month old infant</p> <p>In this class, we will learn the English needed when talking about infants, including developmental stages.</p>
第13回	<p>A中 B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Enrolling an Infant An infant daycare program</p> <p>In this class, we will learn the English needed to enroll an infant in a daycare program. We will also learn how to write the necessary paperwork.</p>
第14回	<p>B:少 E: あり F:あり</p> <p>Study/ Homework Time: Approximately 1 hour</p>

	第15回 Review We will review for the final exam. F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	3. Students will acquire the basic English needed to be an assistant teacher at a nursery school or kindergarten. 4. Students will realize the importance of English in the modern Japanese society. 5. Students will have a greater appreciation for other cultures.
評価方法および評価基準	Final Exam 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
教科書	「保育英語検定準1級テキスト」 保育英語検定協会 著 本の泉社 出版 2012年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary. Homework will be assigned from the Hoikueigokentei book.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2単位	選択
担当教員			
森 眞理			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>子どもを取り巻く環境は国際的に万全であり、人間として尊厳が保障されているとは言い難い現状である。本講義では、子どもと共に生きる者として当事者意識を養い、子どもを取り巻く世界的な課題、乳幼児教育の現状を知り理解を深め、本学の国際こども教育学科の根幹を育む。インターナショナルスクール、及びJICA（国際協力機構）への視察等、学外における学びを含む。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>イントロダクション：本授業の把握とJICA訪問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業説明・担当教員紹介・把握 ・JICA（国際協力機構）の働きと訪問の意義と目的を理解する <p>予習：本授業のシラバスを読んでくる 復習：配布された個人シートに取り組む</p> <p>A：少 B：多 E：あり F：あり</p>	<p>第2回</p> <p>子どもを取り巻く国際情勢①：ESDとSDGsの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのない乳幼児期の育ちを保障する在り方について、ESD（持続可能な開発のための教育）とSDGs（持続可能な開発目標）について学ぶ <p>予習：個人シートを完成し持参する 復習：JICA訪問のためHPを検索するフィールドシートに取り組む</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>	<p>第3回</p> <p>子どもを取り巻く国際情勢②：JICAの働きと私の学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA訪問（フィールドワーク）から、世界の子どもを取り巻く世界情勢について理解を深め、自分の学びの課題を決める <p>予習：JICAフィールドワークシートを持参する 復習：JICAフィールドワークシートを完成する</p> <p>A：少 B：中 C：多 E：あり F：あり</p>
	<p>第4回</p> <p>子どもを取り巻く国際情勢③：貧困・紛争・保健医療・水・ジェンダーと教育との関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界が抱える問題についてその実情を知り、乳幼児教育の果たす役割について考える <p>予習：完成したJICAフィールドワークシート提出 復習：授業で取り上げた課題について新聞記事等を調べる</p> <p>A：少 B：中 E：あり F：あり</p>		
	<p>第5回</p> <p>SDGsの理解とグループプロジェクトへの誘い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs（持続可能な開発目標）の理解をさらに深め、グループで取り組み、深めたいことについて話し合う <p>予習：新聞記事等を持参する 復習：個人ファイルの整理を行う</p> <p>A：少 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>		
	<p>第6回</p> <p>JICA視察からの学びと問題提起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA訪問の振り返りを行い、受講者の問題提起を行い、学びの方向性を確認する <p>予習：グループの話し合いをする 復習：OECDについて調べる</p> <p>A：中 B：多 D：少 E：あり F：あり</p>		
	<p>第7回</p> <p>世界を取り巻く子どもの教育①：OECDの報告から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OECD（経済協力開発機構）の報告から世界の乳幼児教育の現状と傾向について理解する <p>予習：OECDについてHP等文献検索する 復習：振り返りを行う</p> <p>A：少 B：多 D：少 E：あり F：あり</p>		

第8回	<p>日本の子どもの取り巻く環境と乳幼児教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利の保障と現在の日本の乳幼児教育保育が大切にしていることについて学ぶ <p>予習：こどもの権利条約を調べる 復習：振り返りを行う</p> <p>A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>
第9回	<p>世界を取り巻く子どもの教育②：UNICEFの働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な教育を学ぶうえで欠かせない国際的な機関（UNICEF）の働きについて学び理解する。 <p>予習：UNICEFについてHP等検索する 復習：振り返りを行う</p> <p>A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>
第10回	<p>グループプレゼンテーション(中間報告)による学びあい</p> <ul style="list-style-type: none"> *受講者のグループプロジェクトの経過とその内容、展開について学び合う <p>予習：グループプレゼンテーションの準備 復習：グループで振り返りを行う</p> <p>A：少 B：少 D：多 E：あり F：あり</p>
第11回	<p>世界を取り巻く子どもの教育③：OMEPの働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な機関（OMEP/オメップ）の働きについて学び、国際こども教育の意義と意味を再訪する <p>予習：OMEPについてHP等検索する 復習：振り返りを行う</p> <p>A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>
第12回	<p>多文化乳幼児教育への誘い①：国際における多文化乳幼児教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化教育(文化)の意味と国際的な教育のあり方について学ぶ <p>予習：指定文献を読んでくる 復習：振り返りを行う</p> <p>A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第13回	<p>多文化乳幼児教育への誘い①：国内における多文化乳幼児教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内における多文化乳幼児教育の必要性と先入観、偏見、ステレオタイプについての関係性について学ぶ <p>予習：指定文献を読んでくる 復習：振り返りを行う</p> <p>A：少 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
第14回	<p>学びの分かち合い：グループ・プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ・プレゼンテーションと学び合い ・個人ファイルの提出 <p>予習：グループ・プレゼンテーションと個人ファイル提出準備 復習：受講者からのフィードバックを読む</p> <p>A：中 B：少 D：多 E：あり F：あり</p>
第15回	<p>「学びのふりかえり」と今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今学期の学びを振りかえり、自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする <p>予習：今後の課題を持参する 復習：自己との対話と分かち合い</p> <p>A：少 B：多 D：中 E：あり</p>

教育目標との関連 受講者が国際こども幼児教育学科の一員でありこどもの教育に携わっているという当事者意識を高めることと、将来保育現場にて学びを活かす自分の働きについての考え、実践する力を身につける

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く環境と事象について世界視座から捉えられるように理解を深める 2. 多角的な観点から考える習慣を身につける 3. 様々な表現で自分の考えを表現することを身につける 4. 国際的な子どもの理解者・探究者・代弁者として学ぶ専門家意識を高める 5. 保育の専門家として歩むための学びであるとしての意識を持ち、他者と学び合う者としてより深める
------	---

5. 態度	
評価方法および評価基準	授業態度・参加状況・提出課題とプレゼンテーションを総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取組み 30% 提出課題・個人ファイルとプレゼンテーション 70% *欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる。
教科書	授業にて提示・紹介します。(OME P・全国私立保育園連盟の発刊図書を授業で購入予定。)
参考書	『子どもの発達と文化のかかわり』小田豊・森眞理編著、光生館、2007年。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	毎授業の課題について文献等を探索・探究する姿勢で読み、問題意識・課題を持って授業に臨むこと。 授業後は振り返りを行い、不明な用語・内容について理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・携帯電話等の教室内における使用は控えましょう。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更もあります。
オフィスアワー	研究室に表示します。
備考・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生のスケジュールやフィールドワークにより、授業のスケジュールが変更する可能性があります。 ・子ども・保育について知りたい、分かち合いたいとの思いで履修しましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	2単位	選択
担当教員			
森 眞理			
授業形態：演習	担当形態：単独		

講義概要	政治・経済・文化のグローバル化の影響を受けて、日本の保育現場においても国際化が進展している。自分とは異なる文化を携えている子ども・保護者との相互理解を深める保育実践に活かすための知識・スキル・姿勢を学び、異文化理解・共生の保育のあり方を考える。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	<p>イントロダクション：本授業の意味と意義の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業説明・担当教員紹介・把握 ・比較の意味について考える ・JICA（国際協力機構）の働きと訪問の意義と目的についても理解する <p>予習：本授業のシラバスを読んでくる 復習：配布個人情報シートに取り組む</p> <p>A：少 B：多 E：あり F：あり</p>	
	第2回	<p>社会文化と乳幼児教育：文化と子ども観・発達観・保育観の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常何気なく使っている「文化」と子どもを含む私たちの生活の関係について学ぶ ・子どもの発達と文化の関係について学び、乳幼児教育への影響について考える <p>予習：個人情報シートを完成し持参する 復習：興味のある国について調べる</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>	
	第3回	<p>諸外国の乳幼児教育をめぐる課題①：世界の潮流と現代の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の乳幼児教育保育の動向と課題について理解し、問題意識を持つ <p>予習：指定された文献を読んでくる 復習：JICA訪問のためHPを検索する</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>	
	第4回	<p>諸外国の乳幼児教育保育をめぐる課題②：私の探究課題との対話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界が抱える問題についてその実情を知り、乳幼児教育の果たす役割を考える ＊個人プロジェクトへの誘い <p>予習：個人プロジェクトについて考える 復習：JICAフィールドワークシートに取り組む</p> <p>A：中 B：多 E：あり F：あり</p>	
	第5回	<p>子どもを取り巻く国際情勢①：JICAの働きと私の学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA訪問（フィールドワーク）から、世界の子どもを取り巻く世界情勢について理解を深め問題意識を高める <p>予習：JICAフィールドワークシートを持参する 復習：JICAフィールドワークシートを完成する</p> <p>A：少 B：中 C：多 E：あり F：あり</p>	
	第6回	<p>諸外国の乳幼児教育保育①：イタリアのレッジョ・エミリア市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、世界で最も優れた乳幼児教育として注目されているイタリアのレッジョ・エミリア市の乳児保育所と幼児学校の実践について学び対話する <p>予習：レッジョ・エミリアの課題を調べてくる 復習：振り返りを行う</p> <p>A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり</p>	
	第7回	<p>諸外国の乳幼児教育保育②：カナダのブリティッシュコロンビア（BC）州</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化多言語のカナダ社会と乳幼児教育について、BC州に着目して学ぶ <p>予習：個人プロジェクト課題を持参する 復習：個人プロジェクトの内容省察を行う</p> <p>A：少 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>	

	<p>第8回 子どもを取り巻く国際情勢①：JICAの働きと乳幼児教育の関係性 ・JICA訪問の振り返りを行い、受講者の問題提起を行い、乳幼児教育の意義を考え、自分の学びの方向性を確認する 予習：グループの話し合いをする 復習：OECDについて調べる A：中 B：多 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第9回 個人プロジェクトの中間発表と学びあい ・個人プロジェクトの中間発表による学びあいからさらなる個人プロジェクトの内容について吟味する 予習：個人プロジェクト発表の準備持参 復習：振り返りを行う A：少 B：多 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第10回 諸外国の乳幼児教育保育③：ニュージーランドの乳幼児教育保育 ・二文化二言語による幼児教育カリキュラム「Te Whariki(テファリキ)」から子どもの学びの物語について学ぶ 予習：ニュージーランドの課題を調べてくる 復習：振り返りを行う A：中 B：多 C：少 E：あり F：あり</p> <p>第11回 比較乳幼児教育との対話 ・個人課題について、図書館にて探究し、学ぶ 予習：個人課題を持参 復習：個人プロジェクトの振り返り A：少 B：中 C：少 E：あり F：あり</p> <p>第12回 諸外国の乳幼児教育保育④：北欧諸国 ・スκανディナヴィア諸国のスウェーデン、フィンランドに着目して、子どもの権利の保障、ESDの関係性について学ぶ 予習：北欧諸国の課題を調べてくる 復習：振り返りを行う A：中 B：多 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第13回 諸外国の乳幼児教育保育⑤：アジア諸国グループプレゼンテーションに向けて ・特に韓国に焦点をあてて、社会文化と幼児教育の関係性について学ぶ *受講者のグループプロジェクトの経過とその内容、展開について学び合う 予習：個人プレゼンテーションの準備 復習：振り返りを行う A：少 B：多 D：少 E：あり F：あり</p> <p>第14回 学びの分かち合い：個人プレゼンテーション ・個人プレゼンテーションと学び合い ・個人ブックの提出 予習：個人プレゼンテーションと個人ブック提出準備 復習：受講者からのフィードバックを読む A：少 B：中 D：多 E：あり F：あり</p> <p>第15回 「学びのふりかえり」と今後の展望 ・今学期の学びを振り返り、自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする。 予習：今後の課題を持参する 復習：自己との対話と分かち合い A：中 B：多 D：少 E：あり</p>
教育目標との関連	世界の子どもの生活に興味関心を深め、文化背景の異なる子ども・保護者と共に育ち合う保育の具現化を目指して学ぶ。

到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	1. 子どもを取り巻く世界と乳幼児教育について理解を深める。 2. 比較することから自己の価値観について考える力と繊細さを身につける。 3. 文化の異なる人とのコミュニケーションやマナーを身につけ、自文化についての表現力を培う。 4. 諸外国の乳幼児教育及び社会文化について好奇心を抱く。 5. 異文化や他者に対して謙虚で寛容な姿勢で関われる資質を豊かにする。
評価方法および評価基準	授業態度・参加状況・提出課題とプレゼンテーションを総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取組み 30% 提出課題・個人ブックとプレゼンテーション 70% *欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる。
教科書	授業にて提示・紹介します。(カナダのBC州及びニュージーランドの乳幼児教育カリキュラム)
参考書	『子どもの発達と文化のかかわり』小田豊・森眞理編著、光生館、2007年
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	毎授業の課題について文献等を探索・探究する姿勢で読み、問題意識・課題を持って授業に臨むこと。 授業後は振り返りを行い、不明な用語・内容について理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・携帯電話等の教室内における使用は控えましょう。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更も有ります。
オフィスアワー	研究室に表示します。
備考・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生のスケジュールやフィールドワークにより、授業のスケジュールが変更する可能性があります。 ・本授業で取り上げた国(地域)に関する書物や映画、文化に親しむことを心がけましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位	卒業必修
担当教員			
百瀬志麻 大見由香 中村麻衣子 二年生担任			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス		

講義概要	この科目は、「キャリアデザインⅠ」に続き、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけになる。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どんなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインの役割となる。授業「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は、短大生活スタートアップ、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の4つのシリーズで編成されており、2年生対象のⅡでは社会人基礎力アップと就職活動シリーズが中心となる。そして、この授業で学んだことは、ポートフォリオとして各自の学修成果としてまとめ、オリジナルの1冊を作り上げる。		
授業計画および学習形態	第1回	建学の精神に学ぶ 福音コンサート ●概要…本学の建学の精神はキリスト教に基づく「愛の教育」である。五感を使って、愛について感じ、考える授業となる。 ●予習…森祐理さんについて図書館やインターネット等で調べ、どのような人物か知っておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	就職活動シリーズ 自己分析・他己分析、履歴書作成のポイント ●概要…志望動機や自己PR、保育観など、履歴書を書く要素を考える。そのためには、自己分析だけでなく、他人から見た自分も客観的に知らなければならない。友人から自己についてのコメントをもらうことで、お互いに自己理解を深める。 ●予習…学生支援室を訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少	
	第3回	キャリア・プランニング 1年後をイメージする ～2年生の就職活動の流れまたは専攻科の過ごし方～ ●概要…学生支援室や2年生担任とどのように就職活動を進めていくか、全体の流れを説明する。実習先も実習生がそこに就職することを意識している。園選び・見学、就職試験、内定から新人研修までの流れを説明。履歴書を書いてみて、どこが書けないのか学生自身が把握する。国際ことも教育コースは専攻科の説明、入試日程の告知。その他、実習定期の申請説明。 ●予習…学生支援室を訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少	
	第4回	キャリア・プランニング 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ キャリア・プランニング 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話聴き、対話する。1・2年生合同。 ●予習…なし ●アクティブラーニング…B 少	
	第5回	キャリア・プランニング 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ キャリア・プランニング 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話聴き、対話する。1・2年生合同。 ●予習…なし ●アクティブラーニング…B 少	
	第6回	キャリア・プランニング 自分に合う職場の見つけ方 ●概要…履歴書作成のためには、志望動機や自己PR、保育観など、履歴書を書く基本的な自分の考えをまとめなければならない。そのためには、自己分析にもう一度じっくり取り組むための外部講師によるセミナー。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…A 少	
	第7回	キャリア・プランニング 学内就職説明会 ●概要…プレ就職説明会として、学内でおこなう。秋からの本格的な就活に向けて、この時期には、質問、挨拶、言葉使い、身だしなみ等を意識できるようになってほしい。協力園や施設がブースを設営し、まず説明会でどのような質問をしたら自分に必要な情報が引き出せるか、という練習として学生は複数のブースをまわる。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少	
	第8回	キャリア・プランニング 学内就職説明会 ●概要…プレ就職説明会として、学内でおこなう。秋からの本格的な就活に向けて、この時期には、質問、挨拶、言葉使い、身だしなみ等を意識できるようになってほしい。協力園や施設がブースを設営し、まず説明会でどのような質問をしたら自分に必要な情報が引き出せるか、という練習として学生は複数のブースをまわる。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。(約30分) ●アクティブラーニング…B 少	
	第9回	社会人基礎力アップ 社会人としてのマナーⅠ、担任面談 ●概要…担任と個人面談をしながら、同時に就職活動における社会人としてのマナー（面接やお	

第10回	<p>礼状の書き方、履歴書の完成まで) 講座をおこなう。志望動機や自己PRを中心に、履歴書を完成させる。2年生の担任は授業終了後に履歴書を回収し、チェックして、次回返却する。</p> <p>●予習…担任との面談に備え、卒業後の進路について家族とも話をしておくこと。(約1時間)</p> <p>●アクティブラーニング…B 少 F あり</p> <p>社会人基礎力アップ 社会人としてのマナー I、担任面談</p> <p>●概要…担任と個人面談をしながら、同時に就職活動における社会人としてのマナー(面接やお礼状の書き方、履歴書の完成まで) 講座をおこなう。志望動機や自己PRを中心に、履歴書を完成させる。2年生の担任は授業終了後に履歴書を回収し、チェックして、次回返却する。</p> <p>●予習…担任との面談に備え、卒業後の進路について家族とも話をしておくこと。(約1時間)</p> <p>●アクティブラーニング…B 少 F あり</p>
第11回	<p>就職活動シリーズ 面接シミュレーション(こども教育コース) または「国際こども教育フォーラム」(国際こども教育コース)</p> <p>●概要…国際こどもコースは専攻科進学予定として、11月24日開催の「国際こども教育フォーラム」出席を代える。こども教育コースは4-5人でグループをつくり、面接練習(産学連携)。グループごとに一人の園長または人事担当者が入り、本番を意識した面接を実施。保育系以外の学生も、本学職員さんと面接練習。</p> <p>●予習…履歴書の見直しをおこなっておくこと。(約30分)</p> <p>●アクティブラーニング…A 多</p>
第12回	<p>社会人基礎力アップ コミュニケーションカテスト第二回、労働法についての理解</p> <p>●概要…外部講師を招き、働く人として知っておくべき労働法や、責任ある市民としての知識を学ぶ。その後、コミュニケーションカテストの第二回をおこない、2年間弱の短大生活での成長を測る。</p> <p>●予習…労働に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間)</p> <p>●アクティブラーニング…B 少</p>
第13回	<p>社会人基礎力アップ 新入社員としての心構え(良好な職場環境・人間関係の構築)</p> <p>●概要…念願の職場に就職できても、3年以内での早期離職者は多い。就職活動での視点では見えてこなかった、職場に入ってから大切な視点となる、職場内での良好な人間関係の構築の仕方。これを知っておくことによって、相談できる相手を職場内に作り、困難にぶつかっても周囲からの支援を得て乗り越えられる。</p> <p>●予習…働く意味や働き方に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間)</p> <p>●アクティブラーニング…B 少</p>
第14回	<p>社会人基礎力アップ 税金の基礎知識と、企画力アップのためのグループワーク</p> <p>●概要…前半は町田税務署による納税についての講演から責任ある市民としての行動を考える。後半は、グループワークによって企画力を育成することが目的。企画書、ポスターをつくり、各クラスで発表、最終的に投票する。</p> <p>●予習…税金や企画に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間)</p> <p>●アクティブラーニング…A 多</p>
第15回	<p>社会人基礎力アップ グループワークの発表 23の能力調査ほか</p> <p>●概要…前回の続きでグループワークと発表、クラスメイトからコメントをもらい、修正。その後再度発表。その後、23の能力調査をはじめとしたアンケートや卒業関連の連絡、コミュニケーションカテストのフィードバックをおこなう。</p> <p>●予習…発表のための企画書の完成。(約1時間)</p> <p>●アクティブラーニング…A 多</p>
教育目標との関連	<p>本学の建学の精神の根幹を成すのは、「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性の育成」とある。幸せに生きることができるとはどのようなことなのか深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものなのか的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら自ら努力することが必要となる。授業内では、卒業生をはじめ、愛情をもって子どもに関わる多様なゲストを迎え、幅広い観点から、子どもと関わる生き方について考える機会をもつことになる。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 知識・理解…国内外での専門職としての保育者としての生き方や自ら子育てに関わることにについて実感をもって理解する。</p> <p>2. 思考・判断…社会の変化や求められている役割について考え、自らの生き方を思考する。</p> <p>3. 技能・表現…他者に傾聴し、自らの意志(特にキャリアについて)を表現する。</p> <p>4. 関心・意欲…子どもを取り巻く広い世界に関心をもち、自ら積極的に関わろうという意欲をもつ。</p> <p>5. 態度…自分が受けた愛情の深さを振り返り、愛情をもって他者に奉仕できるようになる。</p>
評価方法および評価基準	<p>■提出課題 70% ・毎回、出席票の中に課題を提示し、講義内容を理解しながら自分が何を感じたか、考えたか、という点を真剣に考え、まとめられているか15回分の課題を評価します。</p> <p>■受講態度 30% ・授業内での積極的な質問やグループワーク、ペアワーク、個人ワークなどへの取り組み・貢献を評価します。</p>
教科書	特になし
参考書	授業中、適宜、資料およびプリントを配布するので、必ずファイルに入れ保存していくこと。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の授業テーマにあわせて、外部講師の講演前には、講師について図書館などで調べたり、予習をおこなう。復習は、配布された資料およびプリントの復習、返却された課題の修正、など、毎授業後約30分~1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	「キャリアデザイン I」を履修していること。 外部講師の講演や面接練習などの授業回は、スーツを着用して参加すること。
オフィスアワー	研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り受け付ける。
備考・メッセージ	自らのキャリアは自分しか主体的に考える存在はいない。自分に向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることで周囲との関係性の中でヒントが得られ、前向きに自分自身について考えるきっかけを、授業として多く提供していきたいと考えている。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年 専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
佐治量哉			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>近年、子どもの脳に関する学術的・社会的関心は高まっており、脳科学を標榜する書籍は数多く書店に並んでいる。しかしながら、それらの中には科学的根拠のない物も含まれている。この講義では、子どもの発育（成長と発達）や凸凹をとらえる視点として、脳科学研究の有用性を示すだけでなく、その限界もまた理解することを目標とする。</p> <p>本講義では、乳幼児期の脳の発達、睡眠、知覚、言語、運動、記憶、情動について取り上げる。また発達に関わる諸問題として、遺伝・環境、発達障害、学習障害などについて取り上げる。第15回目には、学習到達度の確認テストを実施する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>イントロダクション</p> <p>近年の技術革新によって、生きている意識のある人間の脳内の活動をリアルタイムに可視化することができるようになってきた。このような脳科学研究は、乳幼児の心の理解にどのように役立つのか？限界はあるのか？脳科学を標榜する育児本や教育法は枚挙にいとまがない。しかし科学的根拠がない誤った知識が独り歩きしている実情もある。この講義では、現在の脳科学研究が人間を理解するために欠かせないものであることを学ぶ。</p> <p>予習：あなたが脳科学研究に期待することを、その理由を含めて説明できるようにまとめておく。（2時間）</p> <p>D：少、F：あり</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>D：少、F：あり</p> <p>胎児期から乳幼児期の脳の発達</p> <p>人の場合、産まれたばかりの赤ちゃんの頭部には脳はある。それでは脳はいつ形成されるのか？この問いに答えるために、この授業では脳の成り立ちについて、母親の胎内から乳幼児期までの期間を中心に学ぶ。</p> <p>予習：哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、魚類の生き物には脳はあるでしょうか？昆虫、イカ、タコ、クワゲには脳はあるでしょうか？脳がある具体的な生き物を10以上答えられるように調べておく。（2時間）</p> <p>D：少、F：あり</p>	
	第3回	<p>胎児期から乳幼児期の脳の発達に関わる諸問題</p> <p>喫煙や飲酒と胎児の発育の関係や虐待など胎児期から乳児期における脳発達に影響を及ぼす諸問題について学ぶ。</p> <p>予習：妊娠中の喫煙や飲酒の是非について、保護者から聞かれた時、保育士のあなたならどのように答えるか、自分の意見をまとめておく。（2時間）</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p>	
	第4回	<p>乳幼児の睡眠</p> <p>眠ること（睡眠）は、乳幼児期の脳のみならず心や身体の発達にとっても欠かせません。この授業では、乳幼児期の眠りの特徴について学ぶと共に、眠りが脳の働きによってコントロールされていることを学ぶ。</p> <p>予習：赤ちゃんは一日何時間眠っているのか？具体的に答えられるように調べておく。（2時間）</p> <p>D：少、E：あり、F：あり</p>	
	第5回	<p>乳幼児の睡眠に関わる諸問題：午睡、夜泣き</p> <p>乳幼児期には眠りが大切であると思えば思うほど、眠りに関する諸問題が顕在化してくる。たとえば、午睡は何時間とすべきなのか、夜泣きにはどのように対応すべきなのかなど、保育園でよく直面する眠りに関する諸問題について考察する。</p> <p>予習：午睡の時間に「眠れない」子どもに対して、自分が保育士であったらどのように対応するか、自分の意見をまとめておく。（2時間）</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p>	
	第6回	<p>乳幼児の認知（視覚認知能力を中心に）</p> <p>脳の視覚野は最も研究の進んだ領域であり、乳幼児の視覚認知能力に関する知見も急速に拡大してきている。特に視覚野は、最も発達が早い領域の一つで生後8カ月程度で、必要な脳内ネットワークの選別が行われると考えられています。この講義では、乳幼児の視覚認知能力を中心に、脳内の神経細胞ネットワークの成熟と視覚機能の発達との関連性について学ぶ。</p> <p>予習：赤ちゃんの認知能力に性差はあると思いますか？「ある」と思う場合には、どのような能力で性差があるのか自分の意見をまとめておく。（2時間）</p> <p>D：少、E：あり、F：あり</p>	
	第7回	<p>乳幼児の言語</p> <p>人間の言語能力は生後36カ月の間に、音声、語彙、文法の獲得とめざましい発達変化を遂げる。その後も徐々に発達は続けるが、最も急激な言語発達が観察されるのが乳幼児期である。この講義では、言語の一次的機能に焦点を当てて言語知覚と言語発話の2つの側面から、特に生後1年の</p>	

	<p>言語獲得過程について学ぶ。</p> <p>予習：日本人の子どもが0歳から英語学習を始めることの是非について、保護者から聞かれた時、保育士のあなたならどのように答えるか、自分の意見をまとめておく。(2時間)</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第8回 乳幼児の運動（手指の微細運動能力を中心に） 乳幼児の運動能力の発達には順序性があります。粗大運動（立位・歩行）や微細運動（つかみ方）能力のマイルストーンを学びながら、乳幼児の運動能力を支える脳と身体の発達について学ぶ。</p> <p>予習：様々な家庭用のトレーニング用の箸が市販されています。あなたはトレーニング用箸の使用を肯定しますか？否定しますか？それとも条件付きで肯定しますか？自分の意見をまとめておく。(2時間)</p> <p>D：少、E：あり、F：あり</p> <p>第9回 乳幼児の記憶 記憶は私たちの日常生活の中心をなすものである。生まれたばかりの赤ちゃんに記憶はあるのでしょうか？この講義では、生後1カ月の乳児であっても潜在記憶が存在することや、生後8-10ヶ月頃に顕在記憶技能が顕著に向上することなど乳児の記憶研究の知見を学ぶ。</p> <p>予習：「顕在記憶」と「潜在記憶」について簡潔に説明できるように調べておく。(2時間)</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第10回 乳幼児の情動（表情認識を中心に） 表情は人間だけが持つ感情表現の一つである。基本6感情と言われる「喜び、悲しみ、怒り、嫌悪、恐怖、驚き」は、文化を超え、全人類に共通に存在する表情である。さらに生後1週間の乳児であっても母親を識別するという新生児の顔選好性はよく知られていることから、人間にとって表情認識は大変に重要なコミュニケーションツールであることが分かる。この講義では、乳幼児の表情認知能力がどのように発達していくのか、表情認識に関わる脳の神経基盤について学ぶ。</p> <p>予習：「新生児微笑」について簡潔に説明できるように調べておく。(2時間)</p> <p>D：少、E：あり、F：あり</p> <p>第11回 乳幼児の発達に関する諸問題：遺伝と環境 子どもの発達において、親（家庭）の役割は絶対的に重要である。しかし、成育環境や個性を調べて分かることは、遺伝子は環境に寄って、環境は遺伝子によって繋がっているという点である。つまり遺伝 or 環境という捉えかたではなく、遺伝 and 環境という考え方で子どもの発達をとらえる必要があると思われる。この講義では、一卵性双生児の研究などを紹介しながら、人間の心理的・行動的気質形成に及ぼす、遺伝の影響と環境のかかわりについて学ぶ。</p> <p>予習：自分が「親から遺伝している」と思うことを行動面と心理面に分けてまとめておく。(2時間)</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第12回 乳幼児の発達に関する諸問題：発達障害（1）ASD 自閉症スペクトラム障害は、社会性及び対人コミュニケーションの困難さ、過度に強いこだわりや常同行動によって定義される発達障害である。この講義では、自閉症スペクトラムの中心的な問題であると考えられる非定型自覚自己について解説する。また自己と心の理論の問題に関する脳科学研究を紹介しながら、ASD児に見られる心の理論の不全の原因について学ぶ。</p> <p>予習：「自閉的な行動」について簡潔に説明できるように調べておく。(2時間)</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第13回 乳幼児の発達に関する諸問題：発達障害（2）ADHD 注意欠陥多動性障害は、一般社会のみならず教育・保育に関わる専門家の中でもまだ十分に認知されていない。その理由の一つに、ADHDの行動特徴は正常行動からの質的な逸脱がなく、ややあいまいな基準で診断されていることも考えられる。この講義では、最近のADHDの遺伝学的な研究、脳科学的知見、二次障害の有病率の高さ、薬物治療の状況などについて学ぶ。</p> <p>予習：「ADHDの特徴的行動」について簡潔に説明できるように調べておく。(2時間)</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第14回 乳幼児の発達に関する諸問題：学習障害 学習障害の概念は教育現場の立場と医療診断の立場では差異がある。学習障害とは、その概念にまだ曖昧さを含んだ概念である。この講義では、現在学習障害の中で最も研究が進んでいるディスレクシア（Dyslexia）の基本病態や脳科学研究の状況について学ぶ。</p> <p>予習：「読むことが苦手」な子どもに対して、保育士としてどのような対応を取ることができるか。自分の意見をまとめておく。(2時間)</p> <p>B：少、E：あり、F：あり</p> <p>第15回 まとめ 1～14回目までの授業について総括を行い、15回目の授業中に学習到達度の確認テストを実施する。</p>
教育目標との関連	子どもの発育を「経験側」で見極めることは危険である。この科目では、子どもの発育（成長・発達）を捉える新しい視点として、現在行われている脳科学研究を紹介したい。そのため、人間（特に乳幼児）理解のための高い意欲関心を有し、そのための新しい知識、思考、判断を修得することに熱意があることが望まれる。
到達目標 1. 知識・理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の発育（成長・発達）を理解するための科学的な知識を修得する。 2. 乳幼児の発育（成長・発達）に見られる凸凹に対して、適切な考え方を述べることができるようになる。

2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	
評価方法および評価基準	試験： 80% (学習到達度テストを実施) 平常点評価：20% (予習課題のプレゼンテーション、ディスカッションを評価します)
教科書	授業中に随時紹介する
参考書	授業中に資料 (プリント) を配布する
準備学習 (予習・復習等) の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通りである。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	Google driveを利用したプリントのダウンロード、質問ページを開設 (URLは授業中に指示する) また、電子メールでの質問も受け付ける e-mail: ryosaji@lab.tamagawa.ac.jp
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	1 単位	専攻科選択
担当教員			
入江和夫			
授業形態：講義	担当形態：演習		

講義概要	<p>子どもはあそびがすべてである。五感を駆使して事物現象を探り、そして自らのものにする能力は、持って生まれた人間として環境に生きるための術である。五感を研ぎ澄ますにはどうすれば良いのか。そこに環境の構成と体験をしやすい状況を作り、自らの好奇心を揺さぶらせる仕掛けが必要である。楽しみながら一人で、やがて友達と一緒に遊ぶ快感を共有しながら、あそびを作り出し成長する。創造性の原点となる幼児期を逃してはならない。会話や表現も活発になり、気づきや新たな疑問が生まれ、探索行動は深まる。生きている自然は、子どもにとって学びの原点であり、保育者はどんなことに興味を持ち、そこで起こす様々な行動を注視するかの能力が問われる。自然をフィールドとした事例を元に、その能力の形成の基礎的考え方を学ぶ。理論を検証するために、事例を実際に保育者自身が体験したり実際の保育活動の観察や時には記録映像により、大切な要素を見だし、方法を身につけるための演習として、課題研究的に行う。ゼミ形態をとる。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>大学キャンパスフィールドワーク その1 ①フィールド調査とマップ作り キャンパスの平面図を、人数分にカットして、キャンパス内でどのような自然物（樹木や草花）が存在するのか。 二人一組でエリア別に30分間調査する。 簡単な絵図にする。写真を撮って貼り付けてもよい。 A&C:多</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>大学キャンパスフィールドワーク その1 ②幼児の行動 活動内容と言葉 幼児は、キャンパスを遊び場と考えてどのような行動に出るか。 興味を持つのはどのようなことか。 どのような言葉を発するか。 などを想像して書きます。色別ポストイットを使う。行動 黄 興味 青 ことば 赤 カードの内容を関連付けする。 A:中 E:中</p>	
	第3回	<p>第3回 第4回にも 同様の学習方法を用いる 環境構成 保育活動の場としての環境の望ましい姿を考える その1 自然を生かしのびのびと保育のできる環境についての実際の保育園を見学し、その設計の基本的な理念と活動の実践を学ぶ。 横浜市の先進的な保育園の実地見学 ①環境の成り立ちの記録を写真とスケッチで記録する A&C:多</p>	
	第4回	<p>環境構成 保育活動の場としての環境の望ましい姿を考える その2 メモや記録をもとにして、環境構成について自分だったらこのような工夫をしてみたいなど自由に出し合い、互いのアイデアから望ましい環境をデザインする B:多</p>	
	第5回	<p>幼児の気づきのとらえかた あそびの中に入り、どのような遊びとそこに生まれることばや行動に着目する。 あそびの種類（運動 ごっこ ものづくりなど）ごとに、要素をひろいだす。 C:多</p>	
	第6回	<p>保育活動の構成（指導案作成と教材研究の方法） 指導案作成 ①指導案作成に当たり、取り上げる活動に関する教育要領を分析し、目標設定を行う。 ②活動場所と教材などの選定を行い、およその時間配分を考えて、導入 展開 まとめを構成する。 ③活動支援の方法を検討する。 教材研究 ①素材に当たる材料 用いる道具の選定 ②製作物を予備的に作成しながら、幼児の場合に技能やつくる時間などの推定を行う。</p>	
	第7回	<p>ものづくり体験と幼児の活動の特性 その1 鶴川幼稚園（年長組）お泊り会参加 藤野芸術の家体験（ものづくり） 製作中の様子を観察して特に幼児の技能や製作過程つぶやきなどを記録する C:多</p>	
	第8回	<p>ものづくり体験と幼児の活動の特性 その2 幼児は製作物（作品）をどのようにとらえるか 作る過程での技や表現の仕方 興味などに着目して観察する。 作品に寄せた子供の心をくみ取り、集約して傾向をとらえる ガラスアート 陶器づくり 自然物利用飾りなど種類別に分担して</p>	
	第9回	<p>わが国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その1対象としての自然のとらえかたと幼児の活動を結び付けて事例を考察する。 DVDによる事例をもとに、その特徴を見極めて背景となっている教育の考え方を探る 視点 ①森や林 川や池 山や丘などを環境にして、環境を形作る構成する自然物（樹木や落ち葉 木の実 石 土など）と成り立つ 環境を要素的にとらえる ②草はら 砂場 林などのなかで幼児はどのような遊びをするか ③自然豊かな環境の中での幼児の遊びから、幼児は何を獲得し成長するか 指導要録には、どのような能力が獲得されているかについての評価を示すことである。その表現について検討する。</p>	

	<p>第10回 わが国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その2 五感（幼児の生まれながらに持っている感覚センサー）について、ディスカッションする。</p> <p>第11回 諸外国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その1 DVDによる事例をもとに、その特徴を見極めて背景となっている教育の考え方を探る 視点 その国の風土（気候 民族的な特徴をふまえて） ①森や林 川や池 山や丘などを環境にして、環境を形作る構成する自然物（樹木や落ち葉 木の実 石 土など）と成り立つ 環境を要素的にとらえる ②草はら 砂場 林などのなかで幼児はどのような遊びをするか ③自然豊かな環境の中での幼児の遊びから、幼児は何を獲得し成長するか</p> <p>第12回 諸外国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その2 レイチェル・カーソン著「センス オブ ワンダー」を読んで、幼児からセンサーがどのように発達していくのか ディスカッションする B:多</p> <p>第13回 課題のまとめ 報告書作成 これまでの学習内容を振り返り、課題に取り組んだ成果の報告について、レポートの書き方及びプレゼンテーション報告の方法を示す。 発表に関する構想を示して個別に助言する。 E:あり</p> <p>第14回 発表会および今後の課題研究 その1 一人15分のプレゼンテーションをもとに各自の発表内容について フリーにディスカッションしながら成果と課題を確認する B:多</p> <p>第15回 発表会および今後の課題研究 その2 課題について 今後どのようにアプローチして教材や活動の開発を進めるかを考察する B:中</p>
教育目標との関連	<p>こどもの遊びを通しての指導、働きかけの意味を学び、理解を深める。更にはこどもの発達段階に応じた指導計画を立案し実践する力を身につける。</p> <p>あそびに含まれる保育5領域の内容を常に意識し、関連を図りながら、幼児ひとり一人の発達に応じた支援の能力を習得する。</p> <p>同時に学習成果の把握の仕方を学び、指導要録に反映できるように文章表現能力も培う。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. [知識・理解] 幼児のあそびの姿から、心・技・体の萌芽を見つけて、それらがどのように発達をしていくか。教育の基礎理論に 基づく知識を体系的に学ぶことができる。</p> <p>2. [思考・判断] 幼児のあそびの姿から、その活動の原点となる子どもの好奇心・疑問・興味・関心などに注意し、こどもの絵画表現などの情報をもらさずとらえて、的確な支援やことばかけができるようになる。</p> <p>3. [技能・表現] あそび活動やものづくりの支援やモデルを示すとき、自らの体験で感じたり考えたりしたことを幼児に分かりやすく、かみくだいて説明できる。</p> <p>4. [関心・意欲] 日ごろから幼児のあそびや好奇心や興味ある活動に関心を寄せ、指導法や教材の開発を進んですることができる。</p> <p>5. [態度] 学習内容をふりかえり課題設定を行い、その解決に向けた取り組み方、および、学んだことをまとめ発表できる。</p>
評価方法および評価基準	<p>評価方法 活動の取り組み度チェックリストをもとに、態度を評定する。各回の内容と到達目標のマトリックスをもとにした学習成果 チェックを実施する。情報収集能力 まとめて整理する能力 成果を示す表現力 などを5段階評定する。</p> <p>課題発表時の発表内容と説明の仕方（プレゼンテーション能力）を評定する。 これらの評定や発言内容、学習態度などを含めて総合評価する。</p> <p>評価基準 第1～12回の2コマ分 計6回の評点 60% 第13～14回の評価点 20% 第15回 評価点 20%</p>
教科書	自然観察入門 日本自然保護協会 （短大で貸与）
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園保育要領 厚生労働省 保育所保育指針 保育内容「環境」「表現」「言葉」「人間関係」「健康」で使用した教科書 レイチェル カーソン著 上遠 恵子訳 「センス オブ ワンダー」 新潮社
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	「教育の基礎理論」（福地）とコラボレーションで進めるので、シラバスを参照して学びに備える
オフィスアワー	入江 月 5限 火 5限 水 5限
備考・メッセージ	<p>授業形態：教育の基礎理論と組み合わせる 主に土曜の連続3コマ 計30コマ（教育の基礎理論を含む） 5/13（土）大学キャンパスフィールドワーク FW① キャンパスの林の中に入る。および、畑仕事ができるよう長袖の服装と帽子を着用のこと 長靴などは短大で用意する 5/27（土）あそびのすがたと園の環境構成 FW② 近隣保育園の見学を計画中 訪問にふさわしい服装で</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
柴田 啓一			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>前近代から現代にかけての育児において決定的に異なる点は、1つ目に子どもの養育期間が長くなったこと、2つ目に養育コストが高くなったことにあります。子育てに関する知識は世代間で伝承されることが少なくなり、学歴競争が激しくなるにつれ、親は常に「良い親」であろうとする強迫観念に苛まれるようになりまし た。 その一方、現代の日本は少子高齢化の進展が問題視されています。少子化の原因は何か、育児がしやすい望ましい社会とはどのようなものであるかについてテキストを基に考察を深めます。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回 家族と社会のいま 家族の概念は近代化以降に定着したものである。家の成員が夫婦とその子、あるいは血縁に限定されるに至った背景にはどのような社会の変化があったのかを理解する。また、この授業を通して議論の中心となる「家族」と「社会」の概念について理解する。 予習：教科書PP. 1～29。 B：中</p> <p>第2回 現代日本の家族と社会を見る視点 各国との比較において家族と就労の多様性を学ぶ。 復習：教科書PP. 1～29。 B：中</p> <p>第3回 なぜ出生率は低下したのか① 少子化・未婚化の要因を探る 日本における出生率低下の要因に関する論争を学ぶ。 予習：教科書PP. 31～45。（約2時間） B：中</p> <p>第4回 なぜ出生率は低下したのか② 日本で未婚化が進んだのはなぜか 男女別の未婚化動向に関して統計資料を基に通説を検証する。 予習：PP. 45～57。（約2時間） B：中</p> <p>第5回 なぜ出生率は低下したのか③ 女性労働力の参加率と出生率の関係 女性労働力率が高い国ほど出生率が高いと一般的に言われている。しかし、データを比較すると女性労働力率と出生率の間に相関関係が強い国と弱い国があり、議論を通して両要因を結びつけるものは何かを理解する。 予習：PP. 57～76。（約2時間） B：中</p> <p>第6回 働く女性のいま① 20世紀後半の変化 近年における女性労働の変化について理解する。 予習：PP. 77～88。（約2時間） B：中</p> <p>第7回 働く女性のいま② 女性労働そのものの変化 女性労働と一口に言っても、その内容は時代において異なる。近年において増えている雇用の形態はどのようなものか、変化の背景には何があるのかを理解する。 予習：PP. 88～98。（約2時間） B：中</p> <p>第8回 働く女性のいま③ 「日本的な働き方」と男女雇用機会均等法 日本における雇用の特徴として新規卒者定期採用制と退職における定年制があげられる。このため「欧米」では職務に対する雇用であるのに対して、日本では企業のメンバーになること（メンバーシップ）が重視される。日本特有の雇用システムと雇用における男女の差（ジェンダー）について理解する。 予習：PP. 98～120。（約2時間） B：中</p> <p>第9回 目指すべき方向は① 自由主義、社会民主主義、保守主義 各国の社会保障制度の枠組み（「福祉レジーム」）の違い、特徴を理解し検証する。 予習：PP. 121～146。（約2時間） B：中</p> <p>第10回 目指すべき方向は② 女性労働の変化 女性労働の多くはケア（保育・介護・看護）の労働に就いている。近年ますます増えるケア労働の特徴について学ぶ。 予習：PP. 146～159。（約2時間） B：中</p> <p>第11回 家族と格差① 家族の機能 大学進学率の向上、少子化（少なく生んで手をかけて育てる）は育児のコストを上昇させている。日本は子どもの教育に関して、家庭が支出する割合が高いということを各国データと比較して理解する。 予習：PP. 161～171。（約2時間） B：中</p> <p>第12回 家族と格差② 家事負担の平等化はなぜ進まないか 夫婦間において、なぜ家事の負担は平等化しないのか。その要因は、意識の問題にあるのか社会構造の問題にあるのかという点に関して統計資料などから分析して理解する。 予習：PP. 171～186。（約2時間） B：中</p>		

	<p>第13回 家族と格差③ 結婚と格差 結婚は家族間の格差を生むのか、それとも格差を縮小する契機となるのか。結婚した夫婦の社会的地位は子どもにどう影響するのか。結婚の社会的意味について学ぶ。 予習：PP. 186～196。（約2時間） B：中</p> <p>第14回 望ましい社会のあり方とは 結婚を望む人々、子どもを持つことを望む人々が社会的な制約なしに望みが叶う社会であることが望ましい。しかし、様々な統計を見ると願望と現実の間には開きがあることが分かる。これまでの学習を通して望ましい社会のあり方とは何かを考える。 予習：PP. 197～206。（約2時間） B：中</p> <p>第15回 まとめ これまでの学習を通して改めて様々な家族のあり方を考える。 予習：これまでの学習範囲を見直して理解を深めておくこと。（約2時間）</p>
教育目標との関連	教育、福祉、環境に対する関心を深め、積極的に社会に貢献しようとする意欲が身につく。
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1. 社会学的な思考法を身に着けることができる。</p> <p>2. 固定観念に囚われない思考法を身に着けることで、多様な価値観を受容できるようになる。</p>
評価方法および評価基準	<p>試験 30% 定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。</p> <p>課題提出 40% 与えられた課題の問いに対して適切な回答がなされているか、自分なりの考察ができてい るか かで評価します。</p> <p>受講態度 30% 意欲的に取り組み、発言や発表時の態度を総合的に判断して評価します。</p>
教科書	筒井淳也『仕事と家族』、中公新書、2015年。
参考書	授業時に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	事前に次回授業時の該当章を読み授業に臨むこと。
履修上の注意、条件等	教科書を丹念に読み込むことで家族と社会に関する知識や理解、問題意識を深めます。教科書を読ん でくることを前提に議論を進めますので、必ず次回の該当範囲を事前に読んで論点を各自整理して望むこと。また、 広く社会に関心を持ち、新聞やテレビのニュースに通じておくこと。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：体育理論

授業コード：

英文科目名称：Theory of Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを年間を通して考えていく。実技と理論を通しながら、各自の体育に関する考えを整理し実践して、その過程を記録する。体育実技と合わせて、1年間の各自が体育課題の設定を行い、それをどのように解決したか、達成したのか、もしくはしなかったのかを記録をもとに考える。また、どのような考えで実践したかの過程を、互いに聞き合う。</p> <p>理論では、自らの課題を実技で試した結果から、各自が施行錯誤し調査し考察を重ねて、経験からどのような成果や発見があり、さまざまな体育理論と関連があったのかを、プレゼンテーションする。各自の成果発表をディスカッションすることで、深い理解につなげる。</p>		
授業計画および学習形態	<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>		
教育目標との関連	<p>自分自身の健康課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育知識の理解を深め、実践できることを目標とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解している。 2. 心身に関する課題を判断して、目的をもって自らの健康に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践できる。 4. 常に自分の健康課題に対して、関心と意欲を持つことができる。 5. 健康に関する目標を達成していく上で、よく思考することができる。 		
評価方法および評価基準	<p>試験 30 % レポート及び課題発表 40 % 授業内発表及び態度 30 %</p>		
教科書	<p>https://teachernika.blogspot.jp/ に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。授業中にプリント配布予定。</p>		
参考書	<p>『幼児体育』第5版 理論と実践 日本幼児体育学会編 大学教育出版社</p>		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	<p>授業内容を、予習30分程度、復習30分程度してくる。指示されたプリントやサイトは必ず読んでくること。</p>		
履修上の注意、条件等	<p>個人課題の発表が評価の主な対象になります。</p>		
オフィスアワー	<p>授業の前後、及び オフィスアワー。</p>		
備考・メッセージ	<p>積極的に発表することが、求められます。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
永井秀哉			
授業形態：講義	担当形態：単独		

講義概要	<p>この講座はその名の通り、本学のカリキュラムの中で留学をめざす学生の皆さんが、海外での学びと経験を最大限に実り豊かにするとともに、最も楽しいものとするための準備講座で、その中心はもちろん英語の実力向上です。それも「話せる英語」つまり、授業だけでなく日々の生活の中で、関わる外国人の人々・友人そして先生たちとのコミュニケーションが取れる実力を養うことを目的としています。カナダでもニュージーランドでもその他の国でも、また大学のプログラム参加でも個人の留学計画でも、その出発準備から、授業の受け方、そして帰国後その経験を最大に活かす方法までを学びます。</p> <p>ところでこの講座は、いまのところ具体的な留学の予定のない学生にも開かれていて有益です。本学のめざす国際こども教育は、いつも異文化の人々との豊かな相互理解を幼児の頃から養っていくことを目指しているわけで、「話せる英語」はその際一番基礎的な大切な道具の一つです。またこの講座は1年・2年に向けて前期・後期共に開講されますが、いくつかのクラスを連続で取ればさらに実力が向上するような、個別指導も考えていますので、皆さんの実情に合わせて履修して下さい。</p>		
<p>授業計画および学習形態</p> <p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。</p> <p>①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。</p> <p>A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題</p> <p>②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。</p> <p>多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満</p> <p>Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション シラバスの読み込み…この講座の内容と目的、到達目標と評価方法</p> <p>教科書「留学&ホームステイのための英会話」（細井・バーウィック著 アルク社 2017）の構成と使い方の説明</p> <p>受講生の自己紹介・この講座を受講する動機（留学計画の有無、将来の夢と英語への期待）</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>	<p>第2回</p> <p>留学という夢と現実…状況設定（1） 留学の目的と意味…あなたたちの人生設計にとってどんな意味があるか？</p> <p>本校が用意する留学プログラムについて…前期・後期、また学年ごとの留学プログラムの目指すもの説明</p> <p>出発前準備いろいろな心がけ・・・特に安全の心がけと、これに関連する英会話 ◎一般常識…社会慣習など ◎ホームステイや学生寮、ホテルでの心がけ ◎安全についての心がけ</p> <p>留学の会話（シチュエーション 1） ◎飛行機の中で ◎入国審査・税関で ◎出迎え（初めての挨拶） ◎ホストファミリーの家に到着！</p> <p>A：中 B：中 C：中 E：あり F：あり</p>	<p>第3回</p> <p>留学という夢と現実…状況設定（2） 留学の会話（シチュエーション 2）</p> <p>◎IDって何ですか？ ◎銀行で・・・ ◎郵便局で… ◎Fast Food Restaurantで… ◎Restaurantで…（会話とマナー）</p> <p>◎買い物に行こう…（会話とマナー） ◎映画に行こう… ◎近所の人との会話（散歩にて、ガレージセールなどで）</p> <p>A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり</p>
	<p>第4回</p> <p>「話すため」の英語学習・文法（1）</p> <p>これからの授業は、、英文法の構成に従って授業計画が示されるが、あくまでも「話すため」の実践英語を、「留学というシチュエーション」を意識しつつ、多くの文例の反復練習によって進行することになる。</p> <p>【1】 まずは4つの基本文型を知る … 英語は配置のことはば 1) 他動型 …… 主語 + 動詞 + 目的 2) 自動型 …… 主語 + 動詞 3) 説明型 …… 主語 + 動詞 + 説明語句 4) 授与型 …… 主語 + 動詞 + 目的 + 目的</p> <p>【2】 修飾の方向を身につける 1) 限定ルール（前から限定） 2) 説明ルール（後から説明） 3) 穴埋め修飾</p> <p>A：中 B：中 E：あり F：あり</p>		
	<p>第5回</p> <p>「話すため」の英語学習・文法（2）</p> <p>【3】 配置を崩してみる …… 配置転換 1) 疑問文 2) 感嘆文</p>		

	<p>【4】 時表現をマスターする 1) 現在型 現在進行形 現在完了形 2) 過去形 過去進行形 過去完了形 3) 数種類の未来形</p> <p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり 「話すための」英語学習・文法 (3) …… 英語文の骨格 (1)</p> <p>【1】 主語・動詞・基本文型 1) 主語 2) 動詞…基本文型 他動型 自動型 説明方 授与型 3) 目的語説明文 4) レポート文 5) 命令文 6) T h e r e 文</p>
第6回	<p>A : 中 B : 中 E : あり F : あり 「話すための」英語学習・文法 (4) …… 英語文の骨格 (2)</p> <p>【1】 名詞の多様性 1) 可算名詞 不可算名詞 2) 単数名詞 複数名詞 3) 限定詞 …… the, a(an), some, any, all, every, each, no, both, either, neither, 数量表現 4) 代名詞 …… その様々な使い方</p> <p>【2】 英語の骨格が見えたところで、自分なりのシチュエーションを考えて短文のプレゼンテーションを試みる</p>
第7回	<p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり 「話すための」英語学習・文法 (5) …… 英語文の修飾 (1)</p> <p>【1】 形容詞 …… 話すための英語文法に独自の整理 1) 前からの限定 …… 例文で理解 2) 後ろからの説明 …… 例文で理解 3) 修飾ということでは、何でも形容詞に！ 名詞による修飾 動詞+ing形で修飾 過去分詞形で修飾 -ing型vs過去分詞形</p> <p>【2】 副詞 …… 副詞を話すための英文法として整理してみると、使い方が自分の意識に即して流れ出す思い…、 1) 説明の副詞 …… 時をあらわす 場所をあらわす 「どのように」と「どれくらい」 様態をあらわす 2) 限定の副詞 …… 限定一般 程度をあらわす 頻度をあらわす 確信の度合いをあらわす 評価・態度をあらわす</p> <p>【3】 比較 …… 形容詞・副詞の応用～比較表現のマスターをしよう 1) 比較の水準 …… 同等レベル 比較級表現「より～」 最上級表現「最も～」</p>
第8回	<p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり 「話すための」英語学習・文法 (6) …… 英語文の修飾 (2)</p> <p>【1】 否定 …… not (否定) は、常に前に置かれて後続の内容を否定する 1) 「強い単語」とのコンビネーションで、否定の細かいニュアンスを表現できる、大人必須のテクニック 2) notに独特のクセあり</p> <p>【2】 助動詞 …… 話し手の「心理」をあらわす、各助動詞が喚起するイメージを理解して自分の意識とつなげることが大切、かつ面白い 1) M U S T 2) M A Y 3) W I L L 4) C A N 5) S H A L L 6) S H O U L D 7) 助動詞相当のフレーズ …… have to, be able to, had better/had best +動詞原形, used to</p> <p>【3】 前置詞 …… 位置関係をあらわす「小さな単語」だが、実に豊かな表現力があり、英語学習の最難関のひとつ</p>
第9回	<p>【4】 WH修飾 …… WHAT, WHO, HOW, WHICH, WHERE, WHEN, WHY A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり 「話すための」英語学習・文法 (7) …… 「骨格」と「修飾」に続く、英文構成上の「自由な要素」</p> <p>【1】 「動詞+ING形」 ～ 文中のさまざまな場所で、多様に便利に使えるパッケージ表現</p> <p>【2】 「TO不定詞」 ～ 「TO+動詞原形」で使われるパッケージ表現…主語として、目的語として、修飾位置での使い方は？</p> <p>【3】 「過去分詞形」 ～ 「～される」受動文としての使われ方 B e 動詞以外の説明型で用いる過去分詞</p> <p>【4】 「節 C l a u s e s 」 ～ 主語、動詞を兼ね備え、文としての体裁を持った「節」は、文中のさまざまな位置に置いて、自由に使える</p> <p>【5】 応用のきく「自由要素」を加えて、さまざまな「話ことば表現」を試みてみよう、グループ・ディスカッションのあと、各グループ代表がプレゼンテーションを試みる。</p> <p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり</p>
	<p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり</p>

	<p>第11回 「話すための」英語学習・文法 (8) …… 「文章構成の配置転換」で、疑問文・仮定法・感嘆文に挑戦、及び「時の表現」</p> <p>【1】「疑問文」～ 疑問文で配置が動かされる時には、感情・意図がある、ということを感じて欲しい。</p> <p>1) 基本疑問文 2) 否定疑問文 3) 付加疑問文 4) あいずち疑問文</p> <p>5) WH疑問文 6) 疑問でない疑問文</p> <p>【2】その他の配置転換～ 感嘆文その他</p> <p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり</p> <p>第12回 「話すための」英語学習・文法 (9) …… 最後は仕上げとして、「文(話し言葉)表現の流れ」を整えよう、「つなげる気持ち」を大切に</p> <p>【1】「接続詞」～ 1) 等位接続 2) 従位接続</p> <p>【2】さて最後に改めて、「文(発言)の流れを整えよう。</p> <p>1) 代用のテクニック 2) 省略のテクニック 3) 注釈と加える(同格・挿入) 4) レポート文のテクニック 直接話法と間接話法 再構成のテクニック</p> <p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり</p> <p>第13回 留学仮想体験；「英語研修プログラム」に参加(1)</p> <p>【1】最初の登校 …… Meeting People at the College</p> <p>【2】開講式 …… Opening Ceremony</p> <p>【3】英語研修並びに一般的な「外国における授業」における教授法</p> <p>【4】外国の授業での主要なアクティビティのパターン</p> <p>1) Group Discussion 2) Information Gap Task 3) Game Approach 4) Responce Journal</p> <p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり</p> <p>第14回 留学仮想体験；「英語研修プログラム」に参加(2)</p> <p>【1】外国の授業での主要なアクティビティのパターン(つづき)</p> <p>5) C o m p o s i t i o n 6) I n t e r v i e w 7) C o n t a c t A s s i g n m e n t 8) R o l e - P l a y 9) S i m u l a t i o n 10) D e b a t e 11) C l o s e A c t i v i t y 12) W o r k s h o p 13) S e r v i c e L e a r n i n g 14) e-Mailing</p> <p>A : 中 B : 中 D : 中 E : あり F : あり</p> <p>第15回 総括的講義；まとめ 自由研究のプレゼンテーション</p>
教育目標との関連	<p>本学の国際こども教育は、いつも異文化の人々との豊かな相互理解ができるこどもたちを幼児の頃から養っていくことを目標としており、そのための教育にあたることを目指す本学学生にとって、留学体験の持つ意味は大きい。その目的達成のために、本講義では、海外留学と生活体験(ホームステイなど)の状況を設定して、実践的な英語会話学習を目指し、特に「話すための英語」を、そのために体系化された英文法の仕組みに則って、効果的に学ばせることを目指している。</p>
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<p>1) 「留学と海外生活体験」のための、実践的な日常会話と、学校での授業での学習効果を上げる「話す英会話」の実力を養う。</p> <p>2) 当面具体的な留学や海外経験を目指さない学生も、日々の日常生活や教育の場での「話す英語力」を養うことができる。</p> <p>3) この講座で学ぶ「話すための英文法」は、言語表現力と話者の意識(思考)が一致することを訓練するもので、思考力やそれに伴う判断力を強める効果も期待できる。</p>
評価方法および評価基準	<p>平常点評価 40% 英会話の習熟に最も必要なのは、反復練習です。積極的な授業参加と予習・復習の成果を評価します。</p> <p>会話ワーク 20% 授業中に時々行う仲間同士の「会話ワーク(雑談会)」の積極的な参加(発言)と会話習熟度を評価します。</p> <p>英語プレゼンテーション 20% 授業中に2回行う「英語プレゼンテーション(5分スピーチ)」への取組みと会話習熟度を評価します。</p> <p>英語小論文 20% 期末に「留学・海外生活の夢と期待」についての「小文；エッセー(A4一枚程度)」を提出してもらいます。</p>
教科書	<p>「留学&ホームステイのための英会話」 細井忠俊・バーウィック妙子 著 アルク社 出版</p>
参考書	<p>「すべての日本人に贈る―「話すための」英文法； 一億人の英文法」 大西泰斗/ポール・マクベイ 著 東進ブックス 出版</p>
準備学習(予習・復習等)の具体的	<p>英会話習熟の秘訣は何と言っても反復練習です。小さな短文を暗記課題として毎回出しますので、それを覚えることが必要です。</p>

内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	<p>実践英語に上達するには、「話せる英語の正しい学び」と「状況設定」の二つが大切です。この講座では「留学（特に短期の英語研修プログラム）とホームステイ」が設定状況です。その場面場面での外国人との意思疎通の上達を繰り返し反復練習でマスターすることで、実はそれ以外での状況での会話に応用できるのです。大切なことはある場面（状況）の会話では、英語を話している自分と、その自分の意識が直結していて、日本語が全く介在していない（頭で訳しながら話していない）状態を反復練習によって作り出し、それを楽しむことなのです。この講座ではその状態に至るための、体系的にまとめた学び＝方法論として、「話すための英文法」をじっくりと学び直す形をとっています。方法論というと難しそうに感じるかもしれませんが、そうではなくて、今までの受験勉強のための複雑な英文法の体系などとは違って、簡単な基本文型から、意識と直結した話すための英語に習熟できるように考えられた講座です。</p>
オフィスアワー	<p>授業前後に教室で受け付けます。</p>
備考・メッセージ	<p>「英会話の習熟」は、地味な日々の反復練習の積み重ねです。でもそれが皆さんの「人生の転機」ともなるような、「留学や海外生活」へ導いてくれるのです。そしてもちろん基本は誰にもできる優しい内容ですから、正しい方法で学べば必ず上達します。楽しみながら頑張ってください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：実技	担当形態：単独		

講義概要	<p>「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを、実技と理論を通しながら、各自の考えを実践する。 体育理論と合わせて1年間の各自の課題設定を行い、それを実践し成果を得る。 実技では、各自の体育関連する課題を見出し解決するために、試行錯誤することで、どのような方法が適切なのかを考え、目標に到達する過程に適合するように記録することを理解する。 グループ活動では、スポーツやレクリエーション等のゲームを発売し、それを元に他者からも学ぶ。 基礎体力などは、毎回、準備運動や整理運動などを基礎から体験することで、「各自が考える体育」を考察する。</p>		
授業計画および学習形態	第1回	<p>オリエンテーション 授業の進め方や評価方法について説明する。課題設定と振り返りシートを作成する。 各自の健康や体力等に関する課題を考える。 A：中 B：中 F：有</p>	
<p>各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。</p>	第2回	<p>身体について考える 自分の体を認識するために、様々なワークを行い、各自の課題設定を決定する。（身体測定や体力測定を含む） 課題と年間予定を考え、担当する分野とグループ分けを行う。 A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第3回	<p>コミュニケーションワーク①（集団ワーク） 身体を使ったアイスブレイキングについて学ぶ。体ほぐしを学ぶ。 身体トレーニングを考えてくる。 A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第4回	<p>コミュニケーションワーク②（集団ゲーム） オリエンテーリングなど、簡単な集団ゲームを考え、コミュニケーションを考える。 身体を使った集団ゲームを考えてくる。 A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第5回	<p>身体エクササイズ①（有酸素運動） 有酸素運動（エアロビクス）について 疲労と回復について 縄跳び課題とテストの説明。 A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第6回	<p>身体エクササイズ②（無酸素運動） 無酸素運動（筋力トレーニング）について 負荷と強度を考える 縄跳びの課題テスト① A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第7回	<p>身体エクササイズ③（基本運動） 基本運動を学ぶ。基本運動とステップの実技テストの説明。 縄跳びの課題テスト② A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第8回	<p>身体エクササイズ④（自由表現運動） 基本運動から表現運動など、各自の自由な動きの編み出し方法を学ぶ。 基本運動とステップの実技テスト① 縄跳び課題テスト③ A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第9回	<p>身体表現① 身体表現の導入として、動きの成り立ちと分解を学ぶ。 基本運動テスト② A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第10回	<p>身体表現② 身体表現の発展方法とシークエンス作成方法を学ぶ。 基本運動テスト③ A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第11回	<p>身体表現③ リズムダンスや体操のカテゴリライズ、及び身体表現のパターン認識と構造を理解して創作できる。 A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第12回	<p>身体表現④ 身体表現のまとめ及び発表と評価方法を学ぶ。 A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第13回	<p>用具を使った運動① 縄や平均台などを使ったエクササイズ A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第14回	<p>用具を使った運動② マットや鉄棒などを使ったエクササイズ A：中 B：中 E：小 F：有</p>	
	第15回	<p>用具を使った運動③ ボールなどを使ったエクササイズ</p>	

	<p>第16回 A:中 B:中 E:小 F:有 レクリエーションを考える チーム毎に独自のレクリエーションを考え工夫する。 (例: 鬼ごっこ、宝探し、球入れ、球当て、ゴールゲーム等) A:中 B:中 C:中 E:小 F:有</p> <p>第17回 レクリエーションを行う チーム毎に独自のレクリエーションを他チームに行う。 A:中 B:中 C:中 E:小 F:有</p> <p>第18回 ゴール型競技トーナメント①予選 ゴール型球技競技をグループで企画して、トーナメント方式で予選を行う。 (例: ドッチボール、バスケットボール等) A:中 B:中 E:小 F:有</p> <p>第19回 ゴール型競技トーナメント②決勝 ゴール型球技競技の決勝トーナメントを行う。 A:中 B:中 E:小 F:有</p> <p>第20回 ネット型競技トーナメント①予選 ネット型球技競技をグループで企画して、トーナメント方式で予選を行う。 (例: バスケットボール・バトミントン等) A:中 B:中 E:小 F:有</p> <p>第21回 ネット型競技トーナメント②決勝 ネット型球技競技の決勝トーナメントを行う。 A:中 B:中 E:小 F:有</p> <p>第22回 リラクゼーション リラクセスに関するクールダウンやヨガエクササイズを行う。 A:中 B:中 E:小 F:有</p> <p>第23回 まとめ 各回の記録や動画での発表やリードしたグループ活動を互いに評価する。 A:中 B:中 E:多</p>								
教育目標との関連	自分自身の健康課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育技能を高め、実践できることを目標とする。 スポーツや身体ワークを行うことで、仲間づくりやコミュニケーションの重要性を理解して行動できる。								
到達目標 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 態度	<ol style="list-style-type: none"> 心と体の健康や体力に関する技能を高める知識を学ぶ。 心身に関する課題を判断して、目的をもって自らの健康に関する目標を設定できる。 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践できる。 スポーツや身体ワークを、意欲をもって自ら企画し参加できる。 スポーツ活動や健康課題を通じて、仲間づくりの重要性を理解してコミュニケーションをとれる。 								
評価方法および評価基準	<table> <tr> <td>実技テスト</td> <td>25 %</td> </tr> <tr> <td>実技発表</td> <td>25 %</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>25 %</td> </tr> <tr> <td>提出課題</td> <td>25 %</td> </tr> </table>	実技テスト	25 %	実技発表	25 %	授業態度	25 %	提出課題	25 %
実技テスト	25 %								
実技発表	25 %								
授業態度	25 %								
提出課題	25 %								
教科書	https://teachernika.blogspot.jp/ に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 授業中にプリント配布予定。								
参考書	『幼児体育』第5版 理論と実践 日本幼児体育学会編 大学教育出版社								
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度して整理しておく。指示された実技課題の自主練習をしておく。 授業中にプリント配布予定。								
履修上の注意、条件等	運動に相応しい服装（体操服・体育館シューズ・アクセサリ不可・髪はきちんとまとめる）								
オフィスアワー	授業の前後及び、オフィスアワー。								
備考・メッセージ	自発的に参加することで、学べる授業展開をするので、積極性を心がけること。								